【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成28年8月12日(2016.8.12)

【公開番号】特開2015-16345(P2015-16345A)
【公開日】平成27年1月29日(2015.1.29)
【年通号数】公開・登録公報2015-006
【出願番号】特願2014-165029(P2014-165029)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｎ　1/44　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｎ　1/44

【手続補正書】
【提出日】平成27年4月15日(2015.4.15)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【発明の詳細な説明】
【発明の名称】新アルカリ性電子エナジー
【技術分野】
【０００１】
本発明は、セメントとフィラー石が混合され、水を合せるときに冷たいまま組成が異なるコンクリートという異質物を造るときＰＨが９程度に高まる、セメントの様な全ての素材等のアルカリの示される等価の電気と別の追加の酸化電子が混合する時それぞれのエネルギーが効果を発する各産業分野の新原理と応用に関する。（液体物ゼル状物も含む）

【背景技術】
【０００２】
一般の電子が空間で水と合うのは大気の雲の中で雨は酸性雨はＰＨ５以下の時である、雨はほぼ５．５～５．０程度であろうと考えられ５．０以下の雨が多くなっている。水道水はＰＨ６．～６．８セメントに一般に混ぜる水は一般水道水６～６．８弱酸性である、セメントとフィラーを水を入れて練り上げ、てできるコンクリートはＰＨ９程度である、強アルカリである。
水の成分は$Ｈ_{2}Ｏ$以外には入れていないのであるがＰＨは６．０～６．８水からＰＨ９に変化し、強固に組成され圧縮強度３５０Ｋｇ／$ｃｍ^{3}$の物質に変化した。熱で溶かしたのではない冷たいまま変化した。このとき、練上げ完了時アワが大量に浮いているのが見られる。
放射線は、本来自然界について放射物質の放射によるが宇宙から降り注ぐものもあるし地下層から地上に向けて人体に影響を与える放射線がある。後者については、一般の地域よりも放射線量が多いにも係わらず悪影響は出ていないばかりか逆に生存率は高く長寿の結果が確認された所が多い。人工的には強力な電気的刺激が鉱物に当るときも透過エネルギーとなって異なる様々の周波数の放射線を出す。ガンマ線・Ｘ線・超音波・遠赤外線・赤外線・紫外線などの放射線であり、医学的治療に利用される。放射線は、一般に外因性酸化ストレスと言われ炎症・ストレス・環境汚染・日光・医薬・ホルモン・発がん物質・ア

スベスト・タバコ・アルコール・栄養・食物と同様に活性酸素生成の主役である事が立証されています。この活性酸素が老化の学説として最も共通の統一的説明の因子といえることは、明白であります。そのほかには、別の言い方ともいえますが、放射線による水から生ずるヒドロキシルラジカル（・ＯＨ）によるＤＮＡ障害を老化の原因と考えたアメリカのＤ・ハーマンのフリーラジカル説も有力に支持されています。
他のプログラム説（生物には種により一定の寿命を決める遺伝子が存在している。老化は、遺伝子に組み込まれたプログラムに従い進むというもの）や分子障害説（ざっとあげただけでＤＮＡ障害説・変異蛋白質蓄積説・体細胞突然変異説・架橋説・エラー・カタストロフ説・擦り切れ説・生体膜障害説・老廃物蓄積説・免疫低下説などいろいろある。）にたいしてですが、後者は、老化という現象を分子レベルで捕らえて説明して、ＤＮＡ・タンパク質・膜・コラーゲンといった様々な生体分子が登場しますが、障害の原因について探求されていないことや老化学説として統一的に解釈できないのが問題であります。
サイエンス２００４特別号によれば
要約の内容・放射線治療歴史・現状
我が国では、１５年前から放射線ホルミシス効果の研究を行って来た結果、低レベルの放射線の照射によって細胞膜を攻撃する活性酸素を消去する酵素が増えることや、免疫力向上につながるリンパ球の活性化が研究中だが確認されていない。実験によれば糖尿病・癌に対する抑制効果が確認され低線量の放射線は免疫機能の改善をもたらしたり、さらに老化を抑えて若々しい体を保たせる効果があるらしいことが推察されています。最初に提唱したのは、アメリカのトーマス・Ｄ・ラッキー博士で「宇宙飛行士の長期宇宙放射線被爆の影響」の研究で知られる生化学の世界的権威者といわれています。
【０００３】
しかしながら、癌の放射線治療は副作用としての周辺の正常細胞への照射がさけられず酸化によりさらに酸化物や過酸化脂質を造り癌細胞の増殖を誘発する毒的性質を持っている欠点が有る。
他の応用例として、免疫抑制治療にも放射線が用いられている。臓器移植などで移植された他人のリンパ球が患者の臓器を攻撃する移植片対宿主病や患者のリンパ球が移植された他人の臓器を攻撃する拒否反応の予防などに使用されている。
リンパ球はほかの血液分に比べ放射線に弱いため照射によりリンパ球の免疫をなくすことができる。これを利用して上記ＧＶＨＤを予防のために血液照射が、また拒絶反応を予防のために腎照射と全身照射が行われている。全身照射は免疫抑制治療の中では副作用が大きいこれらは放射線そのものの酸化性質を象徴する素質であってこれも癌治療への利用と同様に「毒は毒をもって消去する」の考え方であります。Ｘ線投影により３％におよぶ癌の発生が確認されているのも事実であります。
これら酸化による欠点の症例としては紫外線による皮膚炎症・火傷や原爆の核分裂による放射能火傷がおもいあたる。
また付属の性格としてＭＡＸＷＥＬＬ（マクスウエル）の電磁気学によれば磁場と電場が対に成って電磁波として飛び交う性格は両者のエネルギーのどちらかのかたちで一定照射エネルギーとして平衡状態を保ちながら生存する。電子回路を制御させている使い方がその比率を電子に偏らせ、すなわち放射線エネルギーを電子に変換する工業的利用がＩＴ産業に多大な利益・利用価値を与えつつあるといえる。太陽光を吸収し発電する太陽電池は電卓の電源としてよく知られる。またこれらには、シリコン系と化合物半導体系がある。
この物理電池としては、このほか、熱電変換型・キャパシターがあり、前者は熱電発電・原子力電池に分かれる。、これに対し今までの電池は、すべて活物質の化学反応による電子の移動を利用し電流を発生させ電気を得る化学電池であった。
この中に分類できない生物電池は生物のエネルギー生産の原理を応用したもので植物・動物など代謝システムの原理を電池に応用したもので砂糖電池・微生物電池などがある。
ここに人間の代謝システムと電気・電池との密接な関係が見出せる。つまり、人間の代謝による活動電位により人間は生命活動できるのです。
元に戻るが家庭電化製品の漏れ出る電気から出される電磁波が放射線を含み有害視されて

います。一般家庭電源コンセントは、１００Ｖ　５０・６０ＨＺの超低周波であります。また、テレビのブラウン管から出ている強力な電磁波は、実際テレビを手動で作動させるとき顔や頭などに電磁波を感じることがあった事を思い出す人も多い。その他電子レンジからも使用中のマイクロ波漏れがある。また、伝送配線から電磁波についての低周波被爆に付いても様々に毒性が疑われているが実験によれば、確証は認められなかった。その他で、特に癌発生の件について周波数の高い波長の短い放射線に発症性が高いと言うことで放射線の有害性が概念化されている。
アインシュタイン氏の光量子・光電効果について紫外線による日焼けとストーブの光の赤外線によっても日焼けが起きない事例を振動数とプランク定数の積からエネルギーが振動数が紫外線のほうが大きいので肌の分子の化学的変化を引き起こすとした。光電効果についてはドイツの物理学者レナードの詳細な研究によって成され、ある種の金属に振動数の大きな光（例えば青い光）を当てると、電子が飛び出す現象である事を説明した。
このことが電磁波の一定エネルギー量を電子として消費し微弱なエネルギーで長時間利用する。このとき未使用時は、磁場と電場の形で保存し相手機械からのシグナルにより変換して使う使い方を具体化してみせた。これにかんしデンマークのエルステットは、電流が磁石とおなじように磁気作用を持つことを見つけ、（電気から磁気を生み出したり磁気から電気を生み出したり出来るのを発見し）ＭＡＸＷＥＬＬはこの考えを更に拡張し、電荷の回りにある電場が変化すると磁場が発生し、その磁場が変化して新しい電場を生むことを予測した。また、こうした電場と磁場の変化は、次々と生まれそれが波のように空間を伝わっていくとして、マクスウェルはこれを「電磁波」と名付けけた。
フランスのアンペールやイギリスのファラデーが電気と磁気の関係を詳しく研究して電磁気学の基礎をつくった。これは、１７８５年以降でしたが、それいぜんに、遡ると１７４７年アメリカフランクリンは、「電気には、正と負があり通常は、物質は正負両方を等しく持つ事・正と負の電荷は、どんなふうに影響しあうかという研究が進み１７８５年フランスのクーロンが同電荷の反発と異電荷が引っ張り合う。そして「二つの電荷の間に働く力は、二つの電荷の電気量の大きさの積に比例し、電荷間の距離の２乗に反比例する。」というクーロンの法則を発見した。このように、発見と実験の歴史があった。
入　この証明すべき計算の方程式の流れは、次のような形であった
われわれは、その一部の電気の発生を人体に応用する正しい解釈についてすでに研究された事実をかみしながら定義をもとめるのであるが人体について電気的実験結果は次の結果が大事であり方程式も多々あるのでそれらにもとずく展開といえるが紹介する
長年電荷としての電子の体内中での働きに注目してきたが水が電気分解されて作られたマイナスイオンと言われる成分が森の滝が岩壁に沿って落ち砕ける霧の拡散物で人の体に癒しを与えることをドイツの学者レイナードが発見したがそのマイナスイオンの技術的効果が様々に語られたがアルカリが良い効果を示すからだとして鉱泉水をアルカリイオン水と称呼しマイナスイオンが含まれる水として脚光を集めている。
一方、電気分解作用を工業的に行なえる機械装置としては、電極電位での還元性の高い水が医薬水として水で症病を治療するなども出てきた。これは還元電位値が負荷を大きく示す水（励起水）が傷病部位の体内負荷を正常許容値の方向に、プラスから正常なマイナス方向にするものであった。
　人に直接電位を椅子やシートを介して負荷を高電圧で接蝕印加するものも有る。高周波の部類のマイクロ波・超音波・超短波などの直接施術も多い。
これらが、ある意味での健康効果があるとの報告が多々なされている。
これら原理の水の電気分解ではＨ２水素の量を計測して還元の度合いを負値で知る測定方法である。
これにより確かに水のｐｈ～もアルカリに変化する。我々は、この技術的流れを確認してきたがいまだにその本当の原理と納得のできる説明を聞いたことが無い。そこで、それらを踏まえて、原理を考えてみた。
レイナードの現象が流れ落ちる水の刺激でその岩からの発せられるとび出るエネルギーの電気が水に飛ぶことにより起こる。また、工業的には交流電源や直流電源による電極によ

るもので電気を通電させるものや何かの物質とともに通電するものなどで水を電気分解するが、健康器機などでは電子医療として様々の電子作用のものが簡単な説明で詳細な原理のわからないものや赤外線やその他の電磁波〔低周波から高周波応用まで〕の応用品も同様の説明で多々ある。人体と水の関係が有る意味で分けて考えることも必要かもしれないが水がほぼ７０％を占める人体やその他生物にとってもその成分共通項としての水が技術的共通項であってもおかしくないと判断して考慮してこの電気・電磁波・電子等についてその係りや違いについて注目して分析してみるべき従来技術であるとしてそこから原理に迫ることとした。

電気と電子については、一般に導線などの物体中を電子が走り送られて調整された電気が目的地に配電されているのが現実で実生活場で誰でも知っている。電子が送られて、そのまとまった電子を電気として認識し利用していて、調整するときもある。たとえば、繊維を高速で巻き取るなどの過程で高速回転の力が必要な場合、高周波変換装置で周波数を高めパワーアップして繊維の製品が向上させた歴史があった。このことは、電磁のモーターのコイルの導線巻き数を多くしそのモーター回転力をパワーアップさせたことも子供の頃の実験であった。つまり電気量をためて量を大きくすると電子がまとまった粒の大きさになって流れていくため密度が高いので単位時間の仕事量も高いと言うことであった。ショートさせると目にみえる火線が飛ぶのを目の当たりにできる。電子の大きさが極めて小さいことからそのまとまりの大きさは電子合体数が数えられるレベルでない、（総計の量を粒のまとまりとしてみても）

電流と磁場に関しては、フレミングの法則があるのに従っていないわけー

ターのコイルの巻き数を増したことで磁力を増した分の力を出したのである。つまり、磁場が外に出たので永久磁石との反発が強まった。（磁力線が巻き線方向と違う方向に法則にしたがって外に形成された。）磁力線が電子と一緒に存在することを示している。

放射線が基本として次のようにサハ氏の「核医学」に述べられている「放射線とは空間を伝わる一種の運動エネルギーの形をいう。それは１つの物体から放射され他の物体に吸収される。また、放射線には次の２種類がある。１．微粒子による放射線；これらは、電子、陽子、中性子、α粒子等をいう。２．電磁波としての放射線」にわけて述べられている。２．は波としての性格について述べたものである。

ここで、肝心なことは、１．にしめすように電子が放射線として分類されていることです。これは、一般に電気も電子も放射線が大きいエネルギー

であることを意味しているのです。これに対して本論の定義に一般のこれらと異なる電子

が示され主役として論じられ、新エネルギーとしての説明が

されている概略主旨の根幹をなす。この電子の生存の事実と発生の自然現象について以下

にしめす。電子想像絵図にもその違いが明確に示される。

とにかく　電気レベルの持つ放射線が電子の放射線の集合体である事実から当然大きな放

射線をもつ論理が放射線専門家の一般論である。

〔　「核医学」　Ｇ．Ｂ．Ｓａｈａ著　　初版１９９３年　改定２００２年2版　牧野元

治翻訳　２００２年〕

ただ、その他の性質が不明とされる面で定義したと言い切れない。

電磁波は、マックスウエルによりＸ線や紫外線において確認されたが、放射線を含むことが確認されていた。逆に電子について語られていず、電磁波の構成からはずされて論議があいまいになっていて、いろんな放射線の実験においてふいに残物質として残されたとの結果が残されている。電子とこれを分けた存在としての考えですすめられてきた面が一部にみられることもある。

それについては、新しい定義として、認識すべき性質があるからである。それは、

＊

＊

＊

電磁波が電子を必ずそのエネルギー内に構成されることが定義されていなかったことを証

明するものである。　電気は、上述の説明のように電子がまとまった電磁波であるといえるので、電子も放射線も持って存在することになる。ただし、全て空気中においての存在が見えないが大きくなると電子はまとまって大塊となると光子が見える事もある。これに関しては、最近の著書に紹介する電界と磁界の（ニュートン誌　２００９年１月号波動Ｐ）も参考となる。したがって、本件の電磁波の定義の確定を知れば以下ならびに本件改善点の基本の説明が理解し易くなる。
電子が人間の体内にたいして還元力を発揮し、活性酸素（病気の根源として様々に報告されている）を除去することも最近報告されているが、これの除去の原理がマイナスイオンの原理や還元電位の山の水の関係に共通する原理が確立されていない。
放射線については、放射線生物学において水に与えた場合の論理があるが電子が放射線を含むことには論及されていない面もあり電気分解されてスパーと活性酸素（Ｈ２Ｏ２・ＯＨ－など）を造る結果がしめされている。また、水和電子の発生についての記載があるので資

料紹介する。＊２０００年　発行　放射線生物学一

人間について与えた放射線について、さまざまな危険性や毒性も述べられている。
この励起された水について　：　さきのスパーの発見のこの時代放射線とよばれＸ線・ガンマ線等の電離放射線のことである（今でも一般に使われるときは、同じ概念だが）。これらの加速された放射線の高周波は、ある種の密度の高い金属等を除いて一般の物を透過し易いといわれるが、これが当ると付属の電子は透過出来ないと言われることがある「紙も通過できない。」といわれる。前述の原理・後述の電子の性質から考えると、紫外線より高周波を電離放射線と呼ぶが電子が物を透過出来ないレベルでも透過直進するのであると理解できる。これが非電離放射線の紫外線より低周波の各放射線ではおこらない。
励起水に入った電子は、したがって高周波の電子の放射線であるであるから大きすぎ、残ったものの付属する放射線の比が線量とともに大きいことになるので酸化性がきわめて高いといえる。そのように生命にとって怖い存在の電子として存在すると言える。また、加速された電子について放射線生物学では、原子核に向かいぶつかってガンマ線が放出され電子外に向かうときはＸ線や紫外線を放出するとされているのです。蛍光Ｘ線原子分析器の原理は、Ｘ線の電子を原子のＫ殻にぶつけ飛ばすときに測定原子の特定の周波数のＸ線が外に発生するので測定原子が何かを特定できる仕組みである。このとき、Ｌ殻の電子がＫ殻の空に入るとき余剰のエネルギーをＸとして放出したためである。ちなみに注意する点が多々ある。殻によって電子一個のエネルギーの差があることや空の殻に外の殻の電子が引っ張られて飛び込むことなどである。この現象が後のイオンチャネルや、加速したで電子での通路内素材原子への衝突による電離放射線の電磁波発生の原理に関係している。後者では、イオンの発生とその毒性の原理関係がやはり放射線の毒性であったことに言及できる。
（参考　　分析化学の基本と仕組み　株）秀和システム　著　津村　ゆかり２００９年４月５日　蛍光Ｘ船分析等）
このように水の励起のもとが結合を切った電子分解水素陽イオンの空の電子殻に入り易い条件により水素原子が電子励起されたと言え水素が善玉と悪玉に別れてくる。後にさらに論じることとする。このように基本的技術の中にある疑問点が浮かび上がってくる。一部後述とダブル結論もいま述べてしまったが技術的ポイントの現在標準についての説明とする．従来技術のこれらで自然現象から更なる確証の認識・発見を見出せる。
いままでマイナスの電気が測定できるので励起のもとが結合を切った水酸基の方のマイナスイオンとしか理解されていないのである。また、これが様々に人の体内に良い影響をもたらすとされる意見も一部にある。これに対し医療の生理学においては、これが活性酸素で遺伝子を傷つける最大の問題の物質との解釈がなされている。元に戻って水素の方は、切れると陽イオンとして存在するはずだからである。
ここで、水素陽イオンについて理解すると、ボーア氏の原子構造モデルにおいては、中央の原子核だけで電子のＫ殻起動に（一番近い位置の軌道）電子を一個も持たず最大存在基

底の２個に対し０個で空である。（後にさらに言及する。以下の説明の自然現象で電子が滝の岩からでる状態を説明可能になる。）
このことは、一般に明確なマイナスイオンの解釈が現在も説明できていない事を電子の量子的解釈の切り口で考えることで新規解釈が成立できる。
戻って、滝の周囲に発生するマイナスイオンと言われる健康に良いアルカリ性の力と言われるものが発生する原理考えると、前述のまとまった電子が電気とし存在しないで山の鉱物素材の表面で電気分解のもととなる素材間電子モーメントが異なる種の　　電子を水の電子摩擦による刺激で発生する。従来技術を探ると絶壁の壁の岩を水がその重力を伴って落下するときにその　　電子が刺激で水に飛び出すその電子が原型に近い小さな最小の一個の電子とし、原子同士の素材電子の磁束と共にある回転等や振動のもたらす渦電子の電位差で造られるのである。これは、モーターの原理に戻ると丁度力でモーターの軸を回すときに豆電球が着灯でき電気を生んでいることがわかるが外周の磁石に力で回すコイルの残磁力がこすられ電子を磁束と共に発生したためであり、磁石の鉄成分の強磁性物質の素材等が基といえる。この磁性は、素材の磁化率等により各固有値を持つことが知られるが多かれ少なかれほとんど磁性物質として分類され物質に磁性が存在すると言われる。（参考著　磁気と材料　岡本祥一　１９８８年１１月　共立出版　磁気モーメント　磁性物質　磁化率　磁束密度等　　）
したがって、岩の素材成分の電子の磁束モーメント・磁気モーメントと雷発生の原理と同じ水の極性の摩擦で発生する渦電流の大きな刺激が、岩の素材成分電子の渦回転を強め物質内から飛び出るのである。単独でも混合物素材同士間の電子にも作用し飛び出させるのである。
そして、出た電子がもちろん加速されていないため物質透過の性質から通過し易い透過の道を選びながら、こんどは、静止電力の以下の説明の自動車のノブ部に電子が集まる性質で岩表面に出るときには電子のまとまりそれが飛ぶことになる。そして、還元力を示すわけである。
いままでの説明では、マイナスイオンの存在の負荷が何かはっきりしなかったが、素材の内部の力と、
ひとつは、壁に水がしみこむと泥と石の表面が流動電位に働くこと、コロイドに働く泳動電位の現象で岩や泥粒が動かないが電極を引き付ける作用となり働くことが起こり、光が壁に当たるときに光電効果（アインシュタイン氏とレナード氏の原理）起こり滝水やしぶきの外側の正電荷に電子（後に述べる定義の）がとびこむことになる。
〔　ここまでわかってきた素粒子の世界　京極一樹　株〕技術評論社　初平成２０年１０月２５日　　、人と体の電気とその応用　著　後藤昌義　ｐ７１－９１界面運動電位等流動電位　泳動電位　酸化還元電位　損傷電位　等　　〕
このように、水素に入るときみずの酸素との手も切れることになる。
要点をまとめると自然の原理以下のように電子の造る電気が説明されている。
落雷については、
自動車のノブについては、
人がセーターを脱ぐときのぱちぱち電気は、
結局、電子が合体し大きくなって電気に変わった現象で、電子が大きくなり易く、くっつきやすいという性格を持っている。
そのほか、電磁波に関する性格の象徴的現象が次の技術に含まれるので紹介する。
超伝導技術が今や実用化されている。その中に極度の冷却温度を与えると磁場が外に追い出される現象がある。それで永久電流という飛ばない電気ができる。
この事は、磁力線が殆んど放射線の飛力を生む基であることを象徴している。が同時に永久電流もいつまでもそのままで増えることが無いので電場が磁場なしには生まれず、一定の周波数のもつ基底の電子と放射線のバランスが崩れ電磁波でなくなったといえ、これも磁力線が生んだものと考える事もできないわけではない。この合体した電子である電気の一つの機構があり、その構成要素としての電磁波電子の性格であると考えられる。
つまりさらに磁場でこの極低温以外では、電場を生み電子が生まれると考えられる。放射

線が伴う比力の飛力として付属するのは当然である。
入２　したがって先端の穴カバーのない図　　に示した電子の最小の負荷と別の数個の電子が合体して飛んでいる放射の状態を示しているのであるが、電子は固まり自身の放射線が電子本体の純電子と発生源の電磁波が持つ周波数の特定比によりバランスされるしたがってこの図内の正電荷エネルギーは別のグループとしての存在というべきで陰極線にともにまれに発生する陽電子をしめすもので陽イオンではない。本発明の機器においては素材そのもの／あるいは極低周波による刺激で極力抑えているので放射線の測定をしても発生は認められない。ひとつの電子のまとまりの性質の一例といえる。この図の先広がりの出口が電子の方向を先端素材の形に添って拡散状態に大塊にしにくくするが、それでも数個程度のまとまりが多いことは、よういに容易に考えられるといえる。
特に健康に関しては、麦で作ったビールが古くなり麦の猛毒カビ菌が発生すると土を混ぜてその菌を分解して安全にしてバイキングは飲んでいたし、北中央アメリカ・西海岸地域でサソリに刺されるとその猛毒の解毒方法として、土を水に混ぜ泥を練って薬草と共に幹部に塗って一命を救っていた。これらの土の力が土の素材の鉱物と金属以外の酸化物系アルカリ系両性系元素などらしい、特別な土と思われるが共通項は土であった。
一方、陶芸においても粘土の粘性を出すとき水を混ぜてしばらく寝せて練り直す方法で粒の肌理を細かく粘りが出ると成型物が容易になり、そのまま放置したとき水が抜けて一体に石の成型物に変わる。土が一部解かされ別の結晶を造って一体につながったことがわかる。
この力が、住宅に使うセメントが水と土砂と共に練って粘性の高い泥にし成型し、水が乾燥し固まると圧縮強度５００ｋｇ以上のコンクリートに変えることは、周知のエネルギーで、アルカリ性がもたらされ老旧化に耐えることも周知である。
一方電子の送電においては、高電圧の酸化電子が通常でそれ以外に電気として存在しないので家庭では１００Ｖ　２００Ｖが使われているが全て酸化の電子の送電で他も同様である。
酸化物の毒害、酸化電磁波宇宙線、水の酸化、生物（畜産－－トリ・ブタ・牛その他、植物・人間ｅｔｃ）の酸化による害・悪影響、ｅｔｃ原発放射線の酸化毒これらによる実体を打解するものがなかった。
又、コンクリートの老朽化やコンクリートや鉱板構造物における老朽化　さらに化学物質等CO_2・CH_4活性酸素H_2O_2他又、タンパク質・アミノ酸等生物質や細胞の酸化についても打解のエネルギーは食物以外になかった
空気中の水、川の水、湖の水、海の水、雨の水など酸化水であって打解されず水道水など６．５～６．８のＰＨの水を供給され人間は食している。
酸化腐敗・菌・ウィルス等に対しても打解の強力な方法は見つかっていない。
従来
積置の素材には各素材の磁性力のほか放射性などやレアアースの様なＭＲＩ素材や永久磁石（携帯電話）、ＬＥＤ照明の蛍光物質などのエネルギーを持ったものがある。
磁性については磁鉄鉱・赤鉄鉱が全生産の９０％です。
レアメタルなどはコンピューター・ハイブリッドカーや太陽電池に欠かせないエネルギー発生金属である。４７種もある。そのうちの１７種がレアアースと呼ばれる。
したがってほとんどの元素はエネルギーを持ちそれらの積置は、エネルギーを発するのが一般的である。
各元素の複合鉱物もとうぜんエネルギー発生を行う。それらの鉱物に対して何か刺激がなくても混入する素材によって刺激し合うという具合になるのです。
上述の様にですから積置物からはつねにエネルギーが発せられます。自体が持っている力で発しており素材同士が影響し合っていると言えます。複合鉱物ゼオライトは、ケイ石とアルミニウム酸化物四面体からなるアルミノケイ酸塩鉱物で強い酸化物交換性エネルギーです。
電磁波は各々周波数に応じた名称があります。
これらは酸性の電子とも言えます。

酸性の電子は果汁のレモン汁、リンゴ汁、オレンジ汁　シークワーサー　ぶどう汁等すっぱさの中にあります。
又逆にアルカリ性の電子は、野菜やお茶や野草、などにあります。
ここで述べる内容に関与するのは放射性を発する元素を含め、酸化金属等、ミネラル酸化金属含有鉱石・酸化吸収剤・抗酸化剤・エネルギー変換触媒・等を使う。
つまり言い換えれば放射性元素を含む元素による複合的素材や人工的素材を含む鉱石、化石鉱物等による分野素材の基本にもとずいた理論と言える。
その他素材の混合かく伴の力による。光の混合、など力は、光、火力、水力その他、手こぎ回転動力発電等太陽光電力・風力電力にもよって電力を与えられる。
それがセラミック素材のほとんどが磁性を持つ素材だからです。
セメントーコンクリート生産時下敷コンクリートの建屋構築の際何日も放置しておくときに上空から何千何万もの宇宙線がふりそそいでいるが仕上ったときに割れたり穴が開いたなどの不良は起っていない。つまりＸ線やγ線によってきづついていない事を示すものと言える。つまり消滅したと言える。
特願２００７－３４１７９２は、アルカリ性電子放射器の医療的効果とその他の効果についての放射器・装置としての効果を示している
又、その構造については、以下に示す内容の素材を使用した事を示している。これらの素材がセラミックを含むすべての素材である事を示している。
本件装置が効果を示す原因の様々なエネルギーがある。これらを発生させている。
特願２００７－３４１７９２中の説明では、構造の構成要点は図の中のＡ；Ｂ；Ｃ部分であり
Ａは先端の照射端末に電子拡散によるホルミシス効果効果構造を設ける浴室シャワー・園芸散布用シャワーの蛇口先のような絶縁性樹脂製の水周り機能で免疫改善の指輪等々の一部に設けた電池機能物質等々の表面に穴あき絶縁接触シートの装着もこれに当る。
Ｂ．酸化物吸着物質を照射先端部分に機能材として備える。（金属以外に非金属・有機金属等々）
更に人体に侵入直前に酸化性格の放射線を吸着物に照射させ消費する。酸化物吸着物質・抗酸化物吸着物質・抗酸化物や最近の太陽光を電力に変換する材料などがこの機能材である。－－－
Ｃ．電位発生物質〔酸化金属・鉱石・鉱物・非金属有機金属等々〕の異種元素・複合物効果と電子バランス増加物質〔銀・金・白金・その他触媒物質〕との混合物をノズル内に設ける。－－－等々
素材の一部の機能としては次の様に示されています。
その前に電磁波の特性を示します。又水の従来技術も合せて示すと
大気の電磁気は地上付近で金属板にさらすと百数十ボルト　これは自由電子（金属板中の）に空気中の電子が引寄せられ
空中高い位置では数千ボルトと高い電気が発生し、雷雲が存在するときは数万ボルトと高い。
つまり地球上の空中では電子は他の電子と相互影響し合う。つまり合線（合体作用）が起り、電磁波の大が小をのみこむ（くっつけて大きくなる）　大が小を吸収し、さらに大きくなる紫（視）外線がそのレベルの大が小電子を吸収し大きくなると放射線になる。そのまま地上に落下する。

（人にこの放射線が落下するので朝会(外部での立合集合時)で人がたおれたりするのを見た。）

人は、ＰＨ７．３程度であるが雷の落下でかんでん死する。電荷は負荷（全体）で電子が働いている。ので血中の電子に落雷がおこる。

これらが全て電子の現象で電子の引付けあう力で正荷負荷どちらか動き易い方が飛ぶのである。そして合線しようとする。
電子と呼ばれるものはその集合体は電気である電子は光子と放射線を含んでおりその内純すいな電子は規定の大きさがある。大きくなると分離するものもある。
そこで放射線と光子は一体となって電磁力をもつので、光子が電子と放射線をつくると言える　これは　光で黒紙にレンズで火が付くＳ１　のでよくわかる。酸化力と熱である。
そこで電磁波絵図なる基本を考案するとよくわかる、放射線が電子が飛ぶときに焼える力で光子がもとで出る、が反作用的に純電子が反対の力として発生する。全体で電子として一般に言われている。（図－９（特願２００７－３４１７９２記載）
物質が発生する電子は、土砂物質（酸化物）同士が発すると２ケ発生するとされる。この電子は規定電子より弱い放射線を発するのでこれが負荷の電子である。これが集合するとより負荷が高まるｅＴｃ．

空気中電子は、太陽からの宇宙線で核 蠕合

によって出された電磁力でγ線Ｘ線紫外線等

である。もともと純電子より大きな放射線を付属し

た電子で酸化力の強い電子なのです。
この両者の違いが電磁波・放射線の消滅に大きく係るのです。
土砂鉱物に関しては、放射性鉱物が放つ酸化性放射線が一部有るがそれ以外は、電子を発生する素材が多い。
ほとんどの鉱物の素材は、素材を積置するだけでも電子を発する。その素材を使用するとき電気的刺激を与える事で発生電子量を増加させる事ができるので素材に向けて電気放照させる方法を行なう、この電気が発生電子と一部混る事で電子に正荷電子を与える事になる。
発生電子が素材から出て来るとき一ケ出ると２つ目が同時に発生するので２ケ発生する。
この電子は、セメント材を水と砂を入れてコンクリートを生産するとき混練するときの電子と同等の（水をつくる）もので空気中の水分と混った電子がそのまま飛び出すそして放射する。
Ｓ２　一方水分のない電子だけの場合も同時に放射する。
コンクリートが固まるとＰＨ９に近い強度３５０ｋｇ／ｃｍ^{2}以上の固りとなるこの事から水はセメントを結ぐ力となり結合する力となるそしてセメントにＰＨ９を与えるのでこの水がセメント・砂が摩擦でこすれるときに出すアルカリ性分を吸収し、そのアルカリ成分をセメント砂に逆に与え水結合を連続させ強固に継ぐ結果コンクリートが３５０ｋｇ／ｃｍ^{2}以上の圧縮強度になると言える。
水がアルカリ成分を持つとすればＨ－Ｏ－Ｈの水素に摩擦時に出た電子しか混入するものは無いので水

から切れてH☆(水素原子)となり水中に存在しそれが

セメントに持っている電子と継り渡し継げる。
この電子がＰＨ９のコンクリートの源元である事は明白である。全体に強アルカリのコンクリートと成るのでＨが持つ電子をアルカリ性電子と名付けた。元々セメントと砂の混練摩擦で発生する電子が水の水素に向うとき水素の既入電子と入れ変ることから、既入電子と異なる電子と考えそれがＰＨ９のアルカリ性を示すので電子そのものが異なるとしか考えられなかった。
電子がアルカリ性を持たらす事は電子自体がアルカリ性を持っている事に等価と考えた。
もともと水が持って（付属）した既入電子は、空気中に存在する電子である事は確かで原

子核とは、一定距離を持った位置に存在する。この電子は、空中の放射線を持つので全体に放射線含量が大きな電子である。
すなわち放射線の酸化性が強い電子である。そこで正電荷性の電子が酸化性電子と等価である事を認識したのです。（摩擦で出る電子がＰＨ９にするアルカリ性電子であるのに対して）
電子そのもの（純電子）は、負荷と言われるが一般に全体（電子）は、正荷である事を認識したのです。
量子化学では、電子が正荷で放射線として分類されている事（核医学においても述べられている。　　）
放射線が酸化物である事は周知であって人を焼き溶かす事を原子爆　によって知ている。
そこで、これらを考えると電子が持つ放射線の大きさによってγ線・Ｘ線・紫外線・音波、赤外線遠赤外線、超音波・短波・超短波、ミリ波等々
Ｓ１．凸レンズに光を通すそして黒紙に焦点を結ぶと焼えて火が出る。
光が焦点を結ぶ事は電磁波の堀折を意味し、黒紙上の点にエネルギーの集中が電磁波の集中としての電子の集中と放射線の集中を意味する。
つまり光子の光が電子のエネルギーを発生させ放射線の酸化性の集中により焼えたのである。
Ｓ２．セメントに混入する砂は一般に珪砂であるが市販物は８００℃で乾燥させた珪砂である珪は珪素を意味するが　珪素は世の中にある原素のうち酸素の次に多量に存在する物質である、多くの鉱石に存在する。
石英で水晶である。半導体の性質を持つ半導体の性質の高い性質をもつ「セル」と言う太陽光パネルに使われる物質もある
いずれも電気を流すものである。

【表示1】 〈実際の素材類〉

・反発力――――電力の電子で飛ぶ力　家庭電源の電子に密着する放射線
=超低周波　電源先端――ぶつ切り一部被覆
グリップ端部に被覆接着固定――コード線先端は中心外に
固定――１・２箇所

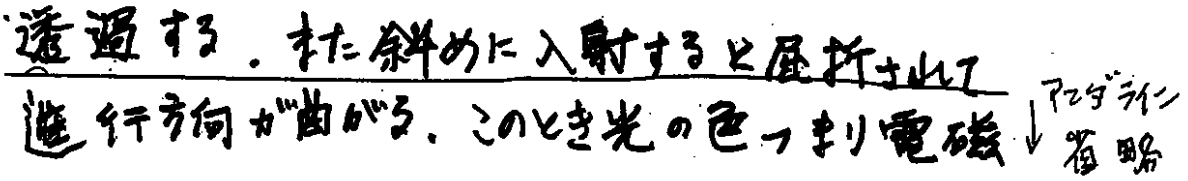
・ミネラル酸化金属含有鉱石――必須ミネラル――Ｃａ　Ｍｇ　Ｋ　Ｎａ
・微量ミネラル――Ｃｕ　Ｆｅ　Ｍｎ　Ｍｏ　Ｚｎ
・Ｃｒ　Ｃｏ　Ｖ　($Ca(OH)_2$ 生石灰 消石灰
・体に必要な非金属――Ｓｉ／Ｃ／Ｆ／Ｉ／Ｂ／
・Ｃｌ／Ｓ／Ｐ／Ｎ／Ｏ
発生物――電子～ミネラルイオン～冷性遠赤外線

酸化金属等――――CuO_2　Fe_2O_3　MgO_2　MnO_2　ＺｎO_2　ＣｒＯ　ＶＯ　等（遷移金属イオン
$CaCO_3$　Ca_2O_3（$Ca(OH)_2$ 生石灰 消石灰）
または常磁性物質）　他
・酸化銀　金　白金　酸化チタン
必須ミネラル
微量ミネラル
発生――――医用電子～ミネラルイオン～冷性遠赤～貴金属陽イオン

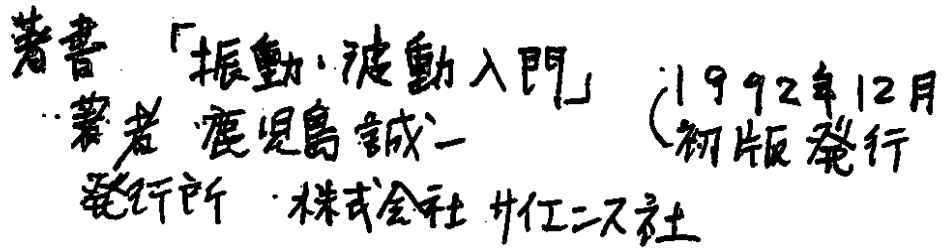
酸化吸収剤・抗酸化剤・エネルギー変換触媒等――――炭・銀および含有物
太陽光エネルギー変換物質等
ＢｉｔａｍｉｎＣ・アスコルビン酸
βカロテン・αトコフェロール
亜硫酸物等々
発生――――ミネラルイオン・アルカリ性陽イオン・医用電子・冷性遠赤外線

電子（ｅ）の説明においては、「マイナスの電荷を持つ」と説明－１．６０２×１０$^{-19}$クーロン：質量は９．１０９×１０$^{-28}$ｇとされている
（２００５年１２月８日初版発行　富永裕久著（株）ナツメ社「図解雑学元素」　）～図１４２（２３８Ｕ崩壊図）
又、陽子（Ｐ）はプラスの電荷を持つ」と説明
＋１．６０２×１０$^{-15}$クーロン、質量は、１．６７３×１０^{24}ｇ
又、中性子（ｎ）は、「電荷を持たない」と説明
質量は、１．６７５×１０$^{-24}$ｇ
としている。原子核の大きさは、１０$^{-14}$～１０$^{-15}$ｍ陽子を含みプラス電荷
（電子においては、純電子の記載の事としてとらえるべきと考えるが）
陽子数は原子番号であって

$_{92}$Ｕ　$_{55}$Ｃｓ（セシウム）　$_{53}$Ｉ（ヨウ素）　$_{94}$Ｐｕ（プルトニウム）のようにウランは９２、個の陽子を他も５５，５３，９４個の陽子を持つ。大きなプラス電荷である。
ウラン２３８　^{238}Ｕがα崩壊を８回、β崩壊を６回起して２０６（^{206}Ｐｂ）に至る崩壊の流れがある、とされる。
陽子数の減少が注目点である。（図に示す図－１０）
原子力発電では同位体の一つウラン２３５（^{235}Ｕ）の原子核に中性子を当てると、原子核が２つに分かれて、大きなエネルギーを出す。また同時にいくつかの中性子を放出するので、これが他のウランの原子核を核分裂させる。
こうして起る連鎖反応をゆっくり制御しているのである。
２３８が２３４に下がるのに１ケ～２ケの原子番号低下、２３０に下がるのに９２→９０と２ケの原子番号低下でＴｈに変化する。（図－１０）　陽子が減少する場合である２０６（質量数）のＰｂ、Ｈｇ、ＴＩまでは　９２→８０で１２ケの陽子の減少が必要である。
電磁波について調査してみると特に波長については波長が短かければ、その放射線が強く長ければ弱いとされている
紫外線を例にするとγ線、Ｘ線に対して10^{3}倍も長い波長である、つまり１０００倍の合線（１０００回合線）しなければ放射線にならない
家庭用電源については、$10^{4\sim5}$倍であってさらに合線回数が紫外線の１０～１００倍の合線回数が必要である。
電磁波従来技術
光は窓ガラスに当ると一部は反射され、残りは



波の振動数によって屈折角が異なるので、プリズムを使うと美しい紅の七色が現れる。
この様な性質は電磁波だけのもつものではなく、あらゆる種類の波動に共通したものである。（反射・透過・屈折・分散などの波動に関す）　と述べられている



電磁波の入射角と屈折角の関係は、それぞれの媒質中での電磁波の速度（光速）で決まる。
真空中の光速と媒質中の光速比もその媒質の屈折率と呼ぶ。
スネルの屈折の法則が示されている。
スネルの法則によれば粒子の進行方向が屈折すると言える。（２つの物質の境界面で）と記されている。
放射線発生物質について
参考資料として著書が有る
２００５年１２月８日初版発行　「元素」（著書）富永　裕久　発行所　株式会社　ナツメ社
注目の内容
原子の構造▲１▼、▲２▼、水素の同位体、ビッグバン後の宇宙元素の誕生　量子数とエ

ネルギー準位、原子の電子配置共有結合、イオン結合　炭素の化合物　混成軌道　セシウム　ウラン　プルトニウム　核図表等の項を見るとよくわかる。
水の従来技術
水は海・湖・川・沼・水道水・雨・地下水

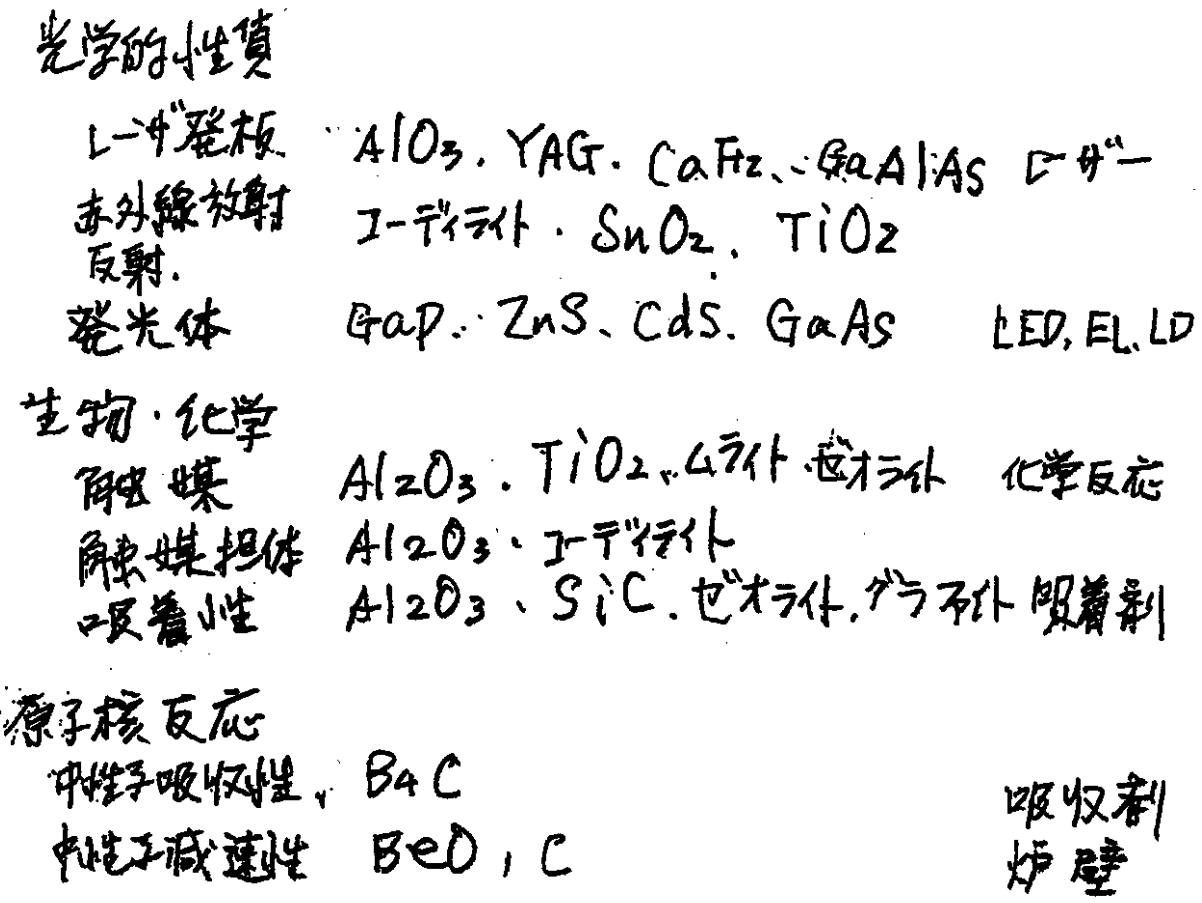
などに存在するが雨は殆どが弱い酸性雨

は特に酸性であるが、それ以外はＰＨ５～６．８程度で地下水は、ＰＨ６．５～８程度となる。
水道水は、薬品等を使用し塩素が混入する場合がほとんであるがＰＨは、６．３～６．８程度である、
これら水分が蒸発して雲になって雨を降らせる。
雨が山中を流れ川になりそれが海にそそぐ、又地下に吸収され地下水になる
雲が雨になるのは、積乱雲などの雲中で水分子が酸化電子を発生させる。水分同士の摩擦である　この電子が集まって電力となって地上の負荷電子に引寄せられ雷となる。
これらが水の一般的性格である。
水のＰＨが７（中性）以上なのは、地下水だけである。「アルカリ性になっているのは」と言い換えられる。
地上にある水は、全て酸化性である。
これは、太陽からの宇宙線（Ｘ線　γ線　紫外線等）が空気中に含まれているからである。と思われている。
そして、地下と言う事は、土や砂や岩石や鉱石　いわゆるセラミック質が多様な物で存在している。これらは素材がエネルギーを持っている。

素材の一部の機能としては次の様なものがある。

電気的性質

半導性	ZnO ; SiC $ZnO-Bi_2O_3$	バリスター
		非直線性
	ZrO_2 SiC、NiO、Mn_2O_2	温度センサー
	CO_2O_3、V_2V_5、$BaTiO_3$	PCT素子
	$(BaPb)TiO_3$	
	SiO_2、ZnO ; TiO_2	異常温度特性
	SnO_2 CuO/ZnO	ガスセンサー
		気体特性
抵抗加熱性	SiC、ZrO_2、$LaCrO_3$	
	$MoSi_2$; $BaTiO_3$	発熱体
イオン伝導性	ZrO_2、β-Al_2O_3	センサー・電池
超電導性	La-Ba-Cu-O、……	マグネット
	Bi-Sr-Ca-Cu-O	
	Y-Ba-Cu-O	
熱電子放出	$LaBc$、BaO	磁気素子
		電子銃
光起電力	SiC $CdTe$、CdS/Cu_2S	太陽電池
誘電性	$BaTiO_3$、TiO_2、$SrTiO_3$	
圧電性	$BaTiO_3$、SiO_2、ZnO	着火素子
	PZT、水晶	振動子
磁気的性質		
軟磁性	γ-Fe_2O_3、$Zn_{1-x}Mn_xFe_2O_4$	磁気テープ
硬磁性	$SrO_2 \cdot 6Fe_2O_3$	磁気石
非磁性	Al_2O_3 ZrO_2	モーター、電磁波部品



などがエネルギーを発生させるセラミックスである。
又酸化性電子を吸着吸収するものを示した。
従来
太陽光の電力変換では、半導体材料の電子の多いｎ型から少ないＰ型への電子移動によるのでｎ型はプラスに帯電しＰ型はマイナスに帯電する面がありつまり負荷が発生している。
この素材においての正電荷の発生は負電荷なのです。これだけが正電荷でありますが全て負電荷の発生を意味しています。
素材から発生している電力は磁性を含め全て負荷電力なのです。
従技１
１　冷熱殺菌
細菌殺菌は玉子、肉、魚、牛乳など熱を掛けて食す事以外考えられません。生もの殺菌です。
又清掃においてもほとんどないが光を使う殺菌方法はあるがその効力の有無は表面に限られる問題点はあります。又蒸気殺菌は、水が残るのが問題です。
牛乳は熱を掛ける為一部栄養素が減少する点があります。肉・魚は、冷蔵保存で酸化を防止するが生のまま除菌はできません。玉子も同様です。くんせいも殺菌の一種です。
２　血液の浄化
血液中のウィルスは一般に血中のヘルパーＴ細胞によってＢ細胞に指示されて抗対を出す命令するとともにキラーＴ細胞に対して抗激を指示することでウィルスに抗激をするそして放壊させる
というウィルスに対する免疫行為が発せられるのですがそれでもウィルス感染によって多くの人々が死に至っているのも事実であります。又菌についても同様と言えます。
人工透折に関しては、腎臓機能を代行する治療法である。血液透折と腹膜透折とがある。
血液透折は、人工腎臓を利用するものである。一方腹膜透折は、腎臓の代りに膜膜を利用して血液を透折する方法で、腹腔内に大量の減菌容液を注入し、一定時間後に排水するこ

とを繰返す。
血液透折は、人工腎臓を使ってそれに通し本来腎臓から排泄されるべき有毒物（菌等）質を除去する治療法である。腎不全や薬物中毒の治療に用いる　他体外透折、血液透折、腎透折がある。
ウィルスについては、酸性に弱いとされています。
そして、
ウィルスに関しては生物と無生物の中間的な存在と考えられている。
以下に示す参考によればアルカリ性が多い様である。（「ウィルスの手帳」２００４年１２月１５日初版　田爪・築地著：研成社）
「多くのウィルスは酸性に弱い」と記されている。
細菌に関しては極限環境に生息する細菌について、
好酸性細菌はＰＨ３以下で良好な増殖を示す。好アルカリ細菌はほとんどが生育条件としてアルカリ性ＰＨ環境である。
又、高度好塩基性細菌の多くは、細胞外ＰＨ値がアルカリ性を好む傾向と記載がある。
（「細菌の手帳」２００６年８月１０日　田爪・築地著：（株）研成社）
（「細菌の栄養科学」２００６年１１月２５日初版共立出版）
細胞活性酸素除去エネルギー
細胞内において出される活性酸素は図６２のように体中で発生しがんやＤＮＡ障害や糖尿病等の原因となるとされている。
細胞内に入り込むには膜を通りぬける必要があります。
（一般には、栄養素の取込みにたよっています。）
＜発酵エネルギー＞
発酵に明確な定義を与えたのはパスツールでした。
「空気のない状態での生命活動である」と定義したのです。その後の知見を合せてもう少し科学的に表現すれば、「微生物による無酸素的な有機物質の変換」と言えます。ところが発酵・微生物学の進展により、この定義中ではおさまらない発酵も増してきた。酸素を必要とする酢酸発酵やアミノ酸発酵、抗生物質発酵などがそれです
ですから現在広い意味で発酵は、「微生物による有機物質の変換」と定義するのが一般的なのです。
そして、腐敗とのちがいは「人のやくに立つ」からそう呼んでやくに立たない方は腐敗と呼んでいるそうです。
アルコール発酵の例では、
赤ワインでは濃色のぶどうを丸ごと発酵させます。
風味をまろやかにするには乳酸菌（オエノコッカス・オエニなど）を使って刺激の強いリンゴ酸をより「穏かな乳酸」に変換する工程を行うとの言です。
発酵させるには、良い微生物を使うと言う内的要因（育種～有用な物質を生産してくれる良い菌を獲得する。すなわち能力の優れた微生物の探索。能力を改良する育種など作業が必要となる）
と増殖・生産（培養）に適した条件という外的要因があります。
育種の方法として紫外線や変異誘導剤を用いて染色体にランダムな変異を導入する変異育種が使われている。微生物をこのようにし選択できる育種の良し悪しで決まるのです。
栄養源としては微生物の菌体と生産物をつくるためのすべての元素を供給する必要があります。
自分でほとんど有機化合物を組立てられるので、与える栄養源は炭素源として糖（グルコースやショ糖など）窒素源としてアンモニアなどとリン酸や金属類などシンプルなもので可能です。
これらを溶かした水溶液の培地で微生物を培養するのです。炭素源としての糖は活動の為のエネルギーとして使われます。又、不得意なビタミンなどの有機成分を微量加えます。
　環境とは培養における温度、ＰＨなどのことです。一般的な微生物環境は、温度３０～４０℃で中性付近のＰＨ６～８です。生育には酸素を必要とする場合が多く適した濃度に

維持する事も重要になります。外的要因が増殖と物質の生産を両立させる最適の条件として決定されます。
食品ロスについて、
食品の鮮度が冷蔵においてや缶詰め樹脂パック詰保存、ビン詰などでの保存しかなく、
生野菜などは早期にいたむ。冷蔵保存が唯一である。
これら食品は賞味期限ですてられ処分されている。大量な処分である。
又、キッチンでの残り物など保存する物、賞味期限に近い物を扱う事が多い。が対応のし用がない。
化学品交換エネルギー
今まで水や水素に関してエネルギーが語られていないが
一般に空気中に水分がある事や水分を雲が持つ事も知られ雲の中で水分がこすれ合って雷が起る事も知られている
その水が空からくる宇宙線の紫外線、Ｘ線γ線によりそれらが水に入るから水は酸化物で酸性雨などが発生する原因と言われる。
又、水素に関しては、水素ば、殻の電子が１個で空きが大きい原素であることから電磁波が入り易い事も知られています。
燃料として車に使える事も知っている
太陽の光も放射線を持った紫外線である
私たちの生活の全体をしはいしていると言える
一方、放射線のない所はと言えば土の中である地下の洞くつ、やほら穴の世界はどうかと言うと地上とちがう分がある。地下では発酵が行なえる、ワインの生産、チーズやバター、ヨーグルトやつけもの、キムチなど生産される、それは、どうしてかについて気付いてはいる。
しかしながらこの現像について説明されていない。何かちがうものがあると思えるのです
私たちが一般に飲んでいる水はＰＨ６．５～６．８程度の水、ですがおいしい天然水はＰＨが高い
つまりアルカリ性のものが多い。これも地下からわき出る水なので地下の水は、アルカリ性で地上の水は酸性である違いに気ずくのです。
そして、アルカリ性と言えば、すぐにコンクリートがＰＨ９近くで固まる事にも気ずくと思います。
コンクリートは、セメントと水とフィラー石を混練して固ります。セメントはたくさん積めば土と同じだと言えその中で空気中とちがう地下中の現象が起ると思えたのです。
混練するときは、フィラーの石同士やセメントがこすれ合います。石は生石灰などと言う火打石の素材なので火花（電気が起ります。）
セメント自体はケイ石を中心とした素材です。
ケイ石が半導体素材であると一般に知られておりそれが積重ねられれば電気が流れる（発生する。）
この電気が空気中と違う世界で起るのがコンクリートのＰＨ９となる原因であろうと思えたのです。
だれでもそこまでは理解できます。
衛生交換エネルギー
手洗の水に関して、
洗剤を手に付けて洗うのですが洗剤が手に残ったりめんどうです。又トイレを出たり次の部屋の入口でノブにさわるのでもともこもありません。
食品の衛生は、殺菌の方法がない為、冷蔵保存がたよりです。レトルト食品などのパック品も長持して良い。しかし、いつまでも放置すると賞味期限が来る。
食品を冷蔵しておくと、菌の他ウイルスの付着も心配になる。しかたなくすてる事になる。
衛生飲料水としては、天然水や加工水があるがいずれも消毒されたものが販売されている。

医療用の水においても消毒されている。
一般の水道水も消毒剤を入れて有るので浄水器などで分解して飲んでいる。
空調においては、殺菌性はある様であるがはっきりしない。（ウイルスについてはない）
外気吸引の空気大気汚染についてははっきりしない。
放射線の除去については無い。
消臭は、トイレ・冷蔵庫であるが薬がある。
○浄化槽について、薬品と換気で処理する。人が定期的にやってきて確認している。
○バイオマスは、動物などの場合であるが衛生的とは言えない。
○毒ガスの消去は、特別な薬剤で行う
○浄水場殺菌については、薬品で行う。
○河川出口殺菌については薬品で行う。
魚養殖貯水場　様々に魚に合ったやり方で行なっている。
○畜舎内除菌は、定期的に薬品生石灰などにて行う。が部分的で生き物そのものには何もしていない。
○建物について完全な消毒はできない。
　入口、トイレなど。
コンクリート乾燥時に乾燥亀裂が入るとそこからさらに広がって大きな亀裂が入る。時間経過により５年、１０年後には割れるので構造物の老旧化となる。
１０　地球温暖化＜環境エネルギー＞
地中から掘り出された化石資源は、エネルギーや種々の製品に加工し利用され最終は燃やされて、CO_2になり大気中に放出される。放出されたCO_2は短時間では化石資源に戻せずそのため大気中の濃度が上昇し温室効果で地球が温暖化していくのです。化石資源の使用量を減らすことができなければその上昇を止める事はできません。
この様な地球に優しい資源エネルギーの循環サイクルをつくるには、どうすれば良いかが問われていて未来に広がる技術が必要であるとしか言えません。
環境エネルギー
CO_2は二酸化炭素で酸化物である。地球温暖化の原因とされていて各国で異常気候が起る原因だろうとされている
その原因は、石油産物等の燃焼、化石燃料の燃焼などや森林破壊などでの二酸化炭素吸収低下によって大気中のCO_2濃度は上昇し３３０ＰＰＭ以上です。温室効果ガスとしてCO_2やメタンCH_4発生したCO_2の回収は、CO_2をメタン化・メタノール化して海洋処分・地中処分・植林・海の藻類の利用などですがいずれもコストが大きくたいへんです。
発生の抑制の面は多々方法は電気の受給面などありますがこれもコストも大きくすぐにはできない様です。
そして何といっても気候変動や海面の上昇により様々な影響が発生する事です。酸性雨なども含まれます
そこで、技術によって発生するCO_2やCH_4を分解できないかを考えますが良い方法はありません。
又、メタンガスは二酸化炭素の５０倍の温室効果があると考えられています。
○雷雲電磁消去エネルギー
雲が空をおおうと雲の色が黒く変色し雷が鳴り出す。このように積乱雲等が集合すると色が黒い雲になる。この黒い雲は、雲の中の摩擦により（水分のぶつかり合い）雷のエネルギーが雲中にたまった状態となっている
この後は、突風や雷の発生となり大雨となり同時の突風で竜巻が発生します。
大気汚染物質毒除去エネルギー
正常な大気には通常存在しないガス状、粉じん状の汚染物質、あるいは通常では存在しない量の汚染物質の総称であり人為的生産活動に伴って排出された汚染物質をいう。現在測定できるものが２８０種を越えている。測定方法がない物質もある　微量であっても健康や生活環境に相当程度に好ましくない影響を与える物質について、その排出を規制する。

大気汚染防止法では、工場および事業場における事業活動に伴って発生する
１）煤煙（硫黄酸化物・煤じん・有害物質）
２）粉じん　３）自動車排出ガス（一酸化炭素　炭化水素・窒素酸化物・鉛化合物・粒子状物質）を規制の対象にしている。
石油類の燃焼、化学工業の反応過程から発生するものが多い。
このうち有害物質はカドミウム・塩素・窒素酸化物など５項目である。
また人間の健康や生活環境に被害を与えるおそれのあるアンモニア・シアン化水素など２８物質を特定物質と定めている。
このほか太陽光線を媒介にして２次的に環境中で合成されるオキシダント、ＰＡＮなどの光化学スモッグがある。また放射性物質も広義にはこれに入れられる。
除染エネルギー
積置の素材の複合元素でエネルギーが出る事はわかっているがそのエネルギーがどの様なものかはっきりとしていない。
石灰質は、セメント材料の材料であるがセメントがコンクリートになるときのエネルギーである。
セメントには、ケイ素が酸化物として含まれている。これが大きなエネルギー源であることも知られている。
石灰質は、Ｃａの酸化物で酸素と水素の炎に当てると強裂な白い光を放つことが知られている。
ケイ素が半導体の材料である事も知られる所である。

どの様にしてPHIのコンクリートになるか原理がわかり
内部の面、詳細エネルギーについては語られてい

ない。
９．除染エネルギー
　チエルノブイリとスリースマイル島事故では、チエルノブイリにおいてはスリースマイル島１９７９年の事故同様１９８６年に起したメルトダウン（炉心溶融事故）事故だ。メルトダウン直後原子炉建屋が爆発炎上した。爆発と火災により核燃料をあつかう設備が失われたことで溶け落ちた核燃料の回収は非常にむつかしくなった。そのためソビエト連邦政府は、最低限の防護として原子炉建屋全体をおおうシエルター（通称「石棺」）を建設した。
事故が起きても石棺は雨もりしけっして安全に管理されているとは言いがたい。この水が汚染水となって湖に流れ込み川から下流へこの放射性物質が運ばれていると考えられている。
一方スリースマイル島の方はメルトダウンが起きたが原子炉が破壊されることはなく原料デプリは圧力容器の内部に隔離されていた。
事故処理は「圧力容器を水で満たしたあとふたを開け遠隔操作ロボットで燃料デプリを取り出すようなやり方」が取られた。
これを「冠水工法」とよばせた。
このとき水による循間冷却が行なわれたが素材として特に放射線を吸収できる素材などは開発されていなかった。
スリースマイル島原発２号炉の事故で、燃料デプリは圧力容器内にとどまっており建屋内の設備を利用できた。

除染エネルギー内

物質付着汚染除去エネルギー
物質の汚染については物質が水を含む野菜・果実などの場合人が使用した依服・帽子・手袋など装着したクツ・メガネ・時計やパソコン等々である。これらの汚染はなぜかという

事を考えなければならない。
放射線が飛んで来てまず空気中の水成分がこれに侵入を許すので強い力でむりやりにH原子に付着する　これはHの殻空が大きく受入れられるスペースがあるので原子核の正荷電力の放散による引力が弱いが有る事による。
空気中の水分が物質に付着しその水のH原子にの空隙に付着する事で物に付着したような形を示しているのです。
水を含む物などはやや深く浸透する可能性があると言える。
動物など大きな物質や人間に対しても有効である。図７５　図１２３
物質が核（放射性物質）の場合の例として図１２８が想像される。
そのもとは、セメントとフィラーと水を混練して地面上に建屋下敷コンクリートをつくるプロセスの放置時に宇宙線のγ・Ｘ線が多数空から入り込んでいるがコンクリートが割れたり亀裂が入ったなどの話を聞かないので放射線は入り込んで消滅したのである事実が積置素材のアルカリ性電子が放射線を消滅する事を証明しているからである。

人や食物、除染エネルギーについて

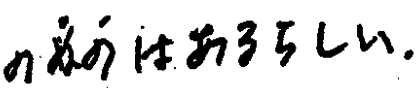
○畜舎の場合（ぶた・牛・鳥等）の除染については、牛肉・ぶた肉・鳥肉等肉の他　牛乳・鳥玉子の除染が必要な場合がある。これらの除染は不可能とされている
○人間の場合についても除染不可能とされている
○海産水産物の除染エネルギー
これについても魚・海そうなどであるが除染不可能とされている
○農産物に関しても除染できるものは見つかっていない。
倍養エネルギー
発酵の所で述べたように発酵の外的要因として増殖と生産としての倍養が位置付けられます。
培地には、微生物が自信でつくることが不得意のビタミンなど有機成分を加えるとより良い発酵になると言われる
環境とは培養における温度・ＰＨを言うのですが温度は３０°～４０℃（室温よりやや高め）で、ＰＨは６～８です
これら外的要因は微生物の増殖と物質の生産を両立させる最適な条件として決定されるのです。
外的要因の１つは微生物が増殖し生産活動をする為の原料である栄養源。次に増殖・生産における環境がポイントなのです。
栄養源としては、炭素（糖類）・窒素・リン・金属類などです。
細胞における増殖は中には正常な育生を成すものがあるが一部がん化したり死壊したりする問題が多い
生物の細胞に倍養させる折の共通問題点は次のような点だと思われます。
○栄養分の酸化
○空気中の電磁波による酸性毒
○室内環境による雑菌
○母体からの殺菌力がない（免疫がない）
○母体からの鮮度のよい栄養分の補給がない。
○水分のよごれ（混入物等）
医療エネルギーについて
スポーツはどの競技も被労を伴うのが一般的で体力を競うのですが走力を競うとき何回も走るうちに体力の不足をまねき後の走行力で自己の力を出せない事があります。
サッカーなど前後半で分かれており後半に体力の減少をまねき動きがにぶくなり得点を許すケースも多い。
これらの現象において薬物などの使用は、かたく禁止られているので使うとドーピングなど検査にひっかかり選手生命に問題が発生します。

ですから回復を目ざすときも体外から体内に注入するのはほとんど食事だけとなるのですが食事をすると血液が胃などに集中すると動きがにぶくなり逆効果となる事が多い。
サッカー、バレーボール、ハンマーなげ、重量上げ、野球　陸上競技、水泳、自転車　等々たくさんある。
歯科痛み除去エネルギー
（歯科においては）歯痛の際に歯の神経が痛みを禁じえずがまんできない歯痛を発します。
が歯科医に行っても痛みは取れない事もあります。
ペイン除去エネルギー
切キズや打ぼく症による痛みがあったりやけどなどの痛みもある。
それらの痛みにも特に効力のあるものが少ない
手術中酸化防止エネルギー
手術中切開中体内が外気にふれ空気中の雑菌等で臓器の酸化が進行するのを防ぐことは無理であった。したがって、手術時間に制限があったり、患者の悪化がけねんされる事態となる事も起るがしかたないとされている。
その他
清掃器エネルギー
そうじ器において除染装置が内蔵されたか外装された形で発するエネルギーは無かった。
気体発生で毒性はあるが紫外線のものである。
自動車除染エネルギー
自動車内空調に除染が可能なものが無い
実際東京においても０．００９ミリシーベルトの放射線を吸っている。除去できるエネルギーが無い。
装着品エネルギー
指輪やブレスレッドに素材複合物を付属させ装着して指先やうで首からの血液を浄化するものはゲルマニウム以外のエネルギーはあまり見られない。
連続放射エネルギー
Ｌ型に曲がった放射器は１ケ所の放射口から出す発想でありそれ以外ない図３１の様なもので放射口を多数設けたエネルギー口は無かった。
環境保護電線エネルギー
電線の外部被複部からエネルギーが漏れ電磁波が飛ぶ為電線の下の家などで

電磁波雲が発生している。Ⅰ

ダイキャストサビ無エネルギー
ダイキャスト製品はいろいろなものが素材があるが金属の仕上がりが光沢がない為、製品として外部に使用できず本体の裏の部品などとして活用されている。光沢のある物をつくれるエネルギーは無かった。
Ｘ線照射後除去エネルギー
病院などでＸ線で写真を取るときにバリウムを先に飲むが必らず全ての放射線を吸収するとされるが。
手術用アルカリナイフ、エネルギー
手術する切開ナイフは消毒されているが切口の酸化が問題で雑菌が取り付くなどして長時間の手術のときに影響が患者に及ぶ事がある。
内視鏡照射エネルギー
内視鏡により体内の写真を取るケースが増えて来たが映像を見ながらその場で処理治療をする事はできないのが一般である。又
建具金物除染（健康）エネルギー
建具金物は、ドアクローザー・Ｔ番・フロアヒンジ・ノブ　レバーハンドル・おし板ノブなど様々であるがこれらがエネルギーを発する事はなかった。

サビ無金属生産エネルギー
鉄などの金属の生産の過程でエネルギーを加えてサビのない鉄を造る技術は研究が進んでいる。
がん等治療エネルギー
がんの治療は、放射線治療が中心となっているそれ以外の方法は効が弱いとされている。
がん組織を殺す方向ですがし方が無いと言えます。
エネルギーの毒性が問題として上げられ、これが他の正常組織を通過する事、がん組織と正常組織の境界で正常組織も含めて処理する事が問題として上げられる。
倍養装置エネルギー
今まで問題の点６点中５点の環境を改善できる装置は無く様々に手はつくされたが安定した方法が確立されていない。又それに関して適切な装置などが発するエネルギー照射などが少ない。
ジューサーミキサーエネルギー
ジューサーミキサーで果実をジュースにすると果実がかすとともに酸化するので色の変色とともに鮮度を失なう。
放射線除去エネルギー
放射線を除去するエネルギーは存在しない。
角型箱放射器エネルギー
アルカリ性電子放射器において角型箱の形状の装置から発せられるエネルギーは無かった。
エアコン内浄化エネルギー
エアコンが入手する外の空気を正常化し取込み室内へ放射する空気や室内の空気残存のよごれも浄化する様なエネルギーはつくられている。
特に大気汚染気体や放射線について除去の技術は完全とは言えない。
原子力発電内炉放射線防止エネルギー
原発の炉の中で漏れる放射線を除去できるエネルギーは見当らない。
太陽光パネル型エネルギー
太陽光パネルの型のアルカリ性電子放射器が出すエネルギーは無い
大型タンク型放出エネルギー
大型のタンクに積置素材を詰めた形のアルカリ性放射装置のエネルギーは無い
脳活性浄化エネルギー
脳活性が出来る装置から出るエネルギーは、よくわからない。
健康器具エネルギー
殺菌やウイルス滅滅ができるエネルギーは未開発ではないがあまり見当らない。
依服浄化エネルギー
依服から発する浄化エネルギーはない。電磁波しゃ断



【発明が解決しようとする課題】
セメントにフィラーを入れて混練したものに水を入れてさらに混練すると酸化物の鉱物や砂がアクを立てて２０～３０分で練上げられると水溶液はアルカリを示しＰＨ８～９程度を示し、放置すると固まりコンクリートとなる。このコンクリートがＰＨ９程度を示す圧縮強度３５０ｋｇ／ｃｍ^{3}以上の固さに固まりまったくちがった組成の物体となる。
このとき、水がセメントとフィラーの混合物に対し何をするか、又、水が別の形のエネルギーを造り作用するとしか思えず、水が何に変化し、セメント・フィラー混練物から受け渡しするのか　その時新規定義のエネルギーが酸化物をアルカリに変える作用を起すはずであろうと思われセメントとフィラーを溶かし別組成で接着固化する原因を考えアルカリ性電子との関係に課題をしぼった。
このエネルギーがいかに多くの問題に対応できるかを課題として取り上げる。

サビ無金属生産エネルギー
鉄などの金属の生産の過程でエネルギーを加えてサビのない鉄を造る技術は研究が進んでいる。
がん等治療エネルギー
がんの治療は、放射線治療が中心となっているそれ以外の方法は効が弱いとされている。がん組織を殺す方向ですがし方が無いと言えます。
エネルギーの毒性が問題として上げられ、これが他の正常組織を通過する事、がん組織と正常組織の境界で正常組織も含めて処理する事が問題として上げられる。
倍養装置エネルギー
今まで問題の点６点中５点の環境を改善できる装置は無く様々に手はつくされたが安定した方法が確立されていない。又それに関して適切な装置などが発するエネルギー照射などが少ない。
ジューサーミキサーエネルギー
ジューサーミキサーで果実をジュースにすると果実がかすとともに酸化するので色の変色とともに鮮度を失なう。
放射線除去エネルギー
放射線を除去するエネルギーは存在しない。
角型箱放射器エネルギー
アルカリ性電子放射器において角型箱の形状の装置から発せられるエネルギーは無かった。
エアコン内浄化エネルギー
エアコンが入手する外の空気を正常化し取込み室内へ放射する空気や室内の空気残存のよごれも浄化する様なエネルギーはつくられている。
特に大気汚染気体や放射線について除去の技術は完全とは言えない。
原子力発電内炉放射線防止エネルギー
原発の炉の中で漏れる放射線を除去できるエネルギーは見当らない。
太陽光パネル型エネルギー
太陽光パネルの型のアルカリ性電子放射器が出すエネルギーは無い
大型タンク型放出エネルギー
大型のタンクに積置素材を詰めた形のアルカリ性放射装置のエネルギーは無い
脳活性浄化エネルギー
脳活性が出来る装置から出るエネルギーは、よくわからない。
健康器具エネルギー
殺菌やウイルス滅滅ができるエネルギーは未開発ではないがあまり見当らない。
依服浄化エネルギー
依服から発する浄化エネルギーはない。電磁波しゃ断

の前はおろらしい。

【発明が解決しようとする課題】
セメントにフィラーを入れて混練したものに水を入れてさらに混練すると酸化物の鉱物や砂がアクを立てて２０～３０分で練上げられると水溶掖はアルカリを示しＰＨ８～９程度を示し、放置すると固まりコンクリートとなる。このコンクリートがＰＨ９程度を示す圧縮強度３５０ｋｇ／ｃｍ^{3}以上の固さに固まりまったくちがった組成の物体となる。
このとき、水がセメントとフィラーの混合物に対し何をするか、又、水が別の形のエネルギーを造り作用するとしか思えず、水が何に変化し、セメント・フィラー混練物から受け渡しするのか　その時新規定義のエネルギーが酸化物をアルカリに変える作用を起すはずであろうと思われセメントとフィラーを溶かし別組成で接着固化する原因を考えアルカリ性電子との関係に課題をしぼった。

[redacted]

【発明を解決しようとする手段】
練混るとき石とセメントなどがぶつかる刺激で電子が出ると言える。
これは、石と石をぶつけると火花が出るので電子が出ることがわかる
水中で電子が出るがこの電子が土壌で発生する電子であろうと思われる。たとえは、陶芸で土を混ると粘土ができ粘性の高い土ができる
粘性が高まる事は石の一部が水で溶けていてどろどろになって来るのであろうと感じられる。
この刺激で出る電子だけがセメント・フィラー・水の他に新に加わる物質だと言う事になるが、これらからＰＨ９と言う強アルカリのコンクリートができる。ＰＨ６．０～６．８の水がＰＨ９に変わるのはなぜかの疑問につき当る。電子が加わったことによると気ずく。この電子以外にＰＨ変化をもたらすものはないのである。
この電子がアルカリ性であって石や砂がアルカリになるしかも結合して継り新たな組成のコンクリートになる。
つまりこの電子がＰＨ６．０～６．８の水道水をＰＨ９程度にしたことになる。
このとき空気中にある電子では５．０～５．５程度の酸性水を雨としてふらせるのと全く違う事に気ずくのだ。
空気中にある電子は、太陽からのエネルギーたちしか考えられず、主役の紫外線の他Ｘ線・γ線　その他である、これら宇宙線が電子を頭に持つのであるが太陽の核爆発による高エネルギーの酸化エネルギーであることが知られる。
凸レンズで焦点を結びそこの黒色の紙をかざすと、燃えて火が着く現象が思い浮ぶ。
この空気中の電子は学術的にマイナスの電荷を持つので物質においては原子核の周囲に殻をつくり存在している物質電子である。
一方一般に素粒子学においては、電子は放射線として扱われている。（正電荷の扱いだ。）
そこで、電子は大きい意味では正電荷だが電子そのもの（純電子）は負荷であり、純電子に光子と放射線が一体となっている事に気ずいた。
光子と放射線は宇宙線なので酸化の力で燃焼力を持力が大きなエネルギーであって純電子と一体となって飛ぶと言える。
したがって雨が酸性のＰＨ５．０～５．５を示す
それに対して水とセメント・フィラーを混ぜるときは、粉は土壌や鉱物を中心とし、一般に磁性をおびた物質である　つまり光子と放射線を発する要素はもともと持つがたいへん弱いのである。この土壌や鉱物の中から生まれる電子が水中で生まれる事が空気中の中にある電子との違いで純電子部は基底の一個の大きさなのだが光子と放射線部はバランスとして１個の電子力より小さな酸化力しか発しない
つまり空気中の放射線（電磁波）と逆のアルカリ性を示す事になる。負荷を示す。
一般に発生電子は２個ペアーで存在する
これがアルカリの負荷電子を強力にするのである。
この様にＰＨ６．０～６．８の水をＰＨ９に近い水に変化させるだけでなくできたコンクリートもＰＨ９程度である固型物もＰＨ９である。元の砂や石が酸化物であるセメント材やフィラーの石鉱物材であるＰＨは７以下の物ばかりと思われる。
これがＰＨ９にまでアルカリになる　つまり別の物になると言えるのである。空気中の宇宙線酸化に対抗し水のアルカリの負荷電子が物質に乗り移ったと言うか交換したのかである。（命活性水素原子が出す）
これはたとえ水中でなくても発生していることがわかるのはパイプに電子発生素材を筒に入れるとき放射口から発生するエネルギーが空気中の酸化エネルギーを通過してアルカリを伝える、対抗しつつアルカリを示す。自然現象では滝つぼの現象があります。滝の水が落下するとき水が壁の表面に当り水の落下による電荷刺激とともに土の壁に刺激を与えるので表面から電子が出てそれが放散し水のしぶきや空気中の水分に入る事がある。すると

水のＰＨが変わってアルカリ性に変化しマイナスイオンのしぶきや空気中水成分となり健康に良い。又すがすがしさを発揮する。
セメントとフィラー土砂の水が高いアルカリ性を示しＰＨ９もの強アルカリを示すのも同様と言える

これらの電子発生部材は、土砂・鉱物などで

あり酸化金属・酸化吸着剤・抗酸化剤　ミネラル酸化物・太陽光変換エネルギー触媒等の呼名の物質が特に象徴的である。
その中でも一般にゼオライト・サンゴ化石・ＳｉＯ$_2$

卑鉄・貴金属・その他金属・など現実的能力

が発揮されるものとして上られる。
　これらにおいては積上げるだけで接触刺激で電子を発する、もちろん、物理刺激や電荷刺激でも電子を大量に発散すると言える。
この電子がアルカリ性であってセメント・フィラー石混合との関係の電子で今まで確認されていないもので「アルカリ性電子」と命名する。
水を混ぜる事は、放散する電磁波としての電子を周囲に届めておく事に意味があるので飛んで早い速度で通過・透過するのを防ぐと言える。
命活性水素原子は、水にあるＨにアルカリ性電子が入り込み酸化旧電子より原子核に引張り込まれ近い位置となる　つまり交換が起り酸化電子を持つ水素原子同士がくっつき一時的に水素Ｈ$_2$をつくる。このほか物質の酸化電子も命活性水素原子から原子核の近くに入り込まれたアルカリ性電子によっておい出され水素原子を作り別の者と両者が結合するのだ、ところがこの水素に命活性水素が近ずき交換するので一つのＨに入り切れて命活性水素原子を造り物質の電子をおしのけて入り込む。この行為をくり返す事になる、ＰＨは高くなる
この命活性水素原子が酸化物がアルカリ物になる主役と言え、請求項とする、新水素エネルギーである（「命活性水素原子」と命々する。）
物質（セメント素材等）素材の原子にあった電子はもぐり込んだアルカリ性電子で交換されていっぱいになる　そして分子もその原子で全体にアルカリに変化する　このとき原子を「アルカリ性原子」分子を「アルカリ性分子」と呼称し命名する。
命活性水素原子同士の結合によってできたＨ$_2$を「命活性水素」と呼び命名し、水に一時的にアルカリ性電子が入ったとき「命活性水」と呼ぶことで新エネルギーの提供とする。
広義の「命活性水」としては命活性水素や命活性水素原子を含めた水として使う事もある。
放射線について
空気中に地上から昇った水分が雲になってその途中で、あるいは雲になってから宇宙線をあびる事で水分や水滴は、その水素原子の中に宇宙線酸化電磁波の酸化電子が入り込んでいる。
そしてそれが雨となってふるのである。したがって、その雨が山に、川や湖や海にふる。
そして、その水を水道水として飲水しておりその水が一般の水の基準となっている。
セメントに混ぜる水もその水である。
つまり宇宙線（紫外線・Ｘ線・γ線等）がなす水分子なのである。したがってその水の水素中の電磁波である放射線とセメントとフィラーから発せられるアルカリ性電子が交換を起すと言える。
したがって、セメントとフィラーの発するアルカリ性電子が放射線すなわち電磁波を除去・除染のエネルギーと言える。
したがって、コンクリートをＰＨ９に固めるＰＨ９の水が水中

に生まれるのである。放射線電子でなアルカリ性電子

からなる水や水素が発生するのでコンクリートもこのアルカリ性電子で水結合がなされ出来上るのである。
放射線については、
旧型のテレビブラウン管やパソコンを電力オンにした

ときに顔や手にむずがゆい圧力を感じる事があ

ったのを思い出す。これは電磁波の発生で人に有害であると言われている。
そこで、このエネルギーを向けてスイッチをオンする

と顔や手にむずがゆき圧力は感じられずそ

の後もきわめて清涼感に満ちた長時間作業が実現できるので良く行なっていた。
これは、ブラウン管やパソコンが発する電磁波を本件アルカリ性電子放射器が発生する正荷の電磁波を消滅させた事以外に考えられないのであった。図１８の放射線絵図において

gの放射線となりそれが27又はaのアリオンと合線してfの放射線になる事を示しておりこのfが頭の電子より小さいエネルギ

ー正荷なのでほぼ消滅した事になる原理

である。つまり発する電磁波がgに相当しこれがアルオンと衝突してfになるのである。次から次にアルオンが発せられfはさらに

小さくなります。
実は発生する電磁波が空気中の水分や人間の手や顔など露出する皮フの水分に入り込むのが大半である本件機器発生の負荷のアルカリ性電子が電磁波を直接か水分に入り込むかの両方に対して消滅させるのである。
原発事故に関するニュースを聞くと地域による放射線の高まりが観測されている様に合線によって個別な放射線の高まりが起っている事が知ることができる。

したがって、電磁波が合線する事も確かである

と同時に緑茶畑などの高放射線の高まりが逆に除染による放射線の吸収による低下を意味付けている。
又、溶接時に火花が鉱板に当って飛散るのは一種の分線と言える（物理的に分線できる事を意味する。）

これから前述の消滅が納得されるのである。
空気中の水分に付着した電磁波は、アルカリ性電子が付着したＨ・の水素電子と交換を起している為消滅するのである。
セシウムについてみると１３７の壊変様式がβ⁻と示されているがβ⁻壊変では陰電子（ｅ⁻）を放出。
質量数は不変、原子番号は１増大する
ｅ⁻電子を出すのだが本放射エネルギーの正荷電子に引付られるが原子核内にある陽子は５５ほどの大量核内に存在するので大きな正荷力であるのでアルカリ性電子が核内の陽子に向っていき付着し一定量付着すると消滅を起す。
一般の電子は正荷電子であるので原子核から離れた位置に存在するが負荷電子のアルカリ性電子は原子核に引付られる力が大きいので当然付着するのである。
Ｕウラン２３５はα壊変を起すがα線（ヘリウム４の原子核）を放出　質量数が４、原子番号が２減少する。元来　陽子数が９２も有るので、陽子にアルカリ性電子が付着し消滅を起し数が減少するのでα壊変は停止するとしか考えられないのです。
つまり核分裂は止まると言え連鎖的壊変が原料のウラン２３５の物質的変化により停止するのです。
この事は核融合原料にも総じて言えるのです。
（アルカリ性電子が負荷電子である事で物質の核の陽子に付着できるのです。）
水がアルカリ成分を持つとすればＨ－Ｏ－Ｈの水素に摩擦時に出た電子しか混入するものは無いので水

から切れてH分(水素原子)となり水中に存在しそれが

セメントに持っている電子と継り渡し継げる。
この電子がＰＨ９のコンクリートの源元である事は明白である。全体に強アルカリのコンクリートと成るのでＨが持つ電子をアルカリ性電子と名付けた。元々セメントと砂の混練摩擦で発生する電子が水の水素に向うとき水素の既入電子と入れ変ることから、既入電子と異なる電子と考えそれがＰＨ９のアルカリ性を示すので電子そのものが異なるとしか考えられなかった。
電子がアルカリ性を持たらす事は電子自体がアルカリ性を持っている事に等価と考えた。
もともと水が持って（付属）した既入電子は、空気中に存在する電子である事は確かで原子核とは、一定距離を持った位置に存在する、この電子は、空中の放射線を持つので全体に放射線含量が大きな電子である。
すなわち放射線の酸化性が強い電子である。そこで正電荷性の電子が酸化性電子と等価である事を認識したのです。（摩擦で出る電子がＰＨ９にするアルカリ性電子であるのに対して）
電子そのもの（純電子）は、負荷と言われるが一般に全体（電子）は、正荷である事を認識したのです。
量子化学では、電子が正荷で放射線として分類されている事（核医学においても述べられている。　　）
放射線が酸化物である事は周知であって人を焼き溶かす事を原子爆　によって知ている。
そこで、これらを考えると電子が持つ放射線の大きさによってγ線・Ｘ線・紫外線・音波・赤外線

遠赤外線、超音波、短波、超短波、マイクロ波 等々

が名付られている様にこれらは全て放射線として扱われているので酸化性と言え周知のエネルギー全ては酸化性の電子と言える。
ここで摩擦で発生する鉱物のあらゆる元素（放射性元素を除外するが）が混練によると火

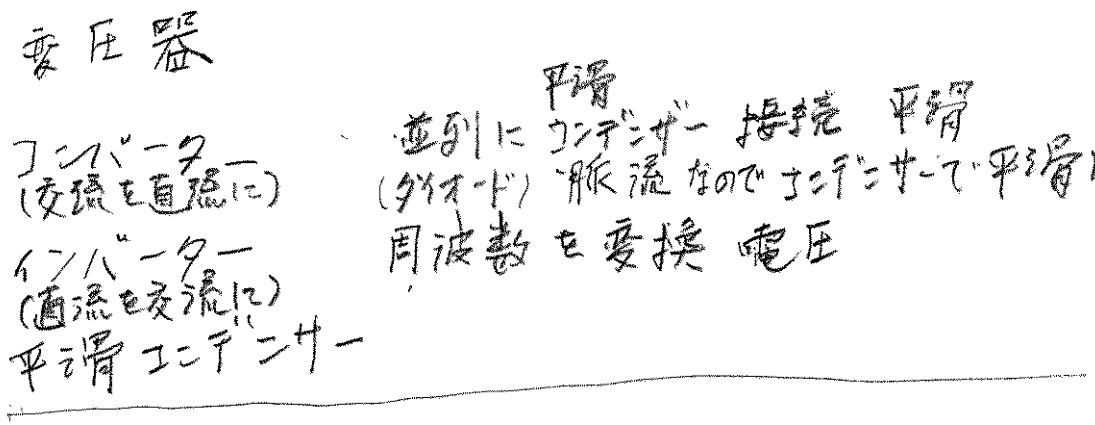
打石の原理で電子が発生するがその電子が酸性電子と異なるアルカリ性であると考えるべきであろうと考えた。
ここで、電子は負荷で原子構造的に示されるがほんとうに負荷ではなく弱い酸化性電子であると考えるべきであろうと結論される。
原子核の陽子の正電荷に引張り込まれた酸化電子なのでその強さで原子核からの距離があって殻（Ｋ、Ｌ、Ｍ・・・）を形成する。
電磁波絵図の様な電磁構成と考えると考え易くなる（特願２００７－３４１７９２に記載）
図－９　に示す
電子の構成を頭に電子そのもの（純電子）後ろに光子その後ろに放射線（焼えるエネルギー酸化物）と考えるこの一連の構成を光子が放射線の強さを内蔵するエネルギー源であり常時発しているのです。（その様に考えた。）
そこで電子（純）は、一定量持つが時折離脱しては追加される（光子から）がその純電子の大きさに対して放射線も電磁波として造られたとき光子が持っている一定の大きさで放射される。
各電磁波によりほぼ決っている。この放射線レベルにより原子核からの距離がほぼ決っているのである。
そこで、摩擦であるいは、外部よりの刺激で生まれる、電子が鉱物等の物質から出る時は数個の電子塊である最小の単位レベルの話である。この生まれる電子がアルカリで有る事は、純電子の負荷に対してそれより小さな放射線しか持たない事しか考えられないのです。つまり全体的に純電子のエネルギー割合が放射線の酸化エネルギーより大きいときに負荷を示し、負荷の電子となりアルカリ性と等価のアルカリ性電子となる。
このアルカリ性電子の性質は、集合すると負荷が負荷を重ね生むのでそのエネルギー力は強くなると言えます。これが酸化電磁波電子と真反対の性質を示します。
（酸化電磁波電子を消す力を持つのです。）
真反対の負荷電子だから正荷の陽子にに付着できるのです。
酸化物のセメントと砂を含めてＰＨ９近くまで高めるアルカリ物に変えるのです。
アルカリ性電子が発生し集合するとき重なりだんだん大きくなると純電子も重なり塊を造り大きな負電荷になるので負の強さは強力になります。つまりエネルギーが負の大～小の電子が造られます。
このエネルギーは、負荷で大きいと言ってももともと数個塊のアルカリ電子の塊ですから１０や２０ヶ塊になってもきわめて小さく原子内を通りぬける大きさなのです。しかし負の電荷はきわめて強くなり付属の放射線より相当大きく強くなるので、原子核の正荷電力（陽子の数）が大きいものにより近ずくと言うよりぶつかると言えます。陽子の大きさは一個当り一定なので付着して中和し消滅させます。又、いかなる電磁波の持つ放射線にもぶつかります。
γ線・Ｘ線にもぶつかり放射線の酸性の正荷を消しさります。
負荷の小さなアルカリ性電子は、強さに応じて電子各殻の位置の裏側（原子核に近い）に入り込みより強い引力で位置し既有電子を原子外殻外においやります。別の殻（前より強い結付の）を形成し核ときんみつに継ります。殻が核と近ずく事がセメントの強度の強いコンクリートに変え圧縮強度３５０ｋｇ／ｃｍ^{2}以上を造り固体となり切れ目なく固まるのです。

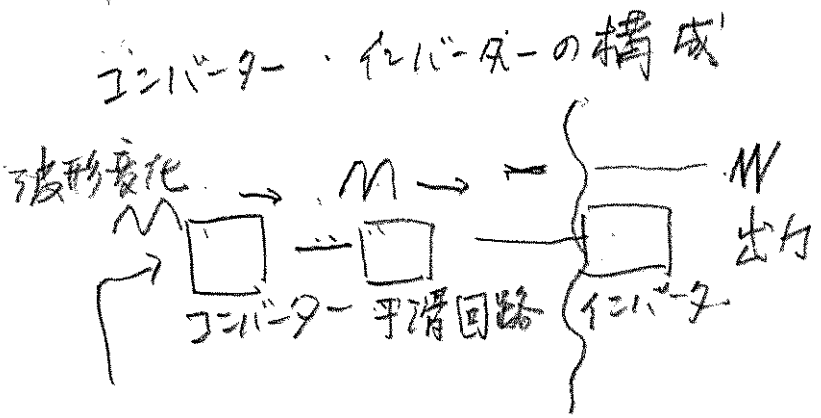
大きい負荷電子に重なる様に小さな負荷電子が
外に殻を形成し強い負荷電子が中和したら付着
の準備開始するのです。それ以前に重なり合い
強い負荷電子に変化するのでつぬに強い負荷電子
として中和を行うと思われます。
陽子の正電荷の

水の関係について述べる。（特願２００７－３４１７９２にて述べた）
一般に地球上の地下水以外の水は、水道水が６、４～６、９（ＰＨ）で弱酸性である。そして川や沼においてもわき水以外は高い酸性であり、海水も高い酸性である。
そこで、セメントにおいて練る水は、水道水とすれば、酸性の水であると言える。
セメントと土砂を水中で混練するとしばらくするとアワ水となり粘性が水に出て来る。そのときＰＨはアルカリになっている　そして数日たつと水はなくなってくる。
そしてＰＨ９程度のコンクリートに成る。水は発散もするがコンクリート中に含まれたようにも見える。
このときの反応については次の様なことが言える。
セメントと土砂が摩擦しそこに電子が発生する。この電子が水分子と混ざるとき水のＨ（水素原子）の持つ電子が酸性の放射線がある程度大きく全体に酸性に片寄っていると言える。そこに混練の電子が純電子より弱い酸性の放射線しか持たない形で発生し、近ずくと負荷電子の為、Ｈの持つ酸性電子よりＨの原子核側に入り込み位置するのでもと付着していた電子はおいやられる。この様にして交換作用が成り立つ
これが起る瞬間に水素が酸素と別れて水素原子（アルカリ性）となりそのままセメント分子にまとわり着いたり小石の分子にまとわり着いて分子同子を継げ結合させるか、水素分子H_2にいったん成って水中をただよい、負荷の強い電子が水中に増加する。このH_2は、酸化物のセメント・土砂にまとわりつき、電子（負荷）を引き付けられセメント分子同士の結合に使われ小石の分子とセメントを結合させると同時におい出された酸性電子を受取ると言った具合になるか新しいアルカリ性電子を受け取る行為をする。もしくは受取る酸性電子を受け取る場合、もう一方の水素原子が残されたアルカリ水素原子のときは、H_2になれず水素原子として新たなアルカリ性電子と交換しアルカリ水素原子になる。そして、そのまま使われる。
これらをくり返すと水の一部が無くなり、一部蒸発する。
こうしてコンクリートが連続した固りとして完成するのである。
そして、固まる途中に空中から宇宙線が下敷土地に造る下敷コンクリートに振り落ちるがγ線・Ｘ線等の電磁波が何百何千と落下しても打消して亀裂等やヒビ割れなどをつくらず固まっている
つまり放射線を打消たのである。
アルカリ性電子放射器は
積置（素材だけのものを筒に詰めた）と積置に微弱な電気を筒下部から与えたもの（ボタン電池等）と家庭内電源（１００Ｖ　５０・６０ＨＺ）を筒下部から与えたものとそれら以上の電圧・周波数を与えたものがある。
Ｌ型のものはＬの短い方が放射口で長い方の直線の先に追カの電源を入れた。コーナーで電子がぶつかるしくみだ
Ｉ型は、コーナ部を中に作ったもの〔筒内に板で壁をつくった（数ケ所）〕、壁のない物もある。
（放射口の鋼板だけで穴開の板）
これらのそれぞれに上記電子等電磁波を当てて刺激を発生させるもの。を考えた。

又は、別の筒を直接に電磁波（電気・紫外線発生　遠赤外発生、超短波発生、音波発生、超音波発生、ｅＴｃ）を発生させる筒を主筒内部・外部に付属させるものを考えた。
Ｉ型は小型のものも含まれカプセル型ももちろんあるのである。
（図－１４３）参照、特願２００７－３４１７９２
の図８３に別筒から直接発射される電磁波を示している。
又、図２１にあるアルカリ性電子放射図の中にＩ型の筒も示している。（全体は角型であるが）、図１０の電気清掃器もＩ型　図５のフロアヒンジ、ドアクローザは角型（Ｉ型）を示している。又、図７１にカプセル型が示されている。Ｌ型は図１に小電力の太陽光発電利用が図－３６にある。
アルカリ性電子放射器は
積置（素材だけのものを筒に詰めた）と積置に微弱な電気を筒下部から与えたものと家庭用電源を筒下部から与えたものとそれ以上の電圧周波数を与えたものがあって、その中の家庭用電源を追加の電源として素材に当てるしくみの筒が先から放射するエネルギーによる実験で放射線が消滅するのを測定器で確認する事ができた。
測定器のスイッチを入れ空間の放射線を測定測定場所　幕張インター体息所、乗用車電源使用（１００Ｖ調整器使用）
・２０１１年７月１７日午後１：２３～３７分
測定器（放射線測定器）
・
空間を測定　０、００９ミリシーベルトを測定しその測定器に対し追加の電源１００Ｖを継いだＬ型アルカリ電子放射器放射口を近ずけ感知口に一定時間固定すると、０、００９が２秒間隔で低下を始め０、００８→０、００７→０、００６→０、００５→０、００４→０、００３→０、００２→０、００１と低下し数字が消えた。５回くり返したが結果は同様であった。（今も同様の結果である。）
使用測定器
（株）カスタム　ＭＯＤＥＬ　ＲＤ１０５Ｃ
ＲＡＴＮＧ：ＤＣ４．５Ｖ　０、０１２Ａ
ＬＯＴ　ＮＯ：１０５Ｃ－０００１
ＰＲＯＤＵＣＴ　ＮＯ、１１１１　００２７
Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ、ｉｎ　Ｊａｐａｎ　Ｍａｄｅ　ｉｎ　Ｃｈｉｎａ
以上の様に従来技術と自然化学技術とから考え方から立証できる。
放射線の測定実験はなくてもＰＨ９のコンクリートが実証であると言える。又、セメント混練や粘土練のアワ水が粘性が高い水で普通ではないと言え、そこに水素（アルカリ性）が存在する事は確かである事などが実証の一部である。
又、人が水を飲むが出てくるとアンモニア水になって変化している事は水成分の中の受け渡しが起っていると考えられる。
以上の事により水の原理を含めて発見したと言えるのです。
特願２０１４－１６５０２９
においてはＩ型を「図面」に載せている。
又、カプセル型も記載「図１４３」に示されている。本件において、さらに詳細にリモコン操作を示してもいる。しかも配線取付自在として積置と追加電子（一般）を型としてリモコンで操作可能とし追加電子の強さ等機能も周波数変換　間欠タイマーなどタイマーも含めて機能させた。もちろん電圧も変換可能とするもので目的の使用に対応できる様にした。
（特願２００７－３４１７９２は図７１　カプセル型の記載有）
前述、した件において別筒から直接の電磁波を発する事により照射後アルカリ性電子と混合してその効果を示す記載も示されている（図１１３）
図－１４３本件内にもＬ型中に示すものである。
又、２０１４年１２月１１日提出の特許出願に主題としている件である。
タバコの毒性はニコチン、タール、その他毒物が多々ある。その中でニコチンは主たる毒

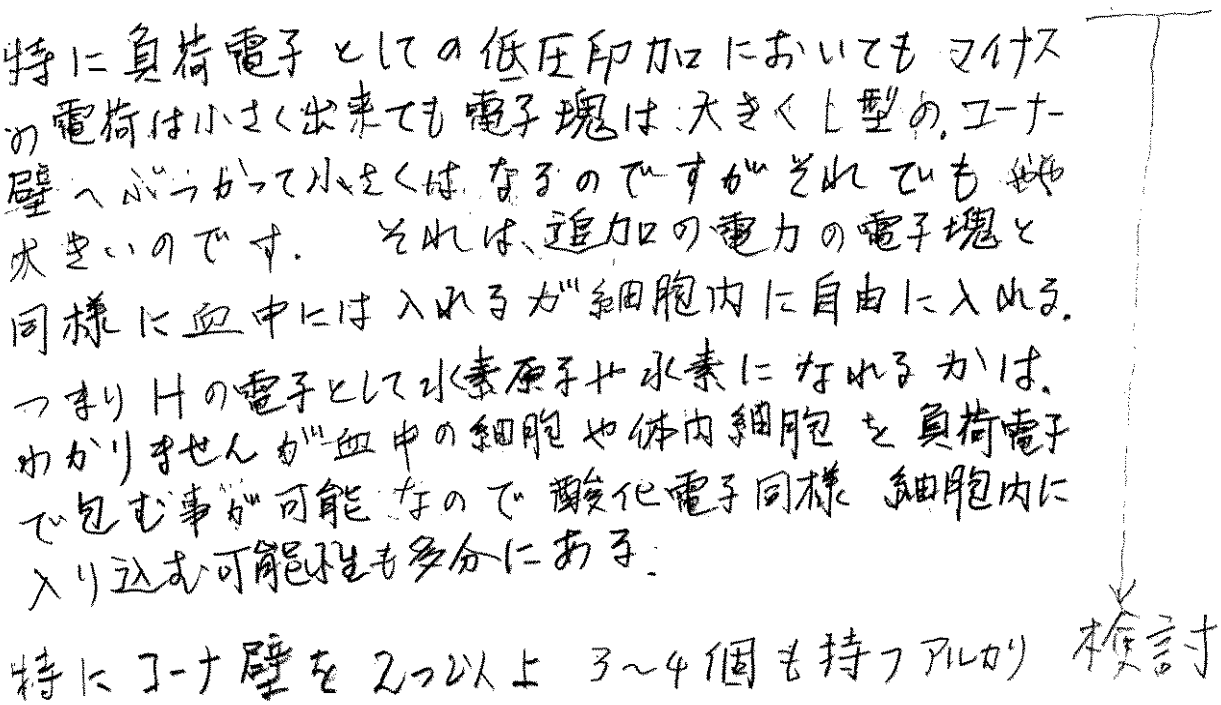
物であるが　これをニコチン酸アミドと言う活性物（性力剤）に変える事ができる。これによりニコチンの酸化毒等を減少させる事になる。
又、タールの変質に対しても抗性を持つなどが考えられる気化させるなどの効力を有す。
その他、魔薬に関して毒性物質を安定な物質に変化させる為その毒性を除去させる事が出来る。
〔図３０、３１　特願２００７－３４１７９２〕





ダイオードという半導体素子が持つ電流を一定方向にしか流さない性質を利用して整流をする装置でプラス方向のみを通す。
コンバーターから出力された直流電圧は脈流なためコンバーターと並列にコンデンサー（平滑コンデンサー）を接続し平滑にする
（電圧を低圧印加に変換）コンバーターで正・負の電圧一方にすると脈波になってそれに平滑コンデンサーで平滑にする、ブリッジダイオード回路により正・負を調整しそれぞれを撰沢して使用（直流電流とし）高圧印加：低圧印加（負の電圧）も自由に放電可能である。
１００Ｖ、５０・６０ＨＺ家庭用電源においては交流電源である。したがって：交流の電圧や電流は一定の間隔で方向が入れ替る　コンセントにある２つの穴から＋と－の電気が来ていて周期的に電圧の方向が入れ替るのをグラフにするときれいな波形になります。この波を正弦波といい交流の電圧や電流は時間と共に時々刻々と変化するため、直流のように電圧・電流は一定の値を持っていない。任意の瞬間における交流の電圧や電流の値を瞬時値といいます。
５０ＨＺの交流電圧１００Ｖは、０秒の時に０Ｖ、０．００５秒のときに１４１．４Ｖという瞬時値になっています、次の波逆の負の場合は、－１４１．４Ｖという値をとります。
ですから負の瞬時値が最大－１４１．４Ｖなのです　＋と－の値が交互にやって来ます。
負荷を－１４１．４Ｖまで受けています。

コンバーターは交流を直流に変換する整流を行います。
又、ダイオードという半導体素子が持つ、電流を一定方向しか流さない性質を利用して整流をする装置です。
コンバーターから出力される直流電圧は、脈流となるためコンバーターと並列にコンデンサー（これを平滑コンデンサーと言う）を接続して、平滑にしていきます。ダイオードは、電流のプラス成分しか通過しない　これをマイナス成分しか通過しない
このときブリッジダイオード回路では、交流（ＡＣ）から必要直流電圧正荷負荷かを調整する様にして高圧印加か低圧印加かを撰べる様にする事で正領域の波、負領域の波だけの平滑な直流電圧を得られる。（請求項２へ記載）
高圧印加については、今まで述べて来た延長上に族する追加の電力と言える　が低圧印加の負の電子は今までに述べていない追加の電力である。
この電力も素材への刺激として作用する事は当然と言える。これが衝突する事で素材からアルカリ性電子が発生する。が、負の電力は、やはり－２００～－３００等の電力の方が電子塊はやや大きいので、放射後も合線できず負荷同仕なので分れて存在する。
（図１４５、図１４６参照）
変圧器やインバーターなどを使って電圧を変化させ高圧な＋５００Ｖ近い電圧の高圧印加や低圧な－３００Ｖに近い電圧の低圧印加をつくり（自由な電圧に変換して）印加できます。
これらのＶ数は、かなり高くも低くもできます
電子塊を小さくする事（アルカリ性電子の様に素材から生まれたての電子の様な数個塊の負荷の電子として取出す事）が出来ない。



性放射器においては、高圧印加、低圧印加においても電子塊は小さくなるので細胞内に入る確率は高まると言える。〔特願２００７－３４１７９２　図２５参照）
図１４５に関連する。
○アルカリ性電子発生器（１００Ｖ　５０・６０ＨＺ追加電力）
使用例
酸性物を消滅させる事の一例があるので照会する。
展示会にて菌を試験管に入れそれの水溶液に電線を入れ感知させパソコン上に菌の映像を移し出す装置（主都圏大学のブース内）を出展されていた　そこで　テストの許可を得て行なった。（首都巻大学東京　ＢＩＧサイト　ブース内）

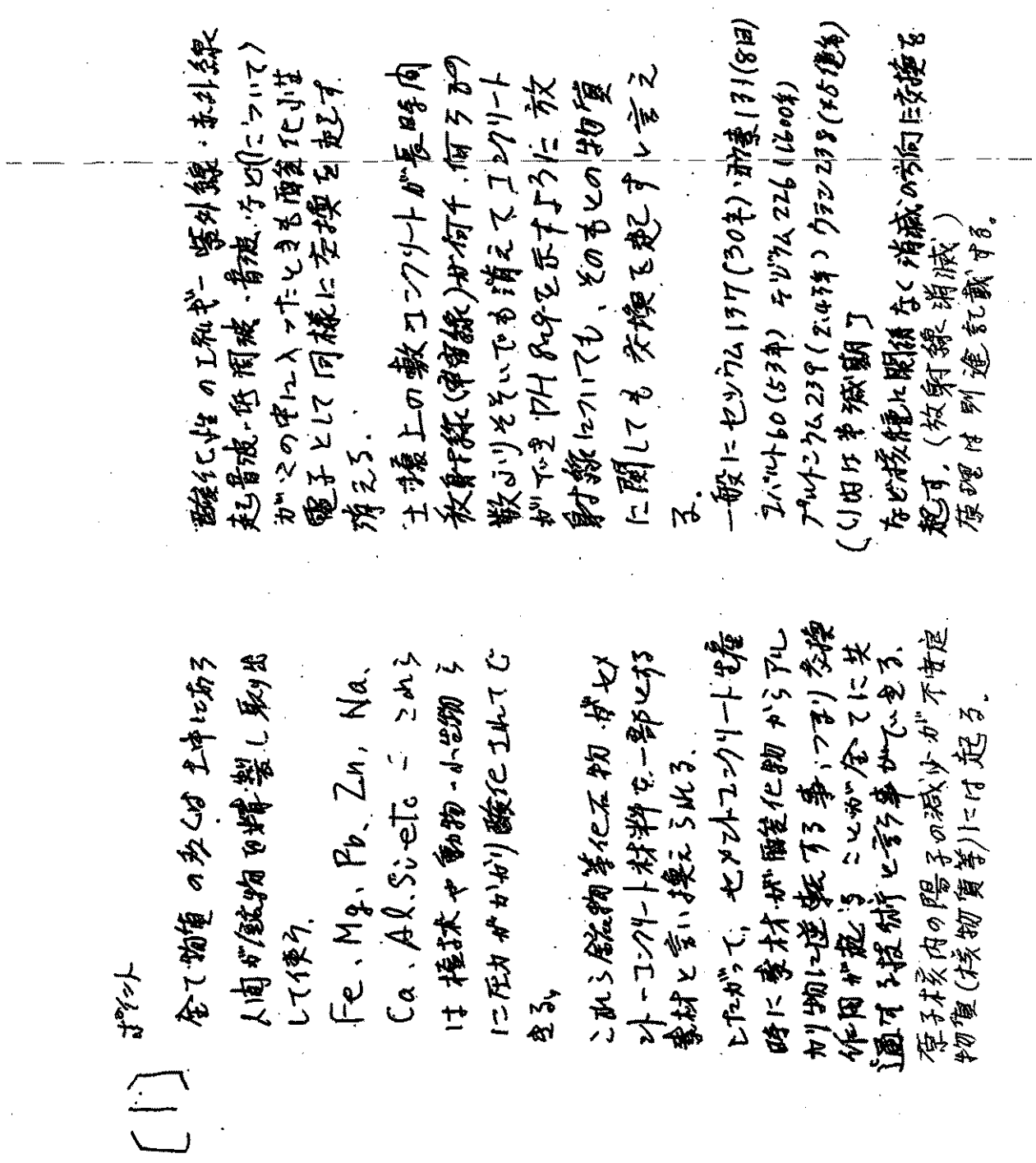
Ｌ型のアルカリ性電子発生器に１００Ｖ電源をつないだ装置により試験管に向けて照射した。
この装置の素材は、サンゴ砂とその他鉱物であった。又、乳酸菌はＰＨ４．６～４．８程度で酸性である。
試験管に向けて電源を入れるとそのときパソコン画面には、びっしりと乳酸菌のつぶが移っていたが約３～５秒後にそのつぶが一瞬のうちに消滅した。つまりガラスの透過が起り水を含む水溶乳酸菌を消滅させた。
この事は、酸化性の乳酸菌をアルカリ性の電子が消滅させたと言う事にほかならない。
がここで重要な点は、１００Ｖ　５０・６０ＨＺ家庭用電源を後追（元から放電させ）で素材に当てていたがその酸化性電子よりも素材から発生したアルカリ性電子の方が強く作用した事である。ガラス中を透過できるエネルギーとして超小のエネルギーであった事を立証した又、酸化性電子は消滅したか、電子の塊が大きすぎて通過できないかであるが、アルカリ性電子と別れて存在するであろう事がわかった。
また考えられる事は、酸化性電子もコーナでぶつかり小さくなってガラスを透過し水溶液中に入り込んでいたとすれば

また、建屋を作るときに地上の下敷コンクリートを設置するがその生産は、セメントに砂を入れ水を加えて練るのである。が練るとしだいに水が少なくなりそのつぶは小さくなり粘りが出てくる。そしてコンクリートができるのだが完成（固化）するのに３～４週間かかる
その間に空から様々な宇宙線が落下する。その数は何千～何万もの数と思われる、宇宙線は、紫外線、Ｘ線、γ線などを含むのです。これらが落下しているにも係らずコンクリートには亀裂やジャンカ欠けなどもなく美しく固まる。
この事はコンクリートに変化する途中でそれら放射線が落下したがセメント・砂・水混合物内で消滅していると言える。
このとき新たに発生している電子以外に原因がない為この発生したアルカリ性電子が消滅の原因にちがいない。
本使用アルカリ性電子は、この様な電磁波消滅力を装置にしたもので、先端からは、一般の物質付着電子と異なるアルカリ性（負荷を示す）電子を発生する。
よって、放射線を消化できると言える。
○「廃炉」における残核物質の処理（プール内でそのまま処理できる
○中間廃棄物の放射線の保護と放射能除染により目のとどく所に保管が可能。消化を行う。
○原発炉からの放射能漏れの定期処理
○原発外部の住民環境を太陽光発電等を利用して安全確保する。
等々全て安全の保護が可能となる。
装着型ロボットなしで力を発生させる４／１４某（東京）社のような装着する形のロボットは、それ自体の重さがむだな重力を生みマイナス要因である。（重量３ｋｇを装着）
それに対しＬ型実施で筋力を補正する事で３倍の力を発揮し軽々と物を持上げられるというすばらしい効果がある。７５ｋｇ以上（男）を持上げられる。

もちろんこしの補助力も加わるのでこし、やかたの補助安全を助ける作用も強力である

ので安心して使える。
一般の介護を考えると１人の人間が１人の人間を持上げるのを重労働と考えるのが基本の問題点であるが人の体重が５０ｋｇ～１～１００ｋｇと考えると、セメント袋５０ｋｇを

持上げるのがたいへんであるが持上げるセメント袋５０ｋｇ２体がらくに持上げられるのである
しかも何も体に装備しないのでスペースの少ないベッド回りをスムーズに動ける事や装備の移動装着なしで使用可能な為、負担が軽限れる。
使用時間は装着ロボットの装着時間４～５分をカタから当てて行うだけで良いのでらくである。
建設現場などに使われようとしているが当然有効である。〔特願２００７－３４１７９２
図２７（表）美容筋力再成）



したがって
水中で水の分子に放射線の酸性電子が入ったとき強引な力で水のＨ原子に付着しても一時的にすぎずその時同時にアルカリ性電子がＨ原子の裏の原子核側にもぐり込むと切れてＨ原子がアルカリ性イオンの数個電子が入り込んだ命活性水素イオンとなり酸性電子は放散するしか無く、消滅するわけです。

このことは１００Ｖ　５０・６０ＨＺの家庭電源の酸化電子が昆入した放射Ｌ型発生器においても同様の結果となるので、一時的に酸性電子の$Ｈ_2$ができるか酸性水が出来たとしてもすぐに放散するので消滅すると言える
本器がセメント－コンクリート生産のアルカリ性電子の発生である事も確かである為、消滅も確かと言える。
アルカリ性電子のない空気中などではＨのある水分子や素材などの分子のＨに放射線酸化電子は入り込めるがアルカリ性電子のある水中・土中などでは消滅するのです。
水中で水に入ったり$Ｈ_2$になったりしたときに強引に入り込ませるとＨ原子軌道に電子が満ぱいになり電子同士が摩擦によりカミナリのような火花により爆発を起したりする事があるのです。
アルカリ性電子が空気中や水に混入していればすぐに消滅すると言えます。
原子核にある正荷電荷の力で負荷のアルカリ性電子が酸化性電子よりも近くに引き寄せられるからである。
体内ＰＨ７．４
１ｋｇの肉の酸を採取した所７．３５まで２日間で下ったが腎臓がそれになれると７．４近くまでもどってしまった$ＣＯ_2$が血液中炭酸として$ＯＨ^-$を作り酸の$Ｈ^+$と多量共存できず結合して水になる為$Ｈ^+$が高まらずもとにもどる
ＰＨが１ちがうと１０倍の強さちがうと言われる。
したがって人体中の菌もほとんどが弱アルカリ性が多く、乳酸菌がスッパイ酸性で腐敗させる物を酸性にする事がわかっており、Ｏ－１５７を静菌・殺菌するとの事である
人体中の菌は人体ＰＨ６～８の中に生存する事がわかっておりＰＨ７．０中性をはさんで酸性・アルカリ性両種の菌が存在する。
又、胃酸のＰＨは１だと言う事　９９％の水と０．５％の塩酸との事。その他はペプシン・リパーゼなどのタンパク質成分の消化酵素やナトリウム（$Ｎａ^+$）やカリウム（ｋ）などの微量成分が含まれているのです。
それが１日に２～３１も分秘されている。胃が胃液で消化されないのは胃の壁の細胞の中に胃の保護作用を持つ粘膜成分を分秘する細胞が含まれている事が知られ、ピロリ菌の感染や体調不良によって保護作用が弱まると自分の胃液で胃が消化されてしまい胃潰瘍を発症する事になる事もわかってお

りその逆中の現象と言える触媒作用が起るとされる。

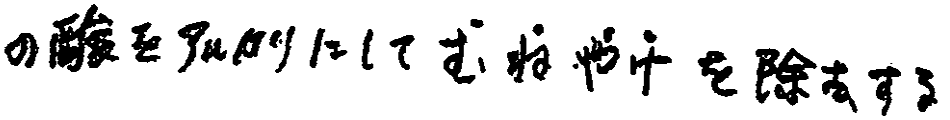
技１・アルカリ性電子が混練したセメントと水とフィラー石中に落下する宇宙線　を吸収し減滅させることが言える事は、
２・すなわち本器のエネルギーの中の酸化性電子が素材への刺激としての役割をはたし空気中に出ても空気中の水にアルカリ性電子が入り込み吸収し減滅させさらに人間
３・の体内に入っても一時的に酸化性電子として生きた後にアルカリ性電子が入った命活性水素イオン、命活性水素原子・分子により完全に減滅する　混練セメント中と同様の現象を起すと言える。
４・つまり体中水溶液の放射線を完全に減滅させるときに酸化電子がアルカリ性のＰＨ７～８にあるウィルス・菌等を殺し減滅させてからＰＨ６～７の酸菌をアルカリ性電子ＰＨ８～９で減滅する効果をもたらすのです。
５・又、その後もアルカリ性電子の作用で各タンパク質・アミノ酸や各酵素補酵素を酸化でサビた状態から改善してくれます。
６・この様にして宇宙線・放射線を消す力で酸化電子を減滅するので必ずアルカリ性電子が優位になり残るのです。
７・ですから水の中に入れた放射性物質に本器の放射エネルギーを与えるか混練セメント中に入れておけば、たとえ放射性物質であっても原子核の中の陽子・中性子が変移して他の物質になりその折にγ線等の放射線電磁波を放出しても、放出と同時に減滅させる事ができるので、この水中に保管する事で放射線を発せず半減期を経過し消滅させられます

。
（ただしセメント混練物の場合、固まるので確認等が不可です。）
８・化学者・核化学者に話を聞いても「コンクリートに封じ込める」との言い方を耳にします。閉じ込めると考えての言葉なのです。ところが化学的に正しかった事を知らずにそう言っているのです。
技９・一番の良考はやはり水中にアルカリ性電子を放射後侵績させ放射を続ける事で物質の放射線放出をさせず、逆にアルカリ性電子イオンが原子核の中まで侵入し正常物質に変える可能性が大きいのです
それは電子の大きさが物質の原子核よりも超小なので入り込めるとしか考えられないからです。（命活性水素イオンだから）核の放壊が止まり半減期が極単に短かくなる可能性があると言えます。
陽子正電荷を目ざして突進する負荷の電子だからです水中の命活性水素イオンが引付けられるからと言えるのです。
〔図　　、請求項　　〕
技術１０
技４に関連する　ＰＨについてですが
と言う理由でこのエネルギーで体内中の初期化条件はすべてととのっているので直接当てることで初期化が

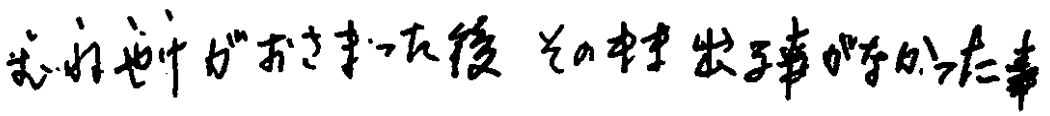
幹細胞に対し起せると言える，よって倍養も可能と言える

技１１　セメント・水・フィラー石混合練合せ物中フィラー石が酸化物からアルカリ物に変化する事は、交換が起るからで酸化電子が付着した原子の中の酸化電子の原子核側（裏）に命活性水素イオンが入り込み強固に付着する為、酸化電子が結付を解かれ放散するのです。
技１２　この現象が空気中でも起ると言え本器で空気中の物質に対して行なう事により交換作用が起ると言える。
この事は空気中の水分中にアルカリ性電子が入り込み物質の電子の原子核側（裏）へ付着するからである。
管内から放射されたエネルギーのうち１００Ｖ　５０・６０ＨＺの電子がコーナ壁にぶつかり小塊の酸化電子となりアルカリ性電子とともに放射後人体内に入射され、酸性電子が体内に２０～３０秒とどまることが出来るがその後、アルカリ性電子により消滅するはずである。
しかしながらこの２０～３０秒が放射が継続する間たえ間なく続くこととなる。
したがって完了後にアルカリ性電子が酸化電子（酸性）をおさえアルカリ性の環境が広がると言えそれが体全体をつつみ込むのを感じる事ができる。
上記酸性電子が小塊であり細胞内に入り込む事で細胞内でウィルス・菌の除去に大きく関与する
また、同時に細胞内に入り込んだアルカリ性電子のＰＨが８～９の為、胃酸が乳酸菌（酸性）を殺すのと同様に弱アルカリ性の菌・ウィルスを分解する行為が続けて起ると言える。
特に細胞については、
この発するアルカリ性電子のエネルギーが成長過程の一時的成長が終った後は腐敗に進むのを保護する成長する初期から一定期間は酸化物がそれを助けるのだがその成長が終ると成長が落着く。
そこで成長期を過ぎてからもアルカリを効果的にする為に一時的に瞬間的に酸化エネルギーを加印してやる事は初期始動に有効である。たとえば酸化溶液は、正電荷溶液と等価である事は明らかで正電荷溶液は、酸化電子を液体中に持つ事である。したがって生物細胞などを溶液につけると内部の負電荷が外側に集中して内部を酸化から守る力が働らくがそれが長時間立つと外の酸化電子により侵蝕され外部も酸性に変わる。これにより腐敗死す

る。溶液の濃さが強ければ時間も短時間になる。瞬間であれば逆にその後負電荷が来れば犯されにくく細胞内を守り生命推持が可能な状態にする事が可能となる。つまりアルカリ溶液が来れば良いのでアルカリ性電子の本件請求項１のエネルギーの負荷電子の役割に当ると言える。したがって、このエネルギーの中にある正電荷電子が先にある事で瞬間的に内部細胞のアルカリ初期始動能力を高め正常に守りすぐ後に負荷が来る事でその範囲を外から内側に広げるので生命力を助ける事になると言える。
しかもこの負荷が超めて小さい数個塊なので細胞膜内に侵入し易いので内部タンパク質、酵素を改善する。
本件はこの様なエネルギーである。（請求項２のエネルギー）
図５３にある　アルカリ性電子放射器のカバエネギーＬ型放射器は家庭用電源を追加したものでやや正電荷が目立っているが個々の部分では負電荷になる様設計されている。追加の電源により電子量の増加と加速されるのが特徴で全てに万能である。
体に使用しても正荷の影響は出ず使用感もすばらしい。
食品に対しても肉や魚の肉においてもどりでかたさがないもどり方と熟性した旨味を出します。
切換スイッチを集中にするとＣが多発され強まり表面皮ふの治療などや物の殺菌に効力が高まる。これは、レンズを使用した場合はもっと強力なアルカリ性電子となる〔図２０〕参照
図２１には電源を追加しない積置素材による放射エネルギー（カバエネギー）
この発散カバギーにはほとんど正荷電子がなく負荷電子が出るので人体に接触させて使用するには効力が高い。これがアルカリ性電子の発生源因で空気中の水分も関係しているのでさほど遠くまで飛ばないのが特微である。（図２５　エネルギー）
〔図２２〕は先端カバーでカバエネギーの集中と拡散をＡとＢの形で示している楽器の先端の原理で行なっている。
その形によって効力は様々である。
図－１７の切換スイッチを使った集中型の発するカバギーは図２２の先端集中型と同レベルの強さであるが、図２０のレンズ凸を使ったレベルはアルカリ性電子の濃さの高まりがレベルを超高にするので有効と言える。電磁波がレンズ（凸）を通過すると集光される事は周知の事実である。
Ｌ型追加電源型（１００Ｖ追加）はそのエネルギの強さは住宅内の木造の壁を透過しとなりの部屋の空間に及び、外部では２０ｍ先の汚水の発生臭を消去する等の効果を有している。又健康面では頭の天から放射すると足の裏までエネルギーが留く事が感じられる程である。
〔図２５〕の請求項１は健康面で胃酸



ことができ食道の深さまではエネルギーが留くのが確認される　胃酸を中和するだけでなく細胞内を改良するのでムネヤケがおさまると言える。初期化です。
〔図２３〕のＣタイプにおいては畑のトウモロコシ耕作において土壌に向けて使用した所、まったく虫が来ず美しいトウモロコシが実ったので土壌深さ１０ｃｍ以上の深さまでエネルギーが透過した事が確認できたと言える。
又、人体において柔道家の人の足の関節のぎくしゃくや痛みの除去に効果が確認できたので足のひざのスジや筋肉など裏側までとどいたのでそのエネルギーの強さが確認できている。



が不思議なので細胞内の酵素の改善なのです。
それは胃中の胃液内に出る保護細胞が出される胃壁内の苦しみとも言え、そのくるしさはたえがたいものである。したがって保護細胞の改善も行なったと言えるがそれを出す胃壁内の細胞が改善されくるしみを減滅したと言える。すなわち細胞を初期化したと言える。
ピロリ菌その他を殺菌し細胞内酵素であるペプシン・リパーゼなどのタンパク質成分を正常化させる。そして分泌する細胞の粘膜成分も正常化すると言える。
いわゆるペイン徐去と同じである、胃壁内の神経細胞なども正常化されなければ胃酸は中和されてもくるし

みは消去できないと言える。同時に2名がむねやけを起したが、

本エネルギーを胃に当てて３～５分の放射で改善されたが２名のくるしみはこの施行でとれ正常にもどされた。

いきなりくるしみは消去したのでおどろいたのですが、

一般に薬による改善では、アルカリ性の制酸剤による中和や粘膜の状能を正常に戻す粘膜保護剤、低下した消化力を助ける消化剤などです。
制酸剤として使われるのは炭素水素ナトリウム（$NaHCO_3$）　炭酸マグネシウム（$MgCO_3$）などです。中和の折にCO_2が出てげっぷとなって口から放出されるのですが本エネルギー照射では、口からげっぷは全く出なかったので化学反応ではなく、アルカリ性電子により胃内の放出物の全てと胃壁の奥内に本エネルギーが届いたからであるとわかった。
レンズを放射口穴に付けて通すのは、白色蛍光灯に応用されていてその光はレンズを付けていない蛍光灯に比べて白色光の濃度が濃い事から電磁波の集中による事が確認されているのでエネルキーの濃度が高くなる強くなると言える。
レンズの集光で黒紙が淡焼する実験で紫外線の集中が確認できるのでアルカリ性電子も集中で高まると言える。
つぼ型の放射口は、つぼ型でなくワイングラスに高い音を入れると割れる実験がある様に音波（声）の集中が衝撃波となるのでその衝撃波による破壊と言え電磁波の集中によるつぼ型の先の中で電磁波が集合し高まると言える。
逆にラッパ先口においては拡散の形で楽器のラッパ（トランペットやサックス）の様に集中せず先の広がりにそって拡散するので高まらず小さな電子塊のまま飛ぶと言える。
つぼ型により電磁波が異なる電磁波に姿を変える事が事実である。これは太陽光発電材料が生む電子を配線をまとめで集中させる為大きな電力が得られるが電子同仕のストレスで酸化の電子電力に変化する事を意味している。そこでストレスを取り酸化性を取る事で生れたままの電子にもどす　図２４に有る様な金線を使ってストレスをなくしてアルカリ性電子を生かすＡやＢの様に蓄電した電力からアルカリ性電子にもどすシステムに金線も合せて使用したタンク３５使用の再成システムが有効となる。

積置素材は、イオン結合・共有結合[Si C8]
金属結合　有機のファンデルワールス力

などで結合されています
鉄などの金属は原子に補れない自由な電子が動き廻っています　又共有結合でも長鎖の中のＡｌなどの金属電子が自由に動き廻っていて、物質外にも出ています。
ゼオライトも長鎖でＡｌの数も多い$Al_6Si_{30}O_{72}$

フェリオライト $Al_nSi_{35-n}O_{192}$ ZSM5型

ベータ型　$Al_7Si_{57}O_{128}$　　$Al_8Si_{40}O_{96}$モデルナイト型、$Al_{58}Si_{134}O_{384}$　Y型、〔$Al_{12}Si_{12}O_{48}$〕$_8$　A型　　の様に付属しておりNa・Mg・CaイオンにH_2Oが付いている主鎖を持つ、のでAlから多くの電子が出されるのです。
これがアルカリ性電子で空気中の電子と異なります。
鉄金属などからの自由電子や磁気電子や各原子から磁性にともなう電子発生、半導体や太陽光電力発生物質からの電子発生など様々に電子を出し影響しあうし、ファインセラミックスの世界ではカーボンナノチューブ、フラーレン、高温超電動セラミックスなどもつくられています。
セメントもそれらに含まれます。
一般にボールミルなどで微粒子になると表面積を増し焼結により穴が小さくなり密閉によりアルカリ性電子を閉じこめH_2から電子を受けとり易くします。
積置素材は原料状態の土壌・土石粉砕・液体　気体（合成ガス）があり　原料には天然原料・原料

調整・原料精製・人工原料・天然にない合成分質　が

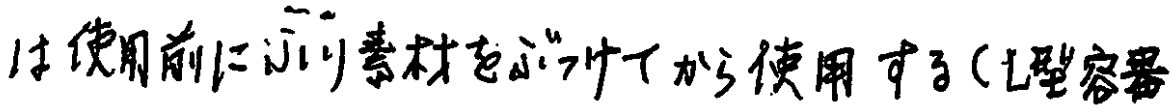
あり　形態は多結晶体・ガラス、多結晶体・ガラス　単結晶体・薄膜・超微粒子（ナノ粒子）、純度・微細構造制御、物質は、酸化ケイ素・酸化物　非酸化物、とあり　製造処理は、野焼・材木・石炭・窯・炉、ガス炉、電気炉、プラズマ・レーザー　電子線ビーム・イオンビームなど　　です。
機能性セラミックスの性質は多々ありますがその中で吸着性についてAl_2O_3、SiC、グラファイト、ゼオライトが強いとされており特にゼオライトは野菜の包装袋などでその酸化を長期防止する作用があり空間での酸化つまり酸化電子を吸着する事が有名です。
又シリカゲルもゼオライトの一種とされていて酸化防止剤とされます。
化学結合は、イオン結合・共有結合・金属結合、ファンデルワールス力（有機分子）ですが特に金属結合では原子に補われずに自由に電子が動き廻っている状態が起っている。
又、多くの鉱石・土壌石はAl_2O_3を結合しているので酸化性電子を吸着します。その上Siケイ素が半導体性を持っているので土壌にはSiO_2が含まれており全体に発電性を持つと言えます。又、その刺激で電子を放出します。ケイ素は酸素の次に地上で多い元素なので多くの素材が含みます。
一方、セメントは、以下のようにつくられます
主原料である石灰石（$CaCO_3$）に粘土（主にSiO_2とAl_2O_3）、ケイ石（主にSiO_2）、酸化鉄原料（主にFe_2O_3）を定められた割合に混合し細かく粉砕した後１４５０℃で焼成します。こうしてできる石ころ状の塊であるクリニカに石こう（$CaSO_4・2H_2O$）を添加して粉砕します。
具体的には構成成分のエーライト（$3CaO・SiO_2$）ビーライト（$2CaO・SiO_2$）アルミネート相（$3CaO・Al_2O_3$）フェライト相（$4CaO・Al_2O_3・Fe_2O_3$）が水成分と反応して固ります。水和反応を起し生成する水和物が三次元的に結合、緻密化する事によってセメントを固めます。各用途に応じた様々のセメントがつくられています。
SiO_2は半導体の成分でもありSiケイ素は発電物質ですので周囲の物質に刺激（電子的）でAl_2O_3やCaOや鉄などからアルカリ性電子を大量に発生させます。酸素の次にSiケイ素は多い元素です。
本器の追加電子はさらに酸化性電子を素材に与える事になるのですが空気中の水分に発生電子が入り込みますと実験例の水槽に当てると水が強いアルカリ性となることから主にア

ルカリ性電子と言えます。しかし、１００Ｖ　５０・６０ＨＺの追加電子は一部放射時に混入しているのである。
セメントーコンクリート生産の水混入練上げ下地敷コンクリート内に落下する宇宙線のγ線・Ｘ線などはアルカリ性電子の水のH_2などで消滅すると言えます。
積置の素材は、内部に自発のエネルギーを持ち発散していますが、負荷の電子であるので宇宙線や雷を地上に引付けます。また滝つぼの様に流れ落ちる水により土壌の壁に水の落下時の物理的摩擦による酸性電子の水による刺激により積置土砂鉱物が刺激を受け負荷の電荷を発する現象でマイナスイオンのしぶきや負荷を放散する。
このように土壌に対して酸性の刺激が加わる事でより強い土壌の粒は電子を発するのですこの酸性の刺激は、空気中にある電磁波の刺激もこれらに加わっているのです。請求項２にの現象の様ですから土壌の粒の中から出る電子は、酸性電子の刺激により　より強まって出ると言える。つまり当てる電磁波は、周波数に応じた名称、呼称があるがそのいずれもが刺激として土壌の粒に直接・間接に影響し電子を発します。
マイナスイオンが負荷の電子である様に土壌の粒からは酸性ではなくアルカリの負荷電子が発せられます。
一般に人類は、この電子を太陽光発電などで発生させ電子を集合させ電力としてコンデンサー・通線内で酸性の電力として力として使用してエネルギーとしているのです。このとき命活性アルカリ電子イオンは、数個電子の塊りなのできわめて小さく一般のフィルム・樹脂ガラスなどの分子構造を簡単に通過できるので

放散させない(ガラス等を開発して苦労していた様

です。エネルギーとして酸化力のある電力にする為です。
もとにもどって電磁波は、一般電力も含めて周波数によって各電磁波に分けられます。
超低周波以下（１０ＨＺ以下）低周波（１０ＨＺ以上）超音波・音波・遠赤外線・赤外線・紫外線ｅＴｃ高周波の中にはＸ線なども含まれます。
放射線も宇宙線として地球上にふりそそいでいます。これらの酸性電子が空気中の電荷刺激として積置素材にも多少とも影響します。
その他、光や熱化学的酸化力、電気力・力（水力・潮力）核の力なども言い換えれば、エネルギーと言えます。
これらの力を積置の素材力に追加電源とすると刺激としての土壌粒に対して透発的に電子を発生させる力となり空間の水分に付着したり電子そのものが発生したりし酸化の正荷電子と素材の発するアルカリ性電子が放射口から飛びちります。
１００Ｖ　５０・６０ＨＺの追加電力では、同時に刺激で発生するアルカリ性電子とともに多量の追加電子なので放射されますが、アルカリ性電子が人間の体内の血液等に水が含まれるので中に入り込み酸化性電子は入り込めません。又細胞内はおおよそ中性で一部酸化性の部分があるだけと考えられる。そこにアルカリ性ウイルスがあれば消去します。又細胞内の中性物に対してアルカリ性電子のＰＨが強いアルカリ性なので分解する可能性もある。（兼気性の場合）血中の菌は酸性電子・アルカリ性電子のどちらかが行う。乳酸菌の場合アルカリ性電子である。
ですから正荷電子はアルカリの物をさがして体内中をさがし回ることになり中性～弱アルカリ性の細菌やウイルスに飛び付いて除去する力を発揮します。
そこに行き他にはアルカリ性電子の保護により酸化効果を発揮できずに放散します。血中の水のＨに入ってもアルカリ性電子の交換に合うのです。
ですから１００Ｖ・５０・６０ＨＺ程度の各電磁力量で適度な時間の放射を素材にぶつける事で人間の体中の細菌・ウイルスを除去できます。
酸化電子塊はやや大きいが、酸に弱いウイルスを持つ細胞に対して侵入し易い　一般の細胞では侵入しにくく、アルカリ性電子が中の分子原子のＨに先に入り込み交換作用を起しているので酸性電子は入り込めない。

中性物～弱アルカリ物に効果を示します。
つまり物質についてはアルカリ性電子が近ずき陽子側電子の内側に入り酸化電子をよせつけません。
原子核の陽子に対しぶつかり侵入する事もあるので核物質の元の火消しとなり得ると言えるくらいなのです。
何と言っても細胞内の重要な作用は活性酸素の除去であってそれにはアルカリ性電子が超小塊なので細胞膜を通過し易く酸化力を消去できるので有効である事ですでに実験で確認されているが酵素の増減がカギだが実際に活性酸素が中和されている可能性が高い。
ポイント
（酸化電子が中に入ったり一部集合しあるいは酸化電子とし発生しても）アルカリ性電子はセメントの例があるように部分的な強力な放射線Ｘ・γ線を消すことができる
水があるとき混練した時以外の空中での水分に入り込んだときも水に放射するとき強いアルカリ性を示す通りＰＨ８．３～９でのアルカリ性は水で混練されるときとさほど異差はないので（多少時間は要するが）空気中にもアルカリ性電子は水に入らなくとも存在する。
したがって、装置内筒内に強力なＸ・γ線が多少入っても消滅すると言えるのでそれより弱い電子（酸化性）については酸化性を消滅させる
ただ、１００Ｖ　５０・６０ＨＺ電力を常時加える等の電子量になると消滅量を起えることもあるのである
これら負荷電子が酸化性電子を含まず素材から発するのです、一般の電流や空気中に発生する電子が酸化性電子で放射線電磁波なのでこれと異なると言えます。
したがって、発生するアルカリ性電子のかたまり命活性アルカリ性電子イオン（数個電子）の力で大きなアルカリ性を示します。
又、本件Ｌ字型により電子通過経路に壁をつくり陽電子を金属内に届めるか透過させる事によって純電子のみにして酸化性を取除く事が追加電子を小さくくだくことを含めその毒性を少なくするエネルギー変化を起しているので一種のエネルギーとして提案するる。（請求項　　）
もともとセメントに限らず素材そのものも積置でも必ずエネルギーの刺激を受け易いのでＬ型追加電力無しで



中味を少し減らして入れておく。）ことができる。又図面にある指輪の中に詰め入んだ穴付フタ付は指から出る人の赤外線や表側の石からの光線などによる積置型と言える。（請求項　　，請求項　　）
この指輪が多くの人に治療用として有効であった事に自信を深めた事を覚えている。
主に光線のエネルギーによる刺激で穴付フタなどの金属にによりエネルギーが発せられるのである。が、フタ付で無い場合、接着剤により混ぜて硬化させる方法では硬化樹脂の薄膜固定となり光が当る（直接）刺激でアルカリ性電子イオンが出る。
樹脂の分子中の原子間をすりぬける為よく出る又、人の赤外線がゆびから出て刺激となりよく出る。
積置とは、人工的エネルギーを加えない時鉱物素材から出るアルカリ性電子イオンと言える。
太陽光発電において受ける光がガラスを通して素材に当るとき刺激でアルカリ性電子イオンを発生する。
したがって、その発生エネルギーをまとめて合線して電力とし（酸化性電子イオンとして）通線に流す。
合線せずにそのまま発生するアルカリ性電子イオンのまま樹脂薄膜（接着剤）を通して発散する、これが太陽光除染器のエネルギーなのです。（請求項１３６　図１７）

したがって、セメントと水を混練した状態におけるアルカリ性電子によるイオンが放射線の全てに対しそれを消滅させる事ができるエネルギーである〔請求項　〕に示します。
又、本器に示す請求項２の空中の水分においても同様にアルカリ性電子によるイオンが放射線の全てに対してそれを消滅させる事ができるエネルギーである
〔請求項　〕に示します。
無線飛行機や船（せん水盤等）は付属させたアルカリ性電子放射器から発するエネルギー特に気候不順についての積乱雲に発生する雷の元になる電磁分解などによりタツマキを防止でき雷雨による強雨を防止することができるエネルギーとなる事が必須である。
（図１３０、請求項３７　）
追加電源等は、放射線がアルカリ性電子により消滅する下地コンクリート打設時の現象で筒内等容器内でも少量加えても消滅すると言える。
したがって刺激剤としても逆にアルカリ性電子を多量発すると思われる
請求項にある電源は、酸化性電子を判うので強力な電圧１００Ｖ以上を判う追加では（超）低調波であっても電気量が多くウイルスや菌に対しては死滅させるのに良好である。
それは、空間での素材刺激になりより多くのアルカリ性電子を発生させるのであるが発生するアルカリ性電子の素材量が多くとも空間量が狭いため酸化性電子をおさえきれない、つまり酸化性電子が残るからである。
この１００Ｖ　５０・６０ＨＺをスライダック機能で１／２の５０Ｖや１／３　３３Ｖにすれば素材に対する刺激はやや小さくなるが使用後に酸化性電子を残さない安性で強力なアルカリ力を提供できる日常健康保持型の機構とできる。
その上放射線への対応が可能となる。
全ては素材量と追加酸化性電子の量的バランスによるのである。ボックス型（大型）素材を備える機構では、１００Ｖ　５０・６０ＨＺでも酸性電子をおさえ込む事が可能かもしれない。
もともとセメント－コンクリート生産時の宇宙線の飛込も土壌上平打練セメント－コンクリート中間体へ多数あるが密度のない放射線であるので消滅するのである。量的比による、エネルギーそのものはアルカリ性電子の方が放射線を上まわるのです。
セメント－コンクリート生産時　積置のセメントに水とフィラーを入れますが初め練る前はアルカリ性電子は少ないと考えられます。練り初める事によってその刺激でアルカリ性電子が出初めますが５分程度練っても粘りも出て来ません。ミキサーでも１５分程度練ってくると粘性が増し始めますが３０分位しないとアルカリ性電子の発生が頂点に達成しません
刺激がすみずみまで行き渡るその度合なのです。
電気的刺激の場合もその空間に行き渡ればよいのですが空間（素材）の造られ方で強弱が生まれる場合があります。なかなか均等空間へ電気的刺激を行き渡らせるには均等な大きさの素材である事などが必要なので試作時もていねいに行なう必要があります。
したがって、刺激の分散を均等に行渡らせる事が大事なのでそれまでの間酸化電子の不均等さで部分的に濃い発生道とうすい発生道ができます。
じょじょに粘りを増すセメント－コンクリート練と同様アルカリ性電子発生量も増生するしたがって、はじめは電子を強めて刺激を増量し行き渡ってから１／２　１／３にするなど弱めて使用したり、時間的通電に制限を持たせ５秒入れて５秒切るなどの使い方で出るエネルギーを



電力切換スイッチ付、ミニスライダックを含めた調整装置とする。タイマー装置を持たせる、装置なしの場合、タイマー装置だけを備える場合、電力・周波数を調整する装置だけを備える場合、さらに両装置を備える場合を分けて各エネルギー発生内容とする。

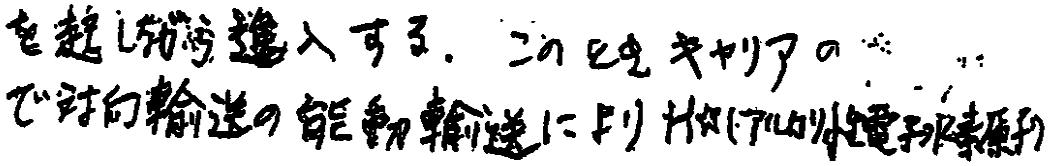
（請求項　22・28:29、30　）

追加の電力の酸化性電子のオーバ分の電子を目的の殺菌に応じて高める事やウイルスの消滅を目的に応じて行なえる設計としている。
物質に対する放射の対象は電磁波・水・土・コンクリート・植物・畜産動物及び畜産物（ハム・ウインナー・バター　牛乳・チーズ・卵子ｅｔｃ）・物・人間が主である。
電磁波に対して
原発に見られる汚染の地域による高まりなどの様に合線により高い放射線に変わる事が明らかに経験として感知できるのである。この事は、逆に溶接時に鉱板に光線をぶつけると小火花がはねて飛ぶ様に分離する　つまり物理的衝激によって分解する事も確かである。
又、空気中に存在する電磁波が紫外線・Ｘ線・γ線が含まれる事は、途中のある時点で合線して大きな電子塊となる為とも言える。
これに対してアルカリ性電子が合線する事は事実である。
機器先端を向け対抗し放射すると次次に衝突するアルオンによりその持つ放射線が下がり減滅する。
その様子は絵図　に示す。
水に関しては、空気中の水・川の水・湖の水・海の水　雨の水・滝の水・草つゆの水・人間・動物・植物の水が存在する。
さらに物質に対する本器の放射の対象物は、化学薬品（あらゆる物品・形状物も含め）電磁波関連

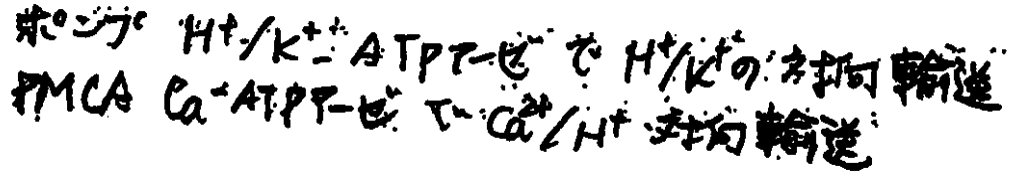
物として光・レーザー太陽光・　　etc が

ある。
水については、飲料各種（お酒・清料飲料・栄養ドリンクｅｔｃと医療に関係する　リンゲル液・血液　樹木液　果実液　ｅｔｃ　などがある。
土に関しては、洞くつや地下構造物（ビル地下）や土器・陶芸器・トンネル・山・道路・農業田畑
コンクリートに関しては、橋・建造物（ビル・住宅等）・建造物の中にある換気ダクトや人が使うトイレ等の衛生器々付属触性金物・衛生器具
構造物のコンクリートそのものの老朽化による強度低下について使用することで３倍以上の長寿命化が、期待される。
又、生物を別とすれば物の中に家電用品・自動車　航空機・自転車、　ｅｔｃがあり、自動車・航空機については、空調が特に気になるし電磁波の影響が気になる。航空機の電磁波は、地上勤務者に比べガンになり易いとの結果が出されている。自動車に関しての空調も外気の染量が高い地域の空気に含む放射能を取り込んでいる為長期使用するとやや高い濃度も取り込む可能性が高いので汚染をさけられない。〔請求項　〕
これを除去するエネルギーを提案する。〔　　〕
コンクリートに関するものは、コンクリートそのものに対して新規な構造物建設後定期的にアルカリ性電子を与える事で大きな亀裂が生ずるのを予防する様々な方法を提案できる。　図２９〔請求項２１〕
つまりコンクリートの老旧化防止に係る方法である。
　新規コンクリートを打って早期に水分の蒸発を防止するマスキングをほどこしコンクリート内部からの水分蒸発を防止し、外部より早期にアルカリ性電子放射器を移動式にして内部コンクリートに放射していくやり方で行ないマスキングのままにして保守し定期的に補修作業として継続して行うのである。
このとき
橋染などでは下部から上に向けて行なう場合つり下げ機構（機器のつり下げ用ロープのあらかじめの接置や移動モーターを機器にもたせロープ上の凸つめ上をギヤでひっかけて移

動する方法である。
高速道路・新規電車の橋染など多々ある。
これらのエネルギーは次の様である
セメントとフィラーから発せられる超塊小電子（数個塊）の（命名）アルオンエネルギー。
アルオンが水に入りＨにもぐり込み酸化電子（一般）と交換した（命名）「命活性水」エネルギー。
交換された酸化電子がつくるＨ$_2$水素がアルオンで交換された「命活性水素」と分解した（命名）「命活性水素原子」エネルギーの集合体「命活性水素イオン」
これらが原子に入り込んでできる（命名）「命活性原子」（命名）「命活性分子」エネルギー
命活性アルカリ性電子イオンが筒内で発生する。
以上を提供する。
環境問題については、
ＣＨ$_4$、ＣＯ$_2$等やその他排気ガス等汚染物などがＣＯ$_2$に関しては原子核に６個の陽子を持ち、その周囲に６個の軌道電子を持つＣに最外殻６ケの電子を持つＯのうち１個の電子を２つのＯから共有して結合しているがこの２つの共有電子において炭素側に放射されたアルカリ性電子が引付けられ入り込む事によりＯが切れＯ$_2$ができる場合とＯが単独になりＯ$_2$にくっつきＯ$_3$を一時的に造る場合がある。
結局Ｃは単独になる形で存在するのでＣＯ$_2$は消滅するのである。
ＣＨ$_4$（メタン）の場合は、Ｃの最外殻電子にＨの原子電子が付属共有するが水素原子の電子の内側にアルカリ性電子がもぐり込み切れてはなれる。
空気中の水素原子のアルカリ性電子が付着の酸化電子と交換の型である。
この様にして物質の環境汚染物質に関して多くは還元作用・交換作用を起して分裂消滅する。
１　２０１４年２月１日～２月２４日までの出願について誤りがあるので出願を取下とすると同時に以下の解釈とし論理を進める事にする。）
細胞の周囲は本器の放射により環境は、全体にアルカリ性となっているので細胞内の外側には酸化性の電子系物が集合し、中央部にはアルカリ性物が集合する。　チャネルからは　そして、外部環境においては、セメント－コンクリート生産時と同様アルカリ性電子を水を分解して得た水素原子が交換の分子の周りに近より集結する　そして、細胞の外から内部に交換された分子と付着の水素原子が反応



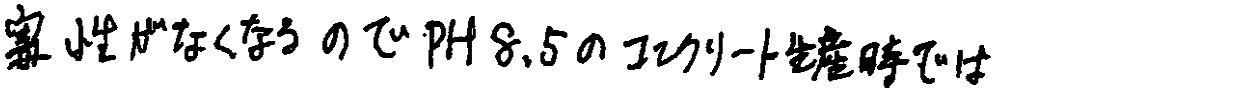
を細胞内に輸送しながら内部で酸化性電子水素原子（Ｈ・）と交換した酸化電子を外部に輸送することが考えられる。



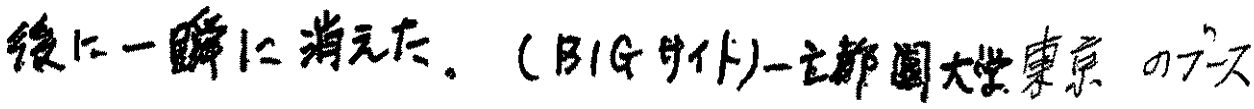
Ｖ型ＡＴＤアーゼでリソソームへのＨ$^+$取り込み、細胞外へのＨ$^+$の排出が行なわれる。
細胞には数多くの「通路」がありチャネル・キャリアポンプと輸送方式があるのでアルカリ性電子を持つ分子・原子や水素原子が細胞内に入り込む事が出来る。（図－２８に示す。）
体内中には多様な成分が血中内に含まれているので各種成分分子に対して水分を分解して出来た水素原子（アルカリ性電子を持つ）が各分子をとり囲み分解して内部にアルカリ性

電子を持たせると同時に酸化性電子を受取り、H_2をつくりそれが分解して水素原子をアルカリ性電子の水素原子になる作用をくり返す。
それが再度上記各分子をとり囲みアルカリ性分子を造る。交換を起すと言える。
鉄分子、銅分子、亜鉛分子、カルシウム分子各種ビタミン分子（ビタミンC、ビタミンE、ビタミンB_1・B_2等々）アミノ酸各種、等々の血奨内物質を血中内においてアルカリ性物質に変化させいずれかのチャンネル・キャリアによって細胞内に取り込まれる。もちろん水素原子もこれらにくっついて取込まれる。
又、様々なネクローシス状態が改善できる事から細胞に関する正常化のエネルギーと言え改善のエネルギーとも言い変える事が出来る。
血中　交換された分子（ミネラル・Ｆｅ　Ｚｎ　Ｍｇ　Ca^{2+}　Ｎａ　ｃｌ等がアルカリ性電子を持つ）がつくられ、
細胞質ゾル　チャンネル・キャリアから細胞ゾルに入り込む　内部はK^+　Na^+　cl^-　Ca^{2+}のイオン濃度で保たれ細胞ゾル内核内でＤＮＡ
核　ポリメラーゼＲＮＡポリメラーゼ酵素
　ミトコンドリア内でもいろいろな酵素が作られる。
内腔　又小胞体では膜タンパクが造られ折たたみ構造を作られるが、不正タンパク質が多すぎると不正ストレスになり、細胞質ゾルにもどされ、プロテアーゼで分解される。
　リソソームでは加水分解により分解
　ゴルジ体では糖鎖を加工する
これらも全て細胞質ゾル内からの物質による事から酸化性のＰＨ４．５～６．８内で起るアルカリ物を酸化する行為であると思われる
したがって細胞質ゾル内に、不正でないタンパク質（アミノ酸から出来る）とそれを正常にするミネラル質と各種成分が必要となる。その材料からアルカリ成分を吸収する（魚の骨・皮・野菜からの養分、肉からの成分、水・茶の成分のアルカリ性成分や還元成分を体内臓器で取出し、血中に放出した成分となって細胞質ゾル内に集中される。
アルカリ性電子が細胞質ゾル内に入って交換を起しアミノ酸・タンパク質を正常化をさせる。がん原遺伝子とがん抑制遺伝子がある。突然変異によってなんらかの機能を獲得し、これが発がんにつながるのが「がん、原遺伝子」である。突然変異によってある機能を「喪失」し、これが発がんにつながるのが「がん抑制遺伝子」である。
細胞周期に関する遺伝子ＣＯＫ、ＣＫＩサイクリンなど
「増殖因子とそのシグナル伝達」に関する遺伝子　増殖因子（ＰＤＧＦＢ）その受容体（ＥＲＢＢ２）シグナル伝達因子（ＨＲＡＳ）転写因子（ＭＹＣ）のいずれかに該当するものでありがん関連遺伝子の大部分はこのカテゴリー内に属する。
これらポリマーであるタンパク質に対してアミノ酸を正常化させて再結合させるのがアルカリ性電子である。全面的でないにしろ大半に関与するであろう。
不正な分子の結合・端末を交換機能で正常化し対応する。不正増殖を止める部分的効果を示すと言える。
このタンパク質分解効果は、血中の菌の細胞に関しても同様に増殖を抑制し分解死させるので殺菌効果も固体に有力に起る。（図２６）
又、アルカリ性電子に混った形の１０～２０％の酸化電子がアルカリ性の菌を殺菌する。細胞に対しては内腔の一部酸化生産システムに増強する可能性があるかも知れない、弱い酸性がアルカリ力の強化で細胞質ゾルのアルカリ力を高める可能性がある。
ＰＨ７．３程度の人間の血液が代表する人間のＰＨとすれば空間のＸ線、γ線　紫外線等宇宙線をあびつづけるのだがそれでもなんとか消滅を継続しているのですが宇宙線の酸性ＰＨはどれくらいかという事になる。酸性と言えば酸性雨がある。
おそらくこれが５．３～５．５ＰＨとされるのでこれが工場排気物・車排気ガス等の昆入したものとすればこれよりやや低いレベルであろうと思われる。
水道水がＰＨ６．４～６．７程度である。比較にはならないが６．５とすれば考えは理論化できる。
酸性雨５．３～５．５よりややアルカリ寄りの６．０と放射線を設定すれば人間のＰＨ７

．３との差は、１．３である　中性７．０とすれば０．７ほど酸性が体内に残る事になる。
６．０が中性に対して１．０酸化に傾いているのですからそれを中性７．０にするのは７．０＋１．０＝８．０と言う事になりＰＨ８．０で消滅し中性になるつまり酸化の



０．５ＰＨアルカリへ傾く世界が広がると言える。
人は、０．７ＰＨ酸化へ傾く世界の中で生きこれを改しようするのにたいへんでアルカリのエネルギーを何かをぎせいにしてまでＰＨ７．３を保守しようとするのです。
これが人間が１００才程度の寿命しかない理由の一つと言って過言ではないのです。
細胞内部の変化を意味し、活性酸素の除去だけでなく細胞内部のアミノ酸タンパク質が変化した事を意味するので正常の方向に傾き初期化が進んだ事を意味し示すものである。
アルカリ性電子の殺菌効果は、２００８～１０年に人糞を３日間倍養した菌に保健所検査２時間前に照射した実験で発生したウィルス・多種菌が０で何も検出されなかった。（倍養温度は２７～３３℃であった）
又、展示会で乳酸菌を溶かした試験管の中の菌をテレビ画面を映象化した発表（装置の試験管に向けて発射したところ画像内の菌が３０～９０秒



これらの実験により一般の菌はほぼ全て消滅する事がわかった。
さらに強い菌に対してもＰＨ７．８～８．５程度のエネルギーなので有効と思われる。
菌だけでなくこのアルカリ性電子が強い腹痛や強いカゼの症状についても効力を確認できている為様々なインフルエンザやノロウィルスも殺すことが可能なエネルギーであると言える。
ウィルスに関して生物と無生物の中間的な存在と考えることができ細菌とは同じものではない。
細菌は他のあらゆる生物と同じようにＤＮＡ（遺伝物質）を持ちこれによって細菌の特性が子孫に受け継がれる
さらにＤＮＡの情報をＲＮＡ（リボ核酸）にダウンロードし同じ特性を備えた子どもをつくる為に必要な機構も備えている。
極限環境に生息する細菌について
好酸性細菌はＰＨ３以下で良好な増殖を示す場合が多いのでアルカリ性電子イオンで簡単に除去可能と言える。
好アルカリ細菌はほとんどが生育条件としてアルカリ性ＰＨ環境に加えてNa^+の存在を要求する好塩性好アルカリ性細菌であるという事である。Na^+を先役イオンとして用いるNa^+／H^+逆輸送系による細胞内ＰＨの調整が決定的に重要なのでこれに対して酸化性電子が対応することで細胞外ＰＨの中性化維持を保つので防止でき除菌できると言える。又、高度好塩性細菌の多くは、細胞外ＰＨ値がアルカリ性を好む傾向にあるのでこれにも追加電力の酸性電子（正電荷）が効力を示し除菌する（参考書　共立出版　細菌の栄養科学２００６年１１月初版）
好熱性・好冷性細菌については、酸性、アルカリ性の片寄り外環境について対応しアルカリ性電子・酸化性電子で殺菌できると言える。
一般的には、ウィルスは酸性に弱いとされている。
菌については上記の様に極限の分野で対応できるが、一般には中性から弱アルカリ性とされておりＰＨ６．０～ＰＨ７．５程度であるのでアルカリ性電子又は酸化性電子のどちらかで殺菌環境をつくり殺菌できる可能性が高い。
（参考書　（株）研成社　発行
　細菌の手帳

ウィルスの手帳　２００４年１２月１５日　田爪・築地
細菌の手帳　　２００６年　８月１０日　田爪・築地）
初期のがんが増殖しながら細胞の塊をつくる段階で塊内部は、老廃物がたまった低酸素状態となっている。何年もこの状態が一進一退の状況にある。
そこで、血液中からアルカリ性電子保有分子が入ってくると老廃物が浄化され状況は一変すると同時にタンパク質が分解し新しい状態が起り変化し増殖が止まる。

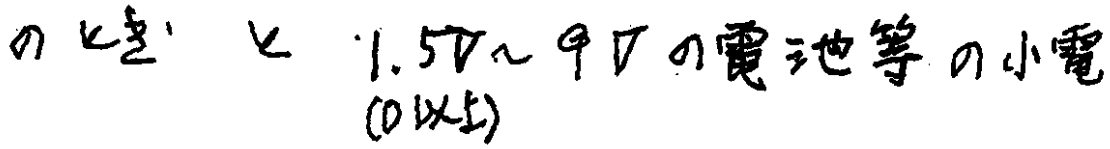
血管新生を起こす血管内皮増殖因子が分泌されない。

もし分必されるとプロテアーゼ（タンパク質分解酵素で溶かしながら「ガンの細胞塊」に接近する。
そしてがん細胞の集団から一部の細胞から離脱し、内部の組織に侵入していく。浸潤が起り新たな血管を集めて新たな増殖ステージに入る転移の下地ができる。
生物内のタンパク質は通常は、水素結合、ＳＳ結合などを介してαヘリックス、βシートやさらに複雑な立体構造をしています。
又、タンパク質（サブユニット）が２個～４個集合した高次構造（立体）をとっている。これには非常に重要な意味がありタンパク質種々の機能（例えば酵素作用や構造の識別機能など）発現の基礎をとなっています。
タンパク質の分解で不正な増殖を防止しアミノ酸を正常にしタンパク質を正常化する命活性水素原子と言える。アルカリ性電子放射器が有効なのです。
タンパク質に関してはイタリア製の活性酸素・フリーラジカル自動分析機器〔医療用具許可番号１３ＢＹ６５６７〕を用いたテストがある。余分な活性酸素が除去できる事がアルカリ性電子放射線の照射でわかった。
これは直接活性酸素を測定しているのではなく関連タンパク質の分析によるもので活性酸素によるタンパク質を測定しているものである。この実験で３３０の病的数値が３０５まで下った事が活性酸素を照射により底下させタンパク質を分解した事を示すものである。
実験は１ｋｍ早足走行した人に対して放射前・後の２回測定を行なう方法で標準値は３００との事であった。測定値は糖尿病の成人（私本人）であった。
２回目に３０５の分析値が出た事は活性酸素を吸収したタンパク質・アミノ酸が減少した事に違いない事を証明する事である。（図－２６）
この事もタンパク質分解エネルギーである事を証明するものと言える。糖尿病の中程度の病症の人の数値３３０が３０５正常値の近くまで下った事はこのエネルギーがタンパク質分解により病症の改善のエネルギーであると同時にその他タンパク質（不正）の改善も行なっている可能性が有ると言える。
（請求項２のタイプの場合である）
この分析は、血液採取をともなう事から血液中のタンパク質・細胞に関するものであると言える。
請求項２以外の場合さらにアルカリ性電子だけなのでさらにアルカリ性が強いと言える。
この酸化性除去力が放射線の除染力を持つ基因と言える事も確実である。
放射線は電子を頭に持つ光子と放射線から成り反電子の

陽電子陰も同量の様に示されると思われるが２つの放

射線が合線するといっしょになると考えられ一般には、合計電子量と合計の光子・放射線量でさらに大きな光子・放射線になる　つまり純電子の負荷に対しより大きな線量を持ち線量の大きな放射線となる。
一般には当然電子量に対し等倍より大きな比率となる
つまり全体に大きく酸化性を持つ事になるのであるが、アルカリ性電子は、純電子より対比すると小さな光子・放射線しか持たないので全体に負荷でアルカリなのでそれが合線し

ても逆に負荷は大きくなると言える。
そこで一般の放射線にアルカリ性電子が合線しても合計全体では線量は下がると言える。
一定量合計する事で電子より放射線が対比エネルギーが下るとアルカリ性電子となると言える。
こうして放射線がアルカリ性電子となる方向にする本発明のアルカリ放射線発生の器具で放射線を除去できるのである。
直接も可能であるがセメントーコンクリート生産の原理で水を介して交換する方法が良いが、中心部の線源はアルカリ性電子をぶつける方法が効力が高いと言える。
超極小塊電子であって水素イオンの数百分の１の大きさなので透過して深部放射線源の大きな酸化体にもぐり込む除染が可能である。
放射線については、特願２００６～２００７年の特願に示す図５２、図５６のγ線回避装置が示すが特に防護服の下に装着する回避装置は、現在の福島の現場において有用であると思える。
この図５２・５６は近よる放射線に対抗して放射するアルカリ性電子がはねのけるがほとんどはぶつかり消滅している状況の図である。
このようにアルカリ性電子の放射線消滅性が本文にも記されている。そもそも土のセメントーコンクリート生産時のアルカリが酸性のセメントやフィラー材をアルカリにする素材から発生するアルカリ性電子の発生がアルカリ源であるからアルカリ性電子とアルカリが等価である
これに対し酸性の電子が酸化と等価である事はあきらかであるから酸化性の電子である放射線が酸化物と等価でありぶつかると消滅する事も当然であると言える。
したがってアルカリ性電子を発する本件の医療器は放射線除染エネルギー発生器とも言える。
したがってアルカリ性電子を放射線除染エネルギーとし提供する。
滝の落下する土壁から水の酸化刺激で発せられる電子がアルカリ性で水のしぶきが酸性からアルカリ性の水に変化する一般に言われるマイナスイオンと称するしぶきに変化する事がすべてを語っている。
図３０に応用可能な電子線関係の応用分野を示した。
追加の加える電力が０のときにつまり積置



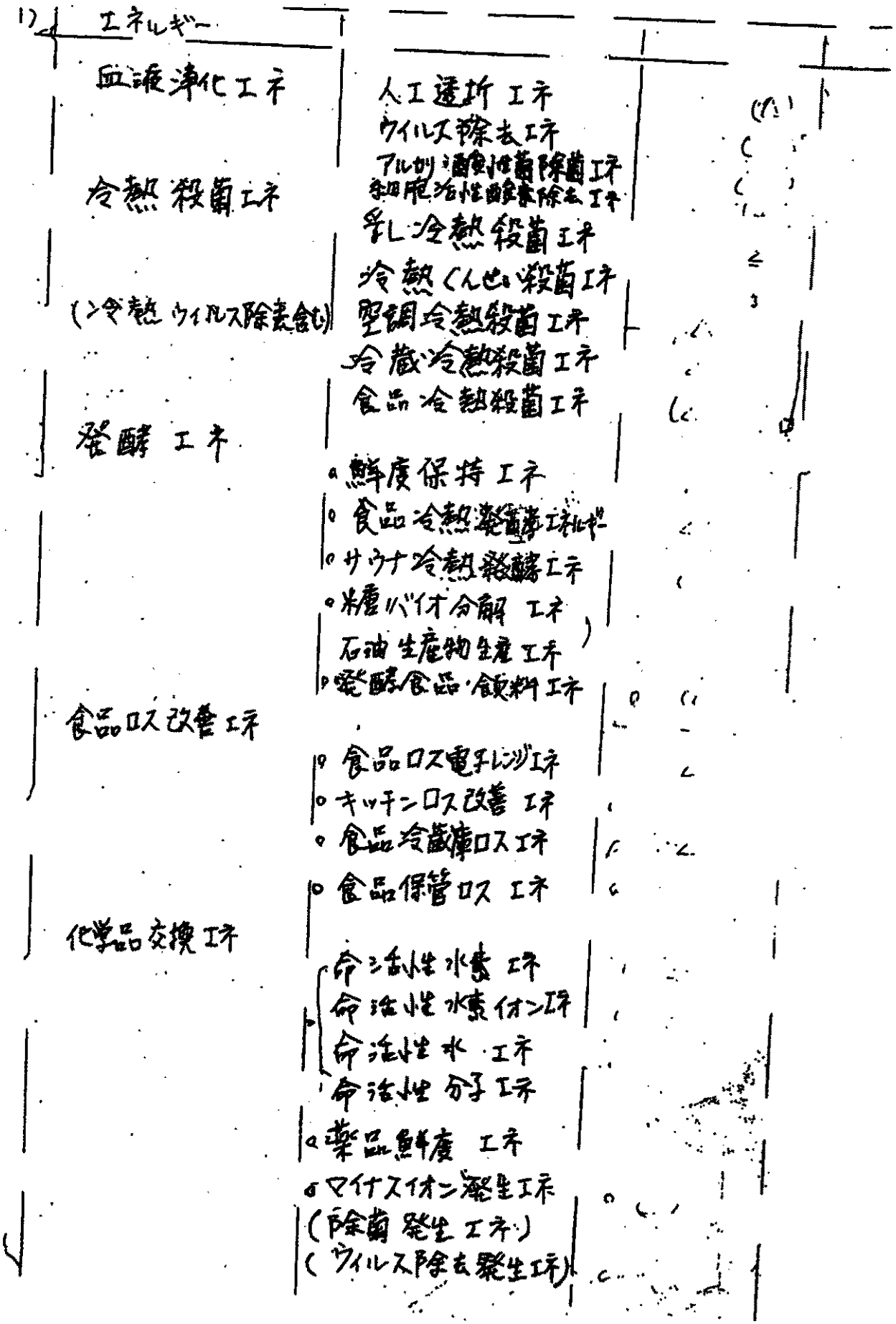
力を加えるときと９Ｖ～１００Ｖ　５０・６０ＨＺの電力を加えるとき
混入する発生正電荷量が異なり人体に対して与える電子量が異なり影響も次のようにちがう。
０では追加電力なしで積置の素材同士が互いに影響し合う事で発生し合うアルカリ性電子のみで酸化性電子の量は無い。
０Ｖ～９Ｖ程度ではアルカリ性電子がほとんどで酸化性電子は影響を及ぼさない程度、限りなく微量が含まれるのみ。
９Ｖ以上１００Ｖ　５０・６０ＨＺの追加電力では一定の量それぞれの大きさで発生し、アルカリ性電子に含まれる１００Ｖではやや過剰となる。
また１００Ｖ～２００Ｖでは、時間的制抑を持たせる必要性も出てくる。多過となり筒内の限定されたアルカリ性電子をオーバーするが長時間でなければウイルス・殺菌の為有効の長所と言える。
上限の電圧は時間と周波数によりオーバーする電力量を変えて目的のウイルス・菌に対抗するようにする為、自由に設定できる。
その為には、時間のコントロールタイマー装置と電圧と周波数をコントロールできる装置を備えた発生機構が必要となる。

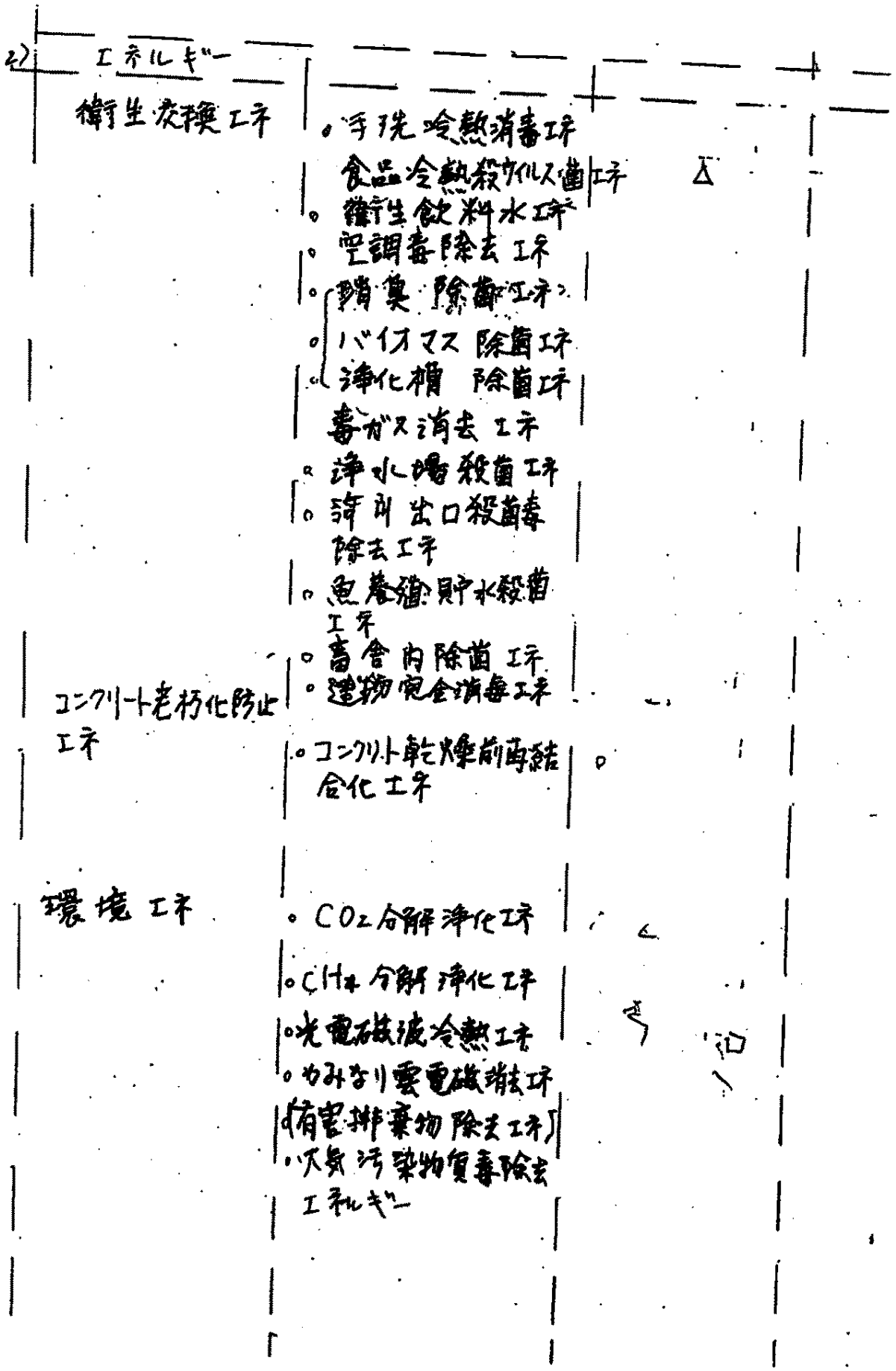
したがって、それらを備えたアルカリ性電子放射器から出されるエネルギーを提供する。（請求項３１）
また、Ｌ型に曲っていない放射器においても素材に対する電力的刺激に電力が使われる事でアルカリ性電子は発生するので壁は必ずしも必要ではないので単に筒型も十分可能であると言える。
ストレートタイプを請求項として加えます。
図２５－Ａは積置のＩ型でエネルギーは、アルカリ性電子の負荷だけが放射されている図。
これに追加の電源が付属され、あらゆる元素の単独や複合の素材に当てられた場合もやや酸化電子の毒性は残るがその刺激で出るアルカリ性電子による還元力により消滅するのでこのエネルギーは別のエネルギーとして提案する。（請求項３２　３３　３４）
配線の一部に曲げて突起を設けるとき非電離放射線において放射線・光子・陽電子を切り離すことができる。
これを使うと余分な磁場がなくなり電子の量は減らないのでエネルギー効率が良くなる突起を伝導性の良い銅にして断面１０ｍｍ直径以上の大きさで長さを１５ｍｍ程度内とする（その他の素材のときは大きさは変える）と通電時に電子だけがＵターンし元の線にもどることができるが光子・陽電子がＵターンできず元の通線からはずされる。これにより酸化性電子を中性に近いあるいはアルカリ性電子に近ずける事ができる。エネルギーを提案する。
（請求項３５、図６４）
土砂や土壌の粘土になる素材は、ケイ素が混入した鉱石の混合物です。
ケイ素は、別称シリコンと言います。地殻中には酸素に次いで大量に含まれている元素です。
ケイ素を含む代表的な鉱物は、二酸化ケイ素の石英です。主にこの鉱物が混入しているのです。
コンピューターの半導体集積回路（ＬＳＩ）などの電子回路に用いられ、カルフォルニア北部地域が「シリコンバレー」と呼ばれるのは、シリコンを使った半導体メーカーが集まっているためだ。
又、石英は「水晶」と呼ばれ人工水晶の圧電効果を活用した水晶振動子がクウォーツ時計に使われ、コンピューターなどに利用されているわけです。
半導体より純度の高いシリコン結晶は、太陽電池の「セル」と呼ばれるパネルにも用いられる
その他、ケイ酸化合物を加工した乾燥剤の「シリカゲル」などもケイ素から生まれた製品だ。
一方、炭素と結びついた有機ポリマー化合物は、「シリコーン」と呼ばれるもので「シリコン」とは別ものである。樹脂状のものがコンタクトレンズの素材や乳房インプラントの素材として使われたり、ゴム状のものが耐熱調理器具として用いられる。
一方、二酸化ケイ素の「シリカ」は、人間の必須栄養素のひとつで、骨の成長推持には欠かせない。水容性のシリカは、骨や皮膚、髪や爪、血管に含まれている。又セメント素材の中心的素材である。
多くの物質鉱物にケイ素が含まれている。
土を水と混練し何回も練り直すと小石が解けてさらに小さくなり粘土状になる。このときアワが発生するがこれが水素であろうと思われしだいに粘性が増して水がねばついて来る。
小石を手で混ぜると小石同仕のぶつかりで刺激が増し小石の中から電子が発せられるのです。（これが本器で述べる、追加電子による刺激と同じなのです。）
これがアルカリ性の数個の電子の塊りで、超小塊の負荷電子で今だ科学の世界で確認されていなかったものでアルカリ性電子なのです、又それを発生させる器具として今回提案・提供する、発生エネルギーのアルカリ性電子です。
このアルカリ性電子は、数個の電子なので人体の細胞内にＨ（水素）とともに入り込みそ

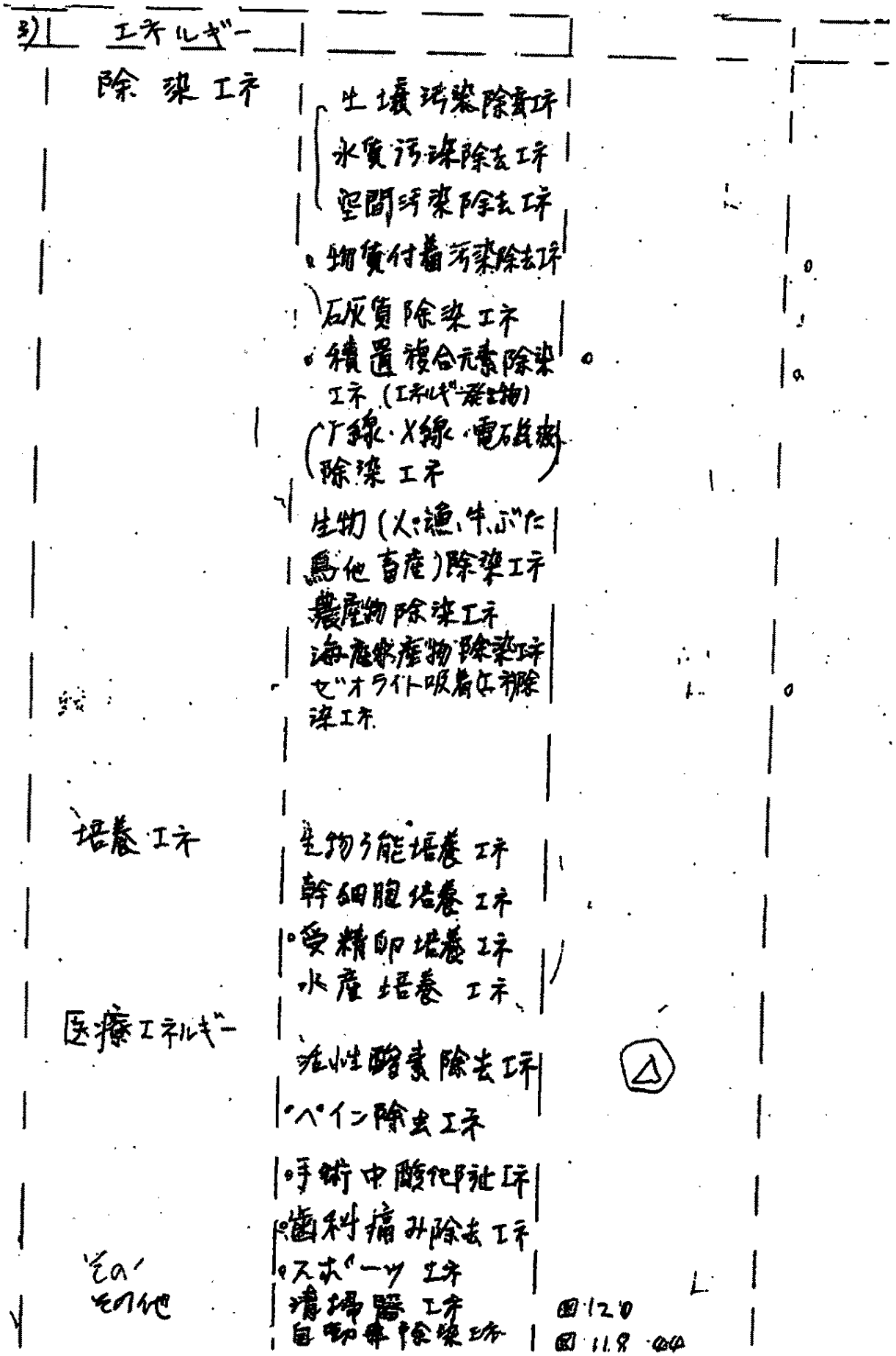
の能力を発揮します。
が、その能力が放射線を消滅させる事が可能なので酸化物もアルカリ物も消滅する事が出来ます。
すでにさいさん述べている粘土を練るときにアワとともに発生する命アルカリ電子水によって放射線を消滅させる能力が有る事は核廃棄物を地中に保管する際に、この粘土で包んで処理する事は有力な除染によって短時間で放射線を漏外するのを防止でき半減期を短期間にできる方法であると言える
　その他セメント、水、混練物、ゼオライト、その他多くのアルカリ性電子発生物質で包む方法を含む（サンゴ砂、ケイ石、生石灰ｅｔｃ）〔請求項１２５〕に関している。

1) エネルギー

血液浄化エネ	人工透析エネ		
	ウイルス除去エネ		
冷熱殺菌エネ	アルカリ酸性菌除菌エネ		
	細胞活性酸素除去エネ		
	乳冷熱殺菌エネ		
	冷熱くんせい殺菌エネ		
(冷熱ウイルス除去含む)	空調冷熱殺菌エネ		
	冷蔵冷熱殺菌エネ		
	食品冷熱殺菌エネ		
発酵エネ			
	○鮮度保持エネ		
	○食品冷熱発酵エネルギー		
	○サウナ冷熱発酵エネ		
	○糖バイオ分解エネ		
	石油生産物生産エネ		
	○発酵食品・飲料エネ		
食品ロス改善エネ			
	○食品ロス電子レンジエネ		
	○キッチンロス改善エネ		
	○食品冷蔵庫ロスエネ		
	○食品保管ロスエネ		
化学品交換エネ			
	命活性水素エネ		
	命活性水素イオンエネ		
	命活性水エネ		
	命活性分子エネ		
	○薬品鮮度エネ		
	○マイナスイオン発生エネ		
	(除菌発生エネ)		
	(ウイルス除去発生エネ)		




エネルギー
衛生変換エネ
・手洗冷熱消毒エネ
食品冷熱殺ウイルス菌エネ
・衛生飲料水エネ
・空調毒除去エネ
・臭気除菌エネ
・バイオマス除菌エネ
・浄化槽除菌エネ
毒ガス消去エネ
・浄水場殺菌エネ
・浴剤出口殺菌毒除去エネ
・魚養殖貯水殺菌エネ
・畜舎内除菌エネ
・建物完全消毒エネ
コンクリート老朽化防止エネ
・コンクリート乾燥前両結合化エネ
環境エネ
・CO2分解浄化エネ
・CH4分解浄化エネ
・光電磁波冷熱エネ
・ゆみなり雲電磁場エネ
有害排棄物除去エネ
・大気汚染物質毒除去エネルギー


3) エネルギー
除染エネ
土壌汚染除去エネ
水質汚染除去エネ
空間汚染除去エネ
物質付着汚染除去エネ
石灰質除染エネ
積置複合元素除染エネ (エネルギー産生物)
(γ線・X線・電磁波除染エネ)
生物(人・魚・牛・ぶた・鳥他畜産)除染エネ
農産物除染エネ
海産水産物除染エネ
ゼオライト吸着エネ除染エネ
培養エネ
生物り能培養エネ
幹細胞培養エネ
受精卵培養エネ
水産培養エネ
医療エネルギー
抗性酸素除去エネ
ペイン除去エネ
手術中酸化阻止エネ
歯科痛み除去エネ
スポーツエネ
その他
その他
清掃器エネ
自動車除染エネ
図12.0
図11.8.00

4）その他

装着品エネルギー	図74
健康器具エネルギー	図75 × △
導線放射エネルギー	図70
環境保護電線エネルギー（振動機電磁波防止エネ）	図80
ダイキャストサビ無エネルギー	図91B
X線照射後除去エネルギー	図94
手術用アルカリナイフ、エネ	図95
内視鏡照射エネルギー	図101
ガん等治療エネ	図105、62
培養装置エネ	図106,109
ジューサミキサーエネ	図121
放射線除去エネルギー	図56 52
建具金物除染エネ	図35
サビ無金属無産エネ	図87、91A
角型箱放射器エネルギー	図116
エアコン内浄化エネルギー	図119
(核)原子力発電内炉放射線防止エネ	図133
太陽光パネル型エネルギー	図17
大型タンク型放出エネルギー	図24
脳活性浄化エネ	図81
依服浄化エネルギー	

ポイント

以上の事から次のエネルギーも加味する。
１．冷熱殺菌エネルギー
　生物全体に使えるエネルギーであるが主に卵や牛乳その他のやぎ羊等の生乳に対して、生肉や鮮漁に対して、海物・川物全体である。牛乳冷熱殺菌エネ卵なども菌等が心配である。
その他、清掃具でも熱蒸気を使うものもあり本エネルギーを使えば熱なしで殺菌でき水でぬれないのです。
２．血液浄化エネルギー
　対酸化菌・アルカリ菌に有効である上ウイルスに関しても酸性が有効なので血液を安全に保持できる。さらに血液の各細胞を酸化からまもり活性酸素の発生を防ぐので有効である。
これはアルカリ性電子が超小塊で細胞内部に侵入し易い事に由来する。
　感染治療は、ノロウイルス・Ｏ－１５７ウイルス・ホンコンカゼなど又ＨＩＶや黄熱病その他があるがそれらに冷熱酸化エネルギーとしての対応で有効である。
参照図（４２、４３、４４、４５、４６、４９、３１、３２、３３、２６、２７Ａ・Ｂ、１４Ａ・Ｅ、１１４、１０８、９７、９８、９９、９４、８１、７６　７７、７５、７４　１２３、１３２、６２、６３、５７、５３。）
それらの上がんの様素を消す為がん対策にも有効である。
図１４のＤのH_2が血中に含まれ付属のアルカリ性電子が各細胞にくっつき正電荷電子と交換作用でアルカリ性電子が裏に入り込む（原子核側に入る）ので酸化電子がおい出される。つまりH_2の付着アルカリ性電子（イオン）が血液浄化エネルギー（H_2OのＨにも同様入り込むのでH_2O付着のアルカリ性電子電子も含める。）なのです。
関連図　図２、図３、図４　図１４ＡＢＣ　図１４Ｄ
血液中のＨ　水素（命活性水素原子）イオン）付属のアルカリ性電子が血液浄化エネルギーである。
又、血液中のウィルスと細菌について
追加の電力によって発生する酸化性電子がもう一つの血液浄化エネルギーとして作用している。図１４Ｃ
この酸化電子を命活性酸化性電子、命活性酸化電子イオンと称す。
こちらの方がアルカリ性電子より塊ができ易いので主に環境に関与し易い。（追加電力なので）しアルカリ菌には内部に関与する。又、ウイルスに特に関与する分解原因として効力する。
特に人工透折の体外透折、血液透折、腎透折などの方法は大がかりで人も通院などの不便さやかかる時間も長くつらいものがある。
そこで、本医療器としてのアルカリ性電子器を使えば通院なしで１５分～３０分程度家庭用電源にて行なえる良さがある点で進歩と言える。
血液中のウィルスは一般に血中のヘルパーＴ細胞によってＢ細胞に指示して抗対を出す命令するとともにキラーＴ細胞に対し抗激を指示することでウィルスに抗激をするが、本器の追加電力の酸化電子がウィルスの血液環境を生息外の酸化環境とする事でウィルスの生息を断つ行為をしキラーＴ細胞を援後するし、後にアルカリ性電子によるアルカリ環境が細胞を酸化から保護すると同時に菌に対してこの一連の流れがアルカリ性菌に対しても酸性菌に対しても有効に対処する。
この際好アルカリ菌は極限ＰＨ９の者もあるとの事なので追加電力も強い場合も必要な時はこれに対応する事も想定の必要があると言える。酸化の方はＰＨ３程度であるので胃酸ＰＨ１に対応できるアルカリ性電子で対応できると言える。
アルカリ性電子イオンは超小塊電子なので細胞内に侵入もスムーズにできるので細胞内活性酸素を除去できる等保護に働く
又、血中では、酸性電子が細胞外でウィルス生息環境を死壊方向にするのが有効なのです
細菌に対してはアルカリ性電子イオン・酸化性電子のいずれかの相反する方が効力的に破壊するのです。

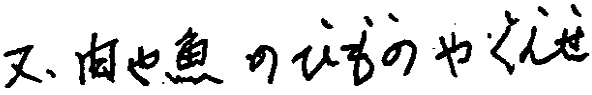
がんは、けっきよく「１個の細胞におこる遺伝子の病」である。すなわちなんらかのでき事により遺伝子に傷が入ることで、１個の細胞の遺伝子に異常がおこり、後戻りできない変異細胞となることにより起る。（ただし、遺伝性疾患とは違なる。）
生きているとＤＮＡには毎日大量の傷が入って来ます。その原因には、ウイルスや細菌による病原体が全体の約２０％程度をしめ、その他紫外線、食物に含まれる発がん物質、空気中の有害物質、ストレスによる細胞機能の障害、活性酸素の発生による体内の自発的原因、細胞の中にあるＤＮＡに傷をつけるはたらきを本来持っている酵素もわすれてはなりません。
レトロウイルスのなかには、動物に感染して急速に腫瘍形成を引起したり、倍養細胞に感染してその性質をがん細胞の様に変化させる（形質転換）ものがある。この様にウイルスのゲノム中には、哺乳動物由来遺伝子の一部が変異したり、ウイルスタンパク質との融合タンパク質という形で含まれる例が多く知られている。
これをウイルス型がん遺伝子と呼んでいる。
代表例としては、ラウス肉腫ウイルスから最初に見つかったウイルス型がん遺伝子Ｓｒｃ（Ｖ－Ｓｒｃ）がある。
一方、正常細胞中の遺伝子で対応する細胞型がん遺伝子あるいは、がん原遺伝子と呼ばれている。
Ｖ－Ｓｒｃを正常細胞に存在するＳｒｃと比較すると
いくつかの点変異に加えＣ末端側１１アミノ酸をコードする領域の欠損が認められる。
Ｖ－Ｓｒｃに欠損している領域には、Ｃ－Ｓｒｃ遺伝子産物のチロシンキナーゼ活性の抑制的制御に関与するアミノ酸残基がある。この領域の欠失によりＶ－Ｓｒｃ産物は、制御を逸脱して恒常的にチロシンリン酸化活性を示し過剰なシグナルを伝達することによりがん化を促進すると考えられている。
この様に酸化による機能ががん化の原因と考えられる。
以上の様に酸化物質から成ると言っても過言でないがんとウイルスの内容について語って来たが人類は、古来酸化の技術によって生きて来た。たと

えば、食を取ってみても食品を焼く、焼く、むすなど

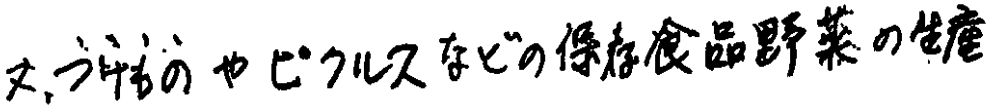
火力を使った酸化の技術で加工して食す。それ以外は、生ものは生野菜、生魚（さしみ）、生肉　生玉子等々である。がいずれも生とは言え酸化物に近い物質が多く含まれていて、それを食している。
したがって、人間の体内をアルカリ化と言っても特異な物質の持つ一部のアルカリ物だけが効力を示す事は有っても人間の体中を還元化し一時的にも部分的にも酸化をくい止める方法を知らないと言える。したがって本件の様な方法は今までこの世に存在し得なかった新たな総合的社会革命と言える。
人類がアルカリ性に対しはじめてチャレンジを初める第一歩目と言え他にはない。人間は、ＰＨ７、３の弱アルカリだが死ぬと酸化物に変わる。他の生物もそうである。体内には、酸化物が中心の物質があふれかえりそれらの調整をする体内構造・機構により血液のアルカリ性を保っている。
酸化が死に継がる事は確かであるが人間はその為、アルカリ摂取を心がけているが病になっても部分的に酸化している事を無視しているかの様である。病を調べて見ると死亡の原因は、がんでＤＮＡの傷の細菌・ウイルス原因のがん　その他、ＤＮＡの傷によるがんが原因である。遺伝子の病が死亡の原因であると言える。
一方、がんに対してウイルス・菌自体は、ウイルスは、弱アルカリ性～アルカリ性と思われ酸に弱いと言われ、菌は強いアルカリ性の菌も存在する。
直接的には酸で滅滅する分が多い、したがって血液中では、酸化性電子によって死壊する場合がある。しかし、同時に存在するアルカリ性電子が強いＰＨ、８、５～９に及ぶアルカリ性を示し、これが酸化力を越える力でおそいかかる。
人類が今まで知らなかった強アルカリである。

ウイルスは、宿主となる細胞に着いて中に入るまでにそのスパイクに酸化電子の付着が有り消滅するか付着した状態で細胞内に引込まれ中に入ってから消滅する場合も有る。
又、同時に細胞内に入り込んだ最小のアルカリ電子塊が取り付き弱った酸化アルカリ物のウイルスを高いアルカリ性で酸化を打消してアルカリ物を酸化物とみなして丸ごと消滅する。
これらは、アルカリ性電子がセメント・コンクリート生産時に放射線物質に付着すると消滅させる酸化減消力で酸化性電子より強いエネルギーである事を証明しているからで酸化性を打消すアルカリ力である以上にアルカリ物（弱アルカリ物～ＰＨ８程度まで）をも酸化物とみなして消滅させる。
事による。
　ウイルスは細胞内では、
当然細胞内に入り込んだ場合は、アルカリ性電子の力で消滅する。
ウイルスが細胞内で脂質を脱ぎ核内に接近し、ＤＮＡに入るまでにアルカリ性電子に付着され、消滅する。
ＤＮＡ内に入り込んで仮のＲＮＡとしてコピーを作る際も不正な変異コピーができない。（又は、ＲＮＡウイルス（レトロウイルス）がコピーを作る場合も同様）
コピーが造られｍＲＮＡは、細胞質に移動しタンパク質を合成する。このときｍＲＮＡを変えるのでタンパク質をうまく着る事ができないので粒子にならないで崩壊をまねく。（細胞質中でタンパク質を合成し粒子になる為核にもどる。この際にもアルカリ性電子により変質する）
したがって増殖が出来ない事になる。
ウイルス型がん遺伝子は、元々「がん遺伝子」には、細胞のがん化を誘導する能力を持つ遺伝子の総称で細胞型がん遺伝子に対向する。
つまり
転写されたウイルスｍＲＮＡは、次に細胞側のいろいろな役者を動員しタンパク質の形に変えさせる。
この様にして合成されたそれぞれのウイルスタンパク質は、核膜とか細胞質膜に集まり中心部にゲノムを包み込み、いくつかのタンパク質がお互いに相互的作用をし合って粒子としての一体化の構造である形態の形成が実行される。
それをアルカリ性電子は、細胞内に出入りできる大きさなので、ウイルスが入り込み脂質を脱いでばらばらになったときから核内に入り込む時もｍＲＮＡが出て細胞質でタンパク質をつくるときも核内にもどる所まで全ての過程で係り何らかの関係をもつ為粒子になれないのです。
又、
ＤＮＡ内にウィルス（病原体）が侵入するときリン酸と塩基を持っているがリン酸は外に出っぱって立体構造しているのでタンパク質構成内は、アルカリ質なのでウイルスの住み付く（ＤＮＡウイルス）事ができる環境なのでそこでｍＲＮＡを発生させ転写をします。
そして細胞内を動き回り、タンパク質の形に変えさせ、合成されたそれぞれのウイルスタンパク質は、いくつかのタンパク質が相互作用を起し、ゲノムを中心部に包み込み一体化し粒子となる場合があります。
それが遺伝子をきず付ける原因となって染色体不安定を引き起し、がん化の一端となる場合があります。遺伝子の変異によるがん化です。
アルカリ質と言う事は負電荷と等価でありますから負荷の電荷を持つ事になります。りん酸は、強烈に酸化に傾向をみせますから全体的に中性に近い事から内部はアルカリに傾くと言えます。
ウイルスは酸に弱いと言われますように弱アルカリ性に傾っていますので住み易い場所と言う事になります。
高圧印加　直流は正電荷　低圧印加は負電荷とはっきりしている為、血液中の細胞内には、交流電流と異なる片寄った特殊な電気力を示して、その酸化細胞を負電荷でアルカリに片寄る力で酸性傾向にする　又、アルカリ化細胞であるウイルス縮主細胞の酸化の傾注し

た効果を示す。そして、滅滅させる事ができる。
増てやアルカリ性電子放射物があると血中の細胞や各臓器内深部位の細胞についても侵入しそのアルカリ力でアルカリのウイルスやら酸性の菌からアルカリの菌も全てについて消滅させる。しかも放射線により酸化に片寄った細胞もその特殊な原子核の陽子に付着する力で除染できるのである。
３．発酵エネルギー
　ヨーグルトの原料は乳製品でバターは、これも乳製品である　これらは発酵によりつくられる。
これらは地下で保存管理されるがその原理は土壌から出るアルカリ性電子環境によるものである。したがって、アルカリ性電子がこれらをつくるのです。地上のジューサーの様な器具内でも生産可能となるのです。ワインの他各ジュースを発酵させて酒蔵が可能で短時間発酵を可能とします。



ハムやソーセージの製産にも短時間に対応が可能となります



も短時間で処理生産できます。
そこで本発酵エネルギーとして図４７、４８を見てみると一例として温度を３０～４０℃に設定でき物を入れてしばらくは雑菌を付着物から取る為　一瞬アルカリ性電子イオンを掛けてから（２０秒～３０秒程度）、このとき空気中の酸素も交換され酸素が少なくなり、ＰＨ６～７．５程度（ＰＨは自由に変えられる）に設定する為　酸化性電子を単独に加えるか、アルカリ性電子と混合した電子を適時小電力０～９Ｖで調整して加えると同時に発酵菌を加えるといった方法で行うがこの時折加えるエネルギーが必要不可欠なのであり、調整により漬物やヨーグルトを生産可能とする。育種を研究し内的要因の改善と外的要因の微調整により決定し各生産物に応じた操作手順とする事で器を造ることで発酵エネルギーを提供できる。
（自宅でワイン生産や日本酒生産　チーズ生産　納豆生産等が可能となる）
それらの外バイオエタノールをエタノール発酵でつくれる。
又石油由来の製品を発酵でできる製品で置換えようとする試みもあります。石油は炭化水素です　炭素と水素からできた化合物の混合物で、燃料やプラスチック原料以外にもいろんな製品の原料となっている。
デンプン糖類を酵母でエタノール発酵させイソブテンによりＥＴＢＴをつくる　そしてガソリンと混ぜて利用するバイオ燃料をつくるやり方の一例、に応用可能である。
糖類からバイオプロセスでエタノール・プロパノール・ブタノールをつくりケミカルプロセスでエチレン・プロピレンそしてプラスチック　ポリエチレン・ポリプロピレンを生産可能である
「アセトン・ブタノール発酵」によるこの発酵エネルギーにもなる。（石油成分の一種をイソオクタンにする）
４．鮮度保持エネルギー
これは発酵エネルギーを短時間使うか、エネルギーを弱めて作用させるかで行う一時的操作とでも言う行為で生物の鮮度を保守する程度のエネルギーこれには、美味にする程度のほどよさで止める生産効果をともなう事が必要である。野菜などや生漁の保存時に最適なことは必須である。
５．食品ロス改善エネルギー
これは、ビニールやガラスを透過できるアルカリ性電子超小電子塊が内部の食品を酸化から守る原理により食品の賞味切れ期間を延長できる効果を生むものです。

食品庫、冷蔵庫、電子レンジの形式のタイプがあり冷蔵しながら賞味期限を延長する場合長期保存を実現できます。
電子レンジでは温めながらすぐに食す時用ですので先にロスをなくす形で熱をかけずアルカリ性電子をかけた後加熱したり、加熱をしない場合も含めます。ビンやフィルムのパック詰品、カン入製品等に対して可能です。
又、キッチンの一部に装備又は後付した（図３８）の様にやや賞味期限が近い物や経過してしまったものに対して掛けます、
又調理直前の処理で鮮度を上げる処置ができます。キッチンロス改善エネルギーを提供できる。
鮮度保持エネルギー
生の魚・肉・野菜・玉子などを鮮度を低下させずに保つには冷蔵保存しかありませんがそれでもわずかの日数５～１０日で酸化されます。そこで、本アルカリ性電子をかけて酸化されたものをもとにもどす事で保存を倍以上延ばす事ができます。これは積置又は追加電力１００Ｖ程度などで可能です。
又、食品発酵については、３０℃～４０℃でＰＨ、６．～７にすることが必要ですので追加の酸化性電子を加えなければならず、９Ｖ～２００Ｖの追加電力を必要とする
請求項２、１７、４４の中のエネルギーを使い応用します。食品発酵エネルギーを提供します。酸化が一時的におそくなります。
酸素O_2も分解を受けます。これが発酵です。
又、サウナとして使えば、人間がリフレッシュできます。時間的に制限して追加電力も１００Ｖを２．３分行なった後は下げて９Ｖ以下とします。サウナ冷熱発酵エネルギーを提供します。医療用としては、酸化電子をかける時間を血液状態に合せて長くして対応したりする事もポイントとして上げられます。
６　化学品交換エネルギー
　これは、超小塊アルカリ性電子が原子の付着電子の原子核側（裏）に入り込み付着の酸化性電子を追い出す現象で入れ変わり分子の全体が変化する事を意味する効果を与える。水素をエネルギー照射で命活性アルカリ性水素に変えつくり出すことができ、新しい水素といえる。これは人体にアルカリ性電子を与える為の中間物とも言うべきものである。手術の折にこれを吹きかけ鮮度保全を行うのに適したり肺や気管や食道・胃などを口から吸引する事で又、タバコのニコチン害などの軽減などを含め効果がある。アルカリ性電子としてでなく水素の付属物としてアルカリ性電子塊を運ぶ。特に水溶物中で血中でアルカリ性電子を他の細胞などに渡す操作をする。交換エネルギーとしての水素です。
しかし、エネルギー自体としても気体として空気中の水と交換反応してただよい効力を強力に発揮できるのが特徴と言える。水素交換エネルギーなのです。
分子に入って原子と作用するので命活性分子としても存在する。さまざまな分子がある。と言うより全ての分子に作用すると言える。もちろん命活性原子としても存在する。各分子・原子交換エネルギーであります。
超小塊アルカリ性電子を命活性アルカリ性電子イオンと称する。同様上記を命活性アルカリ性原子・命活性アルカリ性分子と称する。
これらの原子・分子・イオンが他の物質に接触して交換作用を起します。
化学品交換エネルギーとして
　命活性水素エネルギーは請求項９に示す命活性水素原子同士が結合したH_2（水素）のエネルギーで「命活性水素」と呼ぶ。
命活性水素原子イオンをＨの付属する電子塊のことでアルカリ性電子が付属したＨを示す。そして命活性水素イオンと「原子」を省略する事とする。命活性水素エネルギーとも称す。
請求項１０はアルカリ性電子が発生するときの超小塊電子数個塊で「アリオン」と称す。
又、水がアルカリ性電子アリオンで交換され分解を受け命活性（水素）原子イオンとなって結合してH_2をつくるので命活性水素と称す。又交換された水のことを命活性水と言う。請求項１１に記載した。

請求項１３においては、
物質に命活性水　命活性水素が近づいて瞬間命活性水素イオンとなって物質の持つ酸化電子と交換してできた物質を命活性原子・命活性分子と称す。
化学品交換エネルギー、
そこで、セメントと水とフィラ石は地下中のヨーグルトやワイン等の発酵の世界で混練している事に気付くのです、フィラー石は、もちろん酸化物です。がこれもエネルギーを（ぶつけ合う事で発する）発するのですがコンクリートになるとどこを切ってもＰＨ９なのでフィラーが酸化物がアルカリ物に変化した事がわかるので、す。これは電気がアルカリ性を発揮したとしか考えられません。
つまり空気中の放射線とちがう性質の電気だろうと思えたが、空気中ではなく水中なので空気もありません。
そこでセメントのケイ素から出る電気（電子）と電子の発生について考えてみると物質から発生する電子は、太陽の爆発で出る電子と異なり放射線がない電子であるとしか思えませんでした。セメント混練中には空気も少なく放射線のない電子である。この電子が素材から出るときペアーをつくる事は言われている事です。つまり一般の電子の姿と比べて小さいなものであるのです。（空気中の電子ではあり得ない小ささであります。）
水は、と言えば、水素を２個両手に持った形の分子ですが水素原子自体の殻の空部分に入り易いだけでなく放射線を少ない量しか持っていない電子ですから裏（原子核側）に入り易いので（この電子が負電荷電子なので原子核の正荷により近くに入る。）あります。
したがってＨは分解しますと、近くに発生した同じ水素原子とＨ$_2$（水素）をつくります。
そしてその水素がフィラー石の持つ酸化電子と交換を起すのでアルカリ物に変化するのです。
発生するペアー電子は、小さい。したがって他の分子のすき間も通りぬけられ、細胞膜なども通過できるのです。
この発生する電子が正荷としてとらえられているのは、電子が集団として空気中では存在するからといえます。持っている放射線塊が大きい事を示しています。
電子は正荷として放射線の一種として記載されていますが（放射線化学において）本件アルカリ性電子の姿は、ペアーで空気中の太陽光による電子と異なり負荷を示すのです。これが塊を作ってもアルカリ性電子と言えるのです（水素をアルカリ性の電子により還元性を示す）
したがって、セメントから発生する電子が水に入るとき命活性水と言い
分解して、命活性水素イオン（原子イオン）と称し、同じ水素と結び付いて水素Ｈ$_2$をつくる。これを命活性水素と称す。
又、他の分子（フィラー石）に入った場合の分子を命活性分子と称す。
このときのフィラー石のぶつかりで出る酸化電子がケイ素に刺激を与える事でアルカリ性電子を大量に発生させるのです
本器においてこの役割を追加の電力として加えています
これは、多目に入れる事で血液などに酸性力を与えてウイルスを除去できるウイルス除去発生エネルギーを発生します。
もちろん積置の素材だけでも出ますので酸化電子のないアルカリ性電子です
追加電子を出すものは０～９Ｖ、９～１００Ｖ～２００Ｖに分け
さらに200V以上も含めます。
マイナスイオン発生エネルギーは、追加電子０Ｖと０～９Ｖの場合です。
８．薬品鮮度エネルギー
　一般に粉末に加工された薬品をオブラートで包み販売用カプセルに入れて箱詰めしている。
漢方薬ははだかで保管され、必要時粉末等にして混合され包袋される。
　これらの一般的作業中に酸化劣化は進行しておりその効力も限定的となる

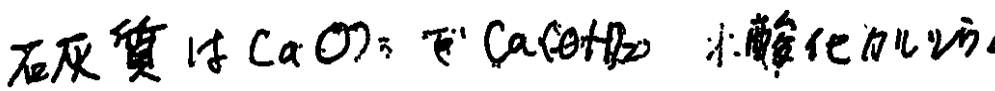
そこで、このアルカリ性電子の照射により酸化をもとにもどす効果が物質との交換エネルギーにより越るのである。
　一度は生産時ボールミル粉体処理や混合処理中に照射する事が有効である。又、製品販売直前に対する照射も有効と言える。
７．衛生エネルギー
　次に水に関しても新しい革命的な水素が含まれる水は今までにない新規な水であります。
医療用として切きずなどの酸化を防止する事や手術中の酸化の防止作用に霧状水などを用いる、その他いろいろある。水交換エネルギーです。
又、衛生水としても（請求項２）の水は新しい殺菌性の水でありながらウイルスにも効力が高い水なので新規な水であります。
水道水に照射するとＰＨ８．３以上にアルカリ性が高まります。〔１５Ｍ／Ｌ（１当り１５分程度において、請求項２）〕衛生（交換）エネルギーの水と言えます。
この事は世界で売られている天然水によごれがまさった人間にとっての水である事が確かである。天然水には動物や虫の排泄物が含まれている事が確かであるからです。
本件水は人工水でありますが本物の天然水と言えるのです。自然の原理を応用しているからと言える。
衛生飲料水エネルギー
　天然水のよごれは、様々な物を含んでいます。森の中の生命体が出すよごれなどで地上表面にあるよごれが主ですが地中の地下水にもわずか残る事もあります。
そこで、水分のミネラルを生かし少ない菌など不正な水成分を除去する事ができる本エネルギーを提供します。
水中に対して照射すると冷たいまま多くの菌は除菌できます。
又、ウイルスに対しても万が一の事を想定して酸化性電子を含むアルカリ性電子を照射します。これにより限選された積置素材を詰めた本体を使用した。（ここは人工です。）
天然水と同じ理論で使られるアルカリ性電子（きれいな水を生む）、それを多発させる為の追加電子（酸性電子）が混入した混合電子（酸性電子がウイルスを除去する

エネルギーとなる）で一度照射し、後に追加電子を発く

す為止めたアルカリ性電子そのもので照射した天然水理論の純粋な飲料水のエネルギーとした衛生飲料水エネルギーとして提供する。（一般水とする。）
又、酸性電子で混合電子としたエネルギーでつくった水をミネラル分と混ぜるなど（混合物を加える）するか、そのままの水とした、医用を中心とする衛生飲料水エネルギーを提供する。（ウイルス滅壊殺菌水なので感染症などの可能性のある人に有効な水と飲料である。）
以上を衛生飲料水エネルギーとして提供する。
請求項１、２、３、４、５、６、７、８、１７、２２、２８、２９、３０、３１、３２、３３、３４、４４、
又、上記水は、手洗用冷熱消毒エネルギーとして請求項６０に提供します。又、これを建物の建具金物や洗面金物に使い建物全体を完全殺菌する建物完全消毒エネルギーとして提供する。（請求項６１）
請求項１、２、２８、２９、３０、３１、３２、３３　３４、４４、１７　３、４、５、６、７に関す。
人感知センサーなど使ってＯＮ・ＯＦＦするのが望ましい
又これらのエネルギーを空調に装置する事でアルカリ性電子が排ガス等や空気汚染の毒や放射線の毒など除染したりする空調毒除去エネルギーを提供できます。（請求項６３）
請求項１、２、３、４、５、６、７、８、１７、２２、２８、２９　３０、３１、３２、３３、３４、４４、
又、浄化槽に与える事で除菌できるので浄化槽除菌エネルギーとして提供します。（請求

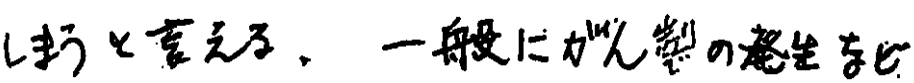
項６４）請求項１、２、８、６、７　５　４、１７、２８、２９、３０、３１、３２、３３、４４
又、バイオマス除菌エネルギーは、これと同等とします
（動物等を考えた内容）
又、冷蔵庫・トイレ・などの消臭器として提供する冷蔵庫の外からでも照射で消臭除菌可能ですし、トイレは健康器もかねた図３３の様に提供できるエネルギーです。請求項１、２、３、８、１７、２８、２９、３０、３１、３２、２２、４４を利用可。
又、毒ガス（亜硫酸ガスや硝酸ガスや流化水素）など危険なガスを消去させる
本放射アルカリ性電子でガスの性質を変えたり分解したりさせるエネルギーとして提供する
請求項１、２、８、５、６、７、１７、２２、２８、２９、３０、３１、３２、３３、４４が使える。
〔浄水場殺菌エネルギー〕
又、浄水場では薬品を使う事が多く最終的に塩素が水に付着する。
使用する薬品は硝酸アルミニウム、塩化鉄などの処理をして塩素で消毒をするのである。
本件のアルカリ性電子で照射すれば塩素を残さず消毒できます。しかも塩素を残すことがなく水道管内部でも効果は持続します。
請求項１、２、３、４、５、６、７　８、１７　２２、２８、２９、３０、３１、３２、３３、４４
又、〔河川出口殺菌毒除去エネルギー〕
河川出口は川の合流域や海への流水口などでよごれた水を混合させるのを防止する。図１３６が流水の流れ方向に対抗して逆にエネルギを発する様に設計されており、太陽光、風力、流水力を使った発電で電力を発し、その電力を追加の電力として活用する河川・海流内放置型とする事で手間がかからない仕組とした河川出口殺菌毒除去エネルギーで除染もできるのが特徴です。本件アルカリ性電子発性器を内蔵した河川出口殺菌毒除去エネルギーを提供します。
請求項１、８、３、２２　２８、２９、３０、３１、３２、３３、１７、４４
又、〔漁養殖貯水殺菌エネルギー
すでに水産培養エネルギーでも述べたように漁養殖貯水地の問題の４点５点は酸化による為それらに対しては本アルカリ性電子でアルカリ化しておさえられるのでアルカリごみを底から吸込む水中そうじ器を自動で動かす事が必要ですがそれらは可能です。
本件エネルギーで漁殖貯水殺菌エネルギーを提供します。
請求項１、８、３、４、５、６、１７、２２、２８、２９、３０、３１、３２　３３、３４。
環境エネルギー
温暖化を止めるには、出るものをｅｃｏにするより今すでに出されたＣＯ$_2$をどう処理し減少させるかにかかっていると言える。グリーンランドの氷がくずれて海面の上昇がさけられない等の現象が起っているからです。
ＣＯ$_2$は二酸化炭素で酸化物です。そこで、本件アルカリ性電子を照射するとセメントとフィラー石と水を練った時にセメントから水にエネルギーが出てそのエネルギーが水のＨに入って分解しＨ$_2$を作ってフィラー石を酸化物からＰＨ８～９の石にするのでコンクリート内のどこを切ってもアルカリ性を示します。
これと同様の現象でＣＯ$_2$に照射したＣＯ$_2$にセメントの積置のエネルギーが付着するので炭素原子に付属している酸化の電子の裏（炭素原子核側）に付属する事によりＨを手ばなし分解する行為が起ります。（請求項７２）
ＣＨ$_4$メタンの場合は、Ｈ（水素）の方にアルカリ性電子が入り易く水素の結合電子の水素原子核側（裏）にアルカリ性電子がイオンとなって入り込む為結合の手を切り分解するのです。（他の炭化水素にも同様です）（請求項７３）
この様にアルカリ性電子をエネルギーとする請求項１、２　３、４、５、６、７、８、１７、２２、２８、２９、３０、３１、３２、３３、４４のエネルギーでＣＯ$_2$、ＣＨ$_4$を

分解除去できるのです。
雷雲電磁消去エネルギー
黒い雲は、積乱雲等の重なりによる摩擦によるもので黒色なのは、摩擦の電磁がたまって雷化する直前になった事を示すのでこの雷が落下する前に手段として雷の中心と周囲に本エネルギー請求項１、２、３、５、６、７、８　２２、２８、２９、３０、３１によってヘリコブターや飛行機など無線機を地上より操縦し雲の中心から外に向けて本エネルギーを発する様にし放散すると電磁力によるモーメントが消え雷の発生がなくなり大風・大雨も合せて消える方向となります。
〔請求項３７、７５〕
大気汚染物質毒除去エネルギー
従来技術に記載するように各種汚染物質があるが全て物質であるので本件請求項１、２、３、５、８　２２、２８、２９、３０、３１、６、７などの発するエネルギーでこれら大気汚染物質は、その毒性を失うはずである。そして広義な意味では含まれる放射性物質に関してもその毒性を除去できる
したがってアルカリ性電子の命活性水素イオンや命活性水素やアルカリ性電子のアルオンを大気汚染物質毒除去エネルギとするものである。
図１４のＥに交換作用で物質の酸性電子の放射線がなくなりアルカリ性電子が入って物質が変化する状況が示されている。物質が全体にアルカリ性に変化するので毒性は除去できる。
除染エネルギーについて
はスリースマイル島とチェルノブイリについて従来技術のような流れがあったが除染の良い手は見つかっていない。
今回セメントとフィラー（石）と水の混練物のコンクリートに変化する３～４週間の期間の建物下敷地面コンクリートの作成時天空からふりそそぐ宇宙線中のＸ線・γ線等がこの下敷コンクリートにいく千いく万の放射線がふりそそいだがコンクリートになるとき亀裂が入るとか割れるとか聞かないし美しい仕上りを示す。
そもそもコンクリートはセメントなので鉱物の一種で本発明の元素の複合物なのです。
そこで、ここに発生するアルカリの力が素材に発生していてそれが素材とフィラー（石）がぶつかりながら混練されるとき水が介在する事により水にそのアルカリの力が移され全体にＰＨ９程度のコンクリートが生まれる事を知り得たのであります。
このアルカリの力が放射線を除去している事を知ったのでした。本発明のエネルギーを積置の形にして容器Ｉ型、Ｌ型に詰めただけでエネルギーの集積としてアルカリ性の電子を生む事によりこの力がエネルギーとして放射できる新しいエネルギーとして提供するので積置複合元素除染エネルギーとし称し提供する　請求項１、８、そして、滝に発生する土壌壁に対する水が持つ酸化電子の刺激でマイナスイオンが発生する事で刺激として電力を加えアルカリ性電子を多発させる事と加えて酸化の電子をいっしょに発生させた混合エネルギーとする請求項２のエネルギーが提供できるに至ったと言える。
請求項１・８の素材積置複合元素除染エネルギー
○は、石灰質・除染エネルギー、ゼオライト吸着除染エネルギーを含むものです。



（生石灰）と消石灰（水素化カルシウム）という
二酸化炭素の吸収剤でモルタルセメントの原料という事でまさにセメントそのものの材料を使った除染エネルギーなのです。又ゼオライトは大谷石である青緑色多孔質の凝灰岩である　ゼオライト結晶の細孔に閉じ込められた銀イオンが除々に放出される抗菌作用がある素材である事が知られており　両者も積置複合元素除染エネルギーの一部である。
○積置複合元素除染エネルギーは請求項１・８で提供できる素材積置のエネルギーとして提供する。
◎請求項１６に放射線を消滅できるエネルギーアルカリ性電子を提供

○土壌汚染除去エネについては図１３５の様な混練かく半プロペラを備え土壌を入れて混練しながら本エネルギーのアルカリ性電子を加える事で除染を均等にできる土壌汚染除去エネルギーを提供する。（図４１もある。）
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１による。
○水質汚染除去エネルギーついては図５８、５９の様なものや水道管を使った図１２４の様な方式の除染を可能とする水の除染方式が提案できるエネルギーを提供する。
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１のエネルギによる。
物質付着汚染除去エネルギー
従来技術に述べた様に水が放射線を引付け付着の状態となるのでその付着の前に空間の水にも同様にして空間の放射線の付着もあると言える。人はその場での汚染物を持ち帰る事になるのです。それらを手でさわれば当然手にも放射線が移る事となる。そこで図１２６の例に示す放射線汚染物除去装置が用意できるようにこの装置の内部で発せられるエネルギーのアルカリ性電子が付着した電子の裏（原子核側）に入り込み放射線酸化電子をおい出すのです。
これはアルカリ性電子が負荷の電子なので原子核にある正荷電子により引かれ易いからである。
請求項１、２、３、５、８、２２、２８、２９、３０、３１、６、７のエネルギーの方法で行なえる
○空間汚染除去エネルギー
建屋の敷地内などの空間を汚染したり箱型の装置として利用する場合がある。
この場合少し水を霧状態に散布させる事も条件に加える場合も含めることとする場合もプラスする。
○生物除染エネルギー
これらのうち畜産（牛、ぶた、鳥等）に対して除染は牛乳、玉子などの産物を含む事になるが、これらにアルカリ性電子を照射する事で改善される。
それは、血液の浄化エネルギー、冷熱殺菌エネルギーの乳冷熱殺菌、などで述べている
その血液中の中に放射線が混入している場合なのである　したがって、人工透折の成分として放射線が入ている場合という事になるのと特定のノドや集中すると言われている所の除染でありますがいずれもアルカリ性電子放射器で可能という事なのである。
それはすでに述べた理由で放射線を減滅させる事ができるからです。
（図７５、９８、１０５、１０８、１１４）
γ線の除去については（図５１、５２、５６）
海産水産物除染エネルギー
魚・海産物の中にはカニやエビなど甲殻類もいますが時間の問題だと考えられ魚が１ｈならばこれらは１ｈ３０ｍｉｎ程度の差で除染は可能となります。
そしてコンブや海ソウなども当然除染が可能と言えます。アルカリ性電子の照射で可能請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１
・農産物の除染エネルギー
野菜等の除染についても除染可能なのです。請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０　３１、
倍養
倍養については、細胞を育成する時の環境が大きな問題点でその倍地の清潔感が特に良くなければ成長中に問題を発し正しい生育を組



が混在するのはこの環境の問題なのです。
つねに３０度近い温度ですから酸化にＰＨが片寄り酸化が進行し易いこれが菌をよび込み生産すると考えられ自然の極限の水環境を必要とする

事が明らかなのです。微量含まれる水のよごれが

倍養途中で増殖するので悪影響を及ぼすと言えます。人の細胞においては特にこの温度が高いのとよごれ酸化物アルカリ物の発生が微みょうに左右するのです。そこで本器の発するエネルギーで冷熱のまま調整した毒害除去のエネルギーを照射する事でこのよごれの浄化をじょうずに適する様に与える事で正常な細胞を生育できます。
生物体中細胞倍地の問題は共通で
○栄養分の酸化
○空気中の電磁波による酸性毒
○室内環境による雑菌等
○母体からの殺菌がない（免疫がない）
○母体からの鮮度のよい栄養分の補給がない
○水分のよごれ（混入物等）
などで、総合的なこれらによる細胞への悪影響で不正育生が起りがん化や死壊の結果をまねく事になる
結局、ほとんどが酸化による総合的よごれによる為なのである。（中にはアルカリ性菌を発生させる場合もある。）
そこで、本発明の命活性水素イオンを照射すればこれらを改善し培養エネルギーとし提供する。
請求項１８、３２　８、１７、４４、３、４、５、６、７、２２、２８　２９、３０、３１、３３
したがって、うなぎや黒まぐろなどの養殖・増殖の生育に十分使用できると言える。（生物万能培養エネ）
〔受精，卵培養エネルギー〕
又、人においても同様で、受精卵が２００数十種類の細胞に変化する一つぶの受精卵からできるのです。つまり体中のすべての細胞に変化する能力を持っている，細胞分裂をくり返して成長する過程でさまざまな細胞に分れていきます。これを「分化」といいます。
分化を完了すると別の種類の細胞へ変化する事はできません。
体の中の各組織には「幹細胞」と言う細胞があります。この幹細胞は分化する能力を維持した細胞です。
たとえば骨髄にある造血幹細胞は白血球や赤血球などの血液細胞に分化します。
万能細胞は、受精卵とほぼ同等の分化する能力を持った細胞で，代表的なものとしてＥＳ細胞（胚性幹細胞）があります。
ＥＳ細胞は受精卵から分裂が少し進んだ状態の細胞を取り出し特別な条件で培養し得られます。
この万能細胞は失われた細胞や組織・器管を取りもどす「再成医療」などへの応用を期待されています。
これらの細胞の育成時に本発明のエネルギー倍養エネルギーは、安定化した増殖に必要なエネルギーとして提供できます。
請求項１、２、３、４、５、６、７、８、１７、２２、２８、２９、３０、３１　３２、３３、３４、４４
〔幹細胞倍養エネルギー〕
倍養エネルギーを幹細胞に与えながら増殖させれば細胞を分化させ目的の臓器に変化させるなど大量の細胞発生増殖を可能とし各部位をねらった再成を可能とできる。内部・

外部要因を完成させる事が可能な
の培養エネルギーと言える。

又、臓器移植の際、臓器内の血液等に本エネルギーを照射する事により性質を特異性なしにする事で受入れる側の免疫拒絶反応を防ぐ事ができる。
請求項１、２、３　４、５、６、７　８、１７、２２、２８、２９、３０、３１、３２　３３、４４、
〔水産培養エネルギー〕
水産物には生物万能培養で説明した問題点の中で特に水のよごれ（と汚物処理）・栄養物の酸化（と汚物処理）・電磁波による酸性毒・環境による雑菌を中心とする問題がポイントとして上げられ

鮮度のよい栄養分の補給にもぐふうが必要と考

えられるのは当然です。
これら４点をいかになくすかですが
電磁波の酸性毒がまず空中での酸化宇宙線が水にふりそそぐので取り除けない。（地下水でなら改良できる事もあるが空気中では酸化します。）
環境の雑菌は、栄養物の酸化と水のよごれと大きく関係します　酸化によるのです。それには魚の排泄物が混入し、これも酸化物なのです。つまり全て酸化物が重なり合って酸化性の菌が発生する可能性が高まります。
そこでアルカリ性電子の照射でＰＨ８～９のアルカリ力で冷たいまま酸化防止・除菌が出来ます。
したがって、魚が卵を生める環境が完成するのです。
（漁殖貯水池の底にたまるごみを排除清掃する設備を設ければ良いだけなのです。）
以上の様に本エネルギーで水産培養エネルギーを提供できます。
請求項１、８、３２、２、１７、４４、、３、４、５、６、７、２２、２８　２９、３０、３１、３３、
医療エネルギーについて
○スポーツはどの競技も被労を伴うのが一般的で体力を競うのですが走力を競うとき何回も走ると間で体力の不足をまねき後の走行力で自己の力を出せない事がある。
そこであい間の休時間にアルカリ性電子を照射する事で体力を復活させる事により実力を出せる。
サッカーなどやバレーボールやハンマーなげ、重量上げ、野球など間で時間のある競技やマラソンなどでも走行中にもかまわないかも知れない（使用後なげすてれば良い）がこれを使うのは図４３のウオッチタイプ図４９の洋服タイプ　図４５　図３１　図１１４
アルカリ性電子によれば血液の活性酸素量が減少でき酸化性電子の減少により血中のサラサラを保守できる。そして神経系統を活発に保守できる。
手くび、や　かたやリンパの位置、足、や手、など直接的照射がそのまま改善する
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１
一般に２が標準として小電力追加タイプを主に使うスポーツエネルギーを提供する。
歯科痛み除去エネルギー
歯痛の際に歯の神経が痛みを感じます。歯の神経の痛みでがまんできない歯痛を発します。
この痛みがアルカリ性電子の照射で除去できます
照射し（口の中の歯に向けて照射）すると約３～５分で痛みは消えます。
この事は、今まで２～３度歯痛になやんだ私の経験で確かです。アルカリ性電子の命活性水素イオンが歯と歯ぐきに付着して神経の刺激部位を緩和するのです。歯科痛み除去エネルギーを提供します。
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１のエネルギーで対応できます。特に２、３、が一般に有効。
ペイン除去エネルギー
切キズや打ぼくによる痛みが神経のそんしょうをともなうのでひどいものを除外して、一

般的程度の場合歯の痛みと同様取れる場合（約５分程度で効力を発します。）アルカリ性電子の照射エネルギーがペイン除去エネルギーを提供します。
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１
手術中酸化防止エネルギー
手術中の切開による体内が外気にふれ空気中の雑菌等で臓器が酸化するのを防ぐためアルカリ性電子を照射して患者の悪化を防止できる　請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０　３１のエネルギーを提供する。
その他
清掃器エネルギー
そうじ器に除染装置が内蔵されたか外装された形で発するアルカリ性電子が室内の床やたたみ部だけでなく壁や天井もこれで清掃できる
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１
特に２を使用し追加電力高・低の順に使うと効果的なエネルギーの清掃器エネルギとなる。
（図１２０）
自動車除染エネルギー
自動車内空調に除染が可能なものが無い東北地方では福島県内を通過する際には高い放射線を吸い込んでいると考えられるので特に地元では健康被害がおそれられているし、東京でもわずかではあるが濃い所も中にはある可能性もある。（０．００８ミリシーベルト程度はあるとされるが）吸い込んだ放射線は累積されるので急務と言える。そこで、アルカリ性電子を放射できる空調設備から放出されるエネルギーが除染してくれる。毎日一日運転する人は、将来の健康が心配である。
外付のタイプと内蔵タイプがあるので一応新旧どちらの車にも取付可能である。
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１のエネルギーを使用できる。２を中心に利用することで健康の促進も合せてできるのが特徴である。（図１１８）４４）
装着品エネルギー
指輪やブレスレッドに付属された素材による健康依持を目的としたものは、その素材はゲルマニウムに限られている本アルカリ電子の素材積置の複合素材は様々でその症状を考えた形の付着素材とできるすぐれ物の指輪、ブレスレッド、ネックレス・イヤリング等々であるが発するアルカリ性電子エネルギーによる血液浄化、（殺菌等、細胞の酸化防止など）でサラサラ効果がある事もわかっている。
理論を確立した効果を示すことのできる血液検査においては、あるタイプで行うと検査値が中央の正常値に傾く傾向にある事も示されている。
このアルカリ性電子のエネルギーの元となった技術である
請求項１、８、２、３、４、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１を装着品エネルギーとして健康に提供できる。（図７４、９４）
連続放射エネルギー
請求項２の図３１の先端を長くのばしその途中に放射の穴を連続して設けた形のもので発生するアルカリ性電子を全ての完から放出する。
これを建屋の床下や壁にそわせて建屋全体をアルカリ性電子で満し建屋全体や部屋全体をアルカリ性電子で満すことができる。この発するエネルギーを連続放出エネルギーとして提供する（図７０）
請求項１、２、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１
環境保護電線エネルギー
電線の外部被復部からエネルギーが漏れ電磁波が飛ぶ為、電線の下の家などで電磁波による健康被害が多発している。これに対策はなにも無かったが外帯に積置素材の複合元素や元素そのものを巻く事で内部電気電磁波を受けアルカリ性電子として線外に発するので被害を防止できる。この発するエネルギーを環境保護電線エネルギーとして提供する。
酸性電子を多少含むが受ける人は、中和されたアルカリ性電子優勢のエネルギーを受ける

ので健康については安心と言える。（図８０）
ダイキャストサビ無エネルギー
金属の成形された表面仕上げが光沢が無い酸化表面を成すが金属の酸化物を本エネルギーのアルカリ性電子で除去する事でサビの無い金属塊の成型物を生産する事ができる。
これによればサビは相当時間サビずに見ばえが悪くなることはないし、みがけば内部の光沢がよみ返るので外部や見ばえの問題の小ものにも主力品にできる。
の使い方と言える。（従来、素材について理論は無く効力も限定的であった。したがって放射線の除染など考えられていない。）（図１１９）
原子力発電内炉放射線防止エネルギー
原発の炉の中で漏れる放射線を除去する為アルカリ性電子を照射できる様にして放射するエネルギーを提供する。（図１３３）
太陽光パネル型エネルギー
太陽光パネル型のアルカリ性電子放射器で素材は樹脂素材でうすく表側に張って止め裏側も透明に光が通過できる様にしたアルカリ性電子のアリオンは超小塊電子なので樹脂膜を通過し表側に飛び出す。（図１７）
この太陽光パネル型の出すエネルギーを提供。
（請求項３６、１１０）
大型タンク型放出エネルギー
大型タンクを積置素材を詰めたアルカリ性放射装置とし通線を金線にして電子が集合するのを防止した形で先端で放電させる小型の放射口を設けた筒としたアルカリ性電子放射器が発するエネルギーを大型タンク型放出エネルギーとし提供する。（図２４）
脳活性浄化エネルギー
脳活性化をする為ヘルメット式の小型（図３１）のアルカリ性電子放射器を多ケ所に設置した照射器とし均等に与えるか分部的に与えるか選択できる型式の構造のタイマー等付属させる、電子量を調整できるタイプの発するエネルギーを脳活性浄化エネルギーとして提供する。（図８１）
健康器具エネルギー
殺菌やウイルス滅滅ができるエネルギーが出せる健康器具であるアルカリ性電子放射器が
出すエネルギーを本件健康器具エネルギとして提供する。 高電力追加口(図116)は141の右図(B
様々な血圧計やその他の付属計器を設け備えており電子量の測定値も確認でき自動で制御
できる等の機能を持つものもある。
図７５　４２　９８　図３１　３４　３５　３６、１４０、１４１、５３　９６　その他多数
依服浄化エネルギー
依服に電線の外側に積置素材を張りめぐらせ内部にエネルギーが透過する様にした依服でジャケットやジャンパーの様な形のもの又、追加の電子も付属させるものもある。そのエネルギを提供（図４９）
がん等治療エネルギー
従来、がん等の分野においては放射線を利用して照射してがんを消す方法が取られているが放射線ががん部位にとどくまでに通過する臓器にも（正常な）照射する事による心配も指適される。
そこで本エネルギーは超小塊アルカリ性電子のアリオンが体内奥深い所にも届く事が確実であると同時に通過他臓器にも安全なエネルギーのアルカリ性電子の為臓器を劣化させるなどの悪影響は無く照射が可能である事、
がんと正常な臓器の境界付近の放射線の
照射のおりしろ部を大きく取る必要があるとの
点で正常な部分も包め対称としなければならない点問題もある。その点安全性の高いアル

カリ性電子の場合境界付近も含めた事で正常組織はさらにより正常になり、がん組織を正常にもどす働きを強めるので減滅させる方向でがん組織を縮小化しついには。細胞を殺さずに正常細胞にもどす働きをする。（正常細胞の力もかりて）この様な長所を持つアルカリ性電子をがん治療に有効なエネルギーとし提供する。
中心のがん部は、その悪玉酵素をタンパク質分解力で分解するため減滅すると言え酸化物のアルカリ化によるものでアルカリのエネルギーが放射線以上の強さであると言えるからなのである。
本エネルギーは請求項１、２　３　４　５　６　７　８　２２　２８　２９　３０、３１によるエネルギーを使う事で可能です。
倍養装置エネルギー
適切な環境内でなければ、良い栄養源が与えられても育成はうまくいかない。そこで６点の条件を示した中で５点の環境についてですが本件エネルギーのアルカリ性電子においては、
母体からの殺菌能力に必適以上の能力を有す事が上げられる。ＰＨ９に近いアルカリ性電子と酸化性電子も適正に含ませる事ができるのでウィルスにも適応しおさえる事ができるのでほとん

どの外種きについて対応できる

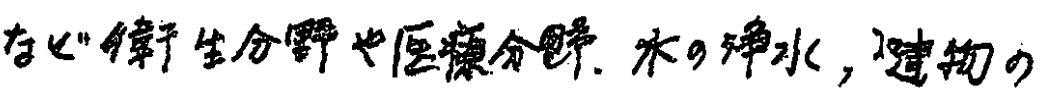
水分のよごれについても同様である、又室内細菌も栄養分の酸化についてもアルカリ性電子が除去します。空気中の電磁波による酸性毒に関しても除去できるのはもちろんです。
したがって、環境の全てについて完全に守る事ができるので成長途中において細胞等に問題を残すとすれば栄養分の補給の所だけとなります。
栄養分については様々に異なるのでここではふれません。
以上の様に本エネルギーが環境を守る安定なエネルギーである事が言えるので培養装置エネルギーとして請求項．２、３、４、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１を提供します。
ジューサーミキサーエネルギー
果実をジュースにすると果実かすとともに酸化する。このかすをすててしまう装置もあるがもったいない繊維質部である。食物センイとして有用で体内浄化に作用する。これら水分と果汁と果汁かすである水分はアルカリ性電子でアルカリ化されます。果汁には酸性分が含まれますこれが酸化を時間経過で

強くします。やさいは、アルカリ性分を含みますが

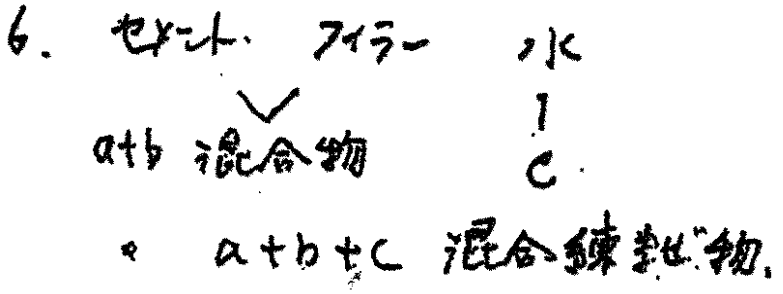
これも強い酸化を受け変化します。そこにアルカリ性電子が作用されると、アルカリの方向になるので進まず中和的になり酸化が止められます。
長時間せず味が変わる（まろやかさを増す）ので好みで時間を調整するポイントがありますが健康増進によくジュースが長持ちし保存が長時間できるのが特徴です。
牛乳などを長時間酸性電子発生アルカリ電子を照射させる事で発酵させる事ができるのも特徴でヨーグルトが出来るのです。
この様に本エネルギーを酸化電子（追加の電力を掛ける）を適度に高めることで発酵にも使える請求項の２、２８、２９、３０　３１を使う発酵仕様と請求項１、８、２８、２９、３０、３１の生新鮮長時間保存仕様を使い分ける
様にするつまりエネルギーの使い分けで多様な仕様のジユサミキサーエネルギーを提供できます。
放射線除去エネルギー
放射線（Ｘ線・γ線等）を除去できるエネルギーが存在するとは思えなかったが、そのエネルギーが存在する事を知った。
それはセメントにフィラー（石）と水を混練するときコンクリートになる間の時間、建屋

の地面のコンクリートや敷地コンクリートの作成時に長い時間（３～４週間）を掛けて固まる間空から宇宙線（Ｘ線・γ線紫外線等）がいく千・いく万もふりそそいでいるにもかかわらず仕上ったコンクリートに亀裂が入ったとか割れたとか固まらないとかの話は聞いた事がない。
この事がセメントと言う鉱物資源が本件積置の元素としてエネルギーを水とフィラーを混入させて練る事でフィラーのぶつかりをセメントが受けその刺激（酸化電子を発する）でセメントがアルカリ性の電子を発生する為、コンクリートに仕上がったときにＰＨ９に近いアルカリ性を示す。ＰＨ９にするものは、セメント以外に考えられず石は酸化の刺激を与える事でセメントからこのアルカリ性電子を多発する為と増量材の意味があるのです。
セメントと水の混練でももちろんセメントはアルカリ性電子をアルオンとして出します。そして水との作用として電子が空気中の水と接着し、かかえて持っている旧電子（空気中の酸化を受けた電子）と交換作用が起り入れ換ります。それは、アルカリ性電子の方が原子核の持つ正荷電子の引付により旧電子の裏（原子核側）に入り込むのでセメントの原子内にアルカリ性電子が入り込み分子全体がアルカリ性となる為なのです。水分子がアルカリ性電子を持つとちょうど粘土を練ったときに出るねばねばしたつるつるした液体なのです。これがセメント粒子にも出て粒同士を結合させます。
こうしてコンクリートがＰＨ９に近いものになり、粒を溶かしながら結合させ圧縮強度３５０ｋｇ／ｃｍ^{2}に近いセメントの組成と異なる固形物になるのです
珪酸カルシウム（ケイ素・シリコンと酸素、水素の化合物に石灰を混ぜたもの）を主成分とした粒をクリンカーと呼びセメント粒子に水が接するとすぐにこのクリンカーが反応を開始するとの事が知られている　つまり主体がケイ素Ｓｉの酸素・石灰と水素化合物でクリンカーが結合させるのです。
このケイ素は地上付近では酸素の次に多い元素で半導体として電力を発します。石灰石が水素と反応するのですが生石灰の棒や玉に酸素と水素の炎に当てると白い光が生じるのが１００ｍ先まで届くそうでエネルギー体である事を示している。（ガスが燃えるエネルギーだとの事）地表のいたる所に見られる。地殻の元素存在比が５位のカルシウムだからです。炭酸カルシウム（ＣａＣｏ$_{3}$）が多く存在する。
以上の様にケイ素の半導体機能や炭酸カルシウムの持つエネルギーがセメントの力である。がそのいずれも本エネルギーの積置のエネルギーであります。又、アルミニウムも鉱石としては酸素・ケイ素に次いで３番目に多く地表に存在するが吸着剤・や化学的触媒などやＡｌＯ$_{3}$はレザー発板として使用されるエネルギー体である。
セメントと言う積置素材が放射線を除去する事実により本エネルギーがセメントの出すアルカリ性電子を出す事を知ったのです。又、その他多くの鉱物に多くケイ素が含まれ炭酸カルシウムも積置素材に多く存在する事やＡｌ$_{2}$Ｏ$_{3}$もアルミの力でエネルギー保持するエネルギー体と言え、これらが全て積置の中でエネルギーを発することでアルカリ性電子を発生させます。
特にゼオライト（沸石）はケイ素（Ｓｉ）とアルミニウム（Ａｌ）酸化物四面体からなるアルミ／ケイ酸塩鉱物で三次元の骨組の構造を持っているので最強のアルカリ性電子発生体と言えます。
本件放射線除去エネルギーとしてアルカリ性電子を提供します。〔請求項１６、３８、１１８〕
なおこの積置のエネルギーに追加の電子等の酸化の電子を加えたタイプも同様に除去エネルギーとし提供します。（水のある所で酸化性電子はアルカリ性電子と異なり物質に対する働をするからで、電子集合体はアルカリ性電子を生かせます。）
請求項１、８、２、３、４、５、６、７、２２、２８、２９、３０、３１
【実施の形態】
セメントとフィラー石を混ぜてやると刺激を受けて電子が出る事は確実である。このとき水は水道水とすればＰＨ６．０～６．８程度である。これが練上げるとＰＨ９に近ずくＰＨ８～８．５程度に上がるのだが水は減少してアワが出て来る元の水が６．０～６．８のＰＨとしても２ＰＨ上った事になりアルカリが増した事になる。これによって混入した物

質がセメントとフィラー石である事からこれらが出した事がわかる。一般に電子が出ているとしか考えられずこれがアルカリであることにならざるおえない。
ところが一般に電子は、「宇宙線による発散で放射線とされ」その一種の放射線とされ純電子の負荷と光子と放射線の正荷電子とが一体となって混ざっていて総合して広義の宇宙線が酸化性として正電荷が強いものとして扱われている事に気がつく。〔図１６〕参照
純電子は一般に負荷とされているが現実において総体的には正電荷で酸化物という事になる。
そこでアルカリが何かと言えば発生する電子しか考えられず雨がＰＨ５．０～５．５で図１の様になる〔図２〕にセメントとにフィラー石（ＳＡＮＤ）を用意してもいずれも電子が発生すると思われるが混練する事で電子が発生増加する。
これに水を混ぜると発散が水によりおさえられると言うより電子が水に入り込むとしか思えないが〔図１４〕参照
コンクリートがＰＨ９になるにはそのフィーラ石・セメント細石がＰＨ９に成ると言う事になる。したがって、H_2Oによって発散していた発生電子が水中に届められたとしか考え用がなくそのアルカリ性電子をセメント細石・フィラー石に移したと考えるしか無い。〔図－１４〕参照
〔図６〕の様に素材を入れたビーカーに水道水を入れて混練するとＰＨは水道水の６、７程度からＰＨ７、８程度にアルカリの上昇がみられた。このことで水にアルカリの電子が存在する事がわかった。
【産業上の利用】
本エネルギーは、これまで発見されていないアルカリ性の電子であり食品のロス予防や菌の分解

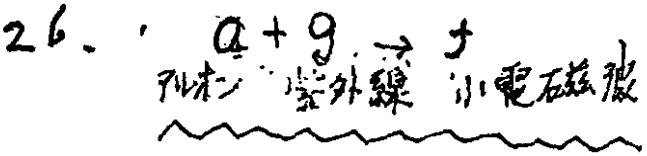


排気口の除菌や田畑の土壌の殺菌や家畜舎の殺菌や酸化放射線の除去などに利用が可能と言える。その他産業のほとんどの酸化に関連する分野の問題点を解決する。
化学結合の分解結合に関する内容や電子線利用の分野にも関係し別の世界が広がる。
〔図１６〕に応用範囲について記載
【符号の説明】
【００１２】
１．宇宙線（視外線、Ｘ線、γ線等）
２．雨水
３．水道
４．セメント
５．フィラー（石・砂）



７．アルカリ性電子
８．コンクリート
９．土壁
１０．滝水
１１．棒（かきまぜ用）

１２．ＰＨ　ＰＡＰＥＲ（紙）
１３　原子核
１４　酸化性電子
１５．水素結合
１６．アルカリ性電子
１７　アルカリ性電子の入った水素原子（命活性水素原子）
１８　除外酸化性電子
１９　水の一方Ｈにアルカリ性電子が入った水分子
２０　酸化性電子のH_2
２１　アルカリ性電子のH_2
２２　金線（加速し発生時の弱電線とし、アルカリ性電子を復活させる）
　　○まとまった電力を分割しそれぞれの線から正電荷を除去し多線より得る。
　　タンクシステム
２３．電子（純電子）
２４．光子（陽電子＋電磁力）
２５．放射線



２７　アリオン（ａ＋ａ）
２８　凸レンズ
２９　濃縮　アルカリ性（電磁波）電子塊線
３０　追加電子無し　小塊アルカリ性電子
３１　つぼ型先端のやや強いエネルギー（カバギー）
３２　ラッパ型先端のやや弱い小塊エネルギー（カバギー）
３３　小電流追加タイプ負電荷放射線
３４　積置形（自然発生）放射線
３５　金線を使うエネルギ変換システムタンク
３６　水素結合
３７　ＳＳ結合
３８　無線操作飛行機（気候操作用）
３９．本体　４０．ノズル端末　４１・酸化質吸着剤
４２．酸化金属　４３．ミネラル素材部（カートリッジ）　４４・ストッパー及び吸着・吸収板（電子しゃ板）
４５　電源　４６．接着剤　４７．コンセント
４８．穴明き絶縁シート　４９．金属穴明板　５０．リング
５１．便座　５２．スイッチ（１）
５３．スイッチ（２）〈人感センサー〉　５４．スイッチ（３）〈手入切〉
５５．電圧調整器　５６．受信電源ＯＮライト
５７．タイマー〔入切設定一日〕　５８．押し板〔外部〕　５９．押し板〔室内側〕
６０．手のひら　６１．指先　６２．分散穴
６３．ドアクローザー　６４．ドア　６５．ヒンジ・フロアヒンジ
６６．天井　６７．壁　６８．室内・ダクト除菌装置〔確認装置付－菌センサー〕・自走除菌装置　６９・ベッドのフリー方向固定装置　７０．キッチン調理鮮度器〔室内匂い消し器〕　７１．健康器設置器　７２．衛生浄化機器（掃除機）
７３．アグリ・バイオ産業土壌改善及び害虫駆除器　７４．医療専門移動椅子スタンド
７５．旅行用持ち歩き腕時計型治療器　７６．車用体内浄化・神経改善器
７７．濃度チェック付アルコール除去器・改善器　７８．スリム用体脂肪・コレステロ

ール除去器
７９．家庭電化製品一体殺菌・消毒器　電子レンジ〔冷蔵庫・洗濯機・レンジ・アイロン・乾燥機等々〕
８０・工業用製造殺菌消毒器（食品・飲料）　８１．衣料品一体健康器　８２．家具製品一体型の健康改善及び電磁波消去器兼室内殺菌・除菌器　８３．電磁波消去エネルギー放射状態原理図
８４．ガンマー線等放射線回避器（ウラン核分裂放射線回避想定）体内系統図
８５．本発明安全アルカリ性電子照射器のエネルギー照射原理
８６．体重７０ｋｇの人の既存元素量表　８７．浄化槽　８８．本発明原理工業用浄水製造器　８９．本発明グリップ型照射器一体家庭用浄水製造器
９０．核分裂及び毒性放射線の回避器　５１．切り替えスイッチ
９１．突起付電極
９２．内部素材〔混合〕透明容器露出部　９３．外筒切部
９４．請求項４３の別の電子発生源
９５．太陽光発電装置〔外付け〕　９６．太陽光発電装置〔後付け〕
９７．放射面　９８．電子発生源　９９．電子（アリオン）
１００．放射面で小穴を通過後のアリオン小電子
１０１．ホーン型アリオン保持ケース断面　ａ．ｂ　ｃ　１０１ｄ　１０１ｅ　１０１ｆ
１０２ 膜（小穴放射面）通過後のホーン エネルギー

１０３．請求項６の筒閉型アリオン放射器透視図
１０４．配線先端の被腹部折り曲げ部
１０５．配線金属部　１０６．交流・直流電源よりの電磁波電子部
１０７．ボックス〔成型樹脂ケース〕　１０８．ボックス蓋
１０９．マット　１１０．ジェル・水溶物等の例
１１１．撹拌用膜シートカバー
１１２．ａ．冷蔵庫用電子発生（アルカリアリオン）装置
　　ｂ．拡大説明図
１１３．発生源　１１４．電子発生装置の蓋
１１５　ａ　指輪　ｂ　バンド　ｃ　首輪　ｄ　ベルト　ｅ　電極ブラシ　ｆ　収納
１１６．体表巻物型エステカプセル例
１１７．放射口〔移動部品〕ホーン例
１１８．ホーン摺動溝の例
１１９．膜（水を透過させないフイルム）　１２０．水（浄水）
１２１．水を通す膜（菌やウイルスの大きさより小さいが完全でなくて良い）
１２２．水道源不浄化流水パイプ
１２３．指　１２４．電子方向制御装置　１２５．電子方向の流れ矢
１２６．液体窒素ボンベ　１２７．プッシュボタン
１２８．コイル　１２９．磁性材料
１３０．電池　１３１．光吸収剤と電子変換触媒混入樹脂
１３２．還元物吸収剤・触媒混入樹脂　１３３．銅線等導電材．
１３４．誘導通路アルカリ性電子放射装置
１３５．電子量制御板本体
１３６．ホーン共用座
１３７．本体同形リング座　１３８．ボックス
１３９．微細穴（水不通）放射膜　１４０．タイマー
１４１．トリガー　１４２．モーター等
１４３．吸収箱　１４４．鉛製吸収箱
１４５．ドア　１４６．ダイカストマシーン

１４７．ガス釜　１４８．γ線ナイフ
１４９．アルオン発生先端小放射口　１５０．ジェル押当シート部品
１５１．ばね等　１５２．ゴム・スポンジ等
１５３．積置素材　１５４．スポンジ等穴開スポンジシート・サポーター
１５５　使い捨てジェル等パックの押圧爪
１５６．水溶物が出る穴付きフィルム　１５７　水分子より小さい穴付きフィルム
１５８　詰め替えジェル等パックの注入針口
１５９．チタン系光殺菌剤（チタンアパタイト等）
１６０．薬剤等保持スポンジ
１６１　平口放射口
１６２　ホーン型ホルミシス樹脂等口

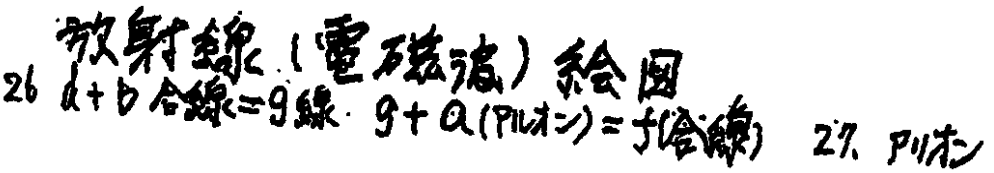
198 200 199
a，b　素材の放射線　d　X線の放射線等　c　紫外線以外の非電離放射線
201 202 合体　放射線〔素材以外〕－高周波・紫外線等
e　ガンマー線の放射線等
203 合体電子〔数個のとき〕
204 ホーン先端型非合体化アリオン放射器

１６３　細胞膜　１６４　細胞質　１６５　細胞壁　１６６　線毛
１６７　顆粒　１６８　核様体　１６９　莢膜　１７０　鞭毛
１７１　核酸　１７２　カプシド　１７３　ヌクレオカプシド　１７４　カプソメア
１７５　エンベローブ　１７６　スパイク　１７６　シャツ
１７７　手袋　１７８　マスク　１７９　ミカン
１８０　蒸気発生装置　１８１　アルカリ性電子発生装置
１８２　１００Ｖ　５０・６０ＨＺまたは小電力等
１８３　素材　１８４　反射板　１８５　アルカリ性電子エネルギー
１８６　核燃料棒　１８７　素材ボックス　１８８　水又は水霧囲気
１８９　アルカリ性電子放射装置（ＡＢＯＸ）　１９０　エネルギー改善ボックス
１９１　太陽光発電　１９２　油圧沓動機、　１９３　コネクター
１９４　スライダック　１９５　タイマー　１９６　間欠タイマー切換
１９７　切換スイッチ　１９８　直接電磁波　ａ）筒側部　ｂ）筒中央部
１９９　カプセル型　２００　集中エネルギー放射口
２０１　反射板　２０２　リモユン

【図面の簡単な説明】
【図１】宇宙線H_2Oによる雨のＰＨを示す図　水道水のＰＨに至る。
【図２】セメントとフィラー（石材）と水
【図３】セメント・フィラー（石材）と水混練図　アルカリ性電子の発生
【図４】混練後のコンクリート作成時　アルカリ性電子の溶解時から固化の作業図
【図５】川が滝になるとき山の土壁からアルカリ性電子が飛ぶ様子
【図６】混練時水のＰＨ、実験時
【図７】水素原子・酸素原子図
【図８】水分子立体図
【図９】水分子構造
【図１０】水分子継構造
【図１１】水分子のO^2を造るとき
【図１２】

水分子が H_3O^+ を造る、OH^- を作るときの構造！

水のクラスター分子　図１０の連結
【図１４】セメントからのアルカリ性電子と水の反応　Ａ　H_2Oの切れる方の水素Ｈ・にアルカリ性電子が入り酸化電子が放散される。水にアルカリ性電子が入る。Ｂ　アルカリ性電子が入った水素と水とが反応しアルカリ性電子が入った水と酸化電子が入った水素を造る、（１６；でＯＨと切れる）Ｈ・が出るアルカリ性電子の渡し出し水となる。Ｃ　水素の入った酸化電子が同じものとくっつく２０　一時的にH_2を造る。さらにアルカリ性電子で分裂しアルカリ性電子の渡し手となる。Ｄ　Ｂで１９のものが分裂を起しアルカリ性電子が入った水素を造り２つが合成して一時的にアルカリ性電子が入ったH_2が造られる。２１　もしくは渡し手となってアルカリ性電子を酸性電子と交換する。交換するとＣにもどるがＢにもどる　物質分子は、酸性電子がなくなりアルカリ性電子が残る為アルカリ性を示す。Ｅ　物質の酸化電子がアルカリ性電子で交換された状態
【図１５】アルカリ性電子は２ペアーで存在している反応図
【図１６】エネルギー（カバエネギー）の広がり範囲
【図１７】太陽光によるアルカリ性電子発生ボード（放射線消去ボード）
【図１８】



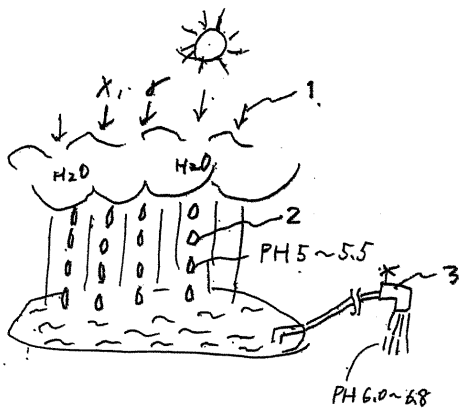
【図１９】新しい電子の世界・エネルギーの位置
【図２０】レンズを使う強力アルカリ性電子エネルギー　カバエネルギー発生図
【図２１】追加電子を与えない物質発生　アルカリ性電子によるカバエネルギー発生図
【図２２】Ａ　集中型先端　つぼ型（くち閉ぢ）によるやや強いアルカリ性電子発生　Ｂ　分散型先端　ラッパ型（くち開き）による弱いアルカリ性電子発生
【図２３】Ａ　太陽光発電装置付追加電源　Ｂ　蓄電池付追加電源　Ｃ　自家発電（手廻し式）付追加電源　Ｄ　その他　小電力追加電源　全て放射口より正荷を含まないエネルギーが出る　小電流なので正荷が発生するが途中で物質から発生するアルカリ性電子でほぼ完全に消滅する　結果　負荷電子のみが発する。（新エネルギーの誕生。
【図２４】Ａ　電気をまとめない金線による太陽光システム　Ｂ、まとまって酸化性になった電力を発生時のアルカリ性電子にもどす。まとまった電力をストレスで酸化の電子にしたものをバラバラに小電力にして発生時の生電流にもどす。負荷電力（アルカリ性電子再成）
【図２５】請求項１の積置型としＬ型追加電源無しタイプとエネルギー図
【図２６】タンパク質がH_2Oを分解し命活性水素原子となり分解する様子反応図　エネルギー（照射による人体内変化）
【図２７．Ａ】細菌の基本構造
【図２７Ｂ】ウイルスの基本構造
【図２８】チャネル・キャリア・ポンプの例図表　エネルギーの動き。
【図２９】橋染のコンクリート改善　老朽化防止エネルギー　１）全体図　２）施工図
【図３０】関連する電子線の分野　〈研究により新技術を多分に含む〉
【図３１】本発明電子照射器の側断面図　Ａ．ホルミシス効果部　Ｂ．酸化質吸着剤部　Ｃ．酸化金属部
【図３２】免疫リングの側断面図
【図３３】洋式トイレ殺菌装置の使用状態と付属装置
【図３４】押し板の殺菌装置使用図　４ａ　表側　４ｂ　裏側
【図３５】建築構造物と部品の応用例図　１ドアクローザー使用図　２ドア使用図　３ヒンジ・フロアーヒンジ使用図　４天井使用図　５壁使用図　６床使用図
【図３６】病室細菌管理システム全体図　発生エネルギー体内進入直前状態説明図
【図３７】ベッドフリー固定装置と使用状態図　体内作用機能系統図

【図３８】キッチン調理鮮度改善器・室内匂い消し器使用状態図
【図３９】健康機器設置時状態図
【図４０】掃除機設置状態図
【図４１】アグリ・バイオ産業土壌改善及び害虫駆除器使用状態図
【図４２】医療機関専用治療スタンド使用状態図
【図４３】旅行・移動用腕時計型治療器タイプ例参考図
【図４４】車用体内外浄化・神経改善システムの一部参考例図
【図４５】濃度チェック器付きアルコール除去器とシート状アルコール改善器
【図４６】スリム用体脂肪・コレステロール改善器使用状態図
【図４７】家庭電化製品一体型殺菌・消毒器の一例・電子レンジの一例図
【図４８】工業用食品・飲料殺菌消毒器参考例図
【図４９】衣料品医療健康器　上着装着例図
【図５０】家具製品一体型の健康改善及び電磁波消去器兼室内殺菌・除菌器　テレビの一例図
【図５１】電磁波消去使用状態原理図
【図５２】ガンマー線等放射線回避器（ウラン核分裂を含む）作用実施想定図
【図５３】本発明照射エネルギー説明図（ａ．ｂ．ｃ．）
【図５４】体重７０ｋｇの人の既存必要元素量分析図
【図５５】浄化槽応用例図
【図５６】移動用核分裂放射線の回避具実施状態図
【図５７】本発明の利用機器の効果一覧表
【図５８】工業用浄水器図
【図５９】本発明のグリップ型照射器一体型浄水製造器の家庭用照射タンク器例図
【図６０】たばこパイプ
【図６１】水の蒸気パイプ
【図６２】体内の活性酸素の消去作用と残留の変化表
【図６３】金属イオンの酵素と欠乏時主な障害性表
【図６４】突起付電極のアルカリ性電子放射器の透視状態図一例
【図６５】光通過穴を持つ請求項１のアルカリ電子放射器の側面図　別の３電池（例は市販物）を内臓の電位増加及び反発による飛力増加アルカリ電子発生装置透視図
【図６６】請求項３の発電機の自然エネルギー使用装置付アルカリ性電子発生器側面図
【図６７】アルカリ電子発生器の請求項４の透視断面図
【図６８】アルカリ電子発生器の請求項５筒の外側に放射後の通路を含めた透視断面図
【図６９】請求項４．５に関するホーン断面形状例正面図
【図７０】請求項６の筒閉型アリオン放射器断面図　１　丸型　２　長方形型　３　正方形型　４　突起周囲円型　５　三角形型　６　八角型
【図７１】筒型成型樹脂ケースの中に通電線先端電子放電による放射線除去システム透視説明図
【図７２】ジェル等生産方法請求項８説明使用状態図
【図７３】請求項９日常生活用品の冷蔵庫内電子放射装置の例使用説明図
【図７４】リングとブレスレッド例請求項９とジェル等保持密着具〔ジェル量の中皿を持たせた〕１．リング混合使用例　２．装着使用例　３　ブレス混合使用例　４．装着使用例　５．フイルム等穴開きばね．等付シート　６　反発開シート・サポーター等
【図７５】１．請求項１１の体表巻物型〔上着型・下着型・腹巻型等〕専用カプセルエステ装置の実施例図　２　腹巻型の内面の実施一例図　３．頭上からの透視使用図
【図７６】請求項１２の原理実施装置浄水器内部構造図
【図７７】請求項１３の原理図　１．アルカリ電子放射器　２．先端の正面図　３．使用状態図　４．別の指サック型専用器例使用図
【図７８】冷却ボンベ付きアルカリ電子放射装置の例構造断面図
【図７９】電磁気装置内臓のアルカリ電子放射装置の例構造断面図

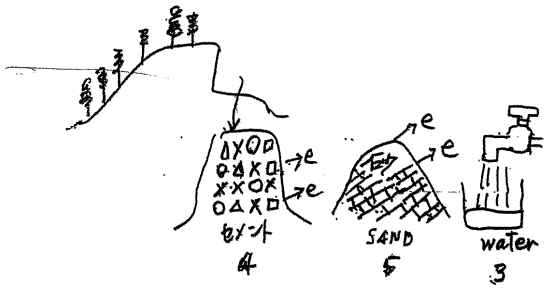
【図８０】配線複数にアルカリ放射材〔還元剤〕を混入し変換触媒を主剤に入れた電線説明透視図〔請求項１６・１７〕
【図８１】脳活性アルカリ電子放射装置の実施例説明図〔請求項１８〕
【図８２】放射線比の少ない電子絵図説明図　《各電子想像絵》　電磁力（磁力線等）▲ａ▼－▲ｂ▼　素材　▲ｃ▼　紫外線以外の非電離放射線　▲ｄ▲－▲ｅ▼　Ｘ線～γ線等〔各電磁力によりバランスが異なる〕▲ｃ▼（２つが合体）　・　電子の大きさ倍　・　放射線の大きさ〈エネルギー〉は、電子の３倍とより比率が大きくなってしまう。〔放射線部の多くを吸収除去してしまうと電子比が高くなり全体にアルカリ性が優位なエネルギーとなる－－－アリオン電子〕今までより淳電子比率が大きい電子〔電磁波〕エネルギー　新エネルギーの呼称は、アリオン　ホーン型先端では、負荷電子がホーンの広がりにそって飛ぶ為、合体せず放射線も合体せず大きな団塊を造らない。
【図８３】装置〔アルカリ電子放射器〕のホーン・座共通部品図
【図８４】装置（アルカリ電子放射器）のボックスセット図
【図８５】不水通過膜による〔水１０００分の１穴より小さくするレベル〕本発明装置の一例図
【図８６】タイマー・撹拌トリガー付Ｌ型タイプの透視図
【図８７】金属精錬の構造の一例イメージ図
【図８８】放射線吸収箱の使用状態例透視図
【図８９】アルカリ性電子放射器付移動体〔車載の例〕
【図９０】金属・樹脂や薬品微粉末混合時中間体素材の酸化膜除去・イオン物のアルカリ化等生産状態図例
【図９１】１．成型による金属生産物の工程前処理使用図例　２．ダイカスト鋳造成型によるアリオン〔アルカリ性電子放射器利用図
【図９２】成型による樹脂生産物の工程前処理使用図例
【図９３】１．車等のエンジン燃焼時の利用図例透視図　２．車等のエネルギーとしてアルカリ性電子利用のケース透視図　３．排ガス分解をアルカリ性電子利用で行なうケース透視図
【図９４】レントゲンのＸ線の毒性をカットした電子レントゲン実施図透視図
【図９５】ガンマーメスにアリオンを利用した図状態図
【図９６】１．医療器具として外部からエネルギーを与えた状態図　２．医療器具として人他の内部にパーツを挿入固定した状態で本体を接続使用の状態図透視図
【図９７】リング等の身装〔美装〕品にジェル等創作し皮膚呼吸吸収させるジェル押圧〔ばねやゴム等反発材付き〕板状シートの部品セット・使用図と反発材（穴開き）貼り付けシート・サポーター使用施術状態図
【図９８】アルカリ性放射器によるアルカリ電子を測定器に利用した状態図
【図９９】発信機・受信機による放射毒性の利用軽減状態図
【図１００】送電線の電磁波消去利用図例
【図１０１】内視鏡による目視確認施術にアルカリ性電子を利用する状態透視図
【図１０２】レーザーを利用してアルカリ性電子を発する使用状態透視図
【図１０３】放射線誘導道を閉じない構造であるアルカリ性放射器の透視図横断面図
【図１０４】請求項４・５・３６や２００６．１２．１４出願の請求項１３・１４・１５その他の関連組み合わせの請求項で成す放射基本技術アルカリ性電子放射器図
【図１０５】アルカリ度等確認測定ができるアルカリ性電子放射器図
【図１０６】アルカリ性電子付加可能電子走査等顕微鏡使用状態図
【図１０７】宇宙電磁波防御アルカリ電子放射線設置使用状態図
【図１０８】自己施術範囲確認モーター付きアルカリ性電子放射器使用状態え図
【図１０９】細胞分裂促進用アルカリ性電子放射器使用図〔回転トリガーと磁気回転台付〕
【図１１０】装置先端の使い捨てジェル等パック例使用図
【図１１１】装置先端の詰め替え用注入針口付ジェル等のパック使用例図

【図１１２】装置先端が折曲平口状となりジェル保持多孔スポンジや光殺菌〔チタン系素材等〕素材を設置できたアルカリ性電子皮膚注入器の先端構造図
【図１１３】加速したりする方法でＬ型等壁の有る発射放射器で二重の放射口から別の電子を造り一方は、電子還元力が強いエネルギーを出し、一方は微細エネルギーを出す時間差を持たせた放射電子が電磁エネルギーの放射線酸化毒残を消す力を持つ、先にホーン形等、微細電子のフィルム放射膜等、設けた透析用二重発射電子口構造横断面図
【図１１４】人体照射
【図１１５】追加ボタン電池電源型
【図１１６】Ｌ型１００Ｖ　５０・６０ＨＺ追加電源型・小電力追加による素材中に混合の（箱型）エネルギータイプ
【図１１７】小電力追加の素材通過エネルギー
【図１１８】車内放射線除去装置
【図１１９】エアコン等空気正常器
【図１２０】清掃用器具・ダクト設置図
【図１２１】ジューサー・ミキサー応用図
【図１２２】食品ロス改善庫・冷蔵庫図
【図１２３】長寿サウナ・長寿命風呂（アルカリ性電子サウナ・風呂）
【図１２４】浄水器（アルカリ性電子水・命活性水素水）
【図１２５】漁用水槽、（アルカリ性電子水漁槽）
【図１２６】汚染物質の放射能除去状態図
【図１２７】箱型アルカリ性電子（追加電子１００Ｖ　５０・６０ＨＺ）
【図１２８】核燃料廃棄物除染場　槽の中に水又は蒸気を持たせアルカリ電子放射器を放射。
【図１２９】自宅の空間の除染を行なえる壁を設置の図。
【図１３０】無線飛行機による積乱雲中のカミナリ電子の除去（異状気候の回善）・大雨や竜巻除去
【図１３１】地上からのアルカリ性電子放射による気候改善
【図１３２】電子絵図（種類・合線・超小塊イオン）
【図１３３】原子炉内部漏れ放射能除去
【図１３４】積置素材エアー通過による空気除染
【図１３５】土壌放射能汚染改善車。
【図１３６】海上（陸上）空気汚染改善器（風力・水力・太陽光応用）
【図１３７】設定Ｖ・設定周波数スイッチ付追加エネルギー
【図１３８】照射時間・間欠（無照射時間）設定スイッチ付追加エネルギー
【図１３９】設定Ｖ・設定周波数切換スイッチと照射時間・間欠（無照射時間）切換スイッチ付追加エネルギー
【図１４０】素材通路通過電子　アルカリ性電子放射器エネルギー図
【図１４１】電磁波絵図
【図１４２】ウラン２３８の崩壊図（図書参考）
【図１４３】アルカリ性電子発生器
【図１４４】リン酸化チロシン・リン酸化トレオニン　リン酸化セリン
【図１４５】ダイオード平滑回路　波型
【図１４６】ブリッヂダイオード回路
【手続補正２】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】全図
【補正方法】変更
【補正の内容】

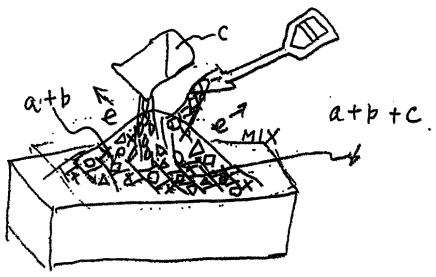
【図１】



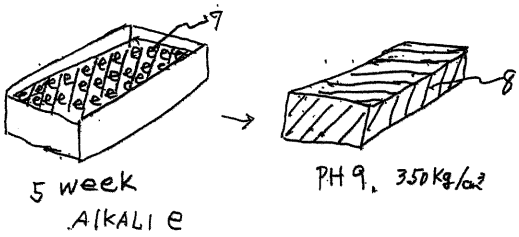
【図２】



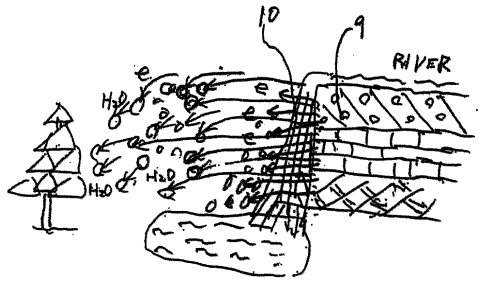
【図３】



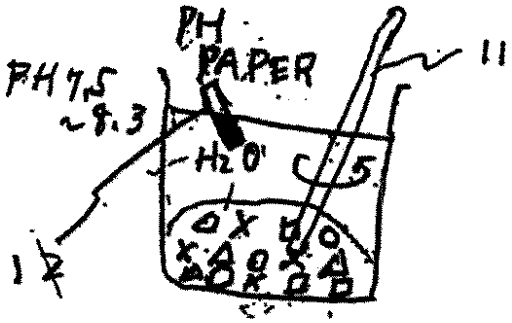
【図４】



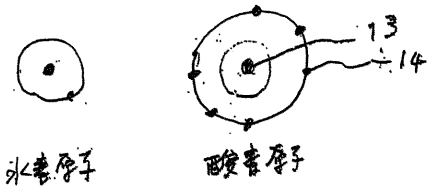
【図５】



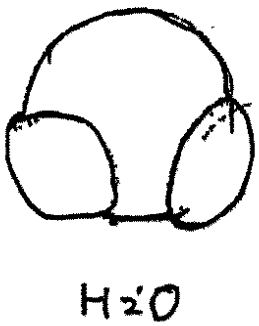
【図６】



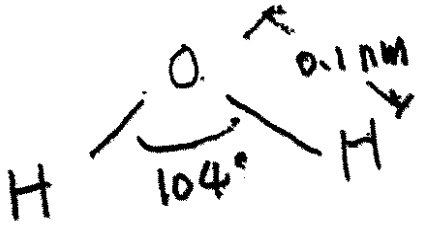
【図７】



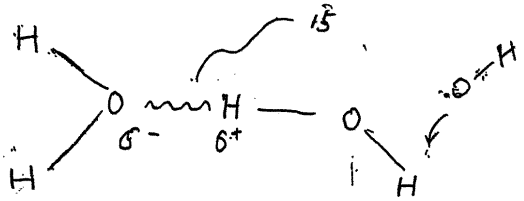
【図８】



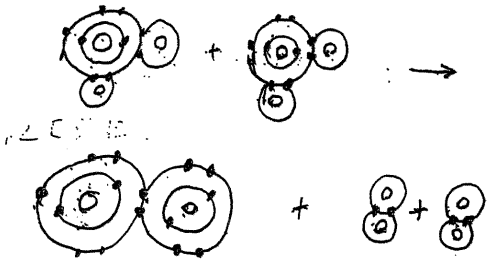
【図９】



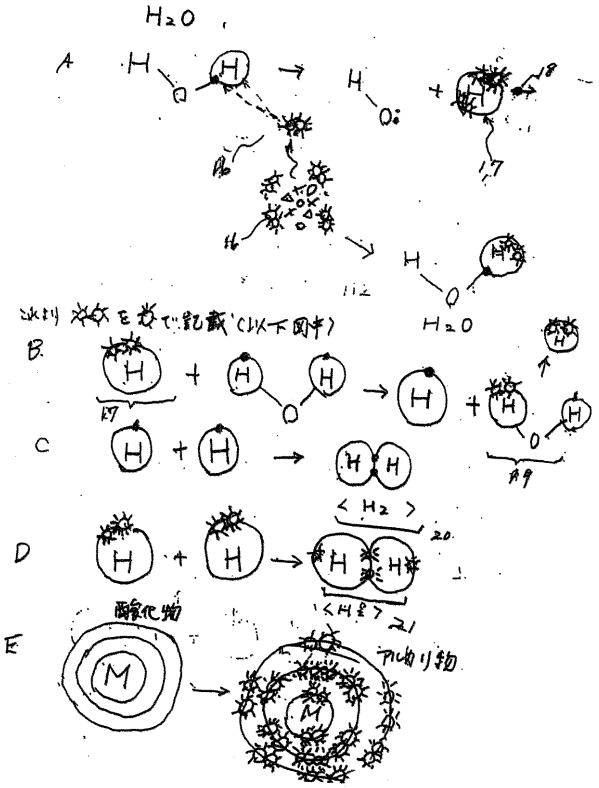
【図１０】



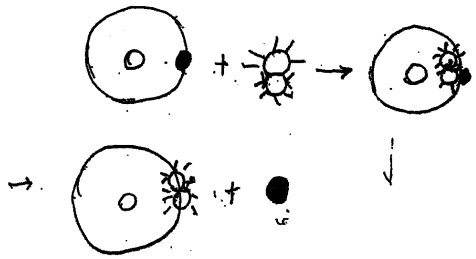
【図１１】



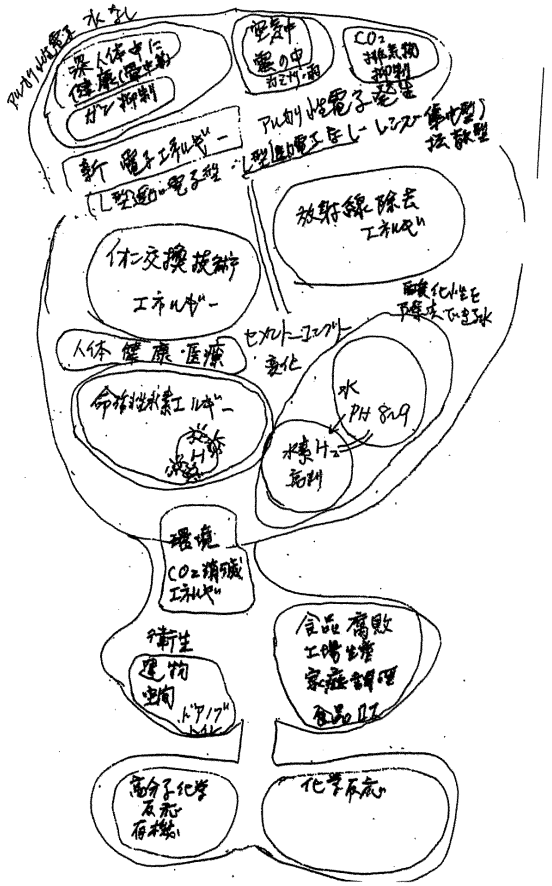
【図１４】



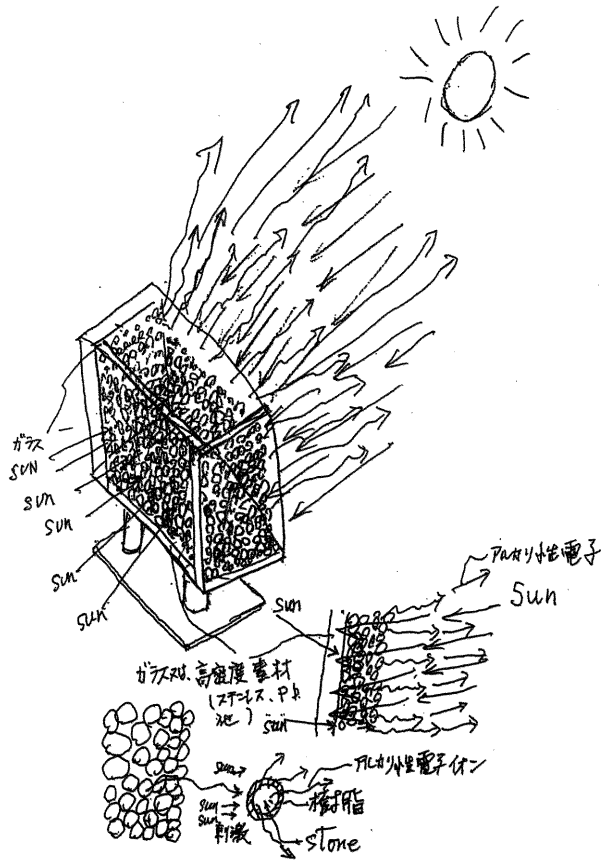
【図１５】



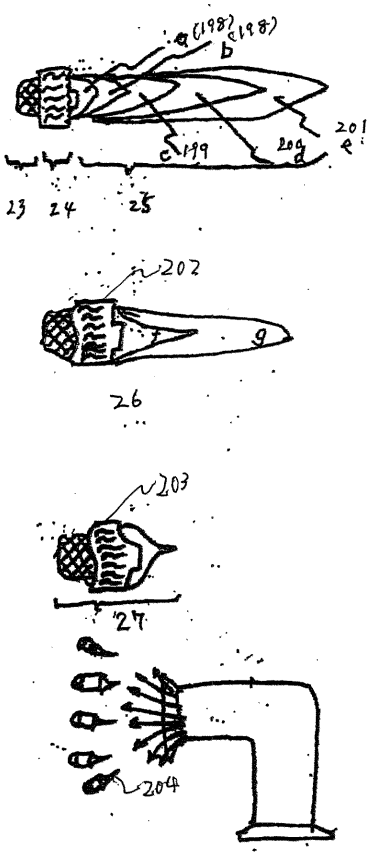
【図１６】



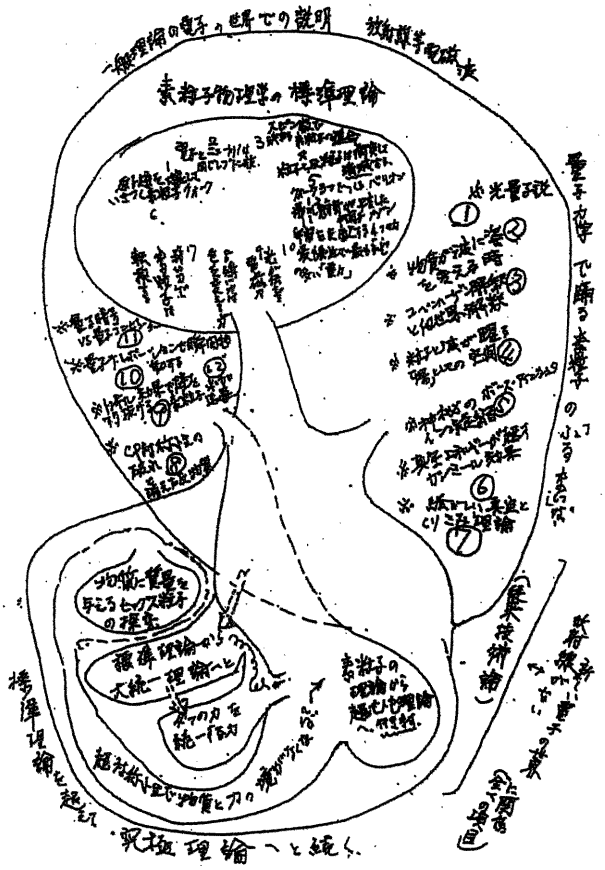
【図１７】



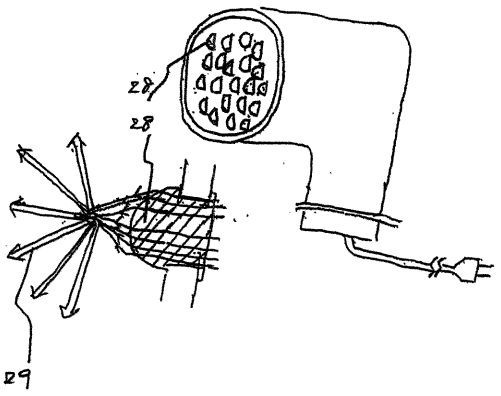
【図１８】



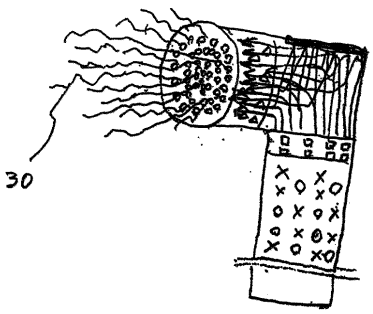
【図１９】



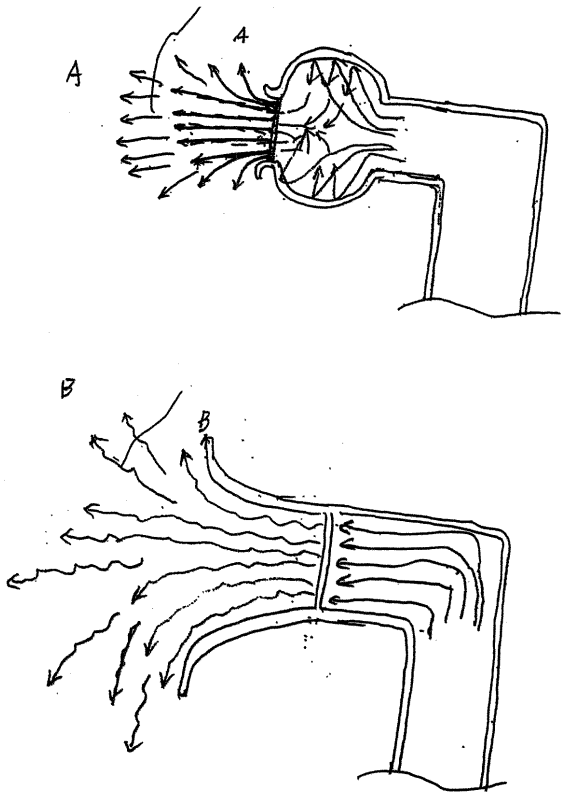
【図２０】



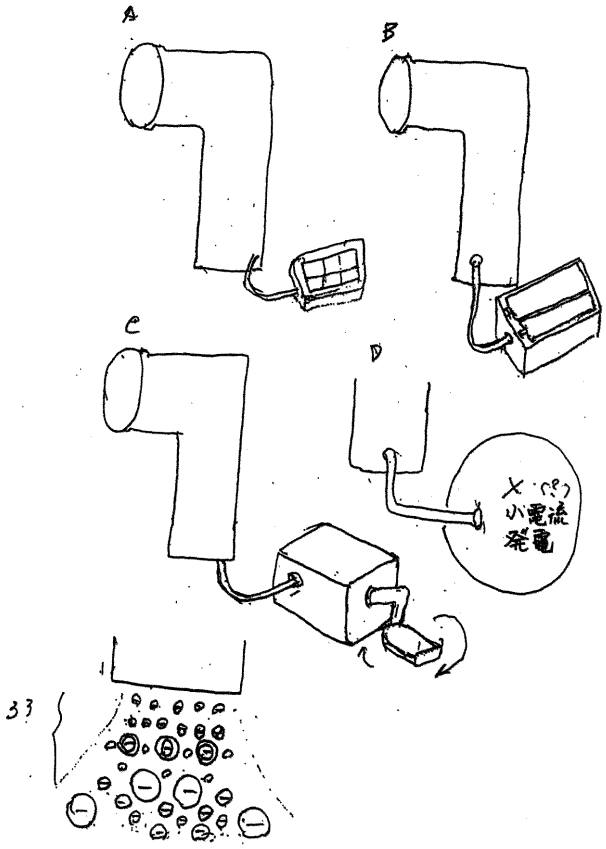
【図２１】



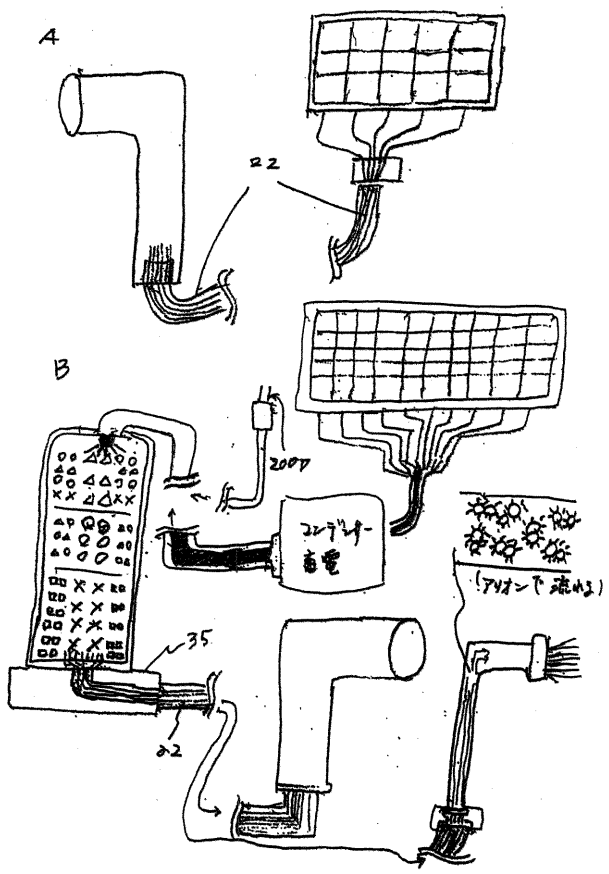
【図２２】



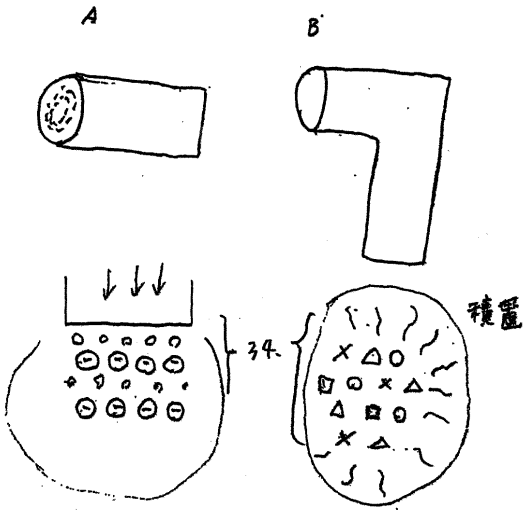
【図２３】



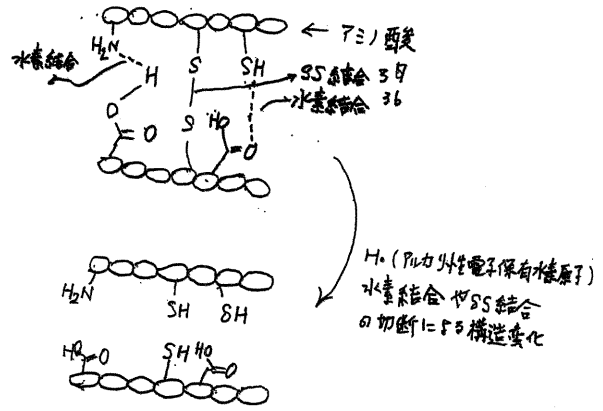
【図２４】



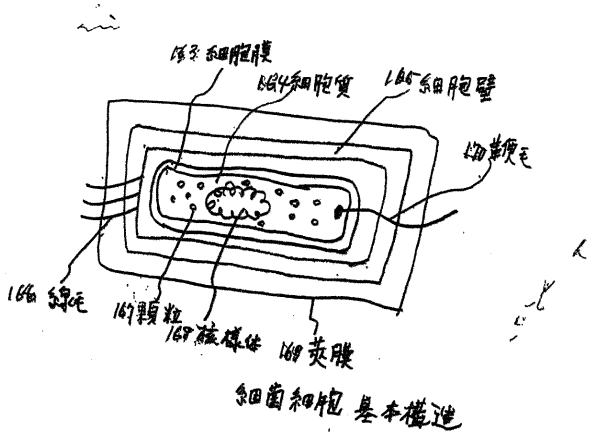
【図２５】



【図２６】

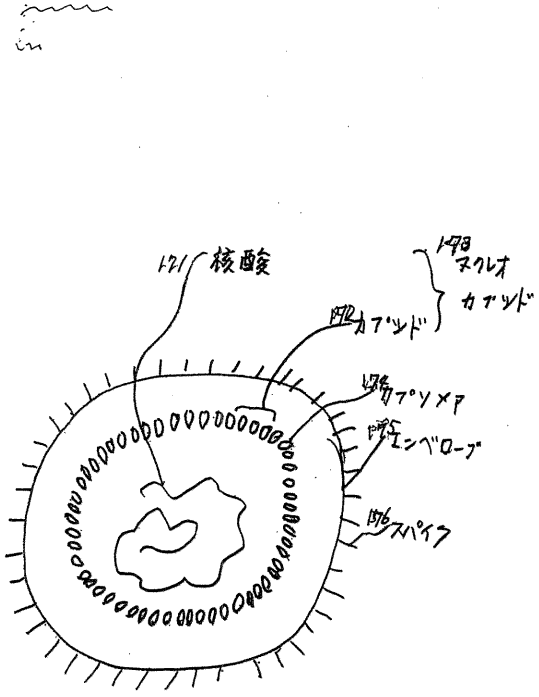


【図２７Ａ】



細菌細胞 基本構造

【図２７Ｂ】

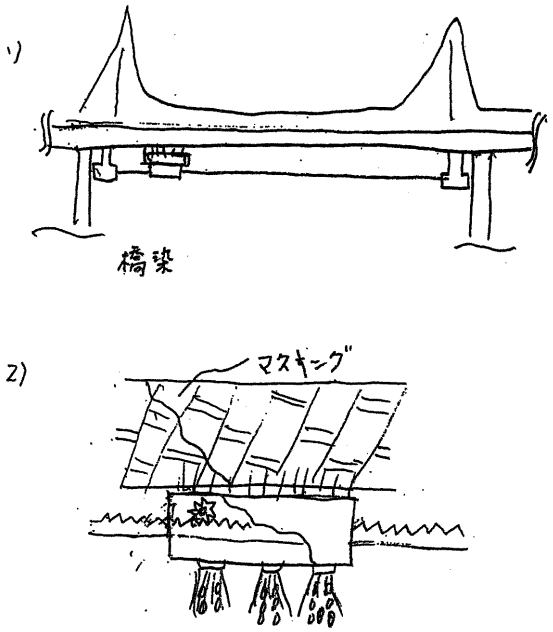


ウィルス 基本構造

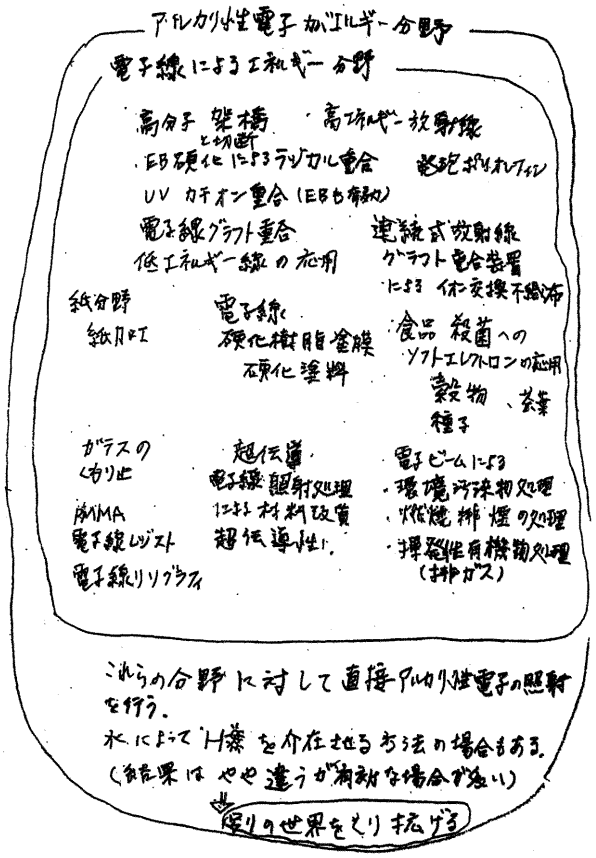
【図２８】

チャネル	Na^+チャネル 細胞外→細胞内にK^+を通過させる．電位依存性 リガンド(Ca^{2+}, cGMP)結合型がある．活動電位の発生に関与，腎臓におけるNa^+の再吸収に関与 K^+チャネル 細胞内→細胞外にK^+を通過させる 電位依存型 リガンド(Ca^{2+}, Gタンパク質，ATP)結合型．直列ポアドメイン型がある． 膜電位の発生 活動電位の発生に関与．腎臓におけるK^+の輸送に関与 Ca^{2+}チャネル 細胞外→細胞内または小胞体→細胞質ゾルにCa^{2+}を通過させる電位依存型，リガンド(Ca^{2+}, IP_3)結合型がある．筋小胞体からCa^{2+}を放出して筋収縮を誘発，神経終末でCa^{2+}を流入させて神経伝達物質を放出． Cl^-チャネル 腎臓におけるCl^-再吸収に関与
キャリア	単輸送タイプ；グルコース輸送体，GLUT ファミリー 共輸送タイプ：H^+/ラクトース（ラクトースの取込み腸管），$Na^+/K^+/Cl^-$（，Na^+/グルコース（グルコースの取込み，腎），Na^+/Cl^-/GABA（神経伝達物質の回収，中枢神経系） 対向輸送タイプ：$3Na^+/Ca^{2+}$（Ca^{2+}調節：筋肉）ADP/ATP（ADP・ATP交換，ミトコンドリア）Na^+/H^+(PH調節，腎臓・腸）HCO_3^-/Cl^-(PH調節，赤血球)
ポンプ	・P型ATPアーゼ：ミトコンドリアと葉緑体でATP合成 ・V型ATPアーゼ：リソソームへのH^+取込み，細胞外へのH^+排出， ・Na^+/K^+-ATPアーゼ：3Na^+/2K^+対向輸送，細胞内外でのNa^+/K^+勾配の維持 ・H^+/K^+-ATPアーゼ：H^+/K^+対向輸送，胃と腎臓におけるH^+の排出， ・PMCA Ca^{2+}-ATPアーゼ：Ca^{2+}/H^+対向輸送，細胞内Ca^{2+}濃度維持，細胞膜に存在 ・CFTR：ATP/Cl^-，Clの分泌，気管上皮，膵管，腸管上皮 ・MDR1：薬物を細胞外に排出

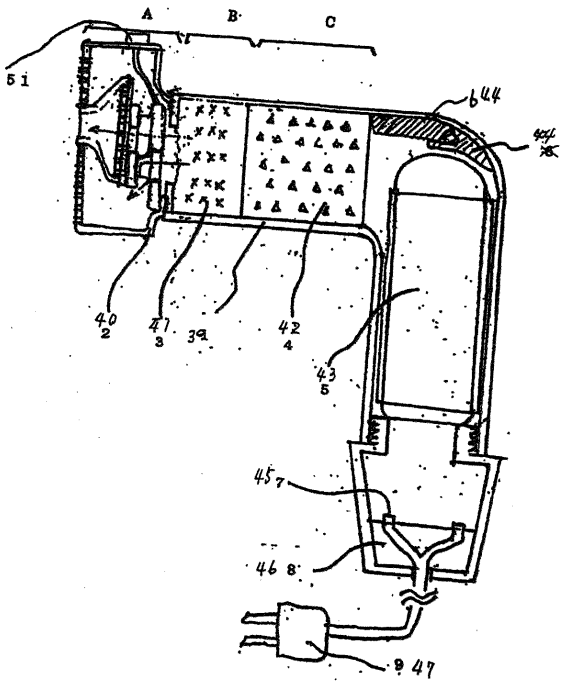
【図２９】



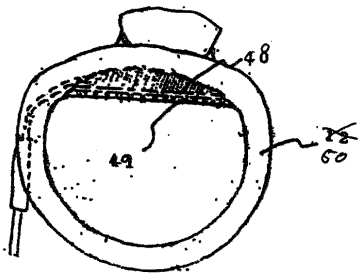
【図３０】



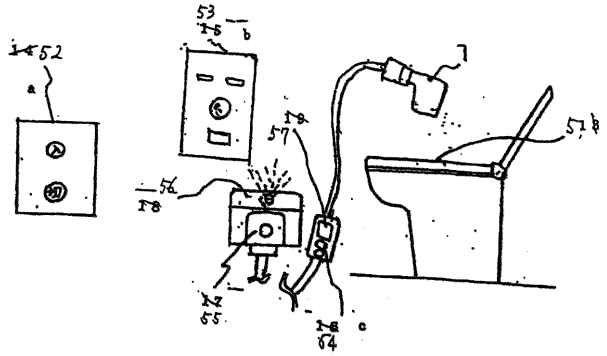
【図３１】



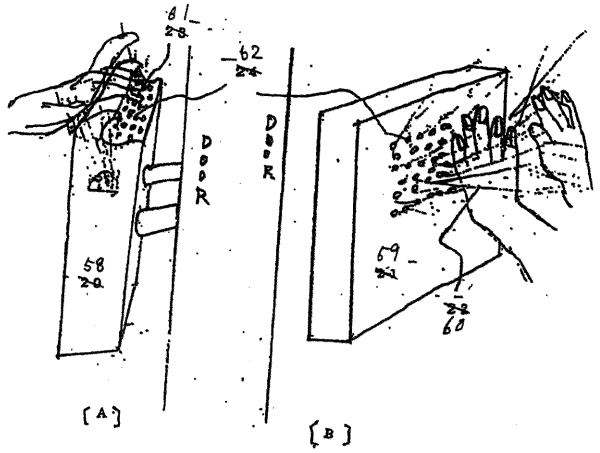
【図３２】



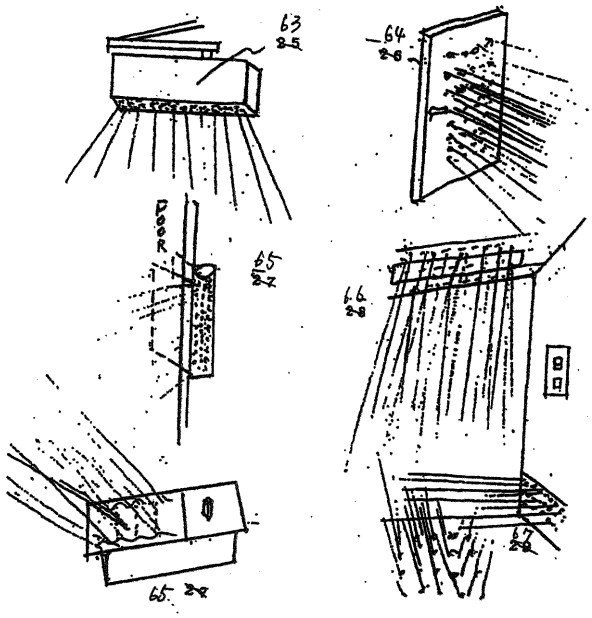
【図３３】



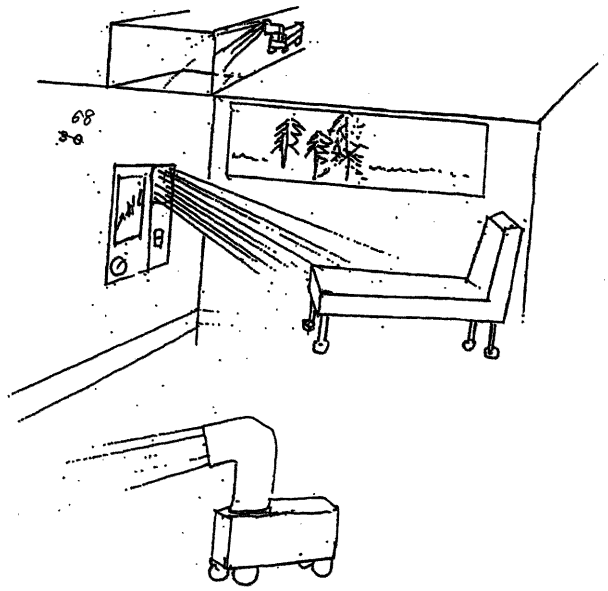
【図３４】



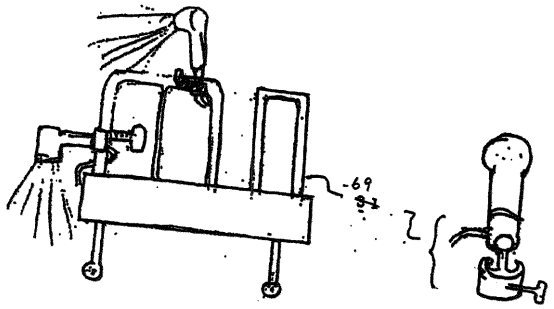
【図３５】



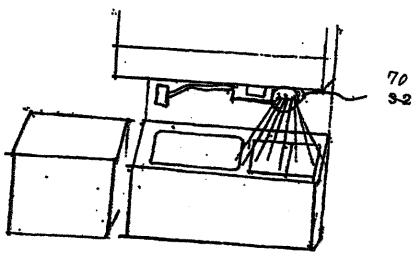
【図３６】



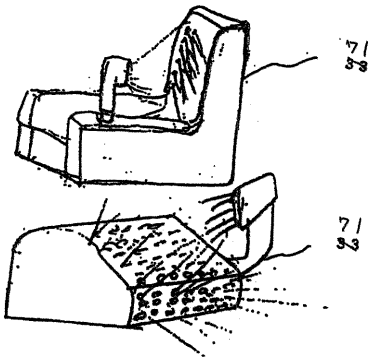
【図３７】



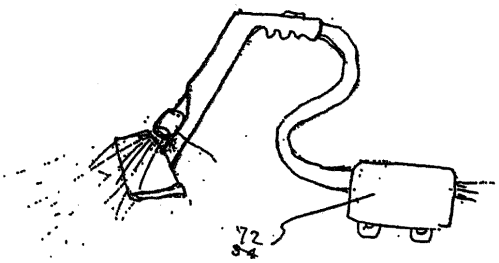
【図３８】



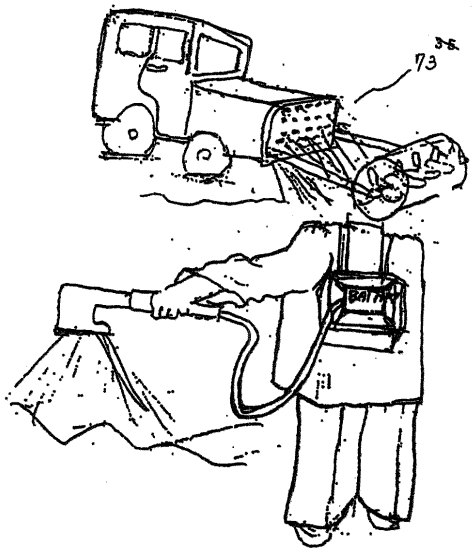
【図３９】



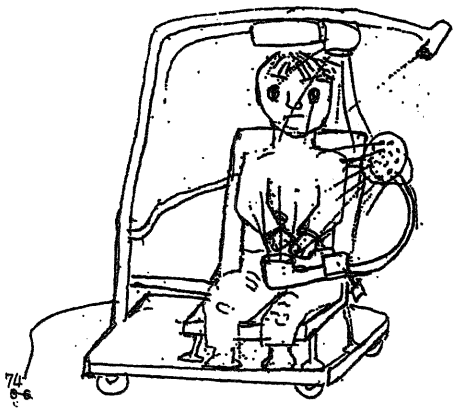
【図４０】



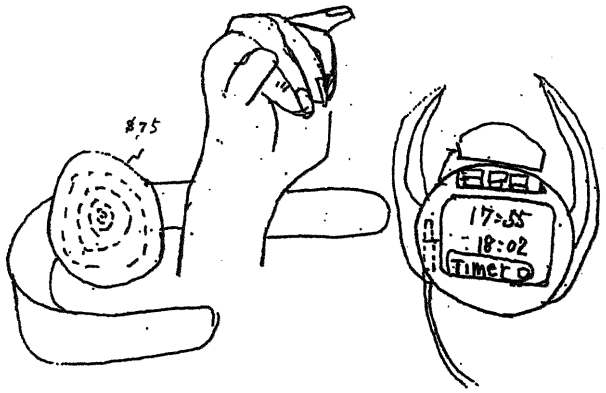
【図４１】



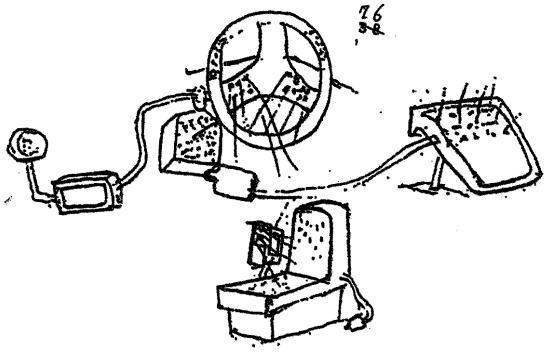
【図４２】



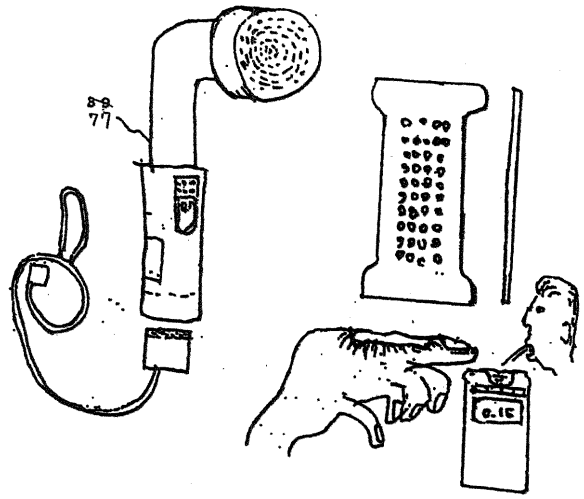
【図４３】



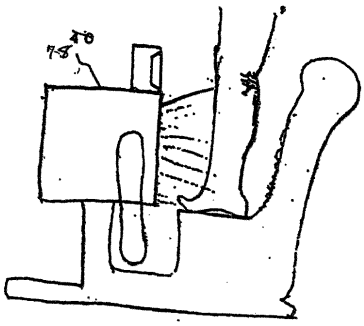
【図４４】



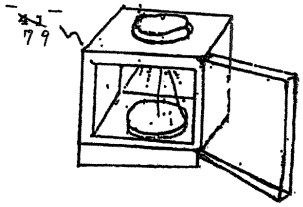
【図４５】



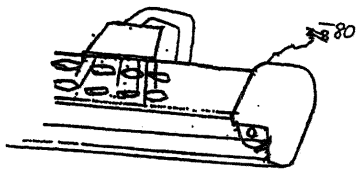
【図４６】



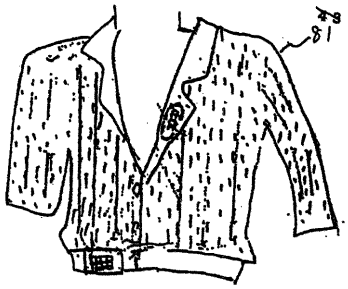
【図４７】



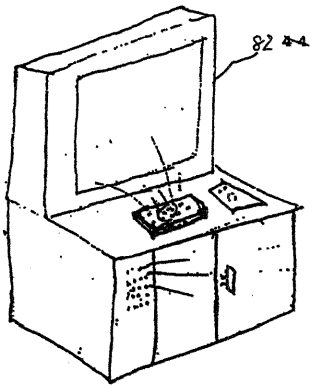
【図４８】



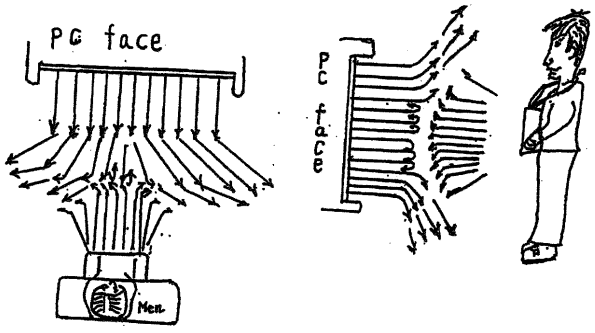
【図４９】



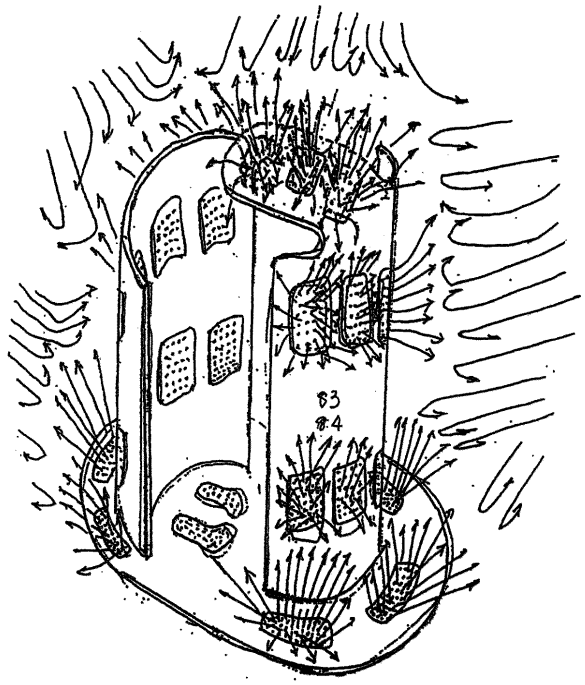
【図５０】



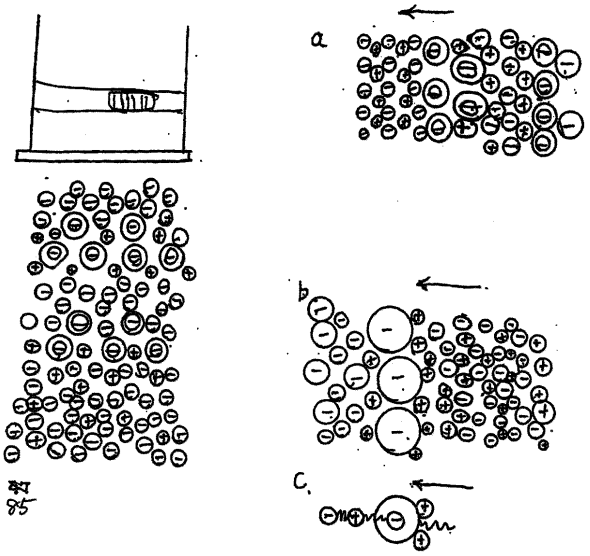
【図５１】



【図５２】



【図５３】

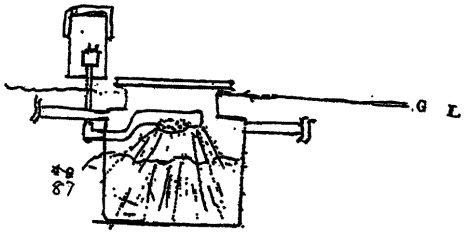


【図５４】

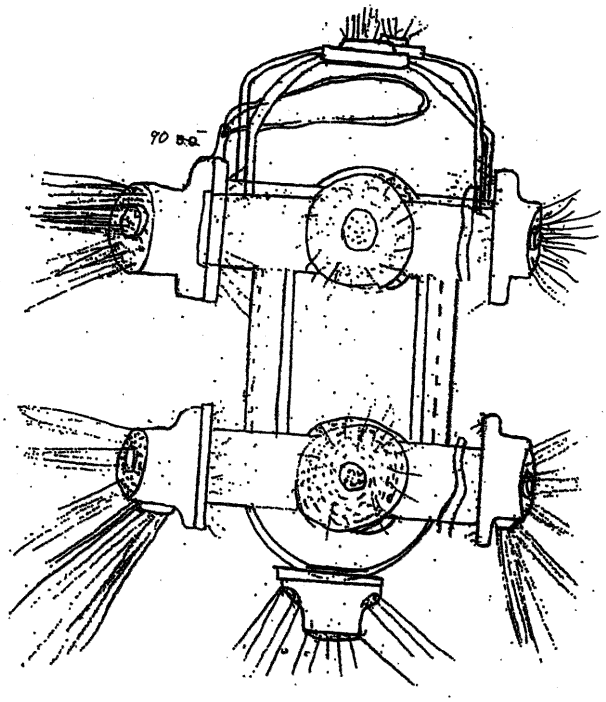
[体重70kgの人の体内存在量]

O 15.5kg	Si 2kg	Se 12mg
C 12.6kg	Zn 2kg	I 11mg
H 7.00kg	Sr 320mg	Mo 10mg
N 2.1kg	Ru 320mg	Ni 10mg
Ca 105kg	Br 200mg	B 10mg
P 0.7kg	Pb 120mg	Cr 2mg
S 175g	Mn 100mg	As 2mg
K 140g	Cu 80mg	Co 1.5mg
Na 105g	Al 60mg	W 0.2mg
Cl 105g	Cd 50mg	
Mg 35g	Sn 20mg	
Fe 6kg	Ba 17mg	
F 3kg	Hg 13mg	

【図５５】



【図５６】

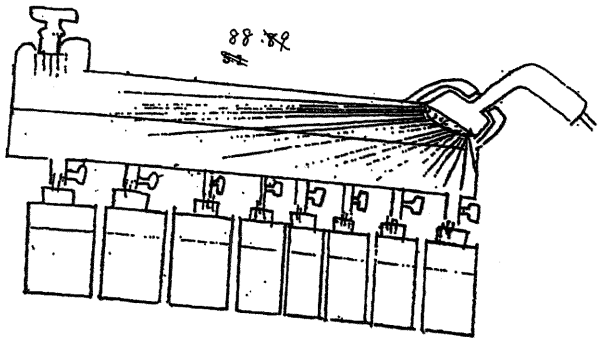


【図５７】

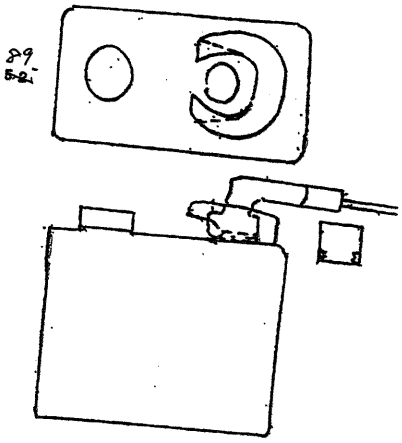
（利用法一覧）

	日常異常	病症	介護	美容	殺菌	備考
1	筋肉痛・ケイレン	四十肩・五十肩	認障害	肌	MRSA	電磁波よけ
2	寝ヂガイ 肩こり	ヘルニア・腰痛	言語障害	筋力回復	一般細菌 カゼウイルス	γ線対策
3	ギックリ腰 打身・ヤケド	肩こり・脳梗性	足マヒ・手マヒ	スリム	衛生管理 （トイレ・病室用）	浄化後のニオイ
4	胸ヤケ・二日酔 アルコール除去	視力・眼内障 白内障	神経痛 視力障害	ヒキシメ	フトン消毒 電磁波害	外界のニオイ
5	不眠症・船酔い 頭痛	ヒザ・足 血管・心肺	痴ぼう・しっきん ふらつき	筋力再生 こり回復	農薬（土細菌・害虫） 食品鮮度	気つけ・不快 冷症

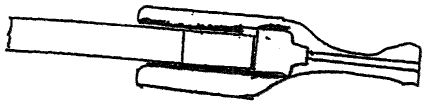
【図５８】



【図５９】



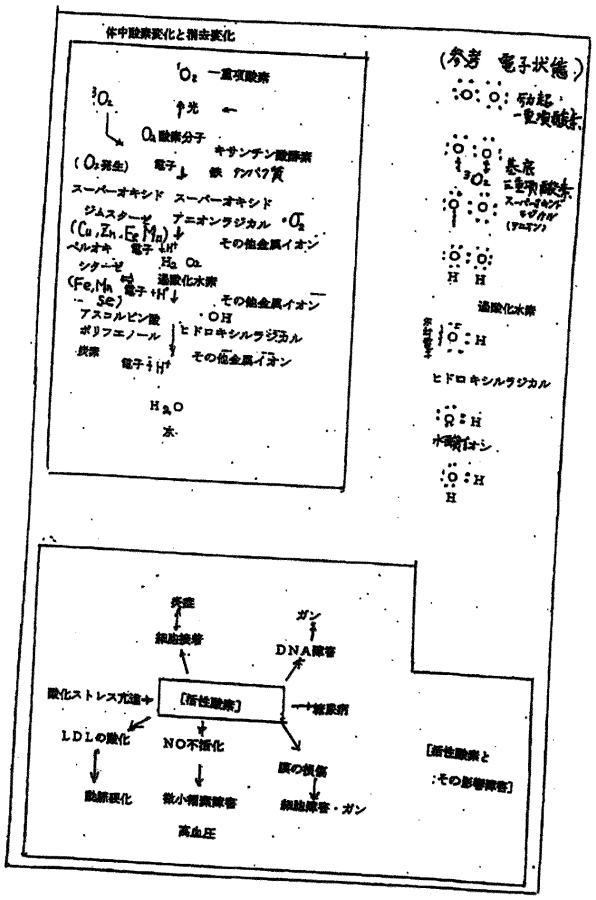
【図６０】



【図６１】



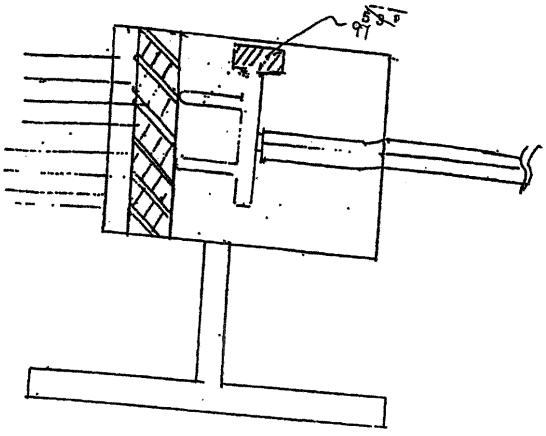
【図６２】



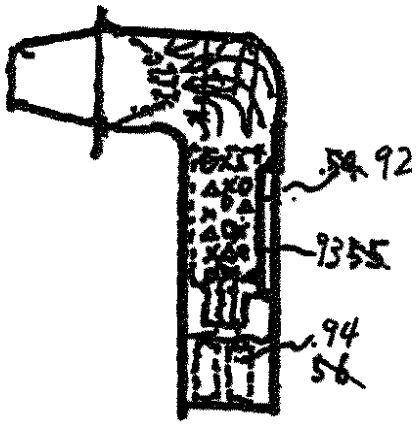
【図６３】

元素	発生酵素	（欠乏障害）
鉄 Fe	ヘモグロビン 鉄 イオウタンパク質 ミオグロビン	（貧血症・脱毛・視覚減退）
亜鉛 Zn	カルボキシペプチターゼ サーモリシン スーパーオキシドジムスターゼ	（食欲不振・成長抑制・知能障害）
銅 Cu	セルロプラスミン スーパーオキシドジムスターゼ	（栄養疾患・成長減退・貧血・メンケス病）
セレン Se	アスコルビン酸オキシターゼ メタロチオネイン グルタチオンペルオキシターゼ	
マンガン Mn	コンカナバリン アルカリホスファターゼ スーパーオキシドジムスターゼ	（糖尿病・筋萎縮力症・動脈硬化発育障害）
モリブデン Mo	キサンチンオキシダーゼ ニトロゲナーゼ 硝酸レダクターゼ	（成長・食欲ガン・性欲不振・虫歯）
ニッケル Ni	ウレアーゼ	
バナジウム V	ブロモペルオキシダーゼ	
カドニウム Cd	メタロチオネイン	
コバルト Co	ビタミン B12	（貧血症・体重減少）

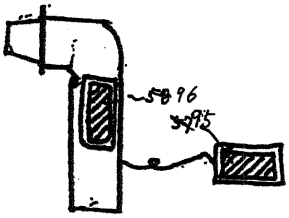
【図６４】



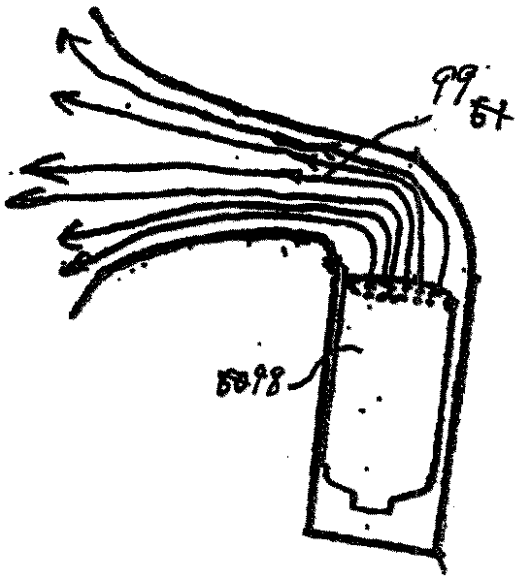
【図６５】



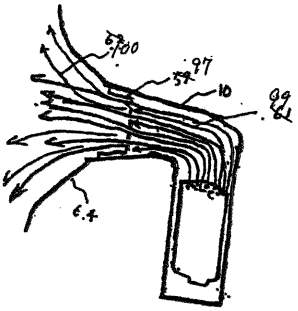
【図６６】



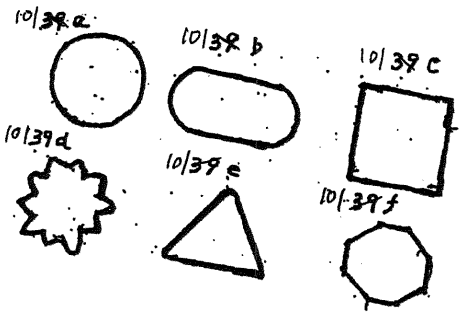
【図６７】



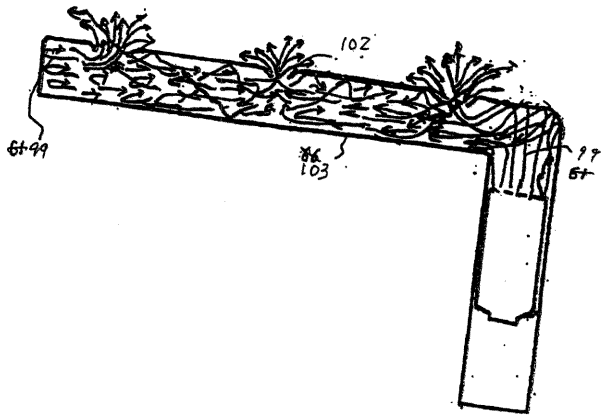
【図６８】



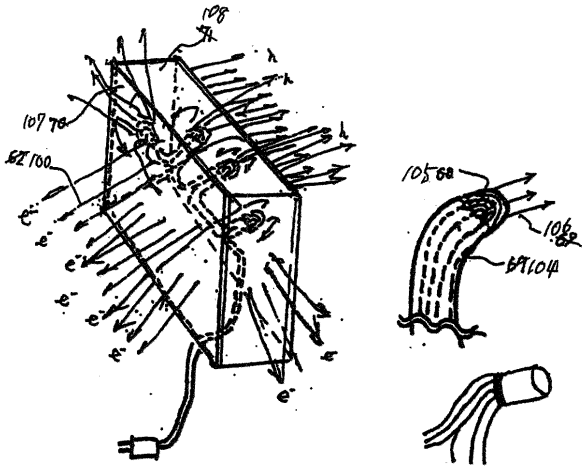
【図６９】



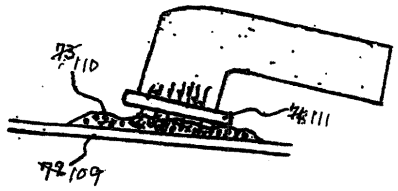
【図７０】



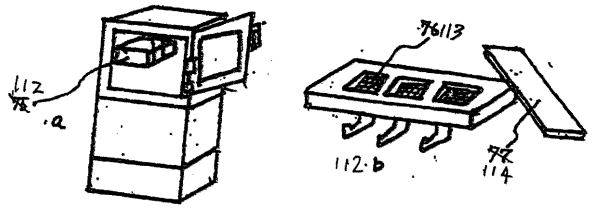
【図７１】



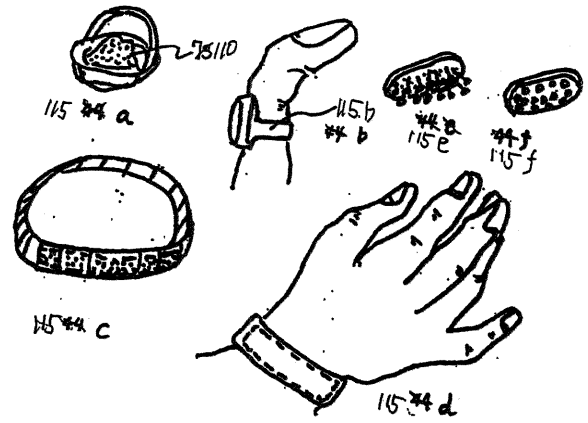
【図７２】



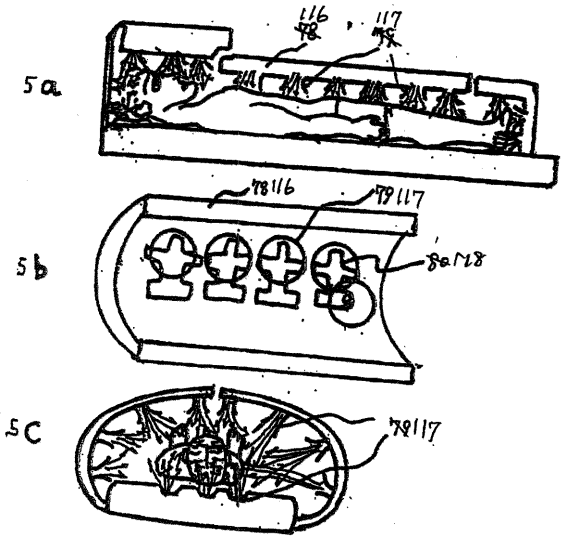
【図７３】



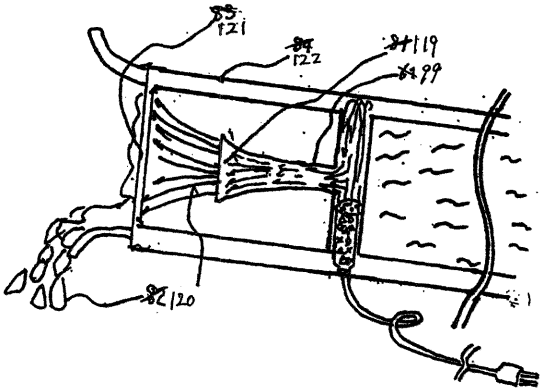
【図７４】



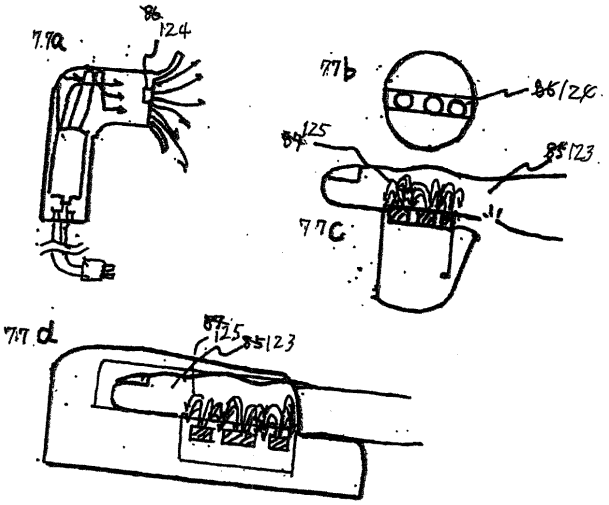
【図７５】



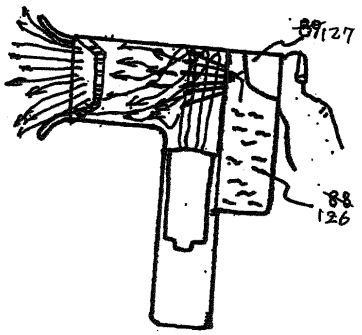
【図７６】



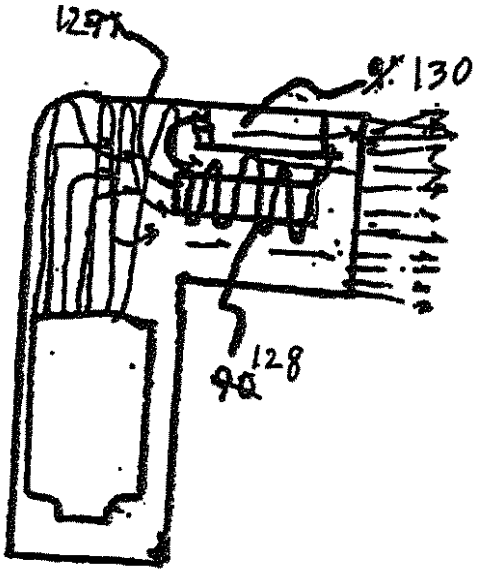
【図７７】



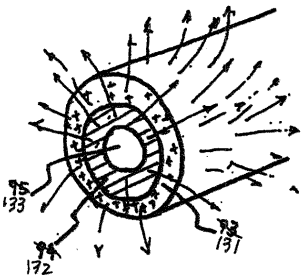
【図７８】



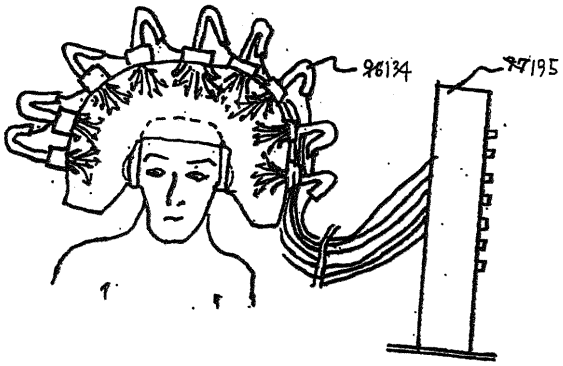
【図７９】



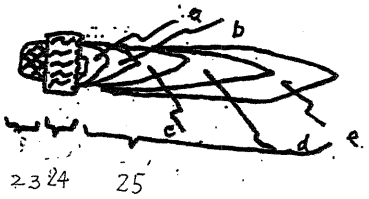
【図８０】

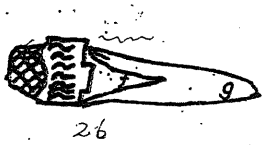


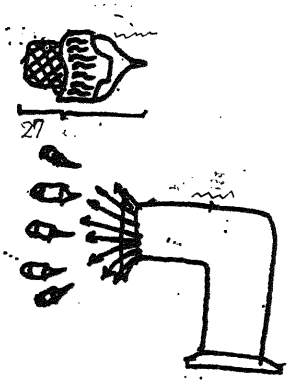
【図８１】



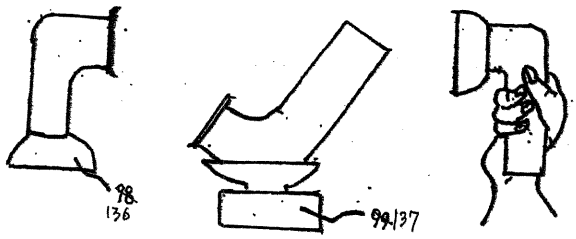
【図８２】



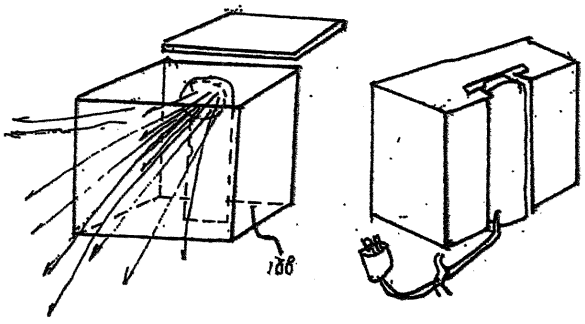




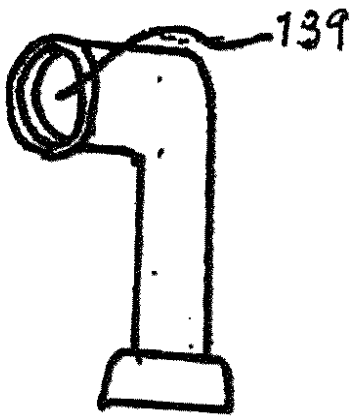
【図８３】



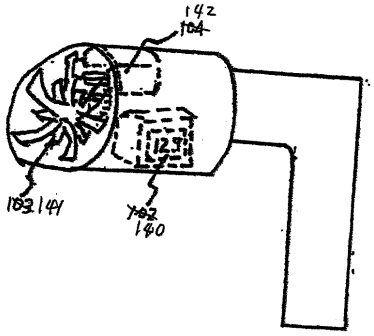
【図８４】



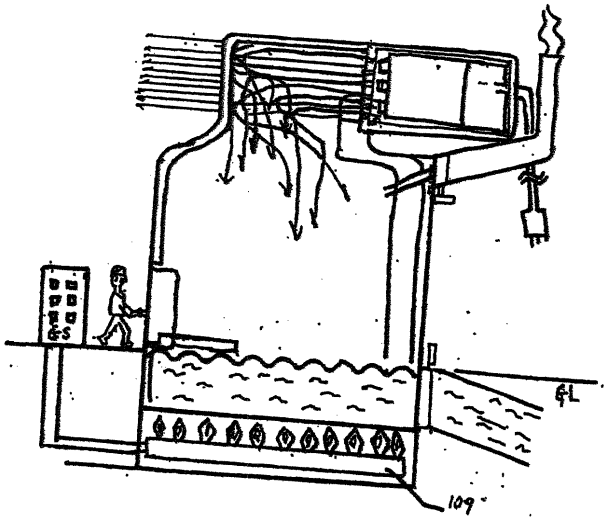
【図８５】



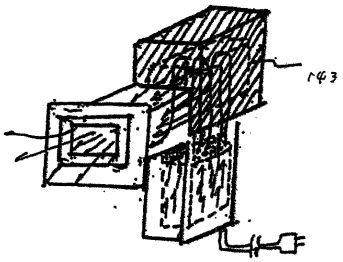
【図８６】



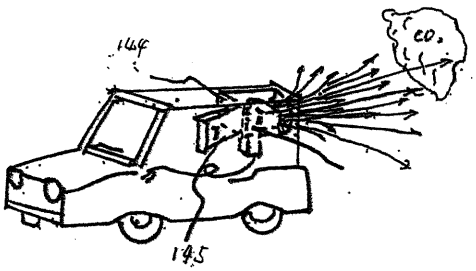
【図８７】



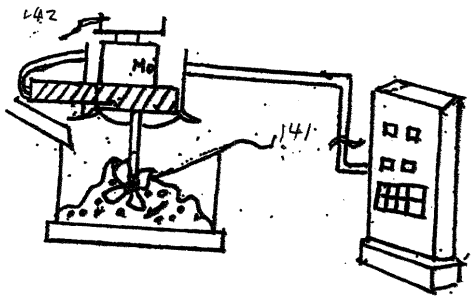
【図８８】



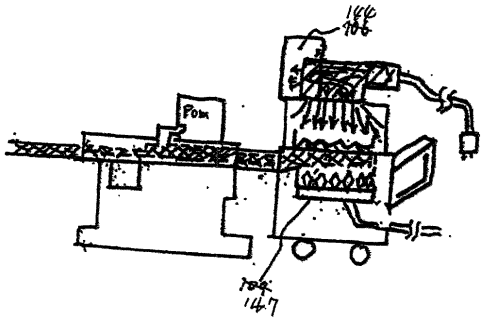
【図８９】



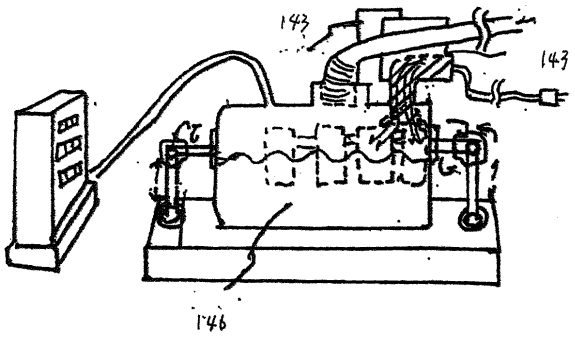
【図９０】



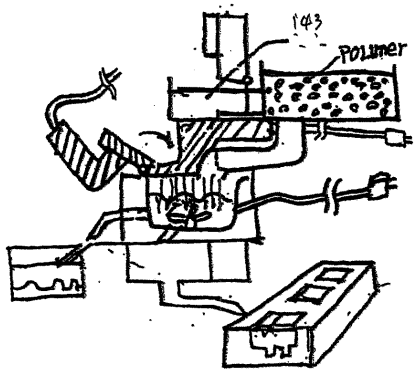
【図９１Ａ】



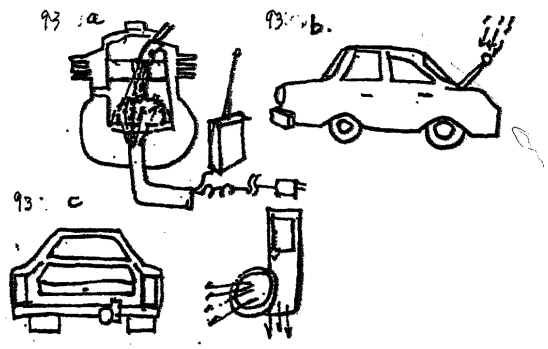
【図９１Ｂ】



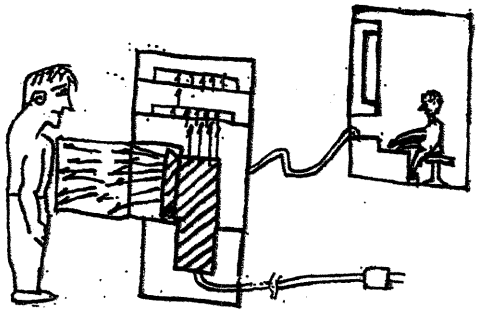
【図９２】



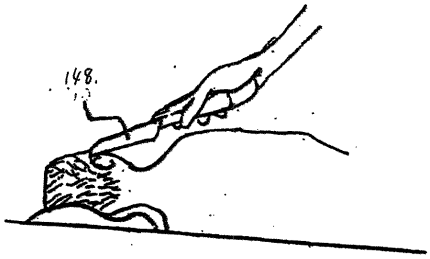
【図９３】



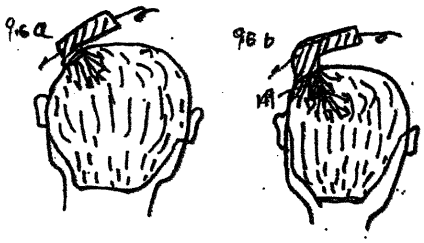
【図９４】



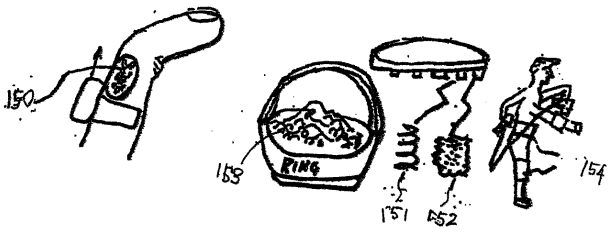
【図９５】



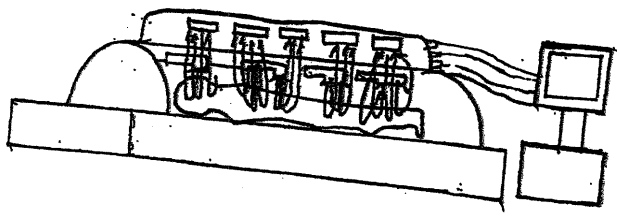
【図９６】



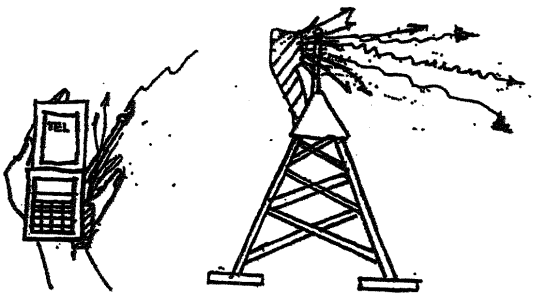
【図９７】



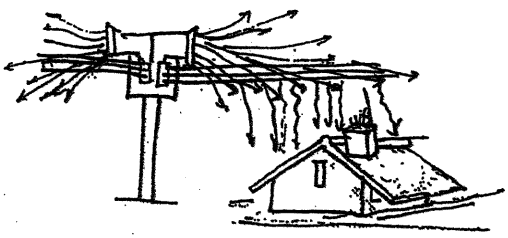
【図９８】



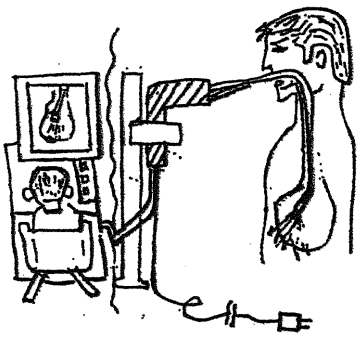
【図９９】



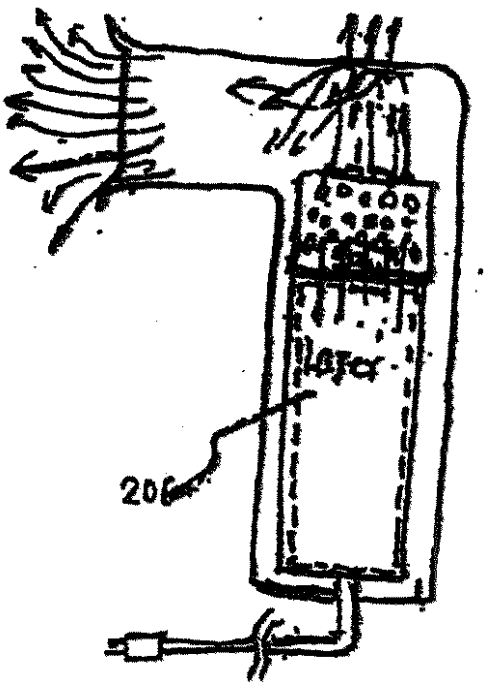
【図１００】



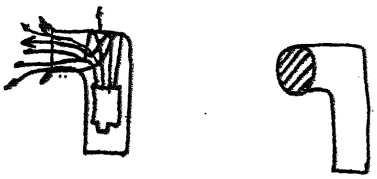
【図１０１】



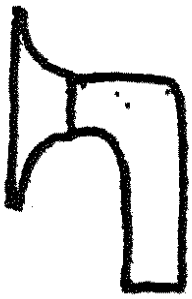
【図１０２】



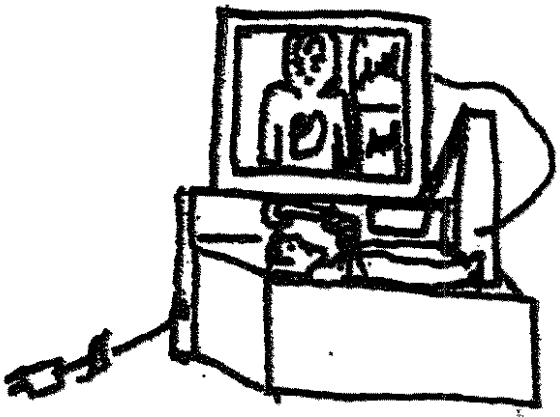
【図１０３】



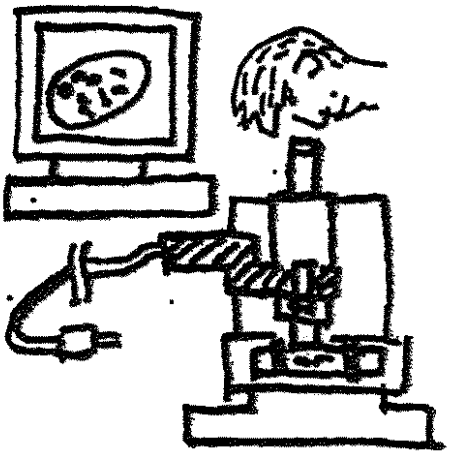
【図１０４】



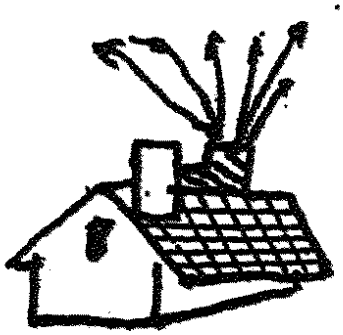
【図１０５】



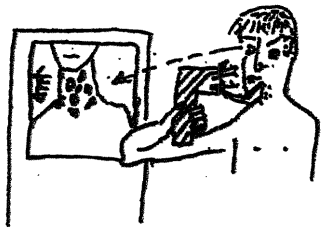
【図１０６】



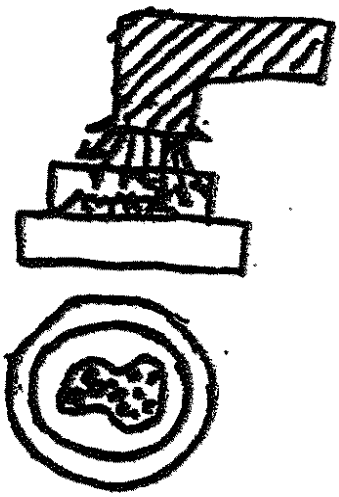
【図１０７】



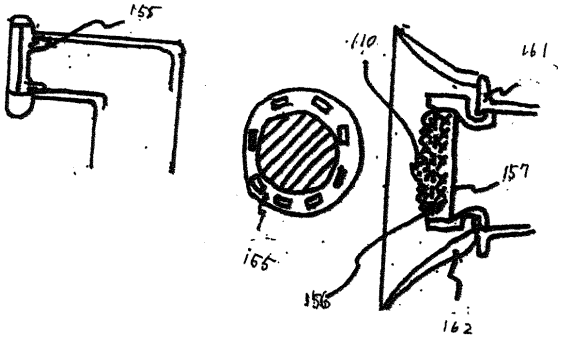
【図１０８】



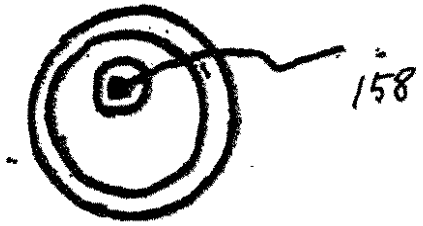
【図１０９】



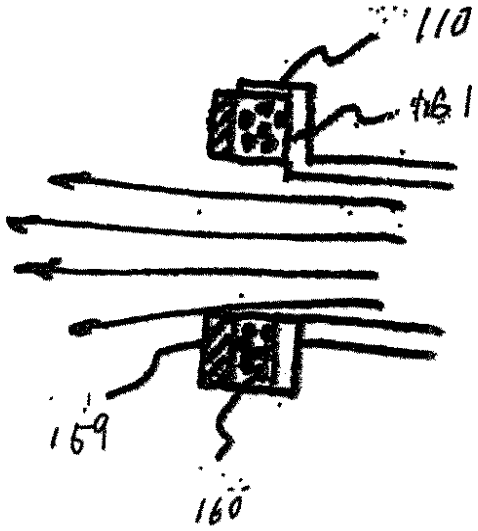
【図１１０】



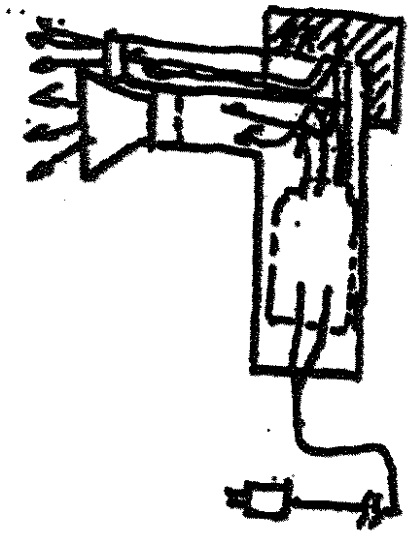
【図１１１】



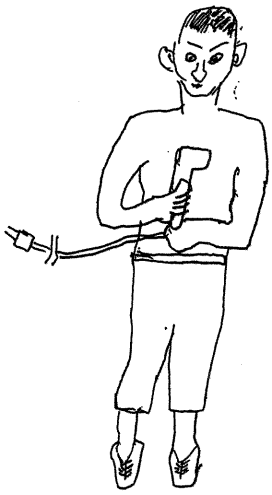
【図１１２】



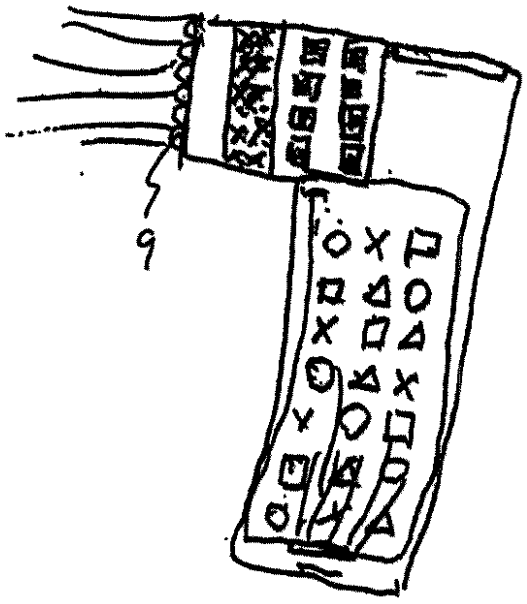
【図１１３】



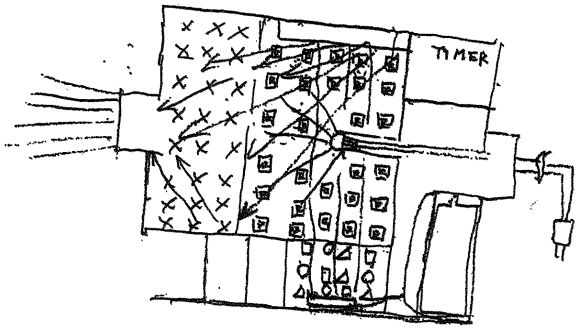
【図１１４】



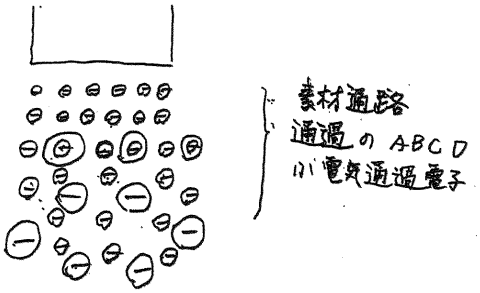
【図１１５】



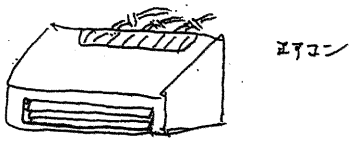
【図１１６】



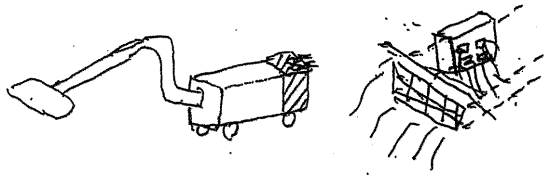
【図１１７】



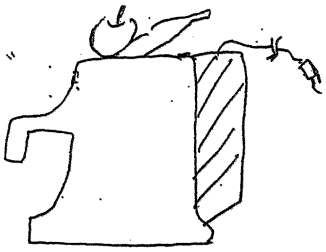
【図１１９】



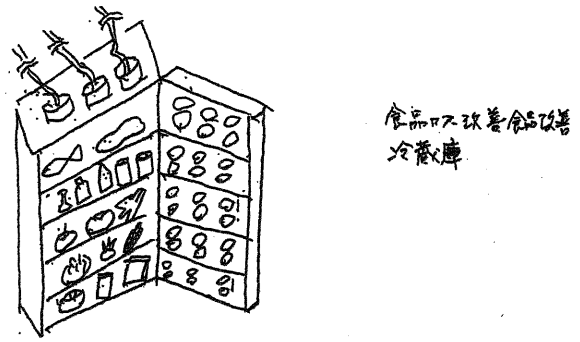
【図１２０】



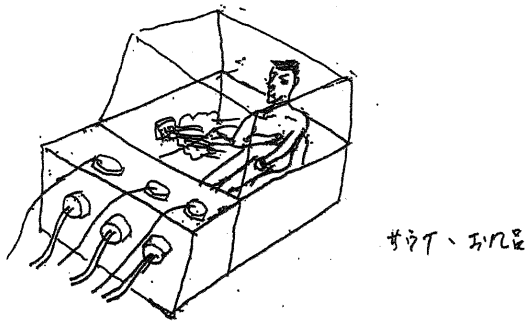
【図１２１】



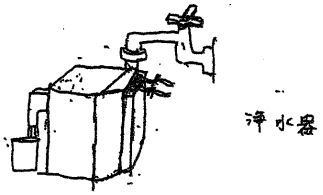
【図１２２】



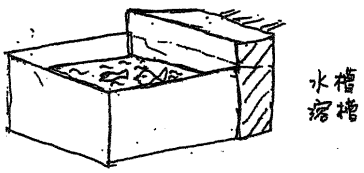
【図１２３】



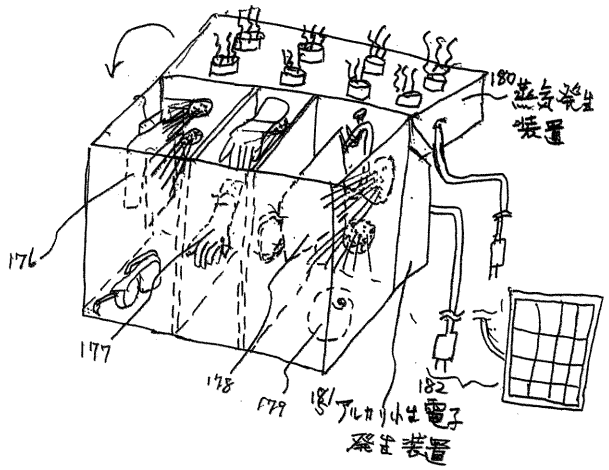
【図１２４】



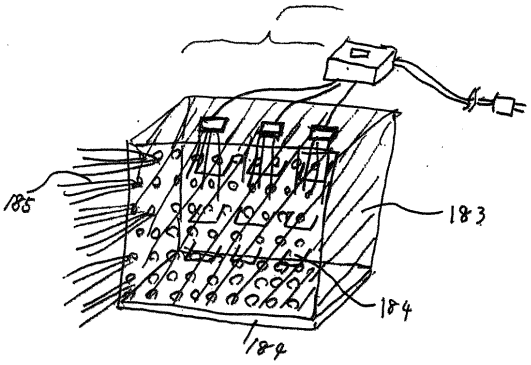
【図１２５】



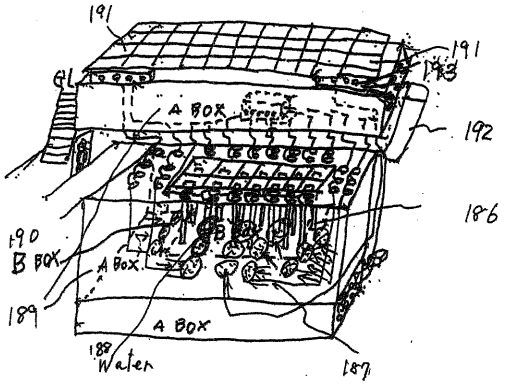
【図１２６】



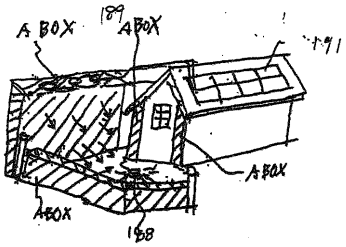
【図１２７】



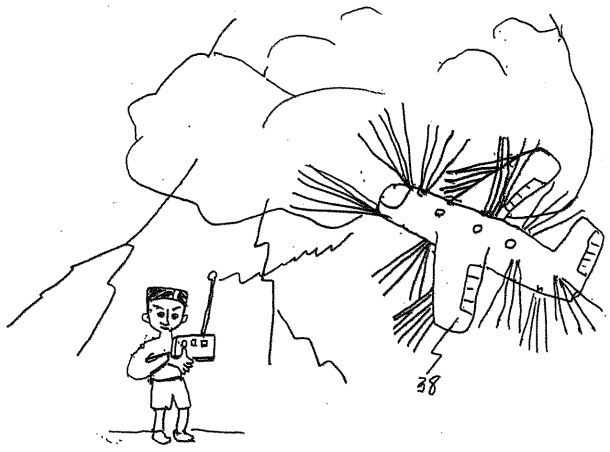
【図１２８】



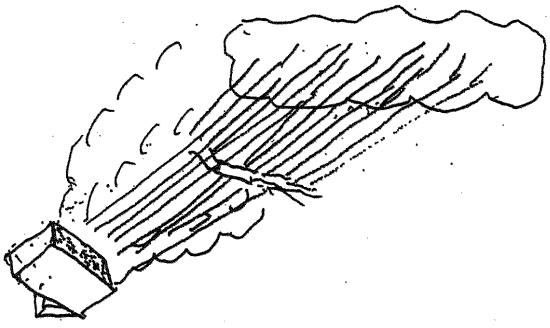
【図１２９】



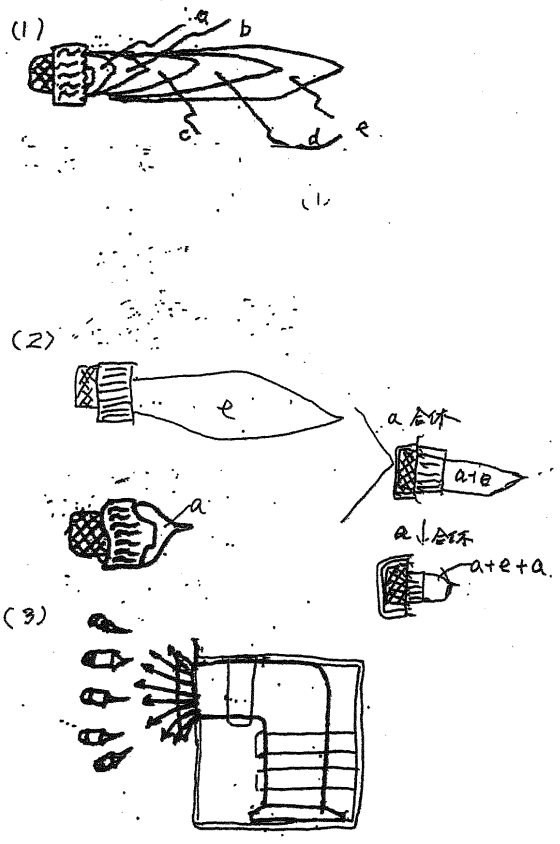
【図１３０】



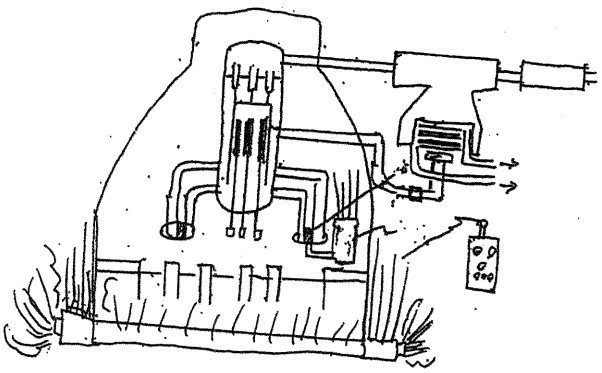
【図１３１】



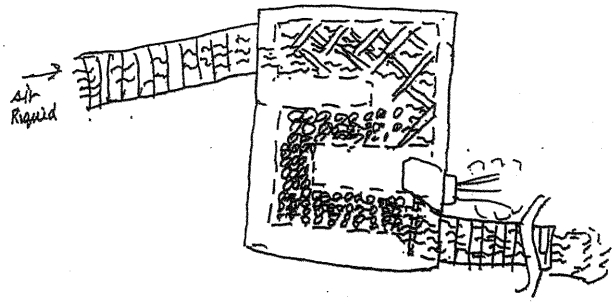
【図１３２】



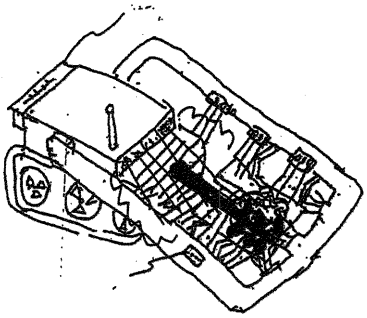
【図１３３】



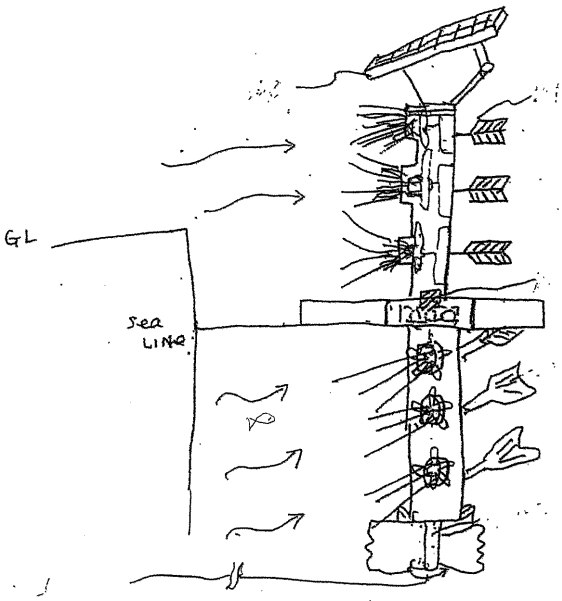
【図１３４】



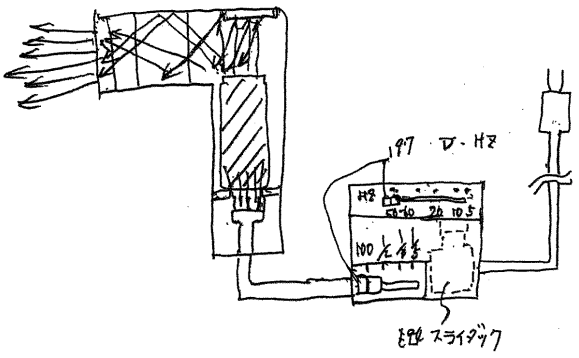
【図１３５】



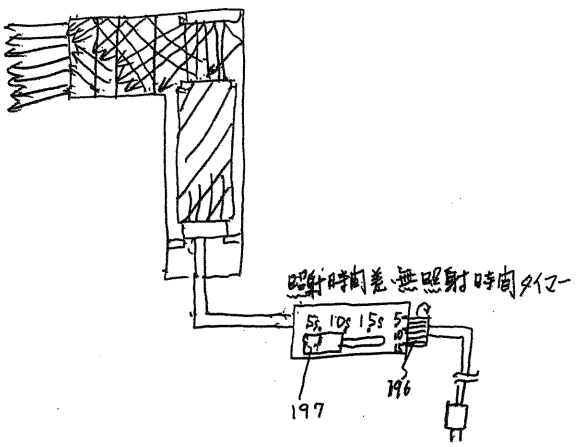
【図１３６】



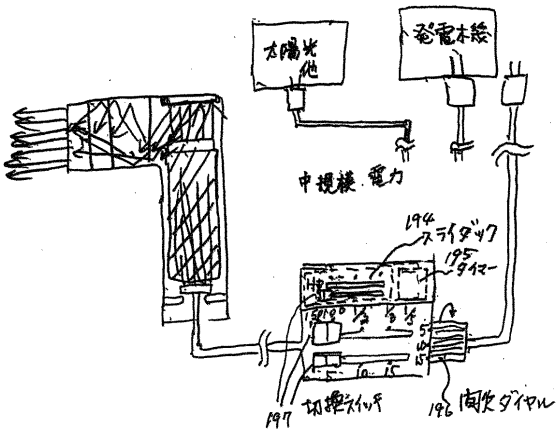
【図１３７】



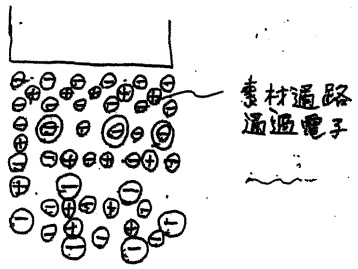
【図１３８】



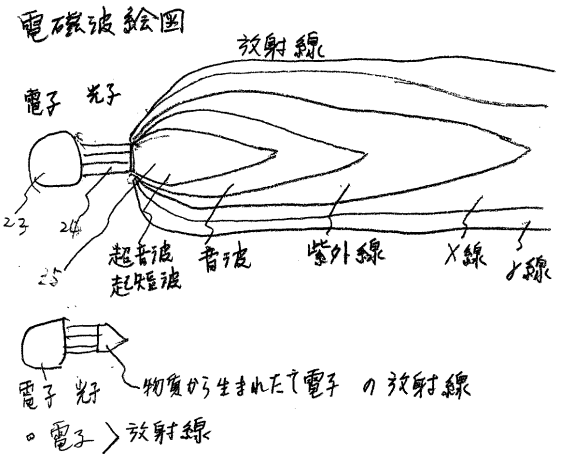
【図１３９】



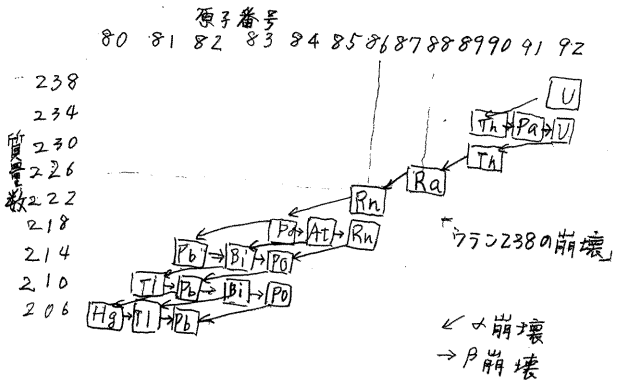
【図１４０】



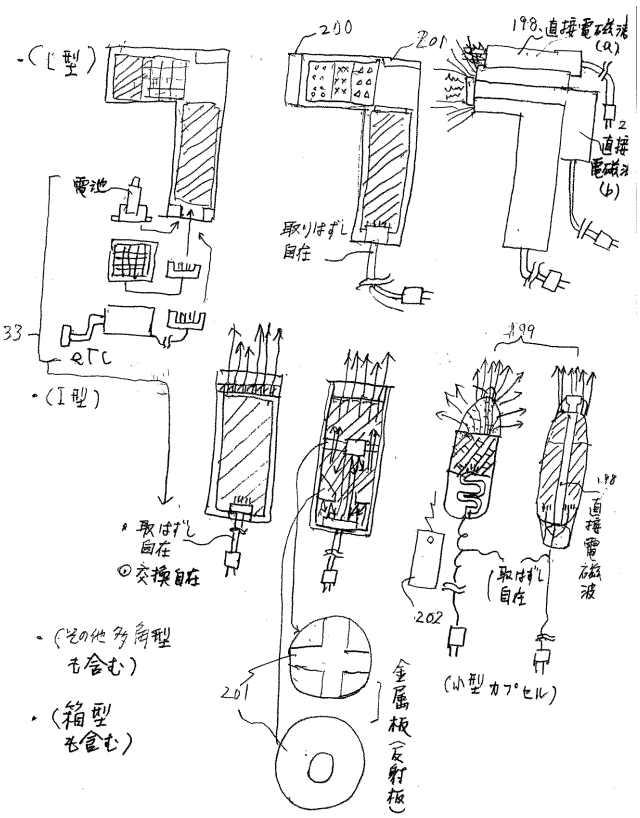
【図１４１】



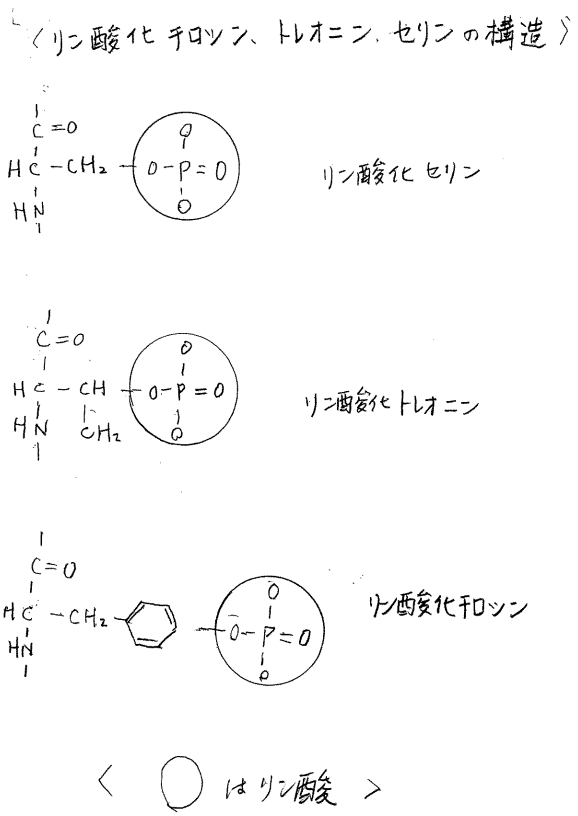
【図１４２】



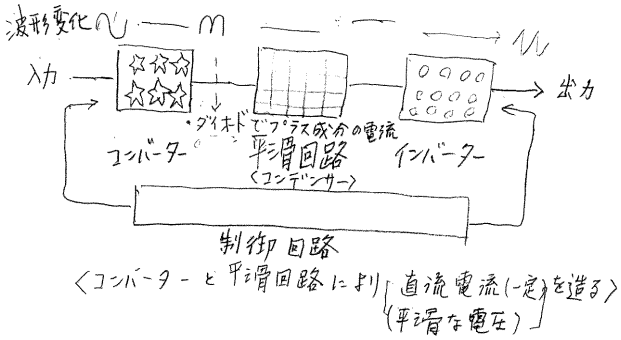
【図１４３】



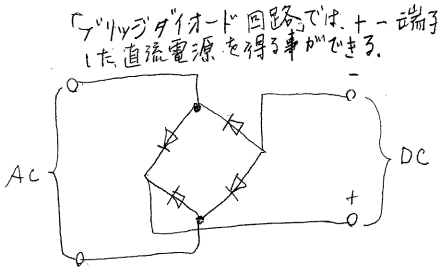
【図１４４】



【図１４５】



【図１４６】



【手続補正３】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
アルカリ性の負荷電子を酸化金属・抗酸化物・酸化吸着剤・ミネラル酸化物等の中に存在する事を提供する。（「アルカリ性電子」と命名）
この電子は今までに発見されていない。これらを積置するだけで発生するが、物理的刺激や電荷的刺激で強く放散する。
…積する電子とは筒などに入れて一部切欠の放射口から放射する。電子は大きく負荷電子
のみである。自然発生電子なので飛ぶ力はやや弱いが放射口に発生しただよう程度の速さのエネルギー（カバエルギー）図２５
　Ｉ型　Ｌ型等筒、筒無し、等で追加電源無しタイプ。
【請求項２】
（電源の放射電極は、ノズルの断面のセンターとノズルの筒の内側面の中央側にあること、長手方向は自由な素材・形状のノズルの自由箇所に自由数設け、交流・直流を問わず高圧・低圧印加を問わない。ノズルの中の一部途中に電子やイオンが通過可能な空間を有した以下の構成の放射装置。金属や成分に金属を含む粉末・その他の安全な素材の粉末や液体を含む軟質体等あらゆる元素の応用物質の中から目的により選択し入れる。
容器に入れた液体等は薄いフィルムで一部構成・粉末は網状や表面穴あき状に構成した出入口付のパック・カートリッジ等に粉末が漏れない様設けてあるか、樹脂等に混合してノズル長手方向に中空状態に穴空け接着（塗布および個化）設置、あるいはパイプ中に中空

状に固化して固定し設けてあるアルカリ性電子放射器、の構造で、
電源を追加したＬ型放射器から出されるエネルギー（アルカリ性電子）〔図５３〕を提供する（やや正荷も混入しているが熟性の上アルカリ性が高まるエネルギー）
　追加電源：
【請求項３】
請求項２の先端切換を使用して集中型にしたとき発するやや強いアルカリ性電子エネルギーを提供する〔図１７〕
【請求項４】
請求項１、２の先端をつぼ型にふくらませてつぼめた集中のやや強いアルカリ性電子エネルギーを提供する〔図２２Ａ〕
【請求項５】
請求項１、２のパイプ先端をラッパ型に広げた拡散型のやや弱いアルカリ性電子エネルギーを提供する〔図２２－Ｂ〕
【請求項６】
請求項、２において
凸レンズを先端穴の各所に設置し濃い質のアルカリ性電子塊の集中エネルギー（カバエネギー）を提供する。〔図－２０〕追加電源型　各種（Ｌ型　Ｉ型等）タイプ
【請求項７】
請求項１において
凸レンズを先端穴の各所に設置し濃い質のアルカリ性電子塊の集中エネルギー（カバエルギー）を提供する〔図２０〕電源の追加なし型　各種（Ｌ型、Ｉ型等）タイプ
【請求項８】
装置に接続したＡ太陽光発電パネル　Ｂ電池　Ｃ手廻し自家発電装置　その他小電力装置電源により追加電力を本体（アルカリ性の負荷電子を発生させる素材である酸化金属、抗酸化物、酸化吸着剤、ミネラル酸化物等が入れられた容器筒等）中に通して発生するアルカリ性の電子（正電荷を含まない）のエネルギーを提供する。
１００Ｖ家庭電源ほど放射電子は速くない事と電子量が多くない特徴とする放射エネルギー（カバエネギー）である。（請求項２の構造を含む。１００Ｖ家庭電源はなしの場合の本体構造）
請求項１の発生するアルカリ性電子より増電子でより強く遠くへ飛ぶ。
【請求項９】
水素、H_2がアルカリ性電子と交換して造られたか水のＨの酸化した電子と交換してできた水素原子を「命活性水素原子」エネルギーと呼称新エネルギーとし命活性水素原子同士が結合してできる水素H_2を「命活性水素」エネルギーと呼称提供する。
【請求項１０】
発生電子のアルカリ電子が存在可能な数個塊となったアルカリ性極小電子塊を「アリオン」エネルギーと命名した電子を提供する（請求項１、２、その他の機々における）
【請求項１１】
請求項９の電子塊が水素や水の一般酸化電子と交換された水素を「命活性水素」水を「命活性水」エネルギーと呼称名命提供する
【請求項１２】
請求項１０の電子塊が水素や水を分解して水素原子と電子を交換した水素原子を「命活性水素原子エネルギー」と呼称し提供する
【請求項１３】
請求項１のアルカリ性極小電子塊が物質の原子核に接近し殻に侵入し酸化電子をおい出してできた原子を「アルカリ性原子」エネルギー呼称し命名し提供する。酸化物分子もアルカリ性物に変化するので「アルカリ性分子」エネルギーと呼称命名し提供する
【請求項１４】
請求項１の素材を詰めたタンクを通過ストレスのないより酸化性のないエネルギーを金線等で提供する。エネルギーをタンクを通過させアルカリ性電子とし金線等使ってアルカリ

のまま送られる。通線内アルカリ性電子エネルギー
【請求項１５】
請求項２の構造で生まれるエネルギー（カバギー）

多く

の中の正電荷は負電荷より量的に少なく小さい大きい両方有る。

だが医療的にはすぐれた刺激性を持つ事で新たな細胞の発生や再成医療に役立つ新エネルギーとして提供し請求項とする。
【請求項１６】
アルカリ性電子が放射線を消滅できる放射線除染エネルギーとし提供する。（請求項１、２、３　４、５、６、７、８に関す。）
【請求項１７】
請求項２に示されるアルカリ性電子放射器を酸化性菌・アルカリ性菌を除菌する除菌装置における除菌エネルギーとして提供する。（請求項１、２　３、４、５、６、７、８に関す）
【請求項１８】
小電力追加のアルカリ性電子放射器を酸化性菌兼気性菌の除菌装置とし除菌エネルギーとして提供する。（請求項３、４、５、６、７、８に関す。）
【請求項１９】
積置の電力を追加しないタイプのアルカリ性電子放射器から発せられるエネルギーを酸性菌・兼気性菌の除菌エネルギーとし提供する。（請求項１，３．４．５．６．７に関す。）
【請求項２０】
アルカリ性電子を体内に向ける事で倍養液としての血液の培養や外部での細胞倍養液の倍養エネルギーとして提供する。（請求項１．２．３．４．５　６．７．８．９．１０．１１．１２．１３に関す。）
【請求項２１】
コンクリートに直接又は水分保持マスキングをかけアルカリ性電子を放射する
エネルギーは小電力型を含むアルカリ性電子エネルギーとする。改善用エネルギーである。
（請求項１　２　３　４　５　６　７　８　９　１０　１１　１２　１３　１４に関す）
【請求項２２】
　中央の中心筒から発射する電磁波各（紫外線・赤外線・遠赤外線・音波　超音波・低周波・超低周波等）の発生エネルギーを感知し１００Ｖ　５０・６０ＨＺ家庭用電源相当以上の場合電源が切れる様にし、スライド電源を設け発生源を調整

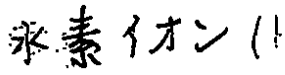
可能にし、

素材（酸化金属・抗酸化物・ミネラル酸化物等）を交換自在とした本筒に低部から小電力発生電源（太陽光発電：自己発電：電池発電等）を通路に通しアルカリ性電子の発生電子量アルカリ比率の５０％以内にて電源が切れる様に上記感知装知と連動設計としたエネルギー（酸化アルカリ性電子放射器）を提供する。
又は小電力発生電源以外の発生電源に関しても同様発生電子量アルカリ性電子の５０％以内にて電源が切れる様　上記感知装置に連動した設計のエネルギーを提供する。
（請求項１、２、３、４、５、６、７、８、９、１０、１１、１２、１３、１４に関す）

【請求項２３】
二酸化炭素において炭素側にアルカリ性電子が入り込み（ペアー電子）分裂し消滅させる。CO_2分解エネルギー、としてを提供する
【請求項２４】
CH_4においてアルカリ性電子がH酸性電子と交換を起しペアー電子により分裂し消滅させる。エネルギーを提供する（CH_4分解エネルギー）
【請求項２５】
シャーレ内に細胞を入れ水で満し、その上から本器先端から放射する事で細胞のあらゆる状態である
受精卵に同等の万能細胞すなわちＥＳ細胞・ｉｐｓ細胞や幹細胞を正常に倍養させる。
又、分化後も正常な細胞増殖を行なっていく為の成長エネルギーとしてアルカリ性電子を提供する。
【請求項２６】
様々な菌に対して安全な人に対する殺菌力を持つ放射線・電磁波のアルカリ性電子であり日常多数回の使用により衛生面を確保できる新技術（水の使用をさけ、紫外線の酸化毒を出さず室内等のさわる所全てを安全に殺菌する。
安全衛生エネルギーとして提供する。
【請求項２７】
様々なウイルスに対して殺す能力を持つ安全な放射線・電磁波のアルカリ性電子で痛みのある体の位置に先端を向ける（口やノド、腹の胃や腸、肺や胸他）事で効力を発揮する。
ウイルス消去エネルギーを提供する。
【請求項２８】
請求項２の追加電力に切換スイッチを付属させ１００Ｖ　５０・６０ＨＺ（以上等）・５０Ｖ程度（等１／２エネルギー）３３Ｖ程度（等１／３エネルギー）２０Ｖ程度（１／５エネルギー）、１０Ｖ程度（等１／１０エネルギー）など複数切換えを可能な機能を備えスライダック等により周波数を変換スイッチで切換られたエネルギー（アルカリ性電子・酸化性電子）を提供する。
【請求項２９】
請求項２の追加電力に切換スイッチを付属させ電力が５秒ごと・１０秒ごと・１５秒ごとなど複数切換で電力無し時間を制限し５秒・１０秒・１５秒等をはさんだ作動に調整可能な電力追加時間と無電力時間を放射し素材にかける電力を制限させ放出される（アルカリ性電子・酸化性電子）エネルギーを提供
【請求項３０】
請求項２の追加電力に切換スイッチを付属させ追加設定基準Ｖ数ＨＺ数をスライダック等で変更する設備を内蔵もしくは外装させ、設定し、素材、照射する。
Ｖ電圧・周波数を自在とするコントローラー・切換えスイッチと照射時間の設定時間と間欠（無照射時間）を設定可能な切換スイッチをタイマー等を用いて備えたマルチ電源追加（電力供給設備）の制限エネルギー（アルカリ性電子・酸性電子）を提供する。
【請求項３１】
筒内の素材〔鉱石・金属・非金属・生物　化石・その他のあらゆる元素又は、その複合物〕にかける電力の追加の時間をコントロールできる制抑装置と電圧及び周波数を制抑・調整できる制抑装置を設け備えることにより放射物として素材から出るアルカリ性電子に混入する正荷電子量を調節できるアルカリ性電子放射器から出されるエネルギーを提供する。
【請求項３２】
Ｌ型等筒に壁をつくらない曲っていないアルカリ性電子放射器で、あらゆる元素単独か複合素材に追加電力が０の積置のときのエネルギーに発電性物素材を含ませたときに発生するエネルギー（アルカリ性電子イオン）を提供する
【請求項３３】
Ｌ型等筒に壁をつくらない曲っていないアルカリ性電子放射器で、あらゆる元素単独か複

合素材に追加電力０．１Ｖ～９．０Ｖの電力を当てたときのエネルギーに発生するエネルギー（アルカリ性電子イオンとわずかな酸化性電子）を提供する。
【請求項３４】
Ｌ型等筒に壁をつくらない曲っていないアルカリ性電子放射器にあらゆる元素単独か複合素材に追加電力９、０Ｖ～１００Ｖ　５０・６０ＨＺの電力を当てたときのエネルギーに発生するエネルギー（アルカリ性電子イオンと酸化性電子）を提供する。
【請求項３５】
配線の一部に曲げて突起を設けるとき非電離放射線（電気）において通電させ、つくった突起の直径を１０ｍｍ以上とし長さを１５ｍｍ程度以内とする伝導性の銅（その他の材料では大きさを変える。）を通過させ元の配線にもどすことで酸化性電子を中性の電子やアルカリ性の電子に近ずける電気としての新エネルギーを提供する。
【請求項３６】
太陽光パネル中に金属、鉱石、非金属太陽光発生半導体及び触媒・その他化石及びあらゆる元素物とそれらの複合物を入れ積置の素材を積んだ中心部を樹脂膜でおさえ込み発生するか、さらにそれに追加の電圧を掛けるかにより出されるエネルギーを提供する。
【請求項３７】
無線操作等により飛ばせる飛行機　船、などの物体に付属するか内在させたアルカリ性電子発生器より出されるエネルギー
（図１３０）
【請求項３８】
γ線・Ｘ線など放射線を消滅させるエネルギーすなわち、金属・非金属・鉱物・その他のあらゆる元素とその複合物による積置の素材かそれに別のエネルギーを当て与えることにより発生するエネルギーを提供する（アルカリ性電子塊イオンである）
【請求項３９】
請求項２において
あらゆる元素か元素が複合された鉱物・金属・非金属・その他全ての物質の積置素材によるアルカリ性電子イオンの血液浄化エネルギーを提供する
【請求項４０】
請求項２において
０～９Ｖ程度の追加の酸化性電子が積置素材中を通過し　アルカリ性電子が発生し、この両者が混在する小電力追加の血液浄化エネルギーを提供する。
（微弱な酸化性電子を含む）
【請求項４１】
請求項２において
９Ｖ～２００Ｖの中電力追加の場合２００Ｖ以上の高電力追加の場合、の血液浄化エネルギーとしての酸化性電子とアルカリ性電子の混合体エネルギーを中高電力の血液浄化エネルギーとして提供する。
【請求項４２】
請求項２において
（請求項４１、１７　４４の）９Ｖ～２００Ｖの中電力追加の場合のエネルギーの一点又は数点等の中電力を請求項３９に与えるエネルギーの発生により人体中の血液の滅菌等浄化するエネルギーで人工透折エネルギーとする、
本エネルギーを「命活性人工透折エネルギー」と命名する。請求項２８、２９、３０、３１、３４、３３、１７、４４
【請求項４３】
請求項２において
（上記　請求項４１、１７　４４において）酸化性電子を発生させる能力を５０Ｖ～１００Ｖ程度に限定した中電力とした混合エネルギーを発することでウイルスを死滅させるウイルス除去エネルギーとする
本エネルギーを「命活性ウイルス除去エネルギー」と命名する。請求項２８、２９、３０

、３１、３４、３３　１７、４４、
【請求項４４】
請求項２においてＬ型以外を含む（請求項１、８、３２の）積置だけの追加電力０と０～９Ｖ小電力と９Ｖ～２００Ｖの中電力と２００Ｖ以上の高電力を追加電力とする発生エネルギーをアルカリ・酸性菌除菌エネルギーとし極限を含めた「命活性アルカリ・酸性除菌エネルギー」と命名し提供する。
請求項１、２、３、４、５、６、７　８、１７、２２、２８、２９、３０、３１、３２、３３、３４、
【請求項４５】
請求項２において
（請求項３９、１、８、３２）積置素材により発生するアルカリ性電子イオンとそのイオンが水の水素原子や水素の水素原子に入り込んだ命活性水と命活性水素の命活性アルカリ性



が細胞の活性酸素を除去する酵素を活性化する。
これらを細胞内活性酸素除去エネルギーと命名し、提供する　請求項１、２、３、４、５、６、７　８、１７、２２、２８、２９、３０、３１、３２、３３、３４、４４、
【請求項４６】
請求項１７　４４　３２、３３、３４に関す冷熱の殺菌エネルギーで生乳の殺菌エネルギーを提供する。
【請求項４７】
請求項１７　４４　３２、３３、３４、に関す冷熱の殺菌エネルギーでくんせい食品の殺菌エネルギーを提供する。
【請求項４８】
請求項１７　４４、３２、３３　３４に関する冷熱の殺菌エネルギーで空気正常にする空調冷熱殺菌エネルギーを提供する（ウィルス除去、酸性菌・アルカリ菌除去が可能）
【請求項４９】
請求項１７　４４、３２、３３、３４に関する冷熱の殺菌エネルギーで冷蔵中の食品への冷熱の中で除菌可能なエネルギーを提供する
【請求項５０】
請求項１７　４４、３２、３３、３４に関する冷熱の殺菌エネルギーで冷製のまま熱をかけず一般食品を殺菌する食品冷熱殺菌エネルギーを提供する。
・発酵エネルギー
【請求項５１】
請求項２　１７、４４、３３の中の９Ｖ以下の追加の電力による鮮度の必要な食品（魚、肉、玉子、野菜等）に対し与える鮮度保持エネルギーを提供する。
【請求項５２】
請求項２　１７、４４、３３の中の９Ｖ～２００Ｖ以下の追加の電力による酸化性電子とアルカリ性電子による食品・発酵のエネルギーを提供する。
【請求項５３】
請求項２と請求項３９、１７、４４、３２、３３、３４　請求項２２における追加酸化電子量がアルカリ性電子の５０％とするサウナ冷熱発酵エネルギーを提供する。
【請求項５４】
バイオ成分であるトウモロコシ・サツマイモ・大豆・イモ（やクロロフィル）がCO_2環境で太陽光で糖・デンプン・植物油をつくる、このとき太陽光のかわりにアルカリ性電子を使うと電子をアルカリ性電子と

して供給できるくつまり土中の発酵そくしんの力と

なる。）。
そして、エタノール発酵等アセトン・ブタノール発酵など微生物の力でバイオエタノール・バイオブタノールをつくる。（これが大切なプロセス　でその後、ケミカルプロセスを過てエチレンやプロピレンがつくられる。）糖バイオ分解エネルギーを提供する。
請求項２、１にもとずく２８、２９、３０、３１、３４、２２、１７、４４エネルギーによって設定で発酵食品飲料エネルギーを使う。
本件は石油生産物生産のエネルギーでもある。
【請求項５５】
発酵食品・飲料についていろいろある（チーズ・バター・納豆・みそ・しょうゆ・ハム・ヨーグルト　キムチ　ぶどう酒　各種果実酒　等）物品について図４７・４８に示すような発酵食品飲料エネルギーを提供する。
各生産物に応じた温度を与え適温（３０°～４０℃を中心）にし正荷電子（酸化性電子）を単独に与えるかアルカリ性電子を適時一定の追加電力と混合

と与えるか両者を切換えPHを調整(

それらをコントロールし、必要な量必要な時間照射与える　それらのエネルギーを提供する。
請求項２、１にもとずく２８、２９、３０、３１　３４　１７、４４の機能のエネルギーによって設定
【請求項５６】
請求項１、２、１７、４４のエネルギーを一定時間与える食品庫、冷蔵庫等（例図１２２）にビニールパック製品・ビン詰品・金属詰カン等を保管し棚により入切自在としたりその他の方法で一定時間の制限を与え保管しそれに与える食品保管ロスエネルギーを提供する。
（冷蔵庫・電子レンジの形式のタイプも同様です。）
【請求項５７】
請求項１、２、１７、４４のエネルギーを一定時間与えるキッチンの一部に装備または後付にて（図３８）

調理直前の鮮度もとし又は調理後保

存前の処理にキッチンで使うエネルギーキッチンロス改善エネルギーを提供する。
【請求項５８】
請求項１　２、８に示すエネルギーを薬品に照射する事により鮮度を改善し薬品の効力を復活し予分な雑菌等を分解する。
このエネルギーを一定時間照射するので薬品鮮度エネルギーとして提供する。
カプセルの上からプラスチック袋の上から、液体においてはビン・プラスチック容器の上から照射する。
　その他請求項3、２８、２９、３０、３１　１７、４４も関す
【請求項５９】
請求項１、２、８　２２　２８、２９、３０、３１、４４によって照射する空気中にマイナスイオンが空気中の水を分解した命活性水素となって存在するのでアルカリ性電子として出されるそれらのエネルギーをマイナスイオン発生エネルギーとして提供する。
衛生交換エネルギー
【請求項６０】

手洗用冷熱消毒エネルギーとして請求項１、２、８、２８、２９、３０、３１、２２　１７、４４について手に関する消毒を空気中に出されるアルカリ性電子イオンと空気中の水分やつくられる水素により（その物質が交換されて命活性原子・分子となる機能により）消毒する。
手洗冷熱消毒エネルギーを提供する。
【請求項６１】
手洗冷熱消毒エネルギーを建物の中の多勢が触れるノブなどに発する事で建物の完全殺菌を可能とする（図３４）
建物完全消毒エネルギーを提供する
人感センサーによりＯＮ・ＯＦＦする事が望ましい。
請求項１、２、２８、２９、３０、３１、２２、１７、４４、３３、３４　３、４、５、６、７
【請求項６２】
衛生飲料水エネとして天然水においても様々であり含有菌も含まれていたりアンモニアの検出なども多いのでミネラルなどは出ているが一方で完全とは言えない面もあり本件エネルギー（アルカリ性電子で消毒する事で欠点のない完全に安全な水にできる。衛生飲料水は無菌・無ウィルスの新鮮ミネラル等を含む水である。
衛生飲料水エネルギーは請求項１、２、３、２２、４４　２８、２９、３０、３１によって生まれるエネルギーとして提供する。
【請求項６３】
空調毒除去エネルギーとしてクーラー・暖房器具等空調装置に内蔵する事とし入手する空気をまずきれいにする。そして、室内もきれいにする事が要点である。まず外部から入ってくる空気に排気ガス等や空気汚染された物質がさまざまあり毒物と思われる空気（放射線を含む空気もある。）
これらを除染したり毒物を消滅させる事の方が第一である。
しかるに本件アルカリ性電子が放射線を除染でき、その他公害有毒物も浄化できるので室内に浄化された空気しか入れないので空調毒を持込まないで空内を浄化します。
空間に対しては、さらに本器照射発生のアルカリ性電子が浄化を促進します。
マイナスイオンの発生などで浄化します。本件請求項１、２、３、２２　２８、２９、３０、３１　１７、４４により発生のエネルギーを提供します。
【請求項６４】
浄化槽除菌エネルギーについては、請求項１、２　８、２８、２９、３０、３２、３３、１７、３１、４４により使用時適切に作動し浄化させ成分の発酵化・除菌・消臭化を促進させる、本エネルギー発生と照射のエネルギーを浄化槽除菌エネルギーとして提供する。
本件においては、酸化電子とアルカリ電子の混合のエネルギーが主に使うのでその比率を変える等照射内容を変化させ時間を短宿する。（図５５参）
○バイオマス除菌エネルギーはこれと同等とする、（動物等を考えた内容となる。）
【請求項６５】
○消臭除菌エネルギーは冷蔵庫やトイレなどの消臭である。トイレは、図３３に有る様に健康器具と消臭器具をかねている。
冷蔵庫は、付属させるか図３１の本器で行うのも良い。請求項１、２、３　８、１７、２８、２９、３０、３１、２２、４４に関す。
【請求項６６】
○毒ガス消去エネルギーについては山などで亜硫酸ガスや硝酸ガスや流化水素など危険なガスが発性している所がある、この場所での一時的な作業をする時などに本照射アルカリ性電子でガスの性質を変えたり分解したりさせるエネルギーとして提供する。
　請求項１、２、５、６、７、８、１７、２２、２８、２９、３０、３１、３２　３３、４４、
【請求項６７】
○浄水場殺菌エネルギー

一般に殺菌等に薬品を使う事が多く水に塩素のカルキが残る。凝集剤（硫酸アルミニウム・塩化鉄）などの処理と塩素消毒などである。本件照射によれば、塩素が残らず殺菌できます。請求項１、２、３、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４が関与します。

○河川出口殺菌毒除去エネルギー

【請求項６８】

河川出口は川の合流域や海への流水口などでのよごれた水を混合させるのを防止する。（たとえば図１３６の流水に対して向きの変わる水中部が流れに対抗する様に設計されている。）

太陽光・風力・流水力による発電で自動作動する、事が付属技術である。〔図２３Ａ〕

このエネルギーを河川出口殺菌毒除去エネルギーとして提供する。

請求項２、３、２２、２８、２９、３０、３１　１７、４４、３２、３３

【請求項６９】

○漁養殖貯水殺菌エネルギー（図１２５）

漁養殖においては天然水を使う事が多いが含有する菌はない、のと検出される予分な成分もないのであるが魚の出す排泄物がさらに水をよごす為浄化してもすぐによごれる。

そこで本器の照射により請求項１、２、３、１７　２２、２８、２９、３０、３１、４４これらのエネルギーを与える事により浄化でき適切な除菌と魚の健康を正常化する環境を与えられるので漁養殖貯水殺菌エネルギーとし提供する。（水中ごみそうじ器付属とする）

【請求項７０】

○畜舎内除菌エネルギー

畜舎の場合（ぶた・牛・鳥等）はやはり排泄物の処理によりそこに渡鳥などのウイルス等の外部での感染により畜舎内にもたらされる場合があり広がる場合が想定される

そこで、本発明のアルカリ性電子のウイルス除去殺菌の能力によってこれらを排除する様に照射先を家畜に当てると同時に寝床にも当たる様なくふうにより行なったり畜舎内の移動ヶ所の土壌など歩く場所も一定時間当てる事などで菌発生をなくし、ウイルス対策も時折行なうことで発生させない様にできる。

請求項１、２、３　８　２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４により発する畜舎内除菌エネルギーを提供する。

【請求項７１】

○コンクリート乾燥前再結合化エネルギー

セメントと水とフィラー石を混練すると数周間経過するとほぼ固まりさらに養生時間を経過してコンクリートになる。それから水分が飛んで乾燥すると乾燥亀裂が入る事もある。この亀裂が入る前に入らない様にコンクリートに再結合をさせる為に本エネルギーの照射を行う。成型物（例橋染）に対してコンクリートにマスキングを掛け水分を与えながら照射する、（図２９）マスキングの下に水又は水含水ジエルを塗布する　そしてオープン部に照射する。請求項１、２、３　８　２２、２８、２９、３０、３１による発生エネルギーを提供する。

特に３のエネルギーが有効といえる。

環境エネルギー

【請求項７２】

○CO_2分解浄化エネルギー

二酸化炭素はいわゆる酸化物である図１８Ｅに示すように炭素がなって炭素がなって継っていた酸素を放り出す

反応により分解する。118図Aの17が酸化物

に照射時にでき与えるかＤのH_2が与える　これにより分解する）

請求項１、２、３　８　２２、２８、２９、３０、３１　１７、４４

これらのエネルギーを発生エネルギーとして提供する。
８．１が基本のエネルギーである。
【請求項７３】
○ＣＨ$_4$分解浄化エネルギー
メタンはＨを持つ為アルカリ性電子照射するとＨにアルカリ性電子が入り易い為Ｈに先に入ると電子が多目になるので炭素の継りを切る　もちろん炭素Ｃも交換作用で電子がアルカリ性電子に変わるので電子が多く分解の要素でもある。
（この様に図１８　Ａ　１７の入る事で１８の旧電子は結合の手を切る。氷の例）炭素はＥの様に手を切って継をなくす　分解する事になる。）
請求項１、２、３、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４、でＣＨ$_4$分解浄化エネルギーを提供する。
【請求項７４】
○光電磁波冷熱エネルギー
光は主として紫外線や赤外線を称すが短波長のＸ線やγ線などを含めて光と呼ぶ事がある。したがって、本エネルギーであるアルカリ性電子が超小塊電子で（図１３２の（２）の様にｅとａが合体しさらにａが合体する状態が示されているように光子と放射線が小さくなるのである。）
したがって、光の放射線がその毒性をなくすので純電子の大きな放射線が小さな電磁波に変わるので人体に対して空間では図５１の対抗する力でγ線に対しては図５２の対抗する力となる。そして図５６の様な人体保護放射線対抗用具を成すのである。
日焼け防止、光接触性皮膚炎（刺激性のかぶれ、紫外線が当って一時刺激が起きた状能の光毒性の光アレルギーを防止する。
この様な働を行う請求項１、２、３　８　２２　２８、２９、３０、３１等のエネルギーを光電磁波冷熱エネルギーとして提供する。
【請求項７５】
雷雲電磁消去エネルギー
本件エネルギーを雲の黒くなった中心に放散するために無線の飛行機などによりアルカリ性電子放射器を内蔵させ外に向って放射できる様な構造の物とし地上から操縦する。
（ヘリコブターも良い。スピードがおそく立止まれるので最適と言える。）この様にして出されるエネルギーで雷の源の電磁力を雲の中から取り除く事で雷の発生を防止でき突風や大雨を防止する。（図１３０）
最大の目的は竜巻である。このシステムにてこの様に請求項１、２、３、５　６、７　８　２２、２８

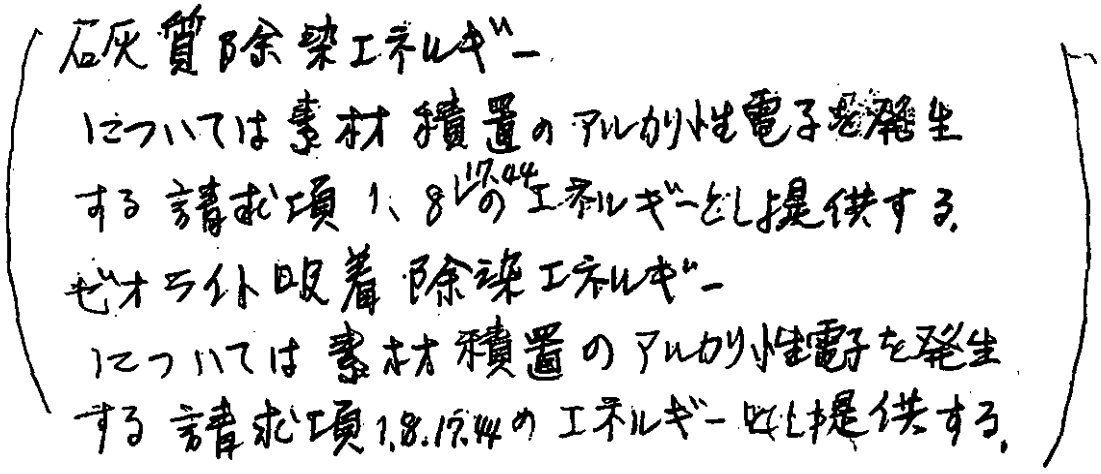
29、30、31、32、44のエネルギーを雲中に放散させ

られる雷雲電磁消去エネルギーを提供する。
【請求項７６】
大気汚染物質毒除去エネルギー
硫黄酸化物・煤じん有害物質など煤煙

粉じん、一酸化炭素・炭化水素な窒素酸化物

鉛化合物、粒子状物質など自動車排出ガスを大気汚染防止法で規制を受け石油類の燃焼・化学工業の反応過程から発生するものうち有害物質のカドミウム・塩素・窒素酸化物など５項目
人間の健康や生活環境に被害を与えるおそれのあるアンモニア・シアン化水素など２８物質２８物質を特定物質と定めている。
光化学スモッグ・放射性物質を含む大気汚染物質
以上の物質について（請求項１、２、３、５、６　７、８、２２、２８　２９、３０、３

１、４４のエネルギー）アルカリ性電子を本エネルギーとし提供する。
【請求項７７】
物質付着汚染除去エネルギー
放射線の物質付着の除去はアルカリ性電子を発する請求項１、２、３、５、６、８　２２、２８、２９、３０、３１　１７、４４よるエネルギーによって提供する。
空気中の水分のＨに付着した形で物に付着する放射線にアルカリ性電子のアリオンが放射線の原子核側（裏側）に入り込み放射線をおい出すことにより汚染の除去を行なう事が出来る。
【請求項７８】
石灰質除染エネルギーは、その素材の石灰質である生石灰と消石灰質等が二酸化炭素吸収剤でモルタルセメントの原料としての特異性がある除染の有力な素材として提供するもので請求項１、２、３、６、７、８　２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のエネルギーとして力を発揮するので提供します。
【請求項７９】
ゼオライト吸着除染エネルギーはその素材の酸化物吸着力で抗菌作用を銀イオンでのアルカリ性電子自個発電力を持つ特異性のある除染の有力な素材として特別に提供する。
請求項１、２、３、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のエネルギーとして力を発揮するので提供します。
【請求項８０】
積置複合元素除染エネルギーについては素材積置のアルカリ性電子発生する、請求項１・８のエネルギーとし提供する。



【請求項８１】
土壌については混練しながら照射できるか（伴装置を付属した図４１や図１３５の様なタイプの移動可能な装置から出されるエネルギーを土壌汚染除去エネルギーとして提供する。請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１
上記移動可能な装置で霧分散装置を付属し水を散布できるタイプの土壌汚染除去エネルギーを提供する。
【請求項８２】
水質汚染については図５８、５９や図１２４の様な水道管から給水して除染するタイプも全て請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のエネルギーにより提供できる。
【請求項８３】
空間汚染においては図１２９の様や図１２６の様のように霧分散装置を付属する場合もある
その装置も含め請求項１、２、３、５、６、７、８、１７、２２　２８、２９、３０、３１、４４のエネルギーで提供する。
【請求項８４】

空間汚染において図１２９の（様）や図１２６の様な霧分散装置なしの場合もあるので付属装置なしの請求項１、２、３、５、６、７、８、１７　２２，２８、２９、３０、３１、４４のエネルギーで提供する。
【請求項８５】
生物除染エネルギー
畜産物（牛・ぶた・鳥等）などが請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のエネルギーによって除去できますので提供します。
【請求項８６】
人に関しても人工透折エネルギーや特定集中ヶ所の照射により除去できますので提供します。請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のいずれかを使うことによります。（図７５、９８、１０５、１０８、１１４）
γ線の除去について（図５１、５２　５６）
【請求項８７】
海産水産物除去エネルギー
海産・水産物に関してもアルカリ性電子の照射により除去できるので提供します。請求項１、２、３、５、６、７　８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のいずれかのエネルギーで可能です。
【請求項８８】
農産物の除染エネルギー
野菜等の除染についてアルカリ性電子の照射により除去できるので提供します。請求項１、２、３、５、６、７　８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のいずれかのエネルギーで可能です。
培養エネルギー
【請求項８９】
生物体中細胞倍地の問題の共通点を排除した生物万能培養についてエネルギーとしてアルカリ性電子の環境が以下の問題を改善する
　○栄養分の酸化
　○空気中の電磁波による酸性毒
　○室内環境による雑菌等
　○母体からの殺菌がない
　○母体からの鮮度のよい栄養分の補給がない。
　○水分のよごれ（混入物等）
これの内鮮度のよい栄養分以外について作用し細胞の不正育生をなくせる。
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のエネルギー等を生物万能培養エネルギーとして提供する。
（上記の記載内容を幹細胞と受精卵の場合）
【請求項９０】
人体中受精卵は、すべての細胞に変化する能力を持っており細胞分裂をくり返し増殖をくり返し成長する過程でさまざまな細胞に分れて分化しその過程中培養の問題点前記６点の問題点のうち鮮度のよい栄養補給以外の５点についてアルカリ性電子を作用し不正育成をなくすエネルギーとして受精卵培養エネルギーを提供します。
請求項１、２、３、５、６、７、２２、２８、２９、３０、３１；１７、４４
【請求項９１】
人体中の各組織にある「幹細胞」がありこれにも分化する能力を持っています。これが成長過程で前述６点の問題点のうち５点（鮮度の良い栄養補給以外）の環境をアルカリ性電子を作用し不正育成をなくす幹細胞倍養エネルギーとし提供します。
請求項１、２、３、５、６、７、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のエネルギーを使用
【請求項９２】
水産培養エネルギーに関して魚等の受精卵についての問題点の改善を前述５点（鮮度の良

い栄養補給以外）の環境をアルカリ性電子を作用させ不正育正をなくす水産培養エネルギーとして提供します。
請求項１、２、３、５、６、７、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４等のエネルギーを使用
医療エネルギー
【請求項９３】
スポーツエネルギー
各競技の途中あるいは、競技あい間に使用可能なアルカリ性電子エネルギーを体内血液改善や活性酸素除去効果の元の酵素改善を持つ血液サラサラにするスポーツエネルギーを提供する
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４を使う。
【請求項９４】
歯科の痛み除去エネルギー
アルカリ性電子で歯痛を除去できるエネルギーとして提供できます。
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４
【請求項９５】
ペイン除去エネルギー
アルカリ性電子で切キズ、打ボク、やけどなどの痛みが除去できるエネルギーとして提供できます。
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４
【請求項９６】
手術中酸化防止エネルギー
手術中切開部の臓器が外気にふれ空気中の雑菌により又、酸化により劣化するのをアルカリ性電子が防止する照射により手術時間の延長を可能とする手術中酸化防止エネルギーを提供する。
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１　１７、４４
その他
【請求項９７】
清掃器エネルギー
そうじ器に除染装置が内蔵されたか外装された形で発するアルカリ性電子が室内の床やたたみ部だけでなく壁や天井もこれで除染できる
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４
特に２を使用し追加電力高低の順に使うと効果的なエネルギーの清掃器エネルギーとなる。
【請求項９８】
自動車除染エネルギー
自動車内の空調に除染が可能なものが無い、東北地方では、所々濃度が高い道路もあるので空内に吸い込まれ室内にたまる可能性が高い。
放射線が累積されるので１日中車に乗る人は、将来の健康が心配である。アルカリ性電子を発する空調は内蔵と外付けタイプがあり一応新・旧の車にも対応できる。その装置で出されるエネルギーを自動車除染エネルギーとし提供する。
請求項１、２、３、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４などです。このエネルギーが健康に良い促進のエネルギーでもあるので安心である。
【請求項９９】
装着品エネルギー
指輪やブレスレッド・ネックレス・イヤリング・等々のほか寝具のまくらやその他の接触する時計やくつ等多様である　それらに素材（あらゆる元素や元素の複合物からなる鉱物、金属、非金属等）を付属させ体内にアルカリ性電子を発する様にした装置が発するエネルギーを装着品エネルギーとし提供する。

請求項１、２、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、３、４などのエネルギーが使える。
【請求項１００】
連続放射エネルギー
Ｉ・Ｌ型のアルカリ性電子放射器において先端を長く延ばして放射穴を連続的に設けた形の放射器が出すエネルギーを連続放射エネルギーとして提供する。

このエネルギーは長い先端の空源部分が存在する為

先の方では出るアルカリ性電子がうすくなるそこで、パイプ先端の途中にも素材を管内に付着させ透導空隙を持たせた構造にしてアルカリ性電子を濃い形で放射口から出る様にした建屋や外道通路等にて発する連続放射エネルギーを提供する。
請求項１、２、３、４、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４を使用。
【請求項１０１】
環境保護電線エネルギー
電磁波が電線から漏れ飛ぶ為電線（高圧等）の下の家などで電磁波による影響が及んでいる場合がある。これについて電線の外装巻部分に積置の素材を巻く事で電磁波を弱める。空気中の水分にアルカリ性電子が飛んで入る為電磁波は、空気中に存在できない為近くから逃げて放散する現象で守る事が出来る。又、発するアルカリ性電子が健康を増進する、このエネルギーを環境保護電線エネルギーとし提供する。請求項１、２電線だけでなく航空機が宇宙線Ｘ線γ線による電磁波をひろって飛んで機内の人に電磁

波害があって乗組員が地上勤務の人よりがん

発生率が高いとの指適がある。
この場合も同様で床に積置素材のマットを敷くなどアルカリ性電子で防止できる、航空機用電磁波防止エネルギーを提供する。請求項１.
【請求項１０２】
ダイキャストサビ無しエネルギー
ダイキャスト品の多くは、光沢が無くネズミ色のグレーで見ばえの悪いのでスピーカーの裏部品などとしての用途が多いがその価値は低い。
そこで本エネルギーを請求項１、２、３、４、５、６、７、８　２２、２８、２９、３１のエネルギーで流動物として溶融中に与える事によりサビ無しに成形するダイキャストサビ無エルギーを提供する。
【請求項１０３】
Ｘ線照射後除去エネルギー
レントゲンを撮る際、バリウムを飲んでＸ線毒害を除去

する事が多いが多数回行うと影響が残さてがんを

発生する事もある。
そこで本エネルギーを請求項、１、８、２、３、４、５、６、７

8、22、28、29、30、31、17、44して後処理をする事で解決

できるのでこれらのエネルギーをｘ線照射後除去エネルギーとして提供する。
【請求項１０４】
手術用アルカリナイフ、エネルギー
切開手術のナイフは消毒されているが切口の酸化が問題で雑菌が取付くなど長時間の手術

において影響する事もある。
そこでナイフの刃の上部や持つ枝からエネルギーを発し刃の表面にアルカリ性電子を付着させる事で殺菌する事や酸化防止を行う事を行え、切る際に体の方にも酸化防止の本エネルギーを出しながら行うので臓器の劣化が防止できる
そこで請求項１、２、３、４、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４のエネルギーを手術用アルカリナイフエネルギーとして提供する。
【請求項１０５】
内視鏡照射エネルギー
内視鏡に照射口を持たせた細いパイプをフレキシブルとし先端からアルカリ性電子を照射できるシステムとする口の外にやや大きい筒や箱型の本体を持たせる事で様々なアルカリ性電子を体内を見ながら照射できる内視鏡照射エネルギを提供する。
請求項１、８は酸化防止に又、請求項２、３、４、５　６、７、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４抗ウイルス・殺菌効果や細胞活性化などを与えるエネルギーである。ポリープやがんにも有効である。となりに有る臓器に向けても膜を通過できるエネルギーなので深い位置の治療にも最適。
【請求項１０６】
建具金物除染健康エネルギー
ドアやドア枠を含めたドア回り建具金物にアルカリ性電子を発する装置を備える事で入口通過時の人に対して付着した放射線を除去し持込むのを防止でき、より健康にできるエネルギーを与えられる
請求項１、２、３、４、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４
装備できるのは、ノブ・ノブ回り、ドアクローザー、フロアヒンジ、丁番、スイングヒンジ、入口枠、ドア、レバーハンドルドアおし板、など様々にある。これらに殺菌・抗ウィルスを発揮し除染できるエネルギーを使い分ける事で健康増進の建具金物除染健康エネルギーを提供する。
【請求項１０７】
サビ無金属生産エネルギー
様々な金属の生産過程で酸化しない金属（純度の高い）や合金でも不純物として酸化物を含まない金属を生産する為にアルカリ性電子を生産途中（溶融中）に与えるサビ無金属生産エネルギーを提供する。
請求項１、８、２　３、４、５、６、７、２２、２８、２９、３０、３１
アルカリ性電子を溶融中に与え
【請求項１０８】
角型箱放射器エネルギー
アルカリ性電子放射器において角型箱の形状の装置から発せられるエネルギーが発するエネルギーを提供する。

請求項 1、2、3、4、5、6、7、8、22、28、29、30、31、17

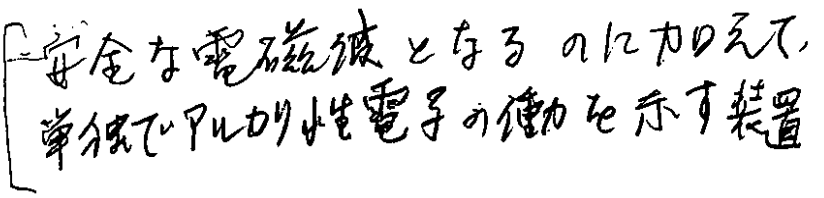
【請求項１０９】
エアコン内浄化エネルギー
エアコン内に取入れる空気に対してアルカリ性電子で浄化するこの浄化が除染可能なエネルギーや除菌のエネルギーなので請求項１、２、３、４、５、６、７、８　２２　２８　２９、３０

31、19、44 のエネルギーをエアコン内浄化エネルギーとし提供する。

【請求項１０９】
原子力発電内炉放射線防止エネルギー
原発の炉の中で漏れる放射線を除去する為アルカリ性電子を照射できる様にした事で得ら

れるエネルギーを原子力発電内炉放射線防止エネルギーとし提供する。
【請求項１１０】
太陽光パネル型エネルギー
太陽光パネル型のアルカリ性電子放射器で素材を詰め込み表面ははく膜のフィルムか樹脂で止める様にし、裏を透明なガラスかフィルム・樹脂とした素材は発電用積置素材とするケイ素系アルミ系・炭酸カルシウム系その他である。これらから出される積置の物質に刺激として電力電子を加えたものも含めエネルギーを提供する。
請求項１、２、３、４、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１である。
【請求項１１１】
大型タンク型放出エネルギー
大型のタンクに積置素材を詰め込んアルカリ性放射器で本体タンクで出たアルカリ性電子をタンク先から金線や銅線で通じ集中させないで運び先端口から出す方式で発生する電子は放射口の筒で再度アルカリ性電子を通すエネルギーでこれを大型タンク型放出エネルギーとして提供します。
請求項１、２、３、４、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１のエネルギーがつくれます。
ジューサーミキサーエネルギー
ジューサーミキサーで果実や野菜や肉の粉細など多様な使い方が出来ます、がこまかくなる分酸化が早くなる特性があります、、
野菜はジュースにするとややアルカリかも知れませんし、果実は主に酸性ですが、いずれも短時間放置すると空気中の酸素で酸化されます、又肉なども酸化されます。
全て酸化の方向に傾きます。
そこでアルカリ性電子を使うとこの酸化をおさえられます。あまり長時間照射すると味がまろやかになるので好みの時間を設定してやると良く、長持ち保存ができます。又、照射のエネルギーをアルカリ性電子に追加の電力で酸化の電子を微量混合する事で発酵もできるので牛乳の発酵でヨーグルトなどもつくれます。温度は３０～４０℃ＰＨは、６～７程度とされますので調整を正しく合せて適正な電圧を設定でき酸化電子比を設定する事で可能ですので発酵器とも言えるアルカリ性電子を使った発酵ができるジューサーミキサーエネルギーを提供します。
請求項１、２、３、４、５、６、７、８、２２、２８、２９　３０、３１　１７、４４
【請求項１１８】
放射線除去エネルギー
セメントにフィラー石と水を入れて混練するときコンクリートになる間の時間５～７月とそれから養生時間が２～３週間あるがこの間に建屋の表面の打設コンクリート（敷地コンクリートには空から宇宙線がいく百となくふりそそぎ込んでいるが、その為に亀裂が入ったとか固まらないとか割れたとか聞かない。
したがって、空からふりそそいだＸ線、γ線がセメント混練中の中に入って消えたとしか説明できない。しかもできたコンクリートは、ＰＨが９に近いアルカリ性である。しかも圧縮強度は、３５０ｋｇ／ｃｍ^{2}ほどの強さであるその結合力の強さが有るがその結合に影響しなかった事になる。
ですからセメントが水と反応し固まる際に混練するときに発生するときに出るアルカリ性の電子が放射線を消去している。
セメントはＳｉ珪素と石灰が水と作用したときにケイ素の半導体の性格から電子を大量に出すのでそれがアルカリ性を有む原因としか考えられずアルカリ性電子があるから放射線が消えるとしか説明が付きません。
他のサンゴや山の石を使ってもアルカリ性電子が多く出るのですが地表に近い所で酸素の次に多い元素ケイ素と生石灰ＣａＣＯ$_{3}$が山の石に多く混入している事によりアルカリ性電子が生まれる。その他石にはアルミを含むものも多いのですがアルミが電子をよく通す又化学反応の触媒で吸着剤でもあり酸化物の吸着も行える素材であるこれも土壌元素の中に多く含まれていて電子を増化させる　以上のように素材の中の鉱物やその他の元素や元

素複合物がアルカリ性電子を発する事からこの電子が空気中の電子と異なり酸化物を混入するフィラー石の様にコンクリート中でアルカリを示す物に交換できる力を発見したのです。
これが放射線を除線できるアルカリ性電子のエネルギーと言えるので放射線除去エネルギーを提供します。
請求項１、２、３、４、５、６、７、８、２２、２８、２９、３０、３１、１７、４４に関す全ての請求項を提供する。
アルカリ性電子がつくるペアー電子アリオンが放射線電子と合線して何会か合線して放射線以下の電磁波になる事を図１３２（２）に示す
フィラー石が混練中にぶつかり火打石のぶつかりのエネルギーを発する（火打石は、石灰の石であるので）これが追加の酸化電子として刺激を素材に与えアルカリ性電子を増発させる原因として取上げることができる。
【請求項１２２】
核物質の原子構造は原子核が、陽子と中性子からなる　そして、陽子は正荷の電荷を持つ。
中性子は電荷を持たない。したがって原子核は全体に正荷の電荷を持つ。
その為原子核の周囲には、一定の距離を置いて電子が殻をつくって存在している。それ相当の電子の電荷の強さによって決っている。電子は、酸化電子（正荷電子）であるが頭に持つ純電子により負荷を持った電荷の働きで引き付けられ放射線（尾に持つ）正荷電荷で離れ放さられる動きを連続して動き回っている。純電子より放射線（酸化性）エネルギーが大きい。
そこでアルカリ性電子発生器から電子を原子等にぶつけると本件電子は、電子頭にある純電子が尾にある放射線正電荷より大きいエネルギーを持つ小電子である生まれたて電子なので全体に大きな負荷を程する。
ゆえに元の付属電子よりも強く原子核に引付けられ正荷と真反対のエネルギーを持つため陽子に付着する。そして陽子に多数の本件発生電子（負荷でアルカリ性）で正電荷消滅が起ることで、陽子数の減少が起り物質は別の異なる物質になる。
この事を利用して安定物質になる方向に陽子数を減らし別の物質になる事で放射性物質と異なる放射性の異なる物質に変える方法で放射能を減少させる又は消滅させるものである。核物質　放射性　消滅のエネルギーを提供する。
アルカリ性電子はあらゆる素材の積置の素材同仕や積置（放射物を除外）に電力やその他の力を加え多増させ筒等の中から放射口より照射する。
数個塊の電子であるか塊の重なった大きな負荷の電子（実際）である。正荷電力（陽子）と真逆の力を持つ力である。陽子にぶつかり付着する。
【請求項１２３】
別筒より発射される直接の様々な電磁波が別の筒より発射のアルカリ性電子と混合し、



放射線を減滅するエネルギー
〔図面１１３〕特願２００７－３４１７９２の図８３
【請求項１２４】
アルカリ性電子放射器においてコーナー壁を２つ以上持つ放射器の発するエネルギー
（小さな酸化電子の発生が含まれるエネルギー発生）
図５５　バイオ槽、（特願２００７－３４１７９２　図２５）
【請求項１２５】
核廃棄処理において粘土又はセメント練混物　その他　アリカリ性電子発生物でつつみ放

射能漏出を防止できる　エネルギー
除染効果を発揮するエネルギー
【請求項１２６】
印加直流電子を利用した追加電力（高圧印加低圧（負荷）印加）による不正育成のない受精卵培養エネルギーとして負荷電子・酸化電子の刺激で発生するアルカリ性電子混合電子エネルギー
（さまざまな菌、ウイルスの死滅を行う）
請求項９０に関す
請求項２記載「高圧印加・低圧印加を問わず」の関連
【請求項１２７】
印加直流電子を利用した追加電力（高圧印加　低圧（負荷）印加）による　幹細胞における不正育成のない幹細胞培養エネルギーとして負荷電子・酸化電子の刺激で発生するアルカリ性電子混合電子エネルギー
（さまざまな菌・ウィルスの死滅を行う）
請求項９１に関す、請求項２記載「高圧印加　低圧印加を問わず」の関連
【請求項１２８】
印加直流電子を利用した追加電力（高圧印加　低圧（負荷）印加）による水産生物培養におけるエネルギーとして不正育成のない水産生物培養エネルギーとして
負荷電子・酸化電子の刺激で発生するアルカリ性電子混合電子エネルギー
（さまざまた菌・ウイルスの死滅を行う）
請求項９２に関す、請求項２記載「高圧印加　低圧印加を問わず」の関連、
【請求項１２９】
交流以外の直流印加電流の高圧印加（正電荷）による追加電圧による
負電荷電子（アルカリ性電子）と混合エネルギーによる　ウイルス・菌を除去できるエネルギー
○請求項２記載「高圧印加　低圧印加を問わず」の関連
【請求項１３０】
交流以外の直流印加電流の低圧印加（負電荷）による追加電圧による
負荷電子（アルカリ性電子）と混合エネルギーによるウィルス・菌を除去できるエネルギー
○請求項２記載「高圧印加・低圧印加を問わず」の関連。